富山県文化振興財団
埋蔵文化財発掘調査報告第34集

任海宮田遺跡発掘調査報告Ⅱ

―― 公害防除特別土地改良事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ ――

第一分冊

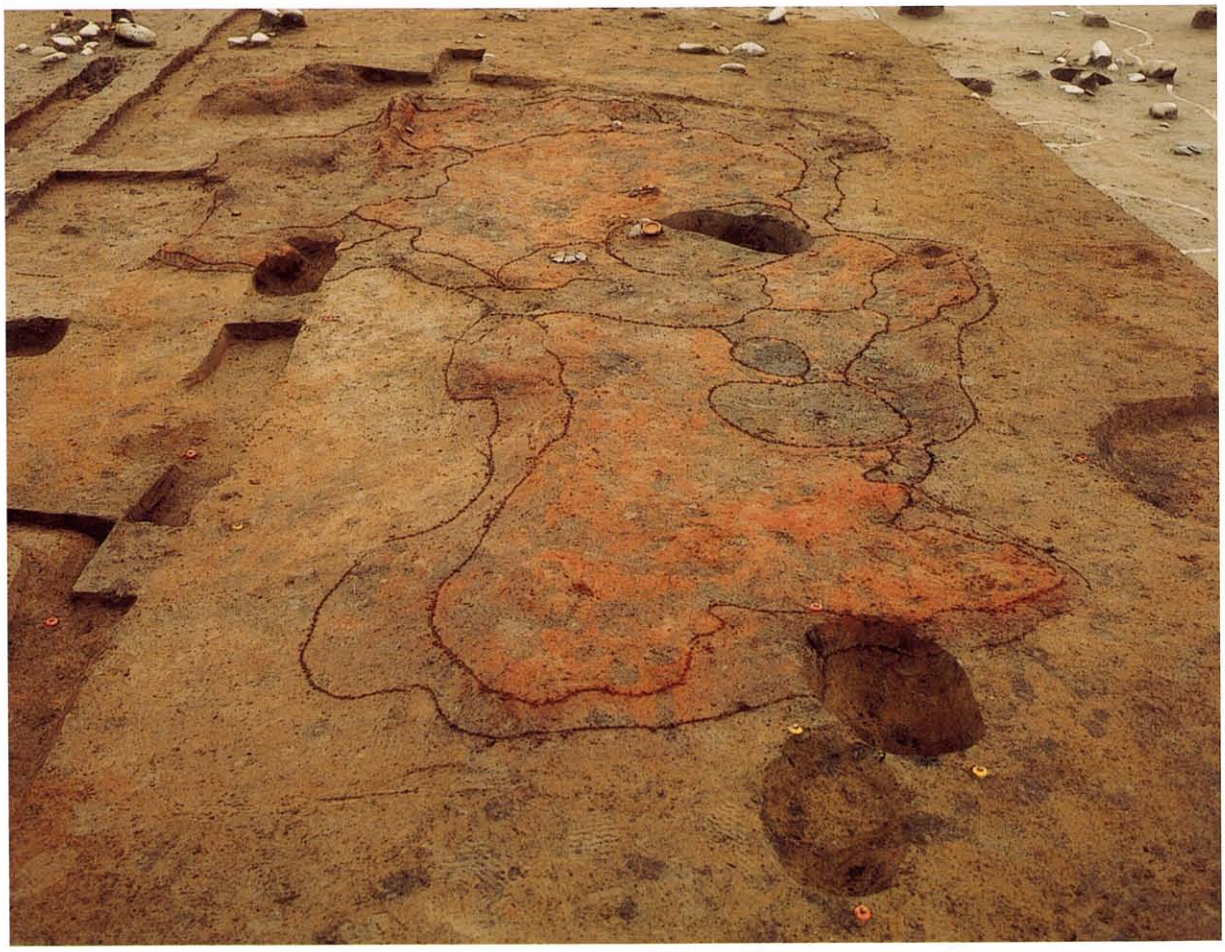
２００７年

財団法人 富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

上　任海宮田遺跡Ｂ地区　遠景（南から）
下　任海宮田遺跡Ｂ地区　全景（真上から）

上　任海宮田遺跡Ｂ12地区　SD133・158（北西から）
下　任海宮田遺跡Ｂ12地区　SD158陸橋部分（南から）

上　任海宮田遺跡Ｂ１地区　SB201（西から）
下　任海宮田遺跡Ｂ６地区　SI15（西から）



上　任海宮田遺跡Ｂ６地区　土師器焼成遺構ブロック（西から）
下　任海宮田遺跡Ｂ６地区　土師器焼成遺構焼土面（西から）

上　B 4 地区中世出土遺物
下　B 地区出土中国陶磁

上・下　B 地区古代出土施釉陶器

B 地区古代出土墨書土器

富山県文化振興財団
埋蔵文化財発掘調査報告第34集

任海宮田遺跡発掘調査報告Ⅱ

―― 公害防除特別土地改良事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ ――

第一分冊

２００７年

財団法人 富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

富山県内では、カドミウム汚染田の復元工事を目的とした土地改良事業が、昭和54年から進められています。

当財団では、富山県から委託を受け、この事業地内に存在する埋蔵文化財の発掘調査を、平成７年度から実施してまいりました。

本書は、富山市の任海宮田遺跡Ｂ地区で、平成12年度から14年度まで実施した発掘調査の成果をとりまとめたものです。

当遺跡は、神通川と熊野川に挟まれた扇状地に位置しています。この一帯では、奈良時代から平野の開発が著しく進み、中世まで営まれた集落跡が数多く確認されています。耕地や水産資源を求めた先人たちが、永々たる努力によって平野を開発し、暮らしを営んだ様相を発掘調査で明らかにすることができました。

この報告書が、地域の歴史と文化財の理解に少しでも役立てば幸いです。

最後に、本書を作成するにあたり多大なご指導、ご助力を賜わりました関係機関及び各位に、厚くお礼申し上げます。

平成19年３月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所長　岸　本　雅　敏

例　言

1　本書は富山県富山市任海（とうみ）地内に所在する任海宮田（とうみみやた）遺跡B地区の発掘調査報告書である。

2　本書は4分冊からなる。第一分冊に遺構・遺物の所見、第二分冊に遺構・遺物のまとめ、第三分冊に遺構・遺物の図面、第四分冊には自然科学分析および写真図版を収録した。また遺跡全体図は付図として本書に添付した。

3　調査は富山県（農林水産部）から委託を受けて、財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施した。

4　発掘調査と遺物整理の実施期間は以下のとおりである。

発掘調査期間　　平成12（2000）年10月24日～12月4日
　　平成13（2001）年5月14日～12月26日
　　平成14（2002）年5月13日～6月3日
遺物整理期間　　平成14（2002）年4月1日～平成19（2007）年3月23日

5　本書の編集・執筆は武田健次郎・細辻真澄が担当した。また第二分冊は、森隆・武田健次郎・中村亮仁・青山晃・細辻真澄が分担執筆し、文末にその執筆者名を記した。

6　出土遺物の写真撮影は、楠華堂（代表　内田真紀子）及びアオヤマスタジオ（代表　青山清寛）に委託した。

7　自然科学分析は、以下の諸機関に委託した。

金属製品等分析……JFEテクノリサーチ
焼石被熱判定・樹種同定・各種分析……株式会社古環境研究所
土器胎土分析……胎土分析研究会

8　本書に記載した図面・図版・記述の凡例については、必要に応じてそのつど本文中に示した。

9　本書で使用した遺構の略号は次のとおりである。

SI：竪穴住居　SB：掘立柱建物・礎石建物　SA：柵列　SE：井戸　SK：土坑等
SX：大型土坑等　SP：柱穴等　SD：溝・自然流路

10　本書の作成にあたり、出土石製品の石材については赤羽久忠氏（富山市科学文化センター）、B1地区の灰釉陶器については前川要氏（中央大学）、土師器焼成遺構については望月精司氏（小松市教育委員会）、瀬戸美濃施釉陶器については藤澤良祐氏（愛知学院大学）、中国陶磁器については山本信夫氏（金沢大学埋蔵文化財調査センター）、中世須恵器（珠洲）については吉岡康暢氏（前国立歴史民俗博物館）から、多大なご教示とご助言を得た。記して感謝申し上げたい。

目　次

第Ⅰ章　遺跡の環境 …… 1

1　地理的環境 …… 1

2　歴史的環境 …… 2

第Ⅱ章　調査経緯 …… 5

1　調査に至る経緯 …… 5

A　調査の契機 …… 5　　B　試掘調査 …… 5

C　本調査 …… 6

2　調査経過 …… 6

A　調査方法 …… 6　　B　調査の経過 …… 6

C　調査体制 …… 7　　D　現地説明会 …… 8

E　整理の経過 …… 8　　F　整理体制 …… 9

第Ⅲ章　任海宮田遺跡B地区の調査 …… 11

1　調査地区の設定と基本層序 …… 11

A　調査地区の設定 …… 11

B　基本層序 …… 12

2　中世の遺構 …… 16

3　古代の遺構 …… 121

4　遺物 …… 168

A　土器・陶磁器 …… 168

B　木製品 …… 240

C　金属製品 …… 241

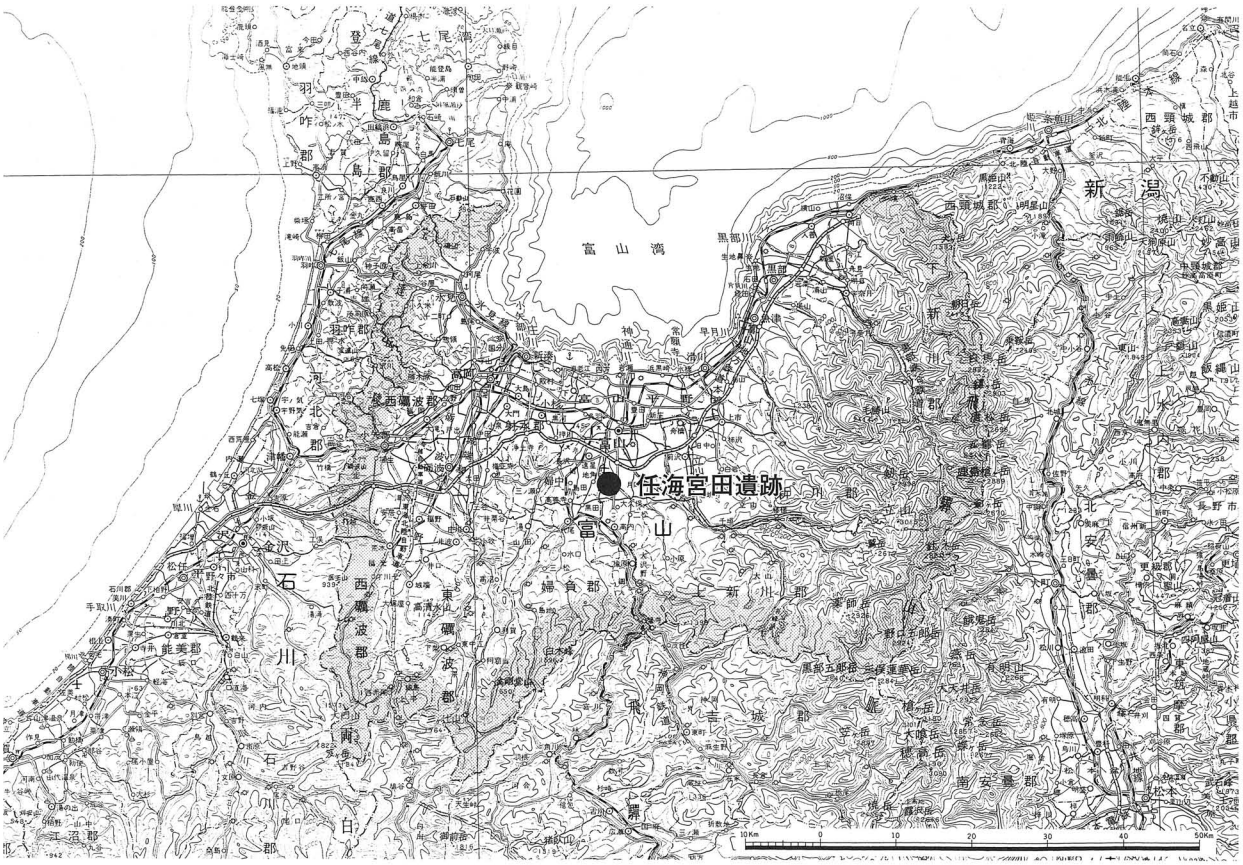
D　石製品 …… 249

（付図）任海宮田遺跡全体図

第Ⅰ章　遺跡の環境

1　地理的環境

富山県は、本州日本海側のほぼ中央に位置し、県内は中央部を南北に走る呉羽丘陵で大きく東西に二分され、それぞれ「呉西」「呉東」と呼称されることが多い。任海宮田遺跡の所在する富山市は呉東に入るものの、実際は県のほぼ中央部に位置する。一方県域全体を見渡すと、三方を山に囲まれ、県域中央部から北部の海岸線に沿っては平野部が発達している。この平野部は、西から東にかけて氷見平野、砺波・射水平野、富山平野、黒部平野と続く。このなかで富山平野は県中央部に位置し、平野内には神通川、常願寺川などの水系があり、扇状地の発達が顕著である。富山市域は富山平野内の東側は常願寺川から、西側は呉羽丘陵周辺までの範囲に及び、富山平野のほぼ中央に位置する。市域の地形は大きく西側と南側の丘陵部と東側・北側の低地部からなる。丘陵部は呉羽丘陵から南の牛岳、更には立山連峰へと連なっている。低地部は神通川と井田川が形成した複合扇状地と常願寺川が形成した扇状地が主体となる。このうち神通川は市域の中央部を北流する。神通川には井田川をはじめ幾つかの支流が流れ込むが、熊野川も神通川右岸に流れ込む支流の一つである。本書で取り扱う任海宮田遺跡は、神通川と熊野川に挟まれた南北に約１㎞東西に約900ｍの範囲に広がり、標高30ｍ前後の微高地上に占地している。



第１図　富山市任海宮田遺跡位置図（1：1,000,000）

2　歴史的環境

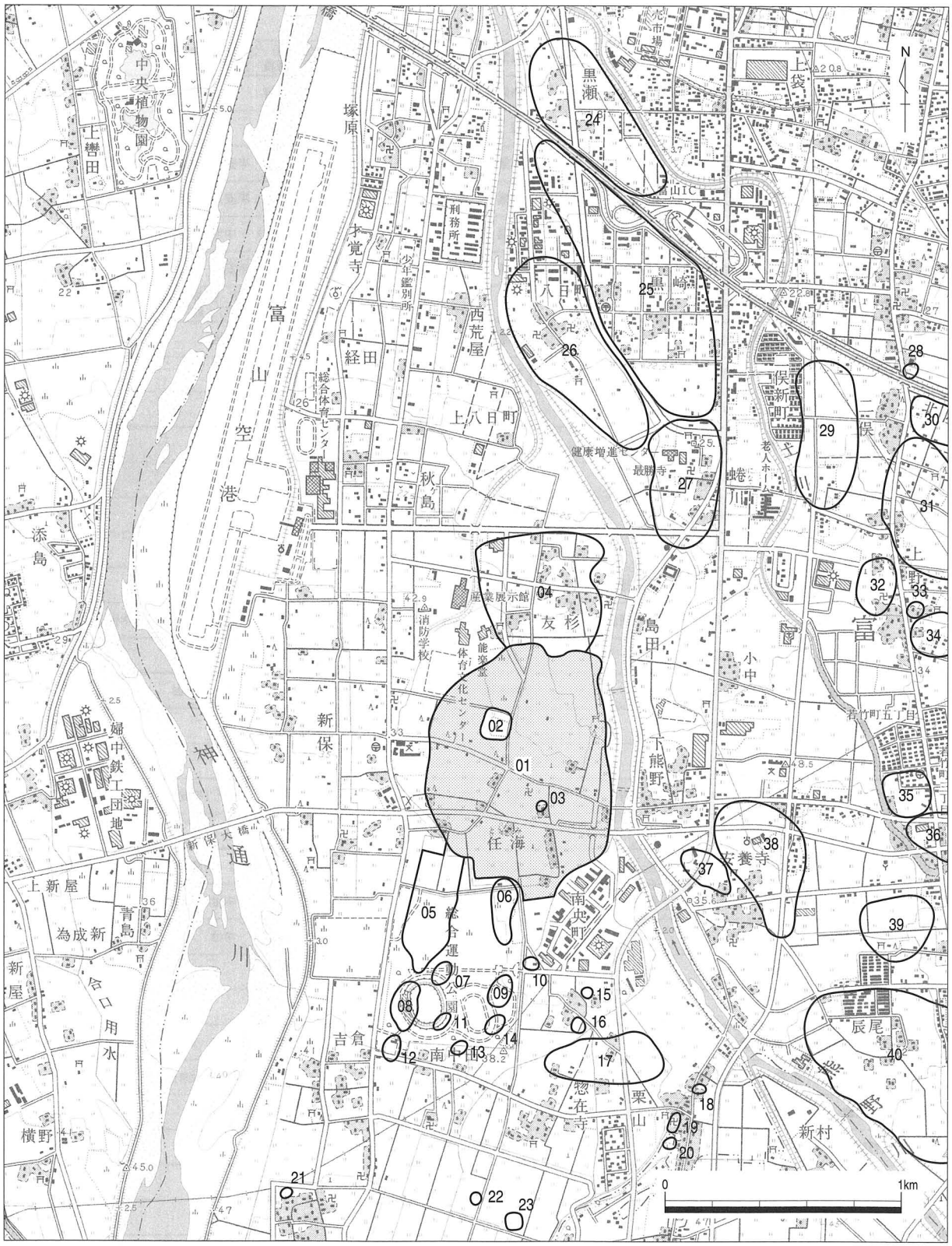
任海宮田遺跡の所在する富山市では、旧石器時代から近世まで長期にわたる各種の遺跡が見られる。旧石器時代の遺跡は多くないが、呉羽山丘陵以西の丘陵上あるいは扇状地上の境野新遺跡から東北地方の東山系石刃技法の石器が出土し、開ヶ丘中遺跡・開ヶ丘中山Ⅳ遺跡からはナイフ形石器などが出土している。また、南部の船峅台地上には、国指定史跡となった直坂遺跡がある。

縄文時代の遺跡では、大沢野段丘上に立地する伊豆宮Ⅱ遺跡や、扇状地上には石田遺跡・吉岡遺跡・大利屋敷遺跡が所在する。また、呉羽山丘陵周辺には立石を伴う竪穴住居群が確認された開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡（中期中葉）などが分布している。また、丘陵北側には国指定史跡の北代遺跡が所在する。旧婦中町内の平岡遺跡では縄文時代前期中葉の土器が出土した他、石鏃・石槍・石錘・石匙・磨製石斧・凹石・玦状耳飾りなどの遺物も出土している。滝谷遺跡（中期前葉）や牛滑遺跡（中期中葉）においても発掘調査で竪穴住居が調査されている。弥生時代の集落遺跡では、旧婦中町内の南部Ⅰ遺跡、鍛冶町遺跡がある。また六治古塚や富崎遺跡、鏡坂遺跡などでは、山陰地域との文化的接触を物語る四隅突出墓がみつかっている。弥生時代から古墳時代では千坊山遺跡で竪穴住居がまとまって調査されており、近年は六治古塚などの弥生墳墓群とともに、千坊山遺跡群と呼称され、国指定史跡となった。古墳時代では大沢野段丘の先端部に伊豆ノ宮古墳があり、旧婦中町内には杉谷A遺跡、五つ塚古墳、富崎千里古墳群などの存在が知られる。西部の丘陵上には王塚古墳、勅使塚古墳などの首長墓級の前方後方墳が築造されている。古墳時代後期には、呉羽丘陵の斜面を利用した横穴墓がみられる。

古代以降になると、低地である扇状地上にも多くの集落遺跡が展開されるようになる。律令期の国郡制のもとでは、富山市は婦負郡及び新川郡の郡域にある。特に、本遺跡の立地する婦負郡では「和名類聚抄」によると十余りの郷名が知られるが、史料的に裏付けされるものは少ない。本遺跡周辺には、吉倉B遺跡・南中田D遺跡・栗山楮原遺跡・友杉遺跡などの古代の集落遺跡が密に分布している。

中世には本遺跡の西側の新保地区は、寿永３年（1184年）の源頼朝下文（『賀茂別雷神社文書』）などの史料にみられる「加茂社領新保御厨」の比定地の一つとされている。また、一帯は徳大寺領宮河荘の一角にあったものと推定されている。この宮河荘は文和三年（1354年）の足利義詮御判御教書案（『徳大寺文書』）、新潟県小千谷市魚沼神社所蔵の『大般若経』の至徳二年（1385年）十月六日付の奥書に「婦負郡宮河荘押上」、同四年五月十二日付に「宮河荘新保」、嘉慶二年（1388年）五月付に「婦負郡宮河荘鵜坂社」などによって名が知られ、その荘域は富山市の熊野川から神通川左岸の旧婦中町に及ぶ広大なものであったと考えられている。宮河荘の推定地のうち旧富山市側に所在する中世遺跡としては、吉倉A遺跡・吉倉B遺跡・南中田A遺跡・南中田D遺跡・任海鎌倉遺跡などがある。これらの遺跡は熊野川から神通川に挟まれた東西1.0㎞、南北2㎞の範囲内に密集して所在しており、さながら一続きの中世遺跡群を形成しているかような様相を呈している。また、本遺跡北側には中世の豪族蜷川氏の蜷川館跡や菩提寺である最勝寺が位置している。

近世には、遺跡周辺は飛騨街道・八尾道・岩木道が交差する交通の要衝であった。近世集落跡は主に過去の遺跡調査に付随して検出される例が多く、任海宮田遺跡においても、Ａ６地区で近世の遺構がみつかっている。村落の周辺に広がる水田地域を含め、現代に連なる村落景観が成立するのは、基本的には近世以降のことと考えられる。



第２図　周辺遺跡分布図（１：25,000）

01. 任海宮田遺跡、02. 任海池原寺跡、03. 任海三十苅塚、04. 友杉遺跡、05. 吉倉Ｂ遺跡、06. 任海遺跡
07. 任海鎌倉遺跡、08. 南中田Ｄ遺跡、09. 栗山楮原遺跡、10. 任海砂田遺跡、11. 南中田Ｃ遺跡、12. 吉倉Ａ遺跡
13. 南中田Ｂ遺跡、14. 南中田Ａ遺跡、15. 栗山塚、16. 惣在寺廃寺、17. 栗山Ａ遺跡、18. 伊豆宮Ⅱ遺跡、19. 円教寺遺跡
20. 伊豆宮古墳、21. 押上古墳、22. 大利屋敷遺跡、23. 大利遺跡、24. 黒瀬大屋遺跡、25. 黒崎種田遺跡、26. 八日町遺跡
27. 蜷川館跡、28. 二俣寺跡、29. 上野井田遺跡、30. 二俣北遺跡、31. 二俣遺跡、32. 上野鍋田遺跡、33. 上野遺跡
34. 上野亀田遺跡、35. 悪王寺遺跡、36. 若竹町遺跡、37. 安養寺遺跡、38. 下熊野遺跡、39. 宮保遺跡、40. 辰尾遺跡

番号	遺跡名	所在地	種類	時代
01	任海宮田遺跡	富山市任海字宮田割・字大塚割	集落	縄文（晩）・古墳（古墳・白鳳）・古代（奈良・平安）・中世（鎌倉・室町）・近世
02	任海地原寺跡	富山市任海字仙田割・桜町割	寺院	中世・近世
03	任海三十苅塚	富山市任海字三十苅割	塚	中世？
04	友杉遺跡	富山市友杉字北条田割・字辻ノ内割・字田割・字堤田割・任海字桜町割	集落	古代（奈良・平安）・中世（鎌倉・室町）・近世
05	吉倉Ｂ遺跡	富山市字柿ノ木又割・押上字藤地割・南中田字土居野割・任海・新保	集落	古代（奈良・平安）・中世
06	任海遺跡	富山市任海	集落	古代（平安）・中世
07	任海鎌倉遺跡	富山市任海字鎌倉	集落	古代（奈良・平安）・中世
08	南中田Ｄ遺跡	富山市南中田	集落	縄文（晩）・古墳（古墳・白鳳）・古代（奈良・平安）・中世（鎌倉・室町）・近世
09	栗山楮原遺跡	富山市栗山字楮原割	集落	古代（平安）・中世
10	任海砂田遺跡	富山市任海字砂田割・栗山字楮原割	集落	古代（平安）・中世
11	南中田Ｃ遺跡	富山市南中田字田嶋割	集落	古代（平安）・中世
12	吉倉Ａ遺跡	富山市吉倉字小屋作割	集落・墓	古代（平安）・中世
13	南中田Ｂ遺跡	富山市南中田字嶋割	集落	古代（平安）・中世
14	南中田Ａ遺跡	富山市南中田字土居野割	集落	古代（奈良・平安）
15	栗山塚	富山市栗山字楮原割	墓・経塚	中世・近世
16	惣在寺廃寺跡	富山市南中田字土居野割・惣在寺	散布地・墓	中世・近世
17	栗山Ａ遺跡	富山市惣在寺字下寺田割・栗山	集落	縄文（晩）・古代（奈良・平安）・中世
18	伊豆宮Ⅱ遺跡	富山市上栗山字野田割	集落	縄文（中期）
19	円教寺遺跡	富山市上栗山	散布地	古代（奈良・平安）・中世
20	伊豆宮古墳	富山市上栗山（伊豆ノ宮）	古墳	古墳（後期）
21	押上古墳	富山市押上	古墳？	古墳？
22	大利屋敷遺跡	富山市大利字大利割・惣在寺	散布地・墓	縄文（晩期）・古代（平安）・中世
23	大利遺跡	富山市大利字大利割	散布地	古代（平安）
24	黒瀬大屋遺跡	富山市黒瀬字大屋割	散布地	弥生（後）・古代（奈良・平安）・中世・近世
25	黒崎種田遺跡	富山市黒崎字種田割・寺田割・蜷川	散布地	古代（平安）・中世・近世
26	八日町遺跡	富山市八日町	散布地	古代（平安）・中世
27	蜷川館跡	富山市蜷川	城館	中世・近世
28	二俣寺跡	富山市二俣	寺院	不明
29	上野井田遺跡	富山市上野・二俣	散布地	古代（奈良・平安）・近世
30	二俣北遺跡	富山市二俣	散布地	縄文（中・後）・古代（奈良・平安）
31	二俣遺跡	富山市二俣	散布地	不明
32	上野鍋田遺跡	富山市上野	散布地	不明
33	上野遺跡	富山市上野	散布地	不明
34	上野亀田遺跡	富山市上野	散布地	不明
35	悪王寺遺跡	富山市悪王寺字水尻割	集落	縄文（後・晩）・奈良・平安・中世
36	若竹町遺跡	富山市若竹町・悪王寺・吉岡字稗田割	散布地	古墳・古代（奈良・平安）・中世
37	安養寺遺跡	富山市安養寺字寺後割・中川原割他	散布地	中世・近世
38	下熊野遺跡	富山市下熊野字庄平割・安養寺他	散布地	古代（奈良・平安）・中世・近世
39	宮保遺跡	富山市宮保字三日田割・宮西割・辰郎	散布地	縄文・古代（奈良・平安）・中世
40	辰尾遺跡	富山市辰尾字沼・東側・窪田・日崎他	散布地	古代（奈良・平安）・中世・近世

第１表　周辺遺跡一覧

第Ⅱ章　調査経緯

1　調査に至る経緯

A　調査の契機

明治時代に亜鉛の採掘を開始した岐阜県神岡鉱山から排出されたカドミニウムは、神通川を経由して下流域の水田地を広く汚染した。そのため汚染田の復元工事は、該当地域において大きな懸案事項となってきた。このなかで昭和45年に農業用地の土壌汚染防止法が公布された。翌年から土壌汚染調査が行なわれた結果、旧富山市、旧婦中町、旧大沢野町、旧八尾町の１市３町（現、富山市）に及ぶ1500.6haが農用地土壌汚染対策指定地域に指定された。その結果昭和54年から、県営公害防除特別土地改良事業による本格的な土壌復元が始まった。この事業により、汚染対象地域では第１～３次地区、二期地区に分けて復元工事が進められることになった。事業は大型ほ場による区画整理で、汚染対策地域に指定された農地に隣接する地域も併せて行われることとなった。復元工法は上乗せ客土工法と埋め込み客土工法の二つの工法が採用された。両工法とも地下の埋蔵文化財に影響が及ぶことが予想されたため、個々の復元計画の内容に応じて事前に協議のうえ、発掘調査の計画を立案した。

汚染対象地域の第１次地区は90.27haで昭和54年に始まり昭和59年に完了、第２次地区は357haで昭和58年に始まり平成６年に完了、さらに第３次地区の工事が平成４年から平成16年までの予定で着手された。この第３次地区は、436.9ha（旧富山市107.7ha）が対象地域となった。そこでこれらの工事に伴い破壊される可能性の高い埋蔵文化財について、該当地域の埋蔵文化財の保存措置を講じるための処置が検討・協議され、さらに必要に応じて試掘調査、本格調査へと段階を踏んで進めることとなった。

B　試掘調査

平成３年度に、富山県農林水産部耕地課から第３次地区内の埋蔵文化財所在状況について富山県教育委員会文化課（現、生涯学習・文化財室）に照会があり、県文化課は吉倉Ｂ遺跡、任海宮田遺跡、友杉遺跡の３遺跡（50ha）が調査対象であると回答した。平成４年度には、遺跡の所在しない区域の工事が着工され、平成８年度以降の遺跡所在区域についての調査対応・工事工法の変更などについて協議が行なわれた。協議の結果、任海宮田遺跡については平成８～10年度に富山市教育委員会生涯学習課が主体となって試掘調査する運びとなった。埋蔵文化財包蔵地に対する試掘調査は、地表面を対象とした分布調査だけでは確認しえない遺跡の具体的な様相を把握するために実施する調査である。この試掘調査によって、はじめて地下に眠る遺跡の実態が明らかとなるわけだが、汚染田の復元工事が前提となるこの試掘調査では、とりわけ遺構面の平面的広がりと遺構深度の確認が重要となる。すなわち工事施工面の影響深度が遺構面よりも浅い場合は、客土の上乗せ盛土保存が可能となり、遺跡自体もまた現状のまま保存されることになる。逆に施工影響深度が遺構面よりも深い時や、汚染土を埋め込む深い溝や穴を掘削する時、遺跡は工事により破壊されることになる。この場合記録保存を前提とした本調査が必要となる。

このような観点から、任海宮田遺跡では398,270㎡を対象に幅約１ｍの試掘溝が設定された。試掘調査の結果、古代～近世の遺構・遺物が確認され、遺構面までの深度が把握された。

C　本調査

試掘調査の結果をもとに、県耕地課、富山農地林務事務所、富山市農地課、市生涯学習課、県文化課、富山県埋蔵文化財センターによる事前協議がなされ、計画田面高を調整して遺跡を最大限に保存する措置が考慮・検討された。遺構・遺物包含層の高さに保護層10cmを上乗せした数値を工事掘削の限界深度とし、この深さに達しない範囲で施工可能なら現状保存、さらに深く掘削が及ぶものについては記録保存を目的とする本調査を実施することとなった。

このような経過を経て、財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所では、平成７年度から県営公害防除特別土地改良事業関連事業として発掘調査を県耕地課から受託し、本調査を実施してきた。事業開始年度となる平成７年度には、旧婦中町域で清水島Ⅱ遺跡、中名Ⅱ遺跡の調査を実施した。平成８年度には、旧富山市域で吉倉Ｂ遺跡の調査に着手し、任海宮田遺跡にの本調査を平成12～16年度の五箇年にわたり実施した。

2　調査経過

A　調査方法

本調査地は、任海宮田遺跡の周知範囲の中央付近にあり、富山県総合運動公園の北側に所在する。試掘調査の結果、奈良・平安時代と中世～近世の大きく２時期の遺構・遺物が確認された。遺構面は古代・中世２時期の文化面が存在すると考えられた。発掘調査の基準となるグリッドは、国家座標を用い設定した。この遺跡の場合69,4700.00、2,7300.00、をＸ０Ｙ０の基点とし、南北方向をX軸、東西方向をY軸とした。２ｍ×２ｍのグリッドを遺物取り上げ等の基本区画とし、グリッド名は北東角のＸ軸・Y軸の座標名で呼称した。発掘調査は表土・耕作土を機械で掘削・除去した。次いで遺構面に至る包含層掘削、遺構検出および個別の遺構掘削については、作業員の人力によった。遺構掘削の過程において、または完掘後、必要に応じて遺構断面図、出土状況図などの図化、写真撮影などの作業を実施した。また調査区全域にまたがる遺構平面図の作成には、ヘリコプターを使用した空中写真測量によった。

B　調査の経過

調査は、富山県耕地課・富山農地林務事務所・富山県教育委員会文化財課（現生涯学習・文化財室）・当財団との協議をもとに実施した。また発掘調査中も進捗状況等によって、必要に応じて協議を継続した。現地で調査にあたる調査員は2名一班を原則として班編成を行った。本書に所収した任海宮田遺跡B地区の調査は、平成12年度から14年度にかけて実施した。

このうち平成12年度の任海宮田遺跡（Ｂ１地区）の調査は、調査掘削平面積2,617㎡、延べ面積3,933㎡、調査期間は平成12年10月24日～12月４日、調査員は１名の体制で実施した。

平成13年度任海宮田遺跡（Ｂ２～B14地区）の調査は、調査掘削平面積35,787㎡、延べ面積49,840㎡、調査期間は平成12年５月14日～12月26日、調査員は５班10名の体制で実施した。

平成14年度の任海宮田遺跡（Ｂ６地区）の調査は、調査掘削平面積1,066㎡、延べ面積1,066㎡、調査期間は平成14年５月13日～６月３日、調査員は１班２名の体制で実施した。

C　調査体制

平成12年度（2001年度）

総　括	桃野　真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	肥田　啓章	埋蔵文化財調査事務所副所長
	上野　　章	埋蔵文化財調査事務所副所長
庶　務	竹中　慎一	埋蔵文化財調査事務所課長補佐
	江本　裕一	埋蔵文化財調査事務所主事
調査総括	池野　正男	埋蔵文化財調査事務所調査第一課長
調査員	武田健次郎	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成13年度（2002年度）

総　括	桃野　真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	肥田　啓章	埋蔵文化財調査事務所副所長
	上野　　章	埋蔵文化財調査事務所副所長
庶　務	竹中　慎一	埋蔵文化財調査事務所課長補佐
	江本　裕一	埋蔵文化財調査事務所主事
調査総括	狩野　　睦	埋蔵文化財調査事務所調査第一課長
調査員	森　　隆	埋蔵文化財調査事務所主任
	島田美佐子	埋蔵文化財調査事務所主任
	武田健次郎	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	青山　　晃	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	中村　亮仁	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	細辻　真澄	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	町田　尚美	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	長瀬　　出	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	須原　　拓	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	植木久美子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成14年度（2003年度）

総　括	桃野　真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	肥田　啓章	埋蔵文化財調査事務所副所長
	上野　　章	埋蔵文化財調査事務所副所長
庶　務	竹中　慎一	埋蔵文化財調査事務所課長補佐
	廣田　英貴	埋蔵文化財調査事務所主事
調査総括	狩野　　睦	埋蔵文化財調査事務所調査第一課長
調査員	武田健次郎	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	植木久美子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

(1)　任海宮田遺跡本調査実績

地区	調査期間	延日数	調査面積	調査担当者	検出遺構	出土遺物
B1地区 中世面	H.12.10.24～12.4	42日	2,617㎡	武田健次郎	大型掘立柱建物、竪穴住居、掘立柱建物、大型土坑、土坑、溝	土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、中世土師器、瀬戸美濃施釉陶器、中国陶磁、珠洲他
古代面	H.12.12.5～12.25	21日	1,316㎡			
B2地区 中世面	H.13.7.6～10.15	102日	2,605㎡	青山晃・須原拓	掘立柱建物、竪穴住居、大型土坑、土坑、溝、旧河道	土師器、須恵器、中世土師器、中国陶磁、珠洲、八尾、越中瀬戸、越前、金属・石製品他
古代面	H.13.10.16～11.28	44日	1,760㎡			
B3地区 中世面	H.13.7.6～11.28	146日	952㎡	植木久美子	掘立柱建物、土坑、溝	土師器、須恵器、灰釉陶器、珠洲、中国陶磁他
B4地区 中世面	H.13.5.14～9.5	115日	4,306㎡	島田美佐子・植木久美子	竪穴住居、掘立柱建物、井戸、土坑、溝	土師器、須恵器、灰釉陶器、中世土師器、瀬戸美濃施釉陶器、中国陶磁、珠洲、土錘他
古代面	H.13.9.6～10.4	29日	685㎡			
B5地区 近世面	H.13.5.14～7.17	65日	1,008㎡	細辻真澄	掘立柱建物、土坑、溝	中世土師器、珠洲、八尾、中国陶磁他
B6地区 中世面	H.13.8.23～11.8	78日	1,070㎡	武田健次郎・青山晃・須原拓・長瀬出	掘立柱建物、礎石建物、竪穴住居、土師器焼成遺構、掘立柱建物、土坑、柱穴、溝、旧河道	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉・灰釉陶器、円面硯、中世土師器、珠洲、八尾、中国陶磁、土錘、石帯、鉄製品他
古代上層面	H.13.11.9～11.20	12日	3,864㎡			
古代下層面	H.13.11.21～12.26	36日	3,864㎡			
古代下層面	H.14.5.13～6.3	22日	1,066㎡	武田健次郎・植木久美子		
B7地区 中世面	H.13.9.20～11.28	70日	1,930㎡	島田美佐子	掘立柱建物、井戸、土坑、溝	中世土師器、珠洲、瀬戸美濃、中国陶磁他
B8地区 中世面	H.13.9.20～11.28	70日	851㎡	町田尚美	掘立柱建物、土坑、溝	中世土師器、珠洲、瀬戸美濃、中国陶磁他
B9地区 中世面	H.13.5.21～7.27	68日	1,028㎡	青山晃	掘立柱建物、土坑、溝、水田跡	土師器皿、珠洲、八尾、中国陶磁、瀬戸美濃他
B10地区 中世面	H.13.5.21～7.27	68日	469㎡	須原拓	掘立柱建物、土坑、焼土跡、溝	土師器、須恵器、土師器皿、珠洲、中国陶磁他
B11地区 中世面	H.13.5.21～7.27	68日	749㎡	須原拓	掘立柱建物、井戸、土坑、溝	土師器、須恵器、土師器皿、珠洲、中国陶磁他
B12地区 中近世面	H.13.5.21～8.9	81日	5,374㎡	武田健次郎・町田尚美・長瀬出	竪穴住居、掘立柱建物、石組井戸、方形土坑、土壙墓、土橋状遺構、土坑、溝、自然流路	土師器、須恵器、土師器皿、珠洲、八尾、中国陶磁、瀬戸美濃、瓦質土器、金属・石製品他
古代面	H.13.8.9～11.28	112日	5,374㎡			
B13地区 中世面	H.13.5.21～8.9	81日	5,542㎡	中村亮仁・長瀬出	竪穴住居、掘立柱建物、木枠井戸、方形土坑、土坑、溝	土師器、須恵器、土師器皿、珠洲、八尾、中国陶磁、瀬戸美濃、瓦質土器、金属・石製品他
古代面	H.13.8.10～11.28	111日	1,300㎡			
B14地区 中世面	H.13.5.21～11.8	172日	1,856㎡	中村亮仁	掘立柱建物、土坑、溝	土師器、須恵器、緑釉陶器、土師器皿他

D　現地説明会

当財団では、発掘調査の成果を地元の方々をはじめ広く一般に公開するため、現地説明会を調査期間中に開催している。このうち本報告書に所収した発掘調査の現地説明会は、平成13年度に実施している。この現地説明会は主に任海宮田遺跡B１・B13地区を対象としたもので、開催日時は平成13年11月４日（日）午前10時から12時までであった。調査現場事務所前での発掘調査概略説明の後、調査現場であるB１地区へ見学者を誘導し、調査現場を見学していただいた。見学順路の各所には説明員を配置し、現在掘削中である遺構や完掘済みの遺構を説明した。また現場調査事務所においては、B１・B13地区出土の遺物を中心に、各調査区出土遺物の他、過年度の隣接調査地の出土遺物もあわせて展示した。また遺跡・遺構などの写真パネルの掲示も行った。同時に調査区の調査過程をスライド化して上映した。遺物展示では調査員による説明の他、プレゼンテーション・ソフトを利用し、出土遺物の解説を行った。見学者参加人数は約80名を数えた。

E　整理の経過

現地での発掘調査作業段階から並行して土器・陶磁器等の出土遺物の洗浄・注記等の作業を実施した。現地発掘調査は年内（12月頃）までに終了し、以後年度末にかけて埋蔵文化財調査事務所で当年度調査の基礎的な整理作業を行った。これらの諸作業には調査員による遺構カード、写真台帳、木製品・金属器製品・石製品台帳、遺構別出土遺物台帳等の作成がある。出土遺物の選別・実測図作成作業や空中測量図面の最終校正もこの時期に実施した。なお以上の作業は、後の報告書作成のための本

格整理に先立つ基礎整理作業の段階となる。

次いで木製品、金属製品、石製品の遺物写真撮影・実測については業者委託となるため、これに先立ち各出土遺物の法量計測、メモ写真撮影、整理台帳等を作成した。木製品について大型品はコンテナに、小型製品はタッパーにて水浸けの状態で、また製品によってはオートシーラーと専用フィルムを用いてパックし、実測や保存処理を委託するまでの仮収納とした。

報告書刊行に向けての本格的な整理は、平成16年４月に開始した。遺物の実測のうち土器・陶磁器については調査員がおこなった。木製品・金属製品については株式会社中部日本鉱業研究所、石製品については株式会社アルカに委託し、校正作業の後実測図の納品を受けた。遺構の実測図・写真・航空測量図はそれぞれ調査員が台帳を作成・整理し、遺構カードとともにパーソナルコンピューターを使用してデータ入力した。データ入力は人材派遣会社に委託した。遺物の写真撮影は業者（楠華堂とアオヤマスタジオの二社）に委託し、４×５判の白黒及びカラースライドフィルムで撮影し、それぞれ納品を受けた。自然科学分析は①種実遺体同定②樹種同定③骨類同定④花粉分析⑤植物珪酸体分析の各項目については平成17年度に、熱履歴分析については、平成14年度に、株式会社古環境研究所に分析を委託した。また胎土分析については胎土分析研究会（平成16・17年度）、鉄滓分析についてはＪＦＥ川鉄テクノリサーチ株式会社（平成17年度）に、それぞれ委託した。

最後に、平成17・18の両年度に、本報告書の写真図版作成、遺構・遺物図版のレイアウト・トレース作業、遺物・遺構一覧表の作成、および本文原稿の執筆・編集・校正等など、報告書刊行に向けての本格作業を実施した。これらの報告書作成事業は、武田健次郎・細辻真澄を主担当に、整理作業員の協力を得て当調査事務所において実施した。

F　整理体制

平成14（2002）年度

総　括	桃野　真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	肥田　啓章	埋蔵文化財調査事務所副所長
	上野　　章	埋蔵文化財調査事務所副所長
庶　務	竹中　慎一	埋蔵文化財調査事務所総務課長補佐
	広田　英貴	埋蔵文化財調査事務所主事
整理総括	酒井　重洋	埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
担　当	森　　隆	埋蔵文化財調査事務所主事主任
	青山　裕子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成15（2003）年度

総　括	桃野　真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	関　　清	埋蔵文化財調査事務所主査・副所長
	盛田世津子	埋蔵文化財調査事務所副所長・総務課長
庶　務	竹中　慎一	埋蔵文化財調査事務所総務課長補佐
	広田　英貴	埋蔵文化財調査事務所主任
整理総括	宮田　進一	埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
担　当	森　　隆	埋蔵文化財調査事務所主事主任
	中村　亮仁	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成16（2004）年度

総　括	桃野　真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	関　　清	埋蔵文化財調査事務所主査・副所長
	盛田世津子	埋蔵文化財調査事務所副所長・総務課長
庶　務	竹中　慎一	埋蔵文化財調査事務所総務課長補佐
	広田　英貴	埋蔵文化財調査事務所主任
	岩田　扶紀	埋蔵文化財調査事務所主任
整理総括	宮田　進一	埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
担　当	武田健次郎	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	中村　亮仁	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	細辻　真澄	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成17（2005）年度

総　括	桃野　真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	関　　清	埋蔵文化財調査事務所主査・副所長
	盛田世津子	埋蔵文化財調査事務所副所長・総務課長
庶　務	竹中　慎一	埋蔵文化財調査事務所総務課長補佐
	岩田　扶紀	埋蔵文化財調査事務所主任
整理総括	宮田　進一	埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
担　当	武田健次郎	埋蔵文化財調査事務所主任
	青山　　晃	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	朝田亜紀子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	細辻　真澄	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成18（2006）年度

総　括	岸本　雅敏	埋蔵文化財調査事務所所長
	山本　正敏	埋蔵文化財調査事務所主査・副所長
	加藤豊次郎	埋蔵文化財調査事務所副所長・総務課長
庶　務	浅地　正代	埋蔵文化財調査事務所チーフ
	岩田　扶紀	埋蔵文化財調査事務所主任
整理総括	宮田　進一	埋蔵文化財調査事務所調査第二課長
担　当	武田健次郎	埋蔵文化財調査事務所主任
	青山　　晃	埋蔵文化財調査事務所主任
	町田　尚美	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

第Ⅲ章　任海宮田遺跡Ｂ地区の調査

1　調査地区の設定と基本層序

A　調査地区の設定

任海宮田遺跡は平成12～15年度の４ヶ年に分けて調査を実施した。調査地区は単年度毎に設定し、中部広域農道と主要地方道富山外郭環状線の南北によって大きく３ブロックに分けられる。内訳は、平成12年度に調査した中部広域農道よりも南側をＡ地区、平成12～14年度に調査した中部広域農道と主要地方道富山外郭環状線に挟まれた部分をＢ地区、平成13～15年度に調査した主要地方道富山外郭環状線より北側をＣ地区とした。平成12年度調査のＡ地区については既に報告されている。

本書で報告する任海宮田遺跡Ｂ地区の発掘調査とは、上記のＢ地区にあたるもので、平成12年度に調査したＢ１地区、平成13年度に調査したＢ２～Ｂ14地区、平成14年度に調査したＢ６地区の14地区の発掘調査のことを指す。

遺跡は神通川・常願寺川・熊野川によって形成された複合扇状地上に立地し、地形的にみると南から北側に向かって緩やかに低くなっている。標高約33.0m～31.5mを測る。当該地域は周辺の過去の本格調査および試掘調査から、埋没谷（旧河道）が数多く認められ、各旧河道の間に南北に長い微高地が形成され、その微高地上に遺跡が営まれている。

今回報告する任海宮田遺跡Ｂ地区の調査は、個々の調査区が1,000㎡以下の小規模な地区から5,000㎡を越える規模の地区まで多様な面積の調査地区が設定されている。それらの調査地区は調査範囲内に広く散在するものの、大きくは東西に二分される。西側調査区にはＢ１～Ｂ８地区がまとまって設定されており、平面積は合計で18,133㎡を測る。東側調査区にはＢ９～Ｂ14地区が隣接しており、平面積は合計で15,018㎡を測る。

Ｂ１地区は、中部広域農道の北側に隣接する調査区で、任海宮田遺跡全体の南西側に位置する。水田復元に伴う面工事部分に相当する調査区である。平面積は2,617㎡であり、中世と古代の遺構を検出している。

Ｂ２地区は、Ｂ１地区の西側に隣接し中部広域農道の北側に隣接する調査区で、水田復元に伴う面工事部分に相当する調査区である。平面積は2,605㎡であり、中世と古代の遺構を検出している。

Ｂ３地区は、道路を挟んでＢ１地区の北側に位置する調査区で、水田工事の面工事部分に相当する調査区である。平面積は952㎡であり、中世の遺構を検出している。

Ｂ４地区は、Ｂ３地区の北側に位置する調査区で、水田復元に伴う面工事部分に相当する調査区である。平面積は4,306㎡であり、中世と古代の遺構を検出している。

Ｂ５地区は、Ｂ４地区の北側に隣接する調査区で、幅約13mの細長い長方形を呈する調査区である。水田復元に伴う面工事部分に相当する調査区である。平面積は1,008㎡を測り、中世の遺構を検出している。

Ｂ６地区は、Ｂ４地区の西側あり、任海宮田遺跡全体の西側に位置する調査区である。水田復元に伴う面工事部分に相当する調査区で、平面積は3,864㎡である。中世と古代の遺構を検出している。

Ｂ７地区は、Ｂ６地区の西側にあり、任海宮田遺跡全体の西端に位置する。水田復元に伴う面工事部分に相当し、平面積は1,930㎡である。中世の遺構を検出している。

Ｂ８地区は、Ｂ７地区の北側に隣接する調査区で、任海宮田遺跡の西端に位置する。水田復元に伴う面工事部分に相当する調査区で、平面積は851㎡である。中世の遺構を検出している。

Ｂ９地区は、東側調査区部分の西側にあり、任海宮田遺跡全体のほぼ中央に位置する。水田復元に伴う面工事に相当する調査区で、平面積は1,028㎡である。中世の遺構を検出している。

Ｂ10地区は、Ｂ９地区の南東側に位置する。水田復元に伴う面工事に相当する調査区で、平面積は469㎡を測る。中世の遺構を検出している。

Ｂ11地区は、Ｂ10地区の南側に位置する。水田復元に伴う面工事に相当する調査区で、平面積は749㎡である。中世の遺構を検出している。

Ｂ12地区は、Ｂ11地区の東側に隣接する調査区で、任海宮田遺跡全体の東側に位置する。水田復元に伴う面工事に相当する調査区で、平面積は5,374㎡である。中世と古代の遺構を検出している。

Ｂ13地区は、Ｂ12地区の東側に隣接する調査区で、任海宮田遺跡全体の東端付近に位置する。水田復元に伴う面工事に相当する調査区で、平面積は5,542㎡である。中世と古代の遺構を検出している。

Ｂ14地区は、Ｂ13地区の北側に隣接する調査区である。水田復元に伴う面工事に相当する調査区で、平面積は1,856㎡である。中世の遺構を検出している。

Ｂ　基本層序

Ｂ地区は南北約300ｍ、東西約700ｍの範囲に合計14地区が分散しており、Ｂ１～Ｂ８地区が分布する西地区と、Ｂ９～Ｂ14地区が分布する東地区に大別できる。近現代の整地盛土などの攪乱によって、各地区の遺物包含層の残存状況は様々であるが、各地区とも基本的には概念図のように上位から堆積する。すなわちⅠ層が現耕作土および整地盛土で、各地区毎に２～５層程度に分層されている。Ⅱ層が中世遺物包含層で、Ⅱａ～Ⅱｃ層までが認められる。Ⅱａ層が灰黄褐色砂質シルト、Ⅱｂ層が黒褐色～暗褐色砂質シルト、Ⅱｃ層が黄灰色砂質シルトとなる。Ⅲ層は古代の遺物包含層で、灰黄褐色砂質シルトである。Ⅳ層はⅣａ～Ⅳｅまで認められ、にぶい黄褐色砂質土を基調とし、Ⅲ層以下の基盤礫層までの砂質土で地山となる。Ⅳａ層がにぶい黄褐色砂質シルト、Ⅳｂ層がにぶい黄褐色砂、Ⅳｃ層がにぶい黄色砂、Ⅳｄ層が褐色砂質シルト、Ⅳｅ層がにぶい黄色粗砂となる。Ⅴ層は基盤礫層である。また、ⅡａおよびⅡｂ層直下が中世遺構の切り込み面となるが、Ⅱｃ層の堆積は部分的な箇所が多く、さらにⅡｃ層自体がⅡｂ層とⅢａ層の暫移層となり、汚れが多いため、Ⅲａ層上面で中世の遺構を検出した。古代の遺構はⅢａ層直下が遺構の切り込み面となり、Ⅳ層上面が古代の遺構検出面となる。基本的には上記のような基本層序が成立するが、地区によっては近代以降の整地盛土による攪乱や、基盤礫層の隆起部分などがあり、包含層が地区全体に広がることが希であった。その為、古代と中世の遺構を同時に検出した地区も多い。以下各地区ごとに説明する。

Ｂ１地区：層序は上位からⅠ層（耕作土および整地盛土）、Ⅱａ～Ⅱｂ層（中世包含層）、Ⅲ層（古代包含層）、Ⅳ層（地山）の順で堆積する。地形的には北西および南側部分が高く、Ⅴ層（礫層）が隆起しており、南東部が緩やかに傾斜して落ち込む。また南東部の落ち込み部分ではⅡａ層とⅡｂ層の間に間層（灰色粘質シルト）が堆積する。

Ｂ２地区：地形は北に向かい徐々に低くなっている。中世の遺構は調査区全面から検出されるが、古代の遺構は南端部で僅かに認められる。層序は上位からⅠ層が耕作土および整地盛土である。中世遺物包含層としはⅡａ・Ⅱｂ層が、古代の遺物包含層としてはⅢａ層が認められる。中世の遺構はⅢａ層上面で検出できるが、調査区の北東および西側では、中世検出面の高さで礫が露頭しており、Ⅴ

層で検出した。古代の遺構はⅣ層上面で検出した。

Ｂ３地区：層序は上位からⅠ層が耕作土および整地盛土である。中世の遺物包含層としてはⅡａ～Ⅱｃ層が認められるが、Ⅰ層による攪乱も多く堆積状況は部分的である。調査区南側ではⅡ層の堆積が薄く、礫層が隆起しており、Ⅴ層上面で遺構検出を行った。古代の遺物包含層としてはⅢａ層が認められるが、遺構は認められない。

Ｂ４地区：中世の遺構は調査区全域で検出されているが、古代の遺構は中央と南側で僅かに検出した。層序は上位からⅠ層が耕作土および整地盛土である。中世の遺物包含層としてはⅡａ・Ⅱｂ・Ⅱｃ層があり、Ⅱｃ層は土壌の厚く堆積している場所で部分的に認められた。古代の包含層であるⅢａ層については調査区中央ではほぼ堆積が認められず、調査区南東端と西側に分布が認められた。またⅤ層の礫層が南西方向から北東方向に帯状に隆起していた。

Ｂ５地区：Ｂ４地区の北側に隣接しており、層序はＢ４地区とほぼ同じ堆積状況である。

Ｂ６地区：地形的には調査区東側がほぼ平坦で、西側および北側は緩く傾斜しており、平坦部分の微高地上に遺構が集中する。層序は上位からⅠ層が耕作土および整地盛土、Ⅱａ・Ⅱｂ層が中世包含層、Ⅲａ層が古代の包含層である。Ⅳ層の堆積は厚くⅣａ～ｅに分層できる。Ⅳｄ層は褐色砂質シルトでやや有機質を含む層と考えられるが、遺物は出土しなかった。包含層は後世の整地作業による削平を受けており、微高地部分は特に包含層が薄く、中世・古代の遺構を同時に検出した箇所も多い。

Ｂ７地区：層序は上位からⅠ層が耕作土および整地盛土である。Ⅱａ・Ⅱｂ層が中世の包含層として認められるが、後世の整地盛土による攪乱も多く、北西部分では耕土直下が地山という状況であった。

Ｂ８地区：Ｂ７地区の北側に位置し、層状はＢ７地区とほぼ同じ堆積状況であった。

Ｂ９地区：層序は上位からⅠ層が耕作土および整地盛土、Ⅱａ・Ⅱｂ層が中世包含層である。Ⅲ層は認められず、調査区東半および西端では礫層が隆起していた。また、調査区東半では、Ⅱ層も認められず、遺構も希薄であり、後世の攪乱が地山面までおよんだ可能性が高い。

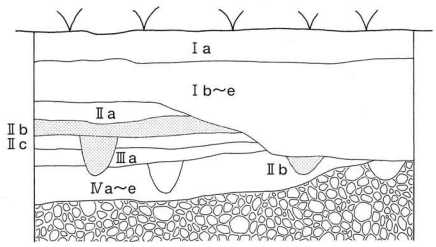
Ｂ10地区：層序は上位からⅠ層が耕作土および整地盛土で、Ⅱｂ層が中世包含層である。調査区東側ではⅠ層直下が礫層となる。

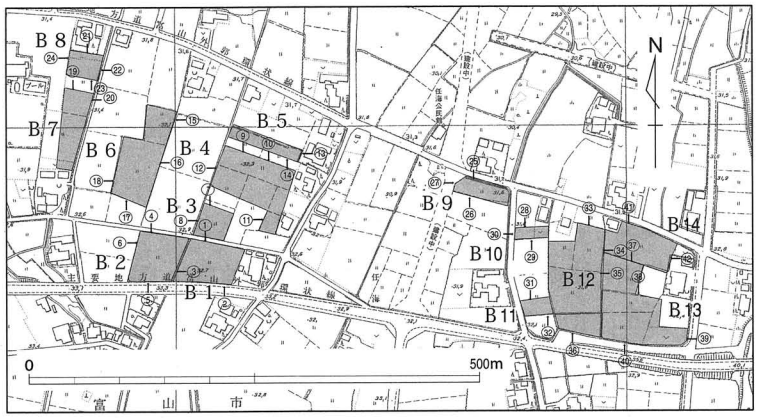
Ｂ11地区：層序は上位からⅠ層が耕作土および整地盛土で、Ⅱｂ層（中世包含層）、Ⅳ層（黄褐色砂質シルト）の順に堆積し、遺構の検出面はⅣ層上面である。

Ｂ12地区：層序はⅠ層（耕作土および整地盛土）、Ⅱｂ層（中世包含層）、Ⅳ層（地山）の順に堆積するが、後世の削平の影響で、Ⅱｂ層は調査区中央でしか確認できず、南側ではⅤ層（礫層）が隆起しており、耕土直下がⅤ層（礫層）という状況であった。

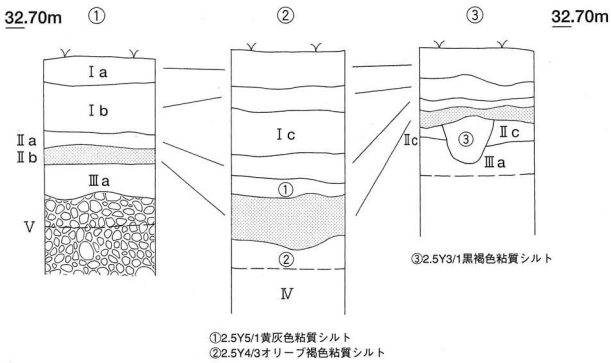
Ｂ13地区：層序はⅠ層（耕作土および整地盛土）、Ⅱｂ層（中世包含層）、Ⅲａ層（古代包含層）、Ⅳ層（地山）の順に堆積する。調査区南半ではⅤ層（礫層）が部分的に隆起している。中世の遺構は調査区全域で、古代の遺構は調査区の東側で検出された。

Ｂ14地区：層序は上位からⅠ層（耕作土および整地盛土）、Ⅱｂ層（中世包含層）、Ⅳ層（地山）の順に堆積する。調査区中央および北側ではⅤ層（礫層）が部分的に隆起する。



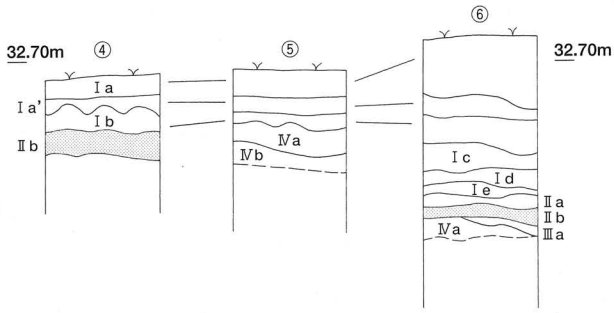


B1地区

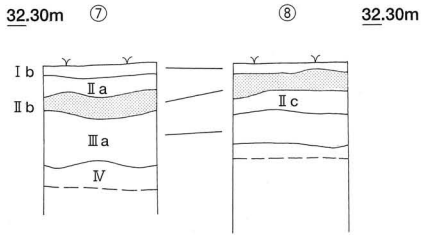


①2.5Y5/1黄灰色粘質シルト
②2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルト
③2.5Y3/1黒褐色粘質シルト

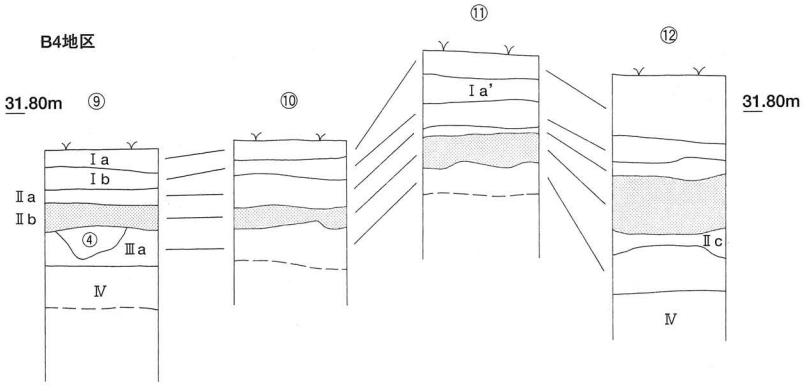
B2地区



B3地区

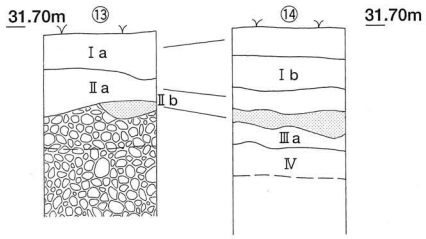


B4地区

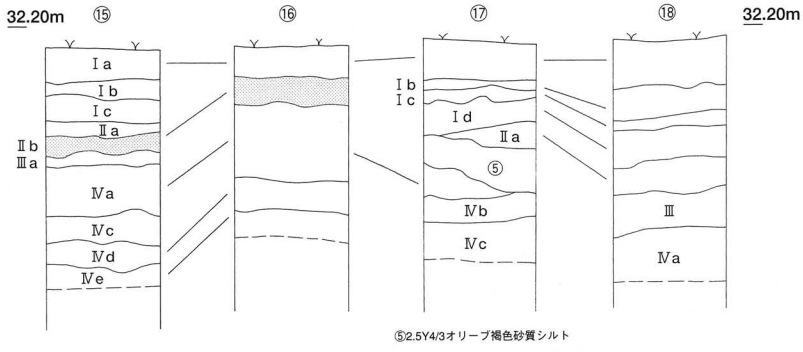


④2.5Y3/1黒褐色粘質シルト
酸化鉄微量混

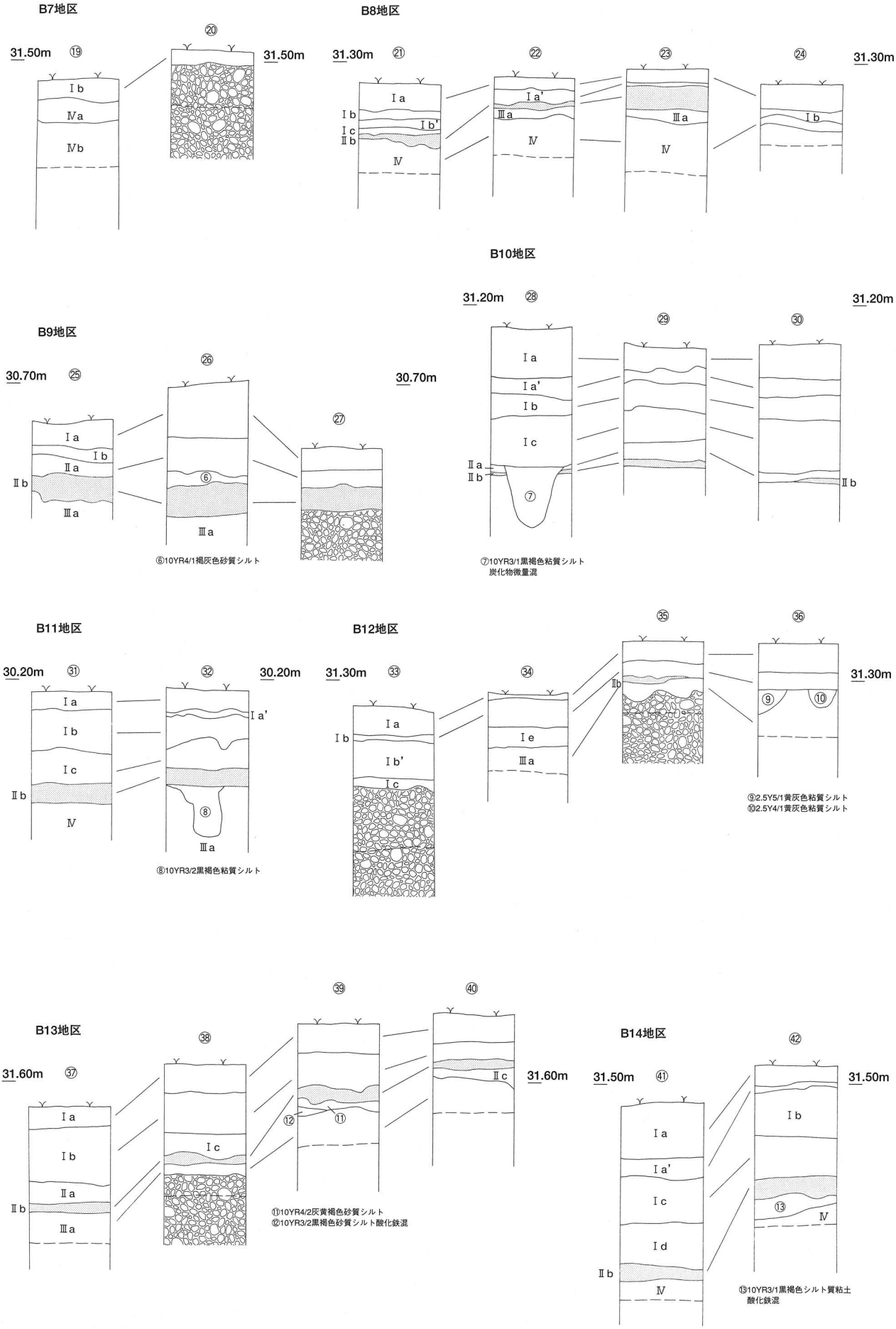
B5地区



B6地区



⑤2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト


B7地区
31.50m
⑲
⑳
31.50m
Ⅰb
Ⅳa
Ⅳb
B8地区
31.30m
㉑
㉒
㉓
㉔
31.30m
Ⅰa
Ⅰb
Ⅰc
Ⅱb
Ⅰb'
Ⅳ
Ⅰa'
Ⅲa
Ⅳ
Ⅲa
Ⅳ
Ⅰb
B9地区
30.70m
㉕
㉖
㉗
30.70m
Ⅰa
Ⅰb
Ⅱa
Ⅱb
Ⅲa
⑥
Ⅲa
⑥10YR4/1褐灰色砂質シルト
B10地区
31.20m
㉘
㉙
㉚
31.20m
Ⅰa
Ⅰa'
Ⅰb
Ⅰc
Ⅱa
Ⅱb
⑦
Ⅱb
⑦10YR3/1黒褐色粘質シルト
炭化物微量混
B11地区
30.20m
㉛
㉜
30.20m
Ⅰa
Ⅰb
Ⅰc
Ⅱb
Ⅳ
Ⅰa'
⑧
Ⅲa
⑧10YR3/2黒褐色粘質シルト
B12地区
31.30m
㉝
㉞
㉟
㊱
31.30m
Ⅰa
Ⅰb
Ⅰb'
Ⅰc
Ⅰe
Ⅲa
Ⅱb
⑨
⑩
⑨2.5Y5/1黄灰色粘質シルト
⑩2.5Y4/1黄灰色粘質シルト
B13地区
31.60m
㊲
㊳
㊴
㊵
31.60m
Ⅰa
Ⅰb
Ⅱa
Ⅱb
Ⅲa
Ⅰc
⑫
⑪
Ⅱc
⑪10YR4/2灰黄褐色砂質シルト
⑫10YR3/2黒褐色砂質シルト酸化鉄混
B14地区
31.50m
㊶
㊷
31.50m
Ⅰa
Ⅰa'
Ⅰc
Ⅰd
Ⅱb
Ⅳ
Ⅰb
⑬
Ⅳ
⑬10YR3/1黒褐色シルト質粘土
酸化鉄混

2　中近世の遺構

中近世の遺構面では、集落に関連する遺構を検出した。近世の遺構がB１地区などで若干検出されているが、主体となる遺構は中世のものである。遺構はB地区のほぼ全域で確認されており、この集落の広がりはA・C地区へと続いている。出土遺物から西側地区（B1～B８地区）では13～14世紀、東側地区（B９～B14地区）では13～15世紀頃に中心をもつ集落が形成されていたようである。検出された遺構については、大小の掘立柱建物100棟以上、柵列や大小の区画溝、木組・石組の井戸、土坑墓や大型土坑、集石遺構や旧河道など様々な性格の遺構がある。特に東側地区のB９・12地区では濠状の大型方形区画を検出した。

B１地区

調査区南西端のSD18が近世の溝であるが、遺構の主体は中世の遺構である。遺構は調査区のほぼ全域で確認されている。調査区中央では、遺構の重複関係が顕著に認められ、数時期におよぶ遺構群の変遷が想定できる。また整地盛土の攪乱が遺構面に及ぶ箇所や地山礫層の隆起部分があるため、古代の遺構と同時検出を行った箇所も多い。掘立柱建物群は３～４方位ほどが認められ、同方向に延びる溝も確認されている。溝の重複関係から、掘立柱建物の変遷が想定出来る。遺構埋土は灰黄褐色粘質シルトと黒褐色粘質シルトのものが主体であり、遺構の重複関係から灰黄褐色の埋土のものの方が新しい。以下にこれらの遺構について記述していく。

掘立柱建物

SB001－SP001～015（図面008）：調査区の北東隅に位置する総柱建物で、３棟の建物（SB001～003）の配置が重複する。SP002とSP030で柱穴が重複し、SB003よりも古い。SB001の建物規模が床面積51.8㎡と最も大きく、他２棟が南北に併存する。建物規模は梁行2間（4.45～4.5m）、桁行４間（11.3～11.5m）で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN33°Eを示し、柱間距離は、梁行2.2～2.25m、桁行2.22～2.91mである。柱穴形態は円～楕円形で、0.29～1.02m、深さ0.12～0.46mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB002－SP016～027（図面008）：調査区北東隅に位置し、SB001と配置が重複する。SB003とはほぼ同方位を示し、南北に併存する。建物の規模は、梁行２間（3.61～3.63m）、桁行３間（4.97～5.0m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN27°Eで、床面積は18.2㎡。柱間距離は、梁行1.71～1.93m、桁行1.4～1.93mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.2～0.48m、深さ0.13～0.36mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP018で土師器が出土している。

SB003－SP028～033（図面009）：北側は調査区外に続く総柱建物で、配置的にSB001と重複し、SB001よりも新しい。確認できた建物の規模は、梁行２間（3.33m）、桁行２間以上（2.83m～）である。建物の棟方向はN24°Eで、確認できた床面積は9.4㎡以上となる。柱間距離は、梁行1.54～1.79m、桁行1.57～1.59mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.28～0.55m、深さ0.26～0.3mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP029で青磁（4018）・火打金（044）、SP032で土師器・須恵器が出土している。

SB004－SP034～040（図面009）：調査区北側に位置する側柱建物で、配置がSB005・006と重複する。３棟とも同方位を示し、建て替えの可能性が高い。規模は、梁行２間（5.43～5.47m）、桁行２間（6.94m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN63°Wで、床面積は38.0㎡。柱

間距離は、梁行2.35～3.05m、桁行2.8～4.2mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.33～0.77m、深さ0.11～0.37mを数える。柱穴内覆土は黄灰色～黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP034・037で土師器が出土している。

SB005－SP037・041～051（図面009）：SB004・006と配置が重複する建物で、建物の規模は、梁行2間（4.69～4.71m）、桁行3間（6.04～6.06m）の総柱建物である。平面プランは長方形を呈す。建物南側に1間×1間の張出しをもつ。建物の棟方向はN64°Wで、床面積は28.5㎡。柱間距離は、梁行1.88～2.81m、桁行1.93～2.07mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.18～0.56m、深さ0.14～0.38mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP046で土師器・須恵器・黒色土器が出土している。

SB006－SP052～060（図面010）：SB004・005・007と配置が重複する建物である。SP058とSP061で切合い関係が成立し、SB007よりも古い総柱建物である。建物の規模は、梁行2間（5.69～5.73m）、桁行2間（8.08～8.11m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN61°Wで、床面積は46.5㎡。柱間距離は、梁行2.5～3.23m、桁行3.71～4.38mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.35～1.07m、深さ0.17～0.29mを数える。柱穴内覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB007－SP061～071（図面010）：SB006・008と配置が重複する建物である。柱穴の重複関係からSB006よりも新しい総柱建物である。建物の規模は、梁行2間（5.35～5.37m）、桁行2間（8.05m）の総柱建物で、平面プランは長方形である。これに1間×1間（1.4×3.0m）の張出部分が、桁行き北側柱列西寄りに付く。張出部を含めた建物専有面積は47.4㎡である。建物の棟方向はN66° W。柱間距離は、梁行1.88～3.46m、桁行3.02～5.03m、柱穴形態は円～不整形で、径0.49～1.33m、深さ0.07～0.64mを数える。柱穴内覆土は黄灰色～黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP063・071で土師器、SP064で土師器・須恵器が出土している。

SB008－SP072～079（図面011）：SB007・009と配置が重複する建物である。SB007とは立地および方位がほぼ同じで、建物配置からと建物の規模は、梁行2間（5.91m）、桁行2間（6.97～7.0m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN66°Wで、床面積は41.4㎡。柱間距離は、梁行2.75～3.1m、桁行3.45～3.55mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.49～1.04m、深さ0.09～0.32mを数える。柱穴内覆土は黄灰色～黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP076で土師器・須恵器・土製品、SP079で土師器・須恵器が出土している。

SB009－SP077・080～086（図面011）：SB008と配置が重複する建物である。建物の規模は、梁行2間（3.05～3.1m）、桁行2間（3.27～3.31m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN16°Wで、これまで述べてきた建物とは方位を異にする。床面積は10.3㎡。柱間距離は、梁行1.52～1.55m、桁行1.33～2.0mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.27～0.88m、深さ0.04～0.36mを数える。柱穴内覆土は黄灰色～黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP079で土師器・須恵器、SP080・085で土師器、SP081で土師器・須恵器・黒色土器、SP082で土師器（4004）・須恵器が出土している。

SB010－SP087～094（図面011）：SB010は重複関係の成立しない単独棟の建物である。建物の規模は、梁行1間（6.07～6.1m）、桁行3間（14.07～14.11m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN20°Wで、床面積は86.1㎡。柱間距離は、桁行4.39～5.15mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.3～0.83m、深さ0.14～0.26mを数える。柱穴内覆土は黄灰色～黒褐色粘質シルトを基調

とする。遺物はSP087・090・093で土師器・須恵器、SP091・092で土師器、SP094で土師器・須恵器・瀬戸美濃が出土している。

SB011－SP095～108（図面012）：SB012・013と配置が重複し、SB013とはほぼ同一方位を示す。建物の規模は、梁行２間（4.19～4.95m）、桁行４間（14.0～14.03m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN64°Eで、床面積は69.5㎡。柱間距離は、2.33～2.6m、桁行2.41～2.8mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.25～0.59m、深さ0.17～0.31mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP096で土師器・須恵器・黒色土器が、SP097・099で土師器、SP102・107で須恵器が出土している。

SB012－SP109～126（図面012）：SB011・013・014と配置が重複し、SB014とはほぼ同一方位を示す。建物の規模は、梁行３間（7.12～7.15m）、桁行３間（8.39～8.42m）の総柱建物で、平面プランは長方形である。これに１間×1間（2.3×2.6m）の張出部分が、梁行き南側柱列西付近に付く。張出部を含めた建物専有面積は66.2㎡である。建物の棟方向はN10°E、柱間距離は、梁行2.3～2.45m、桁行2.31～3.05mとなる。柱穴形態は円～不整形で、径0.26～0.57m、深さ0.06～0.38mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP109で須恵器、SP123で土師器、SP124で土師器・須恵器が出土している。

SB013－SP127～132（図面013）：SB011・012・014と配置が重複し、SB011とはほぼ同方位を示す。建物の規模は、梁行１間（2.25～2.28m）、桁行２間（3.68m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN75° Eで、床面積は8.4㎡。柱間距離は桁行1.63～2.05mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.29～0.44m、深さ0.13～0.28mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP130で須恵器が出土している。

SB014－SP133～144（図面013）：SB012・013と配置が重複し、SB012とほぼ同方位を示す。建物の規模は、梁行２間（4.78m）、桁行３間（7.16m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN９°Eで、床面積は34.2㎡。柱間距離は、梁行2.14～2.64m、桁行1.84～3.0mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.19～0.36m、深さ0.09～0.35mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP142で土師器・須恵器が出土している。

SB015－SP145～148（図面013）：SB012と配置が重複する。建物の規模は、梁行１間（2.24m）、桁行１間（2.36m）の側柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN３°E、床面積は5.3㎡である。柱穴形態は円～不整形で、径0.12～0.42m、深さ0.06～0.2mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB016－SP149～156（図面013）：SB019と配置が重複し、SB017・018とほぼ同方位を示す。建物の規模は、梁行１間（2.12m）、桁行３間（4.1m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN83°Eで、床面積は8.7㎡。柱間距離は桁行1.2～1.4mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.22～0.5m、深さ0.08～0.44mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP149で土師器、SP150で土錘、SP154で土師器・須恵器、SP156で土師器が出土している。

SB017－SP157～164（図面014）：SB018と配置が重複し、SB016・018とほぼ同方位である。建物規模は、梁行２間（5.93～5.95m）、桁行２間（6.64～6.7m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN83°Eで、床面積は39.9㎡。柱間距離は、梁行2.37～3.55m、桁行2.43～4.2mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.29～0.55m、深さ0.06～0.4mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP157で土師器、SP161で土師器・須恵器、SP162で須恵器が出土している。

SB018－SP165～171（図面014）：SB017と配置が重複し、SB016・017とほぼ同方位を示す。建物の規模は、梁行２間（4.68～4.72m）、桁行２間（7.81m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN85°Eで、床面積は36.9㎡。柱間距離は、梁行2.32～2.4m、桁行3.73～4.08mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.27～0.96m、深さ0.08～0.25mを数える。柱穴内覆土は黒褐色～オリーブ褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP166・168～170で土師器、SP167で土師器・須恵器が出土している。

SB019－SP172～183（図面015）：SB016・020と配置が重複する。建物の規模は、梁行２間（5.64～6.1m）、桁行４間（8.97～9.0m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN48°Eで、床面積は54.9㎡。柱間距離は、梁行2.7～3.07m、桁行1.69～2.74mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.32～1.58m、深さ0.05～0.35mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP172で土師器・須恵器・中世土師器、SP173で土師器・黒色土器、SP174で須恵器、SP175で土師器・中世土師器、SP177・180・183で土師器、SP182で土師器・須恵器が出土している。

SB020－SP183～190（図面015）：SB019と配置が重複する。建物の規模は、梁行２間（6.5m）、桁行２間（6.8m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN23°Wで、床面積は44.2㎡。柱間距離は、梁行2.9～3.5m、桁行3.2～3.57mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.26～0.65m、深さ0.09～0.42mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP183・190で土師器、SP185で土師器・須恵器が出土している。

土坑

SK001（図面016）：平面形態は楕円形でSK002を切る。長径0.97m、短径0.71m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK002（図面016）：平面形態は不整形でSK001に切られる。規模は長径1.45m以上、短径0.7m、深さ0.14mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトに黄褐色砂質シルト混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK003（図面016）：平面形態は楕円形で、長径0.29m、短径0.22m、深さ0.26mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK004（図面016）：平面形態は方形でSK009を切る。規模は一辺0.83～0.92m、深さ0.1mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK005（図面016）：平面形態は円形で、規模は径0.35～0.36m、深さ0.11mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK006（図面016）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.73m、短径0.39m、深さ0.13mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトに分層される。出土遺物は土師器がある。

SK007（図面016）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.37m、深さ0.17mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK008（図面016）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.55m、短径0.46m、深さ0.13mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK009（図面016）：平面形態は不整形で、SK004に切られる。規模は長径1.37m、短径1.28m、深さ0.14mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK010（図面016）：平面形態は不整形で、規模は長径2.2m、短径1.8m、深さ0.17mを測る。覆土は第１層：(2.5Y3/1) 黒褐色粘質シルト、第２層：(2.5Y3/2) 黒褐色粘質シルト、第３層：黄灰色粘質シ

ルトに分層される。出土遺物は土師器がある。

SK011（図面016）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.79m、短径0.5m、深さ0.17mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK012（図面016）：平面形態は不整形で、規模は長径0.57m、短径0.38m、深さ0.09mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SK013（図面016）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.38m、短径0.26m、深さ0.03mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK014（図面016）：平面形態は楕円形でSP046に切られる。長径0.48m、短径0.34m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混、第２層：黒褐色粘質シルトに分層される。出土遺物は土師器が認められる。

SK015（図面016）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.54m、短径0.32m、深さ0.08mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK016（図面016）：平面形態は楕円形でSD011を切る。規模は長径0.51m、短径0.4m、深さ0.1mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK017（図面017）：平面形態は不整形で、規模は長径1.54m、短径1.01m、深さ0.39mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK018（図面016）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.37m、短径0.36m、深さ0.09mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK019（図面016）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.68m、短径0.53m、深さ0.41mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK020（図面017）：平面形態は円形で、規模は径0.54～0.6m、深さ0.07mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK021（図面017）：平面形態は円形で、規模は径0.91～1.03m、深さ0.09mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・黒色土器・丸山がある。

SK022（図面017）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.62m、短径0.49m、深さ0.17mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK023（図面017）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.65m、短径0.57m、深さ0.38mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK024（図面017）：平面形態は楕円形でSK023に切られる。規模は長径0.43m、短径0.39m、深さ0.11mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK025（図面017）：平面形態は円形で、径0.55～0.57m、深さ0.3mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK026（図面017）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.38m、深さ0.18mを測る。覆土は第１層：(2.5Y4/1) 黄灰色砂質シルト、第２層：(2.5Y5/1) 黄灰色砂質シルトに分層される。出土遺物は土師器がある。

SK027（図面017）：平面形態は不整形で、規模は長径1.15m、短径0.53m、深さ0.23mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトに分層される。出土遺物は須恵器がある。

SK028（図面017）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.58m、短径0.47m、深さ0.4mを測る。覆土は

黄灰色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK029（図面017）：平面形態は不整形で、規模は長径2.58m、短径0.92m、深さ0.11mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK030（図面017）：平面形態は円形で、規模は径1.22～1.32m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト炭化物混、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK031（図面017）：平面形態は円形で、規模は径0.45～0.48m、深さ0.09mを測る。覆土は暗オリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK032（図面017）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.42m、短径0.3m、深さ0.21mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK033（図面017）：平面形態は楕円形でSD002に切られる。規模は長径0.88m、短径0.61m、深さ0.08mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK034（図面017）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.39m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK035（図面017）：平面形態は円形で、径0.53～0.63m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂多量混となる。出土遺物は土師器が認められる。

SK036（図面017）：平面形態は円形で、規模は径0.31～0.32m、深さ0.22mを測る。土坑内は小礫が混入している。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK037（図面017）：平面形態は円形で、規模は径0.61～0.72m、深さ0.16mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK038（図面017）：平面形態は円形で、径0.54～0.55m、深さ0.16mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルトに黒褐色粘質シルト混、第２層：黒褐色粘質シルト、第３層：黄灰色粘質シルトに分層される。出土遺物は土師器がある。

SK039（図面018）：平面形態は不整形で、長径0.83m、短径0.59m、深さ0.12mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトに黄褐色砂質シルト混に分層される。出土遺物は土師器がある。

SK040（図面018）：平面形態は楕円形でSK041に切られる。規模は長径0.48m、短径0.39m、深さ0.13mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は黒色土器がある。

SK041（図面018）：平面形態は楕円形でSK040を切る。規模は長径0.42m、短径0.27m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK042（図面018）：平面形態は円形でSK043を切る。規模は径0.68～0.77m、深さ0.16mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK043（図面018）：平面形態は楕円形でSK042に切られる。規模は長径1.5m、短径0.86m、深さ0.05mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK044（図面018）：平面形態は円形でSK045を切る。規模は径0.37～0.42m、深さ0.12mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・板状鉄製品（045）がある。

SK045（図面018）：平面形態は楕円形でSK044に切られる。規模は長径0.7m、短径0.62m、深さ0.09m

を測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器・土錘がある。

SK046（図面018）：平面形態は不整形でSK047を切る。規模は長径3.2m、短径1.95m以上、深さ0.08mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器・須恵器・フイゴの羽口が認められる。

SK047（図面018）：平面形態は楕円形でSK046に切られる。規模は長径0.47m以上、短径0.39m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK048（図面018）：平面形態は円形で、規模は径0.53～0.57m、深さ0.06mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK049（図面018）：平面形態は円形で、規模は径0.55～0.6m、深さ0.06mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK050（図面018）：平面形態は不整形で、規模は長径0.69m、短径0.42m、深さ0.09mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK051（図面018）：平面形態は不整形でSK052を切る。規模は長径0.48m、短径0.31m、深さ0.08mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK052（図面018）：平面形態は方形でSK051に切られる。規模は一辺0.76～0.81m、深さ0.1mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK053（図面018）：平面形態は楕円形でSK054を切る。規模は長径0.77m、短径0.65m、深さ0.21mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK054（図面018）：平面形態は不整形でSK053に切られる。規模は長径0.38m以上、短径0.37m、深さ0.15mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK055（図面018）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.54m、短径0.34m、深さ0.16mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK056（図面018）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.65m、短径0.54m、深さ0.07mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK057（図面018）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.43m、短径0.35m、深さ0.14mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK058（図面018）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.75m、短径0.37m、深さ0.19mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK059（図面018）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.43m、短径1.05m、深さ0.16mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK060（図面019）：平面形態は楕円形でSK061を切る。規模は長径1.09m、短径0.78m、深さ0.17mを測る。土坑内は大小の礫が散在している。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルト、第３層：黄褐色砂質シルトに分層される。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SK061（図面019）：平面形態は楕円形でSK062・063を切り込み、SK060に切られる。規模は長径1.18m以上、短径0.94m、深さ0.18mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK062（図面019）：平面形態は不整形でSK061に切られる。規模は長径0.48m、短径0.3m以上、深さ0.12mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器がある。

SK063（図面019）：平面形態は不整形でSK061に切られる。規模は長径0.83m、短径0.57m以上、深さ0.14mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器がある。

SK064（図面019）：平面形態は円形で、規模は径0.57～0.64m、深さ0.38mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK065（図面019）：平面形態は不整形で、規模は長径0.9m、短径0.56m、深さ0.23mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK066（図面019）：平面形態は不整形で、規模は長径0.96m、短径0.79m、深さ0.3mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK067（図面019）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.38m、深さ0.1mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK068（図面019）：平面形態は楕円形でSK069を切る。規模は長径0.73m、短径0.45m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルトに黒褐色粘質シルト混、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK069（図面019）：平面形態は楕円形でSK068に切られる。規模は長径0.71m、短径0.54m、深さ0.13mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK070（図面019）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.6m、短径0.48m、深さ0.14mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK071（図面019）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.58m、短径0.39m、深さ0.13mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK072（図面019）：平面形態は不整形で、規模は長径0.76m、短径0.57m、深さ0.09mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK073（図面019）：平面形態は円形で、規模は径0.45～0.53m、深さ0.09mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土錘がある。

SK074（図面019）：平面形態は円形で、規模は径0.33～0.36m、深さ0.14mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は鉄滓（048）・石製品がある。

SK075（図面019）：平面形態は不整形で、規模は長径0.55m、短径0.41m以上、深さ0.16mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK076（図面019）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.57m、短径0.45m、深さ0.15mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK077（図面019）：平面形態は円形で、規模は径0.24～0.25m、深さ0.22mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK078（図面019）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.33m、短径0.25m、深さ0.16mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は自然石（06）がある。

SK079（図面019）：平面形態は円形で、規模は径0.38～0.41m、深さ0.21mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は黒色土器がある。

SK080（図面019）：平面形態は不整形で、規模は長径0.89m、短径0.71m以上、深さ0.19mを測る。覆

土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK081（図面019）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.27m、深さ0.09mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK082（図面019）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.55m、短径0.47m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK083（図面019）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.74m、短径0.55m、深さ0.14mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK084（図面020）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.04m、短径0.72m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト炭化物混、第２層：黒褐色粘質シルト、第３層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK085（図面020）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.73m、短径0.61m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：オリーブ褐色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器がある。

SK086（図面020）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.64m、短径0.42m、深さ0.16mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・釘（043）が出土している。

SK087（図面020）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.26m、深さ0.22mを測る。覆土は黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK088（図面020）：平面形態は不整形で、規模は長径0.79m、短径0.55m、深さ0.14mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・鉄滓（041）がある。

SK089（図面020）：平面形態は円形で、規模は径0.7～0.76m、深さ0.12mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK090（図面020）：平面形態は円形で、規模は径0.25～0.27m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・黒色土器がある。

SK091（図面020）：平面形態は円形でSK092を切る。規模は径0.3～0.33m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK092（図面020）：平面形態は楕円形でSK091に切られる。規模は長径0.69m、短径0.54m、深さ0.13mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK093（図面020）：平面形態は円形で、規模は径0.27～0.28m、深さ0.25mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK094（図面020）：平面形態は不整形で、規模は長径1.81m、短径0.92m、深さ0.23mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK095（図面020）：平面形態は楕円形でSK092～094に切られる。規模は長径0.58m、短径0.25m以上、深さ0.11mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK096（図面020）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.58m、短径0.51m、深さ0.15mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK097（図面020）：平面形態は円形で、規模は径0.46m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：オリーブ褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK098（図面020）：平面形態は円形で、規模は径0.78～0.83m、深さ0.31mを測る。覆土は第１層：黒

褐色粘質シルト炭化物混、第２層：オリーブ褐色粘質シルト、第３層：暗灰黄色シルトに分層される。遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器が出土している。

SK099（図面020）：平面形態は円形でSK100を切る。規模は径0.47～0.52m、深さ0.13mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・雁股鏃（024）がある。

SK100（図面020）：平面形態は不整形でSK099に切られる。規模は長径0.92m、短径0.59m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混、第3層：オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK101（図面020）：平面形態は円形で、規模は径0.47～0.53m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混からなる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK102（図面020）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.36m、短径0.22m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK103（図面020）：平面形態は円形で、規模は径0.42～0.48m、深さ0.09mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK104（図面020）：平面形態は楕円形でSK105に切られる。規模は長径1.23m、短径0.79m、深さ0.11mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK105（図面020）：平面形態は不整形でSK104を切る。規模は長径0.36m、短径0.35m、深さ0.29mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK106（図面020）：平面形態は不整形で、規模は長径0.62m、短径0.4m以上、深さ0.05mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK107（図面021）：平面形態は楕円形でSK109を切る。規模は長径0.95m、短径0.77m、深さ0.09mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK108（図面021）：平面形態は楕円形でSK109を切る。規模は長径1.18m、短径0.72m、深さ0.12mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK109（図面021）：平面形態は楕円形でSK107・108に切られる。規模は長径1.64m、短径1.3m、深さ0.19mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK110（図面020）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.81m、短径0.64m、深さ0.07mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK111（図面021）：平面形態は不整形で、規模は長径0.33m、短径0.31m、深さ0.07mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK112（図面021）：平面形態は不整形で、規模は長径1.7m、短径0.88m、深さ0.7mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・黒色土器がある。

SK113（図面021）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.82m、短径0.57m、深さ0.17mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK114（図面020）：平面形態は円形で、規模は径0.62～0.7m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK115（図面021）：平面形態は円形でSD010を切る。規模は径0.5～0.55m、深さ0.11mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK116（図面021）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.43m、深さ0.14mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK117（図面021）：平面形態は円形で、規模は径0.3～0.31m、深さ0.25mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK118（図面021）：平面形態は円形で、規模は径0.49～0.5m、深さ0.07mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK119（図面021）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.4m、深さ0.09mを測る。覆土は第１層：(2.5Y3/1) 黒褐色粘質シルト、第２層：(2.5Y3/2) 黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK120（図面021）：平面形態は円形でSK121・SD010を切る。規模は径0.76～0.83m、深さ0.18mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：(2.5Y3/1) 黒褐色粘質シルトに (2.5Y3/2) 黒褐色粘質シルト多量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK121（図面021）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.82m、短径0.65m、深さ0.23mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK122（図面021）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.92m、短径0.6m、深さ0.13mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・土錘が確認される。

SK123（図面021）：平面形態は円形で、規模は径0.5m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：灰白色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK124（図面021）：平面形態は不整形でSD010に切られる。規模は長径0.5m以上、短径0.47m、深さ0.17mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK125（図面021）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.83m、短径0.52m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK126（図面021）：平面形態は円形で、規模は径0.38～0.43m、深さ0.18mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK127（図面021）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.34m、短径0.27m、深さ0.19mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK128（図面021）：平面形態は不整形で、規模は長径1.12m、短径0.45m、深さ0.18mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK129（図面021）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.9m、短径0.5m、深さ0.21mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK130（図面021）：平面形態は楕円形でSK131を切る。規模は長径0.39m、短径0.32m以上、深さ0.09mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK131（図面021）：平面形態は楕円形でSK130に切られる。規模は長径0.75m、短径0.61m以上、深さ0.1mを測る。覆土は第１層：(2.5Y3/2) 黒褐色粘質シルト炭化物混、第２層：(2.5Y3/1) 黒褐色粘質シルト炭化物混、第３層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK132（図面022）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.53m、短径0.37m、深さ0.25mを測る。覆土は

黒褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK133（図面022）：平面形態は楕円形で規模は長径1.47m、短径1.23m、深さ0.2mを測る。覆土は第1層：(2.5Y3/1) 黒褐色粘質シルト、第2層：(2.5Y3/2) 黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK134（図面022）：平面形態は円形で、規模は径0.29～0.33m、深さ0.19mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器が出土している。

SK135（図面022）：平面形態は楕円形でSD009を切る。規模は長径0.87m、短径0.74m、深さ0.1mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK136（図面022）：平面形態は円形で、規模は径0.53～0.57m、深さ0.14mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・板状鉄製品（049）がある。

SK137（図面022）：平面形態は楕円形でSD010に切られる。規模は長径1.28m、短径0.7m以上、深さ0.12mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK138（図面022）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.38m、短径0.3m、深さ0.17mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK139（図面022）：平面形態は円形でSD010に切られる。規模は長径0.5m、短径0.48m、深さ0.54mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：黒褐色粘質シルトに黄灰色粘質シルト混となる。遺物は土師器・須恵器・釘（038）・鉄滓（039・040）が出土している。

SK140（図面022）：平面形態は円形で、規模は長径0.42m、短径0.4m、深さ0.27mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK141（図面022）：平面形態は円形で、規模は長径0.64m、短径0.59m、深さ0.34mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルトに暗灰黄色粘土ブロック多量混、第2層：黒褐色粘質シルト、第3層：暗灰黄色粘土、第4層：黒色砂質シルトに分層される。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK142（図面022）：平面形態は円形で、規模は径0.34～0.35m、深さ0.13mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK143（図面022）：平面形態は楕円形でSK144を切る。規模は長径0.53m、短径0.43m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK144（図面022）：平面形態は不整形で、SK143に切られる。規模は長径1.03m、短径0.81m、深さ0.12mを測る。覆土は第1層：オリーブ褐色粘質シルト炭化物混、第2層：オリーブ褐色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器が出土している。

SK145（図面022）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.93m、短径0.79m、深さ0.64mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：(10YR3/1) 黒褐色砂質シルト、第3層：(10YR3/2) 黒褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK146（図面022）：平面形態は円形で、規模は径0.34～0.37m、深さ0.39mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：黒色粘質シルト炭化物混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK147（図面022）：平面形態は円形でSX001を切る。規模は径0.33～0.37m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK148（図面022）：平面形態は不整形でSX001に切られる。規模は長径1.73m以上、短径0.9m、深さ0.31mを測る。覆土は第1層：(2.5Y3/1) 黒褐色粘質シルト炭化物混、第2層：(2.5Y3/2) 黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・黒色土器・土錘が出土している。

SK149（図面022）：平面形態は円形で、規模は径0.7～0.74m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK150（図面022）：平面形態は円形で、規模は径0.68～0.74m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黄灰色シルトににぶい黄色砂多量・炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK151（図面023）：平面形態は楕円形でSK155に切られる。規模は長径0.55m以上、短径0.53m、深さ0.09mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK152（図面023）：平面形態は円形でSK153を切る。規模は径0.48～0.49m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK153（図面023）：平面形態は不整形でSK152に切られる。規模は長径1.26m、短径0.98m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト炭化物混、第２層：黒色砂質シルト焼土混となる。遺物は土師器・土錘が出土している。

SK154（図面023）：平面形態は楕円形でSK155を切り込む。規模は長径1.81m、短径1.14m、深さ0.17mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト炭化物混、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器・須恵器・黒色土器が出土している。

SK155（図面023）：平面形態は楕円形でSK151を切り込み、SK154に切られる。、規模は長径1.10m、短径1.09m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK156（図面023）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.37m、短径1.05m、深さ0.06mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・土錘がある。

SK157（図面023）：平面形態は円形で、規模は径0.61～0.69m、深さ0.16mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：褐灰色粘土となる。遺物は土師器が出土している。

SK158（図面022）：平面形態は円形で、規模は径0.38～0.44m、深さ0.18mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK159（図面022）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.90m、短径0.64m、深さ0.14mを測る。覆土は第１層：(2.5Y3/2) 黒褐色粘質シルト、第２層：(2.5Y3/2) 黒褐色粘質シルトに (2.5Y3/1) 黒褐色粘質シルト混　となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK160（図面023）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.45m、短径0.38m、深さ0.38mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：にぶい黄色砂に黒褐色粘質シルト多量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK161（図面023）：平面形態は円形で、規模は径0.38m、深さ0.47mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK162（図面023）：平面形態は円形で、規模は径0.4～0.42m、深さ0.32mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK163（図面023）：平面形態は楕円形でSX003を切り込む。規模は長径0.8m、短径0.5m、深さ0.16mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルトを基調とする焼土、第２層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK164（図面023）：平面形態は楕円形でSX003を切る。規模は長径0.58m、短径0.39m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトに炭化物混のみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK165（図面024）：平面形態は楕円形でSD007に切られる。規模は長径0.76m以上、短径0.74m以上、深さ0.12mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK166（図面023）：平面形態は不整形でSX003に切られる。規模は長径1.02m、短径0.93m、深さ0.6mを測る。覆土は第１層：(2.5Y3/1) 黒褐色粘質シルト、第２層：(2.5Y3/2) 黒褐色粘質シルト、第３層：暗オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器が出土している。

SK167（図面023）：平面形態は楕円形で規模は長径1.25m、短径1.09m、深さ0.34mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混、第２層：黒褐色粘質シルト、第３層：にぶい黄色砂にオリーブ褐色粘質シルト混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK168（図面023）：平面形態は楕円形で、SK169・173を切り込む。規模は長径1.08m、短径0.71m、深さ0.29mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器・須恵器・黒色土器・土錘・灰釉陶器・釘（025）が出土している。

SK169（図面023）：平面形態は楕円形でSK168に切られる。規模は長径0.41m、短径0.25m、深さ0.61mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK170（図面023）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.79m、短径0.57m、深さ0.11mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK171（図面023）：平面形態は円形でSK172に切られる。規模は径0.66～0.67m、深さ0.17mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：暗灰黄色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK172（図面023）：平面形態は楕円形でSK171を切る。規模は長径0.92m、短径0.79m、深さ0.17mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器がある。

SK173（図面023）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.37m、短径0.83m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト炭化物混、第２層：黒褐色粘質シルトに黄灰色シルト多量混、第３層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混に分層される。遺物は土師器・須恵器・黒色土器・土錘・紡錘車（026）・鉄滓（027）が出土している。

SK174（図面024）：平面形態は円形でSK175を切る。規模は径0.38～0.41m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK175（図面024）：平面形態は円形でSK174に切られる。規模は径0.56～0.67m、深さ0.2mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混、第２層：黄灰色シルト炭化物混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK176（図面024）：平面形態は不整形でSP175に切られる。規模は長径1.3m、短径0.81m、深さ0.42mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒色粘質シルト炭化物混、第３層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂多量混に分層される。遺物は土師器・須恵器・土錘が出土している。

SK177（図面024）：平面形態は不整形で、SX003を切る。規模は長径1.34m、短径1.15m、深さ0.32mを測る。覆土は第１層：黒色粘質シルト炭化物混、第２層：黄灰色粘質シルト炭化物混となる。遺物は土師器・須恵器・土錘が出土している。

SK178（図面024）：平面形態は楕円形でSK177・185に切られる。規模は長径1.0m以上、短径0.92m、深さ0.07mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK179（図面024）：平面形態は楕円形でSK180に切られる。規模は長径1.2m、短径0.99m、深さ0.09m

を測る。覆土は第１層：黒色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルト炭化物混、第３層：オリーブ褐色粘質シルトを基調とする焼土炭化物混となる。遺物は土師器・黒色土器が出土している。

SK180（図面024）：平面形態は楕円形でSK179を切る。規模は長径1.01m、短径0.72m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK181（図面024）：平面形態は不整形で、規模は長径1.91m、短径1.43m、深さ0.17mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器・釘（028）・刀子（029）出土している。

SK182（図面024）：平面形態は円形でSK183を切る。規模は径0.47～0.53m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK183（図面024）：平面形態は楕円形で、SK185・SD007を切り込み、SK182に切られる。規模は長径0.54m、短径0.45m以上、深さ0.15mを測る。覆土は第１層：黄褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK184（図面024）：平面形態は円形でSK185を切り込む。規模は径0.33～0.39m、深さ0.4mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト炭化物少量混、第２層：黄灰色シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK185（図面024）：平面形態は不整形で、SK183・184・SD007に切られる。規模は長径2.06m、短径1.58m、深さ0.15mを測る。覆土は第１層：オリーブ褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルト炭化物多量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK186（図面024）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.05m、短径0.54m、深さ0.13mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・土錘がある。

SK187（図面024）：平面形態は楕円形でSK183を切る。規模は長径0.45m、短径0.36m、深さ0.14mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK188（図面024）：平面形態は不整形で、規模は長径0.92m、短径0.5m以上、深さ0.34mを測る。覆土は第１層：(2.5Y3/2) 黒褐色粘質シルトに（2.5Y3/1）黒褐色粘質シルト混、第２層：(2.5Y3/2) 黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK189（図面024）：平面形態は不整形で、規模は長径0.77m、短径0.38m以上、深さ0.13mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK190（図面024）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.72m、短径0.55m、深さ0.07mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK191（図面025）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.45m、短径0.28m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器・須恵器・土錘が出土している。

SK192（図面025）：平面形態は不整形でSD011に切られる。規模は長径1.56m、短径0.39m以上、深さ0.07mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK193（図面025）：平面形態は円形で、規模は径0.3～0.34m、深さ0.29mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・黒色土器がある。

SK194（図面025）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.41m、深さ0.28mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK195（図面025）：平面形態は楕円形でSK199に切られる。規模は長径2.2m、短径1.75m、深さ0.46m

を測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト炭化物微量混、第２層：黒褐色粘質シルト焼土多量混となる。遺物は土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器・釘（020）・留金（021）が出土している。

SK196（図面025）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.6m、短径0.46m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト炭化物混、第２層：黄灰色シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK197（図面025）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.78m、短径0.54m、深さ0.27mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト炭化物混、第２層：黄灰色シルト炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK198（図面025）：平面形態は不整形で、SK199を切る。規模は長径0.84m、短径0.52m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂多量・炭化物混となる。遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器が出土している。

SK199（図面025）：平面形態は楕円形で、SK198に切られる。規模は長径1.5m、短径0.98m、深さ0.4mを測る。覆土は第１層：オリーブ褐色粘質シルト炭化物多量混、第２層：暗灰黄色シルト、第３層：暗灰黄色シルト炭化物混、第４層：オリーブ褐色粘質シルトに黒褐色シルト・焼土・炭化物混となる。遺物は土師器・須恵器・土錘・フイゴの羽口が出土している。

SK200（図面025）：平面形態は円形でSD011に切られる。規模は径0.46～0.47m、深さ0.12mを測る。覆土は黄褐色砂質シルト炭化物混のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK201（図面025）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.43m、深さ0.13mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は中世土師器がある。

SK202（図面025）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.74m、短径0.53m、深さ0.11mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK203（図面025）：平面形態は円形で、規模は径0.28m、深さ0.24mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK204（図面025）：平面形態は楕円形でSK206を切る。規模は長径0.57m、短径0.43m、深さ0.33mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK205（図面025）：平面形態は楕円形で規模は長径0.61m、短径0.49m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト炭化物混、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂多量・炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK206（図面025）：平面形態は円形でSK204に切られる。規模は径0.81～0.84m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト炭化物混、第２層：オリーブ褐色粘質シルト、第３層：オリーブ褐色シルトとなる。遺物は土師器・土錘が出土している。

SK207（図面025）：平面形態は不整形で、規模は長径0.74m以上、短径0.63m、深さ0.05mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は認められない。

SK208（図面025）：平面形態は不整形で、規模は長径1.9m、短径0.66m以上、深さ0.09mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・中世土師器がある。

SK209（図面025）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.85m、短径0.66m、深さ0.1mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK210（図面026）：平面形態は楕円形で、SD011に切られる。規模は長径0.57m以上、短径0.51m、深さ0.2mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：暗オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺物

は土師器・須恵器が出土している。

SK211（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.17m、短径0.89m、深さ0.11mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・黒色土器がある。

SK212（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.65m、短径0.42m、深さ0.13mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK213（図面026）：平面形態は円形で、規模は長径0.7m、短径0.68m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・黒色土器がある。

SK214（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.9m、短径0.56m、深さ0.06mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK215（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.97m、短径0.5m、深さ0.06mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・黒色土器がある。

SK216（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.62m、短径0.52m、深さ0.3mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト炭化物混、第2層：黄灰色シルト炭化物混、第3層：暗灰黄色シルト炭化物混となる。遺物は土師器・土錘が出土している。

SK217（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.38m、短径0.96m、深さ0.07mを測る。覆土は黄褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK218（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.15m、短径1.09m、深さ0.17mを測る。覆土は第1層：黄褐色粘質シルト、第2層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK219（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.89m、短径0.66m、深さ0.39mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK220（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.69m、短径0.56m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は中世土師器がある。

SK221（図面026）：平面形態は楕円形でSD011を切る。規模は長径0.73m、短径0.51m、深さ0.22mを測る。覆土は第1層：オリーブ褐色粘質シルト、第2層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・黒色土器が出土している。

SK222（図面026）：平面形態は楕円形で、SD013を切る。規模は長径0.66m、短径0.62m、深さ0.21mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：黒色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK223（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.42m、深さ0.08mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK224（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.62m、短径0.51m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は中世土師器がある。

SK225（図面026）：平面形態は円形で、規模は径0.56～0.59m、深さ0.2mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK226（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.62m、短径0.4m、深さ0.17mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK227（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.79m、短径0.6m、深さ0.17mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK228（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.62m、短径0.49m、深さ0.16mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK229（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.43m、短径0.36m、深さ0.1mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK230（図面026）：平面形態は円形で、規模は径0.51～0.54m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK231（図面026）：平面形態は円形で、規模は径0.52～0.53m、深さ0.16mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK232（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.05m、短径0.56m、深さ0.2mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK233（図面026）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.71m、短径0.5m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK234（図面026）：平面形態は円形で、規模は径0.26～0.29m、深さ0.27mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK235（図面027）：平面形態は円形で、規模は径0.55～0.6m、深さ0.12mを測る。覆土は暗オリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK236（図面027）：平面形態は円形で、規模は径0.47～0.52m、深さ0.17mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK237（図面027）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.77m、短径0.56m、深さ0.09mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK238（図面027）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.15m、短径0.9m、深さ0.27mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK239（図面027）：平面形態は楕円形でSK240を切る。規模は長径0.83m、短径0.73m、深さ0.12mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器がある。

SK240（図面027）：平面形態は円形でSK239に切られる。規模は径0.5～0.55m、深さ0.13mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK241（図面027）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.51m、短径0.4m、深さ0.19mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・黒色土器がある。

SK242（図面027）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.74m、短径0.42m、深さ0.45mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK243（図面027）：平面形態は楕円形で、SD010を切る。規模は長径0.98m、短径0.64m、深さ0.3mを測る。覆土は第１層：（2.5Y3/1）黒褐色粘質シルト、第２層：（2.5Y3/2）黒褐色粘質シルト、第３層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK244（図面027）：平面形態は円形で、規模は径0.24～0.27m、深さ0.11mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器がある。

SK245（図面027）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.48m、短径0.38m、深さ0.43mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は中世土師器がある。

SK246（図面027）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.43m、深さ0.06mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK247（図面027）：平面形態は円形で、規模は径0.3～0.32m、深さ0.29mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は中世土師器がある。

SK248（図面027）：平面形態は円形で、規模は径0.88～0.92m、深さ0.4mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK249（図面027）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.41m、短径0.29m、深さ0.05mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK250（図面027）：平面形態は円形でSK251を切る。規模は径0.39～0.42m、深さ0.32mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK251（図面027）：平面形態は楕円形でSK250に切られる。規模は長径1.13m、短径0.77m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK252（図面027）：平面形態は不整形で、規模は長径1.74m、短径1.45m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。出土遺物は認められない。

SK253（図面027）：平面形態は不整形で、規模は長径2.43m、短径1.28m、深さ0.07mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK254（図面027）：平面形態は円形で、規模は径0.46～0.51m、深さ0.08mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK859（図面027）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.37m、短径0.33m、深さ0.14mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は炭化材がある。

大型土坑

SX001（図面028）：古代の複数の竪穴住居の跡地で、その窪みに上層の土が堆積したものと考えられる。平面形態は不整形で、規模は長径8.7m、短径4.2m、深さ0.48mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト～オリーブ褐色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・黒色土器・土錘・羽口・灰釉陶器・留金（030）・釘（031・034）・鉄滓（032・033）・刀子（035・036）・砥石？（04）が出土している。

SX002（図面029）：平面形態は楕円形でSD013に切られる。規模は長径2.75m、短径2.3m、深さ0.12mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・土錘が出土している。

SX003（図面029）：平面形態は不整形でSK163・164・177に切られる。規模は長径3.85m、短径2.55m、深さ0.46mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・土錘が出土している。

溝

SD001（図面030）：平面形態は直線的で、北東から南西に延びる小溝。両端とも消失している。長さ1.43m、最大幅0.33m、最大深0.16mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD002（図面030）：平面形態は直線的で、東西に延びる。両端とも消失している。長さ3.7m、最大幅0.4m、最大深0.04mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出

土遺物は土師器が認められる。

SD003（図面030）：平面形態は直線的で、東西に延びる小溝。両端とも消失している。長さ1.58m、最大幅0.4m、最大深0.04mを測る。断面形態はレンズ形を呈し、覆土は黒褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD004（図面030）：北西端は西側調査区外に延び、南東端は消失している直線的な溝である。西壁付近でSK046に切られる。確認できる長さは1.86m、最大幅0.52m、最大深0.05mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は黒褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD005（図面030）：SX001内に存在する直線的な溝である。南北に延び両端とも消失している。長さ1.50m、最大幅0.4m、最大深0.07mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黒褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD006（図面030）：北端はSX003に切られ、南端は遺構に切られる。確認できる長さは2.56m、最大幅0.73m、最大深0.08mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は黒褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD007（図面030）：南北に延びる直線的な溝であり、両端とも消失している。SK183、185に切られる。長さ2.3m、最大幅0.6m、最大深0.03mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は黄灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD008（図面030）：東西に延びる直線的な溝であり、両端とも消失している。長さ2.3m、最大幅0.65m、最大深0.05mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD009（図面030）：平面形態は不整形で、北端、南端とも消失している。長さ6.1m、最大幅2.0m、最大深0.17mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルト焼土・マンガン混となる。出土遺物は土師器・須恵器・金属製品が認められる。

SD010（図面030）：平面形態は直線的で調査区を南北に延びる。北端は消失し、南側調査区外に続く。途中SD014に切られる。確認できる長さは31.8m、最大幅6.3m、最大深0.11mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はa、bセクションは黄灰色粘質シルト、cセクションは黄灰色粘質シルトを基調とする6層からなる。出土遺物は土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器が認められる。

SD011（図面030）：調査区を北東から南西に延びる直線的な溝で、北側調査区外に続く。南西端はSD018に切られ、途中SK192を切り込む。確認できる長さは59.0m、最大幅1.6m、最大深0.38mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションで灰黄色細砂を基調とする五層から構成され、bセクションでは黄灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・土錘・羽口・灰釉陶器が認められる。

SD012（図面030）：平面形態は直線的で、北西端、南東端とも消失している。途中SK215を切り込む。長さ3.06m、最大幅0.41m、最大深0.04mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土はオリーブ褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD013（図面030）：平面形態は直線的で、北東端、南西端とも消失している。長さ3.8m、最大幅0.19m、最大深0.05mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はオリーブ褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD014（図面030）：東西に延びる直線的な溝であり、西端はSD011に切られ消失し、東端はSD010を切り合流している。長さ23.8m、最大幅1.3m、最大深0.2mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa

セクションで黒褐色粘質シルト、bセクションでは第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルト酸化鉄沈着となる。出土遺物は土師器・須恵器・黒色土器が認められる。

SD015（図面030）：平面形態は直線的で、北東端、南西端とも消失している。長さ10.2m、最大幅0.7m、最大深0.17mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒色砂質シルト礫混となる。出土遺物は認められない。

SD016（図面030）：東西に延びる不整形の溝で、両端とも消失している。東側でSD011に切られる。確認できる長さは5.87m、最大幅1.28m、最大深0.16mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はaセクションで青灰色粘土ににぶい黄色砂混となり、bセクションでは第１層：黄褐色砂質シルトにオリーブ褐色粘質シルト混、第２層：黄褐色砂質シルトからなる。出土遺物は認められない。

SD017（図面030）：平面形態は直線的で北西端、南東端とも消失している。長さ2.6m、最大幅0.49m、最大深0.07mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は暗オリーブ褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD018（図面030）：中世から近代の遺構。調査区の南西端を南北に延びるが、調査区外に広がるため不明瞭である。確認できる長さは17.2m、最大幅2.7m、最大深0.21mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa、bセクションとも青灰色粘土の単層となる。出土遺物は越中丸山（4045）・土師器・須恵器・珠洲・八尾・越中瀬戸・唐津・伊万里・不明近世陶器が認められる。

Ｂ２地区

SB021－SP191～210（図面036）：調査区北側に位置する。建物の規模は、梁行３間（7.85m）、桁行４間（9.66～9.7m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN90°Eで、床面積は76.1㎡。柱間距離は、梁行2.3～2.8m、桁行2.3～2.6mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.3～0.86m、深さ0.21～0.56mを数える。柱穴内覆土は黒褐色～にぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB022－SP211～225（図面037）：建物の規模は、梁行２間（4.5～4.56m）、桁行４間（9.4m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN14°Eで、床面積は42.9㎡。柱間距離は、梁行2.2～2.3m、桁行2.0～2.7mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.24～0.72m、深さ0.22～0.43mを数える。柱穴内覆土は黒褐色～にぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB023－SP226～236（図面037）：調査区中央部に位置し、遺構内にSX012が構築される。建物の規模は、梁行２間（4.5m）、桁行３間（7.6m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN77°Wで、床面積は34.2㎡。柱間距離は、梁行2.1～2.35m、桁行2.3～3.1mである。柱穴形態は円～隅丸方形で、径0.3～0.89m、深さ0.17～0.46mを数える。柱穴内覆土は黒褐色～灰黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP230で棒状鉄製品（091）が出土している。

SB024－SP237～250（図面038）：建物内の南側１×３間の範囲にSX008が構築される。SB025とは配置が重複し、建て替えの可能性がある。建物の規模は、梁行３間（5.5m）、桁行３間（5.6m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN18°Eで、床面積は30.8㎡。柱間距離は、梁行桁行ともに1.8mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.24～0.45m、深さ0.1～0.37mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB025－SP251～259（図面038）：SB024と配置が重複する。SX008との重複関係からSB024より古い建物と判断される。建物の規模は、梁行２間（4.75m）、桁行２間（5.1m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN18°Eで床面積は24.2㎡。柱間距離は、梁行2.3～2.4m、桁行2.5～

2.55mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.19～0.52m、深さ0.08～0.56mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB026－SP260～279（図面039）：SB027・028と配置が重複する。SB027とほぼ同方位を示す。建物の規模は、梁行３間（6.6～6.7m）、桁行４間（9.12～9.16m）の総柱建物で、平面プランは長方形である。これに１間×３間（1.1×2.4m）の張出部分が、桁行き北側柱列に付く。張出部分を含めた建物専有面積は64.0㎡である。建物の棟方向はN71°W。柱間距離は、梁行2.15～2.4m、桁行2.15～2.5m、柱穴形態は円～不整形で、径0.28～1.07m、深さ0.15～0.4mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP266で珠洲・棒状鉄製品（095）、SP277で土師器（4047）・中世土師器、SP279で珠洲が出土している。

SB027－SP264・280～291（図面040）：SB026・SB028と配置が重複する。SB026とほぼ同方位を示す。建物の規模は、梁行３間（6.25m）、桁行３間（6.3m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN77°Wで、床面積は39.4㎡。柱間距離は、梁行2.0～2.3m、桁行1.85～2.55mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.25～0.95m、深さ0.12～0.4mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB028－SP278・292～299（図面040）：SB026・SB027と配置が重複する。建物の規模は、梁行２間（3.8m）、桁行２間（4.0m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN60°Wで、床面積は15.2㎡。柱間距離は、梁行1.8～2.0m、桁行1.9～2.1mである。柱穴形態は円～隅丸方形で、径0.2～1.23m、深さ0.14～0.36mを数える。柱穴内覆土は黒褐色～灰黄褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB029－SP300～317（図面041）：調査区南側に位置し、調査区外へ続く。建物内北東隅にはSX020・021が構築される。建物の規模は、梁行４間（9.0m）、桁行４間以上（9.1m～）の総柱建物である。これに１間×２間（2.0×4.6m）の張出部分が、桁行き北西側柱列に付く。確認される建物専有面積は91.1㎡である。建物の棟方向はN24°E。柱間距離は、梁行2.15～2.35m、桁行2.2～2.3m、柱穴形態は円～隅丸方形で、径0.21～0.54m、深さ0.05～0.32mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP307で珠洲（4056）、SP315で須恵器が出土している。

柵列

SA01－SP318～322（図面041）：SD019内の北側で検出された直線的な柱穴の配列である。長さ9.2m、柱間距離は1.6～2.7mを測る。柱穴形態は円～楕円形で、径0.24～0.67m、深さ0.03～0.14mである。柱穴内覆土は褐灰色砂質シルトを基調とする。遺物はSP318から土師器・中世土師器が出土している。

土坑

SK255（図面042）：平面形態は楕円形で、SD020に切られる。規模は長径0.61m、短径0.44m以上、深さ0.29mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルトににぶい黄色砂質シルト混、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK256（図面042）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.49m、短径0.4m、深さ0.17mを測る。覆土は第１層：（10YR2/2）黒褐色砂質シルト、第２層：（10YR3/2）黒褐色砂質シルト、第３層灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK257（図面042）：平面形態は隅丸方形で、規模は一辺1.39～1.59m、深さ0.38mを測る。覆土は第１層：（10YR3/2）黒褐色砂質シルト、第２層：（10YR3/2）黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混、第３層：（10YR3/1）黒褐色砂質シルトに分層される。遺物は土師器・中世土師器が出土して

いる。

SK258（図面042）：平面形態は不整形で、SK259・SX006を切り込む。規模は長径1.34m以上、短径1.26m、深さ0.48mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄褐色砂質シルトとなる。遺物は認められない。

SK259（図面044）：平面形態は楕円形で、SX006を切る。規模は長径1.22m、短径0.78m、深さ0.07mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器（4054）・青磁（4055）が出土している。

SK260（図面042）：平面形態は方形で、規模は一辺0.82m以上、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK261（図面042）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.68m、短径0.48m、深さ0.27mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルトに褐色砂質シルト混、第２層：黒褐色砂質シルトとなる。遺物は認められない。

SK262（図面042）：平面形態は円形で、規模は径0.34～0.4m、深さ0.8mを測る。覆土は第１層：（10YR2/2）黒褐色砂質シルト、第２層：（10YR3/2）黒褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK263（図面042）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.92m、短径0.35m、深さ0.22mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は中世土師器がある。

SK264（図面042）：平面形態は不整形で、規模は長径1.5m、短径0.76m、深さ0.3mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：（10YR3/2）黒褐色砂質シルトに（10YR3/1）黒褐色砂質シルト・炭化物微量混となる。遺物は中世土師器（4050）が出土している。

SK265（図面042）：平面形態は不整形で、規模は長径0.56m、短径0.45m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK266（図面042）：平面形態は円形で、規模は径0.45～0.54m、深さ0.42mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器がある。

SK267（図面042）：平面形態は円形で、規模は径0.45～0.55m、深さ0.29mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK268（図面042）：平面形態は不整形でSD019に切られる。規模は長径1.38m、短径1.2m、深さ0.13mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混となる。遺物は土師器が出土している。

SK269（図面042）：平面形態は楕円形でSX013に切られる。規模は長径0.26m以上、短径0.34m、深さ0.37mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混となる。遺物は土師器が出土している。

SK270（図面042）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.93m、短径0.4m、深さ0.09mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混の単層となる。遺物は土師器が出土している。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK271（図面042）：平面形態は円形で、規模は径0.31～0.33m、深さ0.36mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK272（図面043）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.62m、短径0.29m、深さ0.13mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK273（図面043）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.28m、深さ0.44mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器（4053）が出土している。

SK274（図面043）：平面形態は円形で、規模は径0.57～0.66m、深さ0.25mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK275（図面043）：平面形態は円形で、規模は径0.34～0.35m、深さ0.1mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK276（図面043）：平面形態は不整形で、規模は長径0.65m、短径0.55m、深さ0.38mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混となる。遺物は認められない。

SK277（図面043）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.57m、短径0.3m、深さ0.55mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄褐色砂質シルト、第３層黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混となる。遺物は認められない。

SK278（図面043）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.37m、深さ0.3mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混、第３層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK279（図面043）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺0.88m、短辺0.75m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト礫混、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混となる。遺物は土師器が出土している。

SK280（図面043）：平面形態は不整形で、規模は長径1.08m、短径0.53m以上、深さ0.5mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は珠洲（4057）が出土している。

SK281（図面043）：平面形態は不整形で、規模は長径1.86m、短径1.28m、深さ0.49mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK282（図面043）：平面形態は円形で、規模は径0.77～0.87m、深さ0.29mを測る。覆土は第１層：暗褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルト。第３層：灰黄褐色シルト質砂となる。遺物は土師器が出土している。

SK283（図面043）：平面形態は不整形で、規模は長径1.55m、短径1.04m、深さ0.5mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：褐色砂質シルト、第３層：暗褐色砂質シルト、第４層：黒褐色シルト質砂に分層される。遺物は認められない。

SK284（図面043）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.41m、短径0.29m、深さ0.28mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器（4051・4052）・珠洲が出土している。

SK285（図面043）：平面形態は不整形で、規模は長径1.31m、短径0.92m、深さ0.39mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトに礫・粗砂混となる。遺物は土師器が出土している。

SK286（図面043）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.43m、短径0.32m、深さ0.12mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK287（図面043）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.53m、短径0.4m、深さ0.41mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK288（図面043）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.83m、短径0.55m、深さ0.19mを測る。覆土は

黒褐色砂質シルト礫混のみの単層となる。遺物は珠洲が出土している。

大型土坑

SX004（図面044）：北側が調査区北壁にかかる。平面形態は不整形で、規模は長径2.12m、短径1.36m以上、深さ0.33mを測る。覆土は第１層：黒色砂質シルト、第２層：（10YR3/2）黒褐色砂質シルト、第３層：（10YR3/1）黒褐色砂質シルト礫混となる。出土遺物は認められない。

SX005（図面044）：平面形態は不整形で、規模は長径2.71m、短径1.43m、深さ0.35mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルト礫混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SX006（図面044）：平面形態は不整形でSK259に切られる。規模は長径2.3m、短径1.97m、深さ0.16mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルトににぶい黄色砂質シルト混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SX007（図面044）：平面形態は隅丸長方形でSD032に切られる。規模は長径2.15m、短径1.55m以上、深さ0.16mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混となる。遺物は土師器が出土している。

SX008（図面044）：SB024に伴う大型土坑である。平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺5.12m、短辺1.32m、深さ0.5mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器が出土している。

SX009（図面045）：平面形態は不整形で、規模は長径2.64m、短径1.31m、深さ0.23mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・中世土師器（4061）・珠洲が出土している。

SX010（図面045）：平面形態は不整形で、規模は長径2.72m、短径0.98m、深さ0.24mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SX011（図面045）：平面形態は不整形で、規模は長径6.2m以上、短径3.1m、深さ0.04mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SX012（図面045）：SB023に伴う大型土坑で、建物内の南東の一間×一間の範囲に構築される。平面形態は隅丸方形で、規模は長辺2.74m、短辺2.22m、深さ0.33mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト～にぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SX013（図面045）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺4.7m以上、短辺3.72m、深さ0.5mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト～灰黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は須恵器・中世土師器（4049・4058・4059）が出土している。

SX014（図面045）：平面形態は隅丸長方形で、SK269を切る。規模は長辺4.7m以上、短辺3.72m以上、深さ0.56mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4048・4062）・白磁（4063・4064）が出土している。

SX015（図面046）：SB026に伴う大型土坑で、建物の北東部分に構築されSX016を切る。内部には人頭大の礫による石列が、北側は２段、その他は１段で2.7m×2.0mの方形状に積まれている。平面形態は不整形で、規模は長径4.84m、短径2.51m、深さ0.5mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト～にぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4060）・珠洲・越前が出土している。

SX016（図面046）：平面形態は隅丸長方形でSX015に切られる。規模は長辺4.43m、短辺2.51m、深さ0.18mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混、第２層：黒褐色砂質シルト礫混となる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SX017（図面047）：平面形態は楕円形で、規模は長径2.22m、短径0.68m、深さ0.1mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SX018（図面047）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺2.28m、短径1.2m、深さ0.16mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SX019（図面047）：平面形態は楕円形で、規模は長径2.89m、短径1.45m、深さ0.43mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルト～黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX020（図面047）：調査区南端のSB029に伴う大型土坑で、建物内の北東隅に構築される。平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺4.38m、短辺2.04m、深さ0.41mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混、第３層：（10YR3/2）黒褐色砂質シルトに（10YR2/2）黒褐色砂質シルト・粗砂微量混となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・棒状鉄製品（092）が出土している。

SX021（図面047）：SB029内に構築された大型土坑で、SX020に切られる。平面形態は不整形で、規模は長径2.8m、短径2.4m、深さ0.66mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト～灰黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器が出土している。

溝

SD019（図面048）：古代から谷状地形、自然流路として存在していた。調査区を南北に延び、調査区外に続く。SD020を切り合流している。確認できる長さは51.0m、最大幅13.5m、最大深3.0mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はa、bセクションとも黒褐色粘質シルトを基調とする８層～11層で構成される。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4065～4069）・珠洲（4086～4091）・八尾（4070・4084・4085）・越前・瀬戸美濃（4072・4073）・白磁（4071）・青磁（4074～4077・4079）・唐津・伊万里（4083）・越中瀬戸（4080～4082）・砥石（01）が認められる。

SD020（図面049）：SD019の東側に併走し、北端はSD019に切られ合流する。確認できる長さは38.5m、最大幅1.1m、最大深0.31mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションで第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト酸化鉄形成、第3層：にぶい黄褐色砂質シルトに酸化鉄形成、bセクションでは灰黄褐色砂質シルト酸化鉄形成の単層となり、c、dセクションで第１層：にぶい黄褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルト、第３層：にぶい黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD021（図面049）：調査区西側で地形がやや落ち込む際に沿って南北に延びる区画溝と思われる。確認できる長さは55.5m、最大幅2.5m、最大深0.45mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はaセクションでにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする８層から構成され、bセクションでは黒褐色砂質シルトを基調とする９層から構成される。出土遺物は須恵器・珠洲（4092）・唐津が認められる。

SD022（図面049）：平面形態は直線的で南北に延びる。両端とも消失している。長さ3.7m、最大幅0.4m、最大深0.05mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD023（図面049）：平面形態は直線的で南北に延びる。両端とも消失している。長さ3.7m、最大幅0.5m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD024（図面049）：直線的な小溝で北端、南端とも消失している。長さ1.65m、最大幅0.7m、最大深0.18mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認めら

れない。

SD025（図面049）：平面形態は直線的で、北西端、南東端とも消失している。SP027を切り込む。長さ1.72m、最大幅0.29m、最大深0.2mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は珠洲が認められる。

SD026（図面049）：平面形態は不整形で、北西端は土坑に切られ、南端は消失している。確認できる長さは3.5m、最大幅1.2m、最大深0.07mを測る。断面形態は不整形～U字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD027（図面049）：平面形態は直線的で南北に延びる。両端とも消失している。途中SD028を切る。長さ2.01m、最大幅0.27m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。出土遺物は中世土師器が認められる。

SD028（図面049）：平面形態は直線的で西端はSD027に切られ、東端は消失している。確認できる長さは0.75m、最大幅0.23m、最大深0.03mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD029（図面049）：平面形態は直線的で、南北に延び、両端とも消失している。長さ2.2m、最大幅0.3m、最大深0.05mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトに、にぶい灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD030（図面049）：平面形態は直線的で、北西端、南東端とも消失している。長さ1.28m、最大幅0.32m、最大深0.19mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は中世土師器・棒状鉄製品（093）が認められる。

SD031（図面049）：平面形態は直線的で、西端はSX008に切られ、東端は消失している。確認できる長さは1.6m、最大幅0.5m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD032（図面049）：平面形態は直線的で、北西端、南東端とも消失している。長さ10.5m、最大幅0.6m、最大深0.16mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はa、bセクションとも黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・中世土師器が認められる。

SD033（図面049）：東西に延びる小溝で両端とも消失している。長さ2.0m、最大幅0.5m、最大深0.2mを測る。断面形態はU字形呈し、覆土は第1層：灰黄褐色砂質シルト、第2層：（10YR4/2）灰黄褐色砂質シルトに（10YR5/2）灰黄褐色砂質シルト混となる。出土遺物は認められない。

B3地区

掘立柱建物

SB030－SP323～328（図面058）：建物の規模は、梁行1間（2.35～2.4m）、桁行2間（4.72m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN78°Wで、床面積は11.3㎡。柱間距離は、桁行2.35mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.26～0.47m、深さ0.09～0.3mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB031－SP329～334（図面058）：建物の規模は、梁行1間（2.2m）、桁行2間（4.5～4.55m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN20°Eで、床面積は10.0㎡。柱間距離は、桁行2.0～2.5mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.28～0.65m、深さ0.11～0.38mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP332で陶磁器が出土している。

SB032－SP335～338（図面058）：建物の規模は、梁行1間（2.02m）、桁行1間（2.3m）の側柱建物で、

平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN20°Eで、床面積は4.6㎡である。柱穴形態は楕円～不整形で、径0.28～0.52m、深さ0.09～0.14mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP338で須恵器が出土している。

SB033－SP339～343（図面058）：SB034とほぼ同方位を示し、SB034に隣接する。建物の規模は、梁行１間（2.05m）、桁行２間（3.84m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN75°Wで、床面積は7.9㎡。柱間距離は、桁行1.8～1.85mである。柱穴形態は楕円～不整形で、径0.15～0.71m、深さ0.16～0.33mを数える。柱穴内覆土は黒褐色シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB034－SP344～367（図面059）：SB037と配置が重複し、建物内の東側中央部の１間×２間にSX022・023が構築される。建物の規模は、梁行４間（9.1～9.23m）、桁行４間（9.6～9.7m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN21°Eで、床面積は89.5㎡。柱間距離は、梁行2.1～2.4m、桁行2.3～2.5mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.1～0.9m、深さ0.21～0.5mを数える。柱穴内覆土は黒褐色～暗褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP345で須恵器・珠洲、SP351・352・360・361で珠洲（4132）、SP364で須恵器が出土している。

SB035－SP368～375（図面060）：建物の規模は、梁行２間（2.45～2.48m）、桁行２間（3.5m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN18°EでSB033・034とほぼ同方位を示す。床面積は8.7㎡。柱間距離は、梁行1.2～1.25m、桁行1.7～1.8mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.27～0.55m、深さ0.12～0.41mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB036－SP376～378（図面060）：調査区の西壁際に位置し、調査区外に続くため、建物の規模は、梁行１間（1.2m）、桁行１間（1.95m）のみが確認された。建物の棟方向はN57°Eで、検出された床面積は2.4㎡である。柱穴形態は円～不整形で、径0.32～0.34m、深さ0.26～0.38mを数える。柱穴内覆土は暗褐色シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB037－SP379～388（図面060）：SB034と配置が重複する。建物の規模は、梁行２間（5.02m）、桁行３間（6.4m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN63°Eで床面積は32.1㎡。柱間距離は、梁行2.25～2.7m、桁行2.0～2.2mである。柱穴形態は円～隅丸方形で、径0.32～0.7m、深さ0.13～0.33mを数える。柱穴内覆土は黒褐色シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB038－SP389～392（図面060）：調査区の西壁南側に位置し、調査区外に続く。建物の規模は、梁行３間（7.0m）、桁行１間以上（2.2m～）、建物の棟方向はN28°Eで、検出された床面積は15.4㎡、柱間距離は梁行2.3～2.4mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.25～0.55m、深さ0.12～0.49mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトである。出土遺物は認められない。

土坑

SK289（図面079）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.53m、短径0.4m、深さ0.37mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。遺物は青磁・白磁・青白磁（5493）が出土している。

SK290（図面079）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.54m、短径0.45m、深さ0.38mを測る。覆土は第１層：（10YR2/2）黒褐色シルト炭化物混、第２層：（10YR3/2）黒褐色シルト礫混となる。遺物は珠洲が出土している。

SK291（図面079）：平面形態は不整形で、SP376に切られ西壁で消失する。規模は長径1.33m、短径1.2m以上、深さ0.54mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト炭化物混、第２層：灰黄褐色シルト炭化物混、

第３層：暗オリーブ褐色シルト礫混に分層される。遺物は須恵器が出土している。

大型土坑

SX022（図面086）：SB034内で構築され、主軸も同じくする大型土坑である。SB034の関連施設と考えられる。平面形態は隅丸長方形でSX023を切る。規模は長辺4.14m、短辺1.86m、深さ0.35mを測る。覆土は黒褐色シルトを基調とする。遺物は須恵器・中世土師器（4111）・白磁（5488・5491）・青磁（5470）・珠洲（4133）が出土している。

SX023（図面086）：平面形態は隅丸長方形でSX022に切られる。規模は長辺2.2m、短辺0.96m以上、深さ0.28mを測る。覆土は第１層：（10YR3/2）黒褐色シルト炭化物・礫混、第２層：（2.5Y3/2）黒褐色シルト炭化物・礫混、第３層：（10YR3/1）黒褐色シルト礫混となる。出土遺物は認められない。

SX024（図面087）：平面形態は不整形で、規模は長径3.4m、短径2.45m、深さ0.08mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト炭化物混、第２層：褐色シルト、第３層：暗褐色シルトとなる。遺物は認められない。

SX025（図面087）：平面形態は不整形でSX026との切り合いは不明である。規模は長径2.98m、短径1.82m以上、深さ0.22mを測る。覆土は黒褐色シルト炭化物混を基調とする。遺物は須恵器が出土している。

SX026（図面087）：平面形態は不整形で、規模は長径2.3m、短径1.54m以上、深さ0.3mを測る。覆土は黒褐色シルト炭化物混を基調とする。遺物は認められない。

溝

SD034（図面101）：平面形態は直線的な溝で、北側調査区外に続き、南端は消失している。確認できる長さは6.3m、最大幅0.7m、最大深0.16mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色シルト炭化物・礫混の単層となる。出土遺物は認められない。

SD035（図面101）：SD034の西側に併走する直線的な溝で、北側調査区外に続き、南端は消失している。確認できる長さは5.1m、最大幅0.7m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色シルト炭化物・礫混の単層となる。出土遺物は認められない。

SD036（図面101）：平面形態はV字形で、東西方向から北西方向に屈曲し、北側調査区外に続く。確認できる長さは14.5m、最大幅0.5m、最大深0.03mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗褐色砂質シルト炭化物・礫混の単層となる。出土遺物は認められない。

SD037（図面101）：平面形態は直線的で、南東端は消失している。途中土坑に切られながらSD036に続く。確認できる長さは4.7m、最大幅0.8m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は暗褐色砂質シルト炭化物・礫混の単層となる。出土遺物は認められない。

SD038（図面101）：平面形態は直線的で北西端、南東端とも消失している小溝である。長さ1.2m、最大幅0.2m、最大深0.03mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は暗褐色砂質シルト炭化物混となる。出土遺物は認められない。

SD039（図面101）：平面形態は直線的で東西に延び両端とも消失してる。長さ7.8m、最大幅0.35m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗褐色砂質シルト炭化物混となる。出土遺物は認められない。

SD040（図面101）：東西にやや蛇行しながら延び、西側調査区外に続く。東端は消失し、途中SX024に切られる。確認できる長さは11.2m、最大幅0.7m、最大深0.2mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はaセクションで暗オリーブ褐色砂質シルト炭化物混の単層となり、bセクションで第１層：暗褐

色砂質シルト炭化物・礫混、第２層：暗オリーブ褐色シルト礫混となる。出土遺物は珠洲が認められる。

SD041（図面101）：平面形態は直線的で、北東端は消失し、南西端はSX022に切られる。確認できる長さは4.5m、最大幅3.0m、最大深0.25mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第１層：黒褐色シルト炭化物・礫混、第２層：黒褐色シルトに暗褐色砂質シルト混となる。出土遺物は中世土師器（4115）が認められる。

SD042（図面101）：平面形態は不整形な溝である。西端はSP355に切られ、東端はSP357に切られる。確認できる長さは4.1m、最大幅1.7m、最大深0.15mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は暗オリーブ褐色シルト礫混となる。出土遺物は認められない。

Ｂ４地区

掘立柱建物

SB039－SP393～400（図面061）：調査区北東隅に位置する。建物の規模は、梁行１間（3.0m）、桁行３間（7.0m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN72°Wで、床面積は21.0㎡。柱間距離は桁行2.2～2.4mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.25～0.95m、深さ0.27～0.44mを数える。柱穴内覆土は主に黒褐色砂質シルトとなる。遺物はSP394で土師器・中世土師器（4148）、SP395で土師器・中世土師器（4143）、SP396で土師器・須恵器が出土している。

SB040－SP401～412（図面061）：SB041と配置が重複する。建物の規模は、梁行２間（3.7～3.76m）、桁行３間（6.72～6.76m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN19°Eで、床面積は25.4㎡。柱間距離は、梁行1.85～1.9m、桁行1.84～2.7mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.28～0.74m、深さ0.24～0.45mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB041－SP413～421（図面061）：SB040と配置が重複する。建物の規模は、梁行２間（4.32m）、桁行２間（5.3m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN30°Eで、床面積は22.9㎡。柱間距離は、梁行2.15～2.18m、桁行2.5～2.8mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.31～0.53m、深さ0.14～0.46mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP417で中世土師器（4149・4150）、SP418では中世土師器（4151）が出土している。

SB042－SP422～451（図面062）：SB043とほぼ同方位を示し、SB043の東側に隣接する。遺構内の東側には１間×３間の範囲でSX036が、西側にはSX042が構築される。建物の規模は、梁行４間（10.6～10.7m）、桁行５間（12.95～13.0m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN71°Wで、床面積は139.1㎡。柱間距離は、梁行2.56～2.7m、桁行2.4～2.7mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.21～1.34m、深さ0.12～0.74mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP431で土師器、SP443で須恵器、SP448で中世土師器が出土している。

SB043－SP452～471（図面063）：SB044と配置が重複する。またSB042とほぼ同方位を示し、SB042の西側に隣接する。建物の規模は、梁行３間（7.3m）、桁行４間（9.7～9.75m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN72°Wで、床面積は71.2㎡。柱間距離は、梁行1.9～2.7m、桁行2.0～2.8mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.23～0.78m、深さ0.22～0.76mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP452・462で土師器、SP458で珠洲（4153）、SP459で土師器・中世土師器、SP467で青磁が出土している。

SB044－SP472～511（図面064・065）：SB043・049と配置が重複し、SP500・501とSP625・630で重複

関係が成立し、SB049の方が新しい。建物の規模は、梁行4間（9.4m）、桁行7間（18.1～18.2m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN23°Eで、床面積は171.1㎡とこの地区最大である。柱間距離は、梁行2.25～2.4m、桁行2.35～3.0mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.35～1.1m、深さ0.26～0.81mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP473・482・485・487・498・501・503・504・509・510で土師器、SP511で中世土師器、SP479で須恵器、SP480で砥石（23）が出土している。

SB045－SP512～530（図面066）：SB046と配置が重複する。建物内にSX031～035が構築されており、内部施設の可能性が高い。建物の規模は、梁行4間（9.65m）、桁行4間（11.3m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN66°Wで、床面積は109.0㎡。柱間距離は、梁行2.15～2.9m、桁行2.15～3.5mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.32～1.0m、深さ0.12～0.52mを数える。柱穴内覆土は暗オリーブ褐色～黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP514で中世土師器（4139）、SP521で土師器、SP523で中世土師器、SP524で中世土師器（4140）、SP529で白磁（4157）が出土している。

SB046－SP531～555（図面067）：SB045・047と配置が重複する。建物の規模は、梁行4間（8.6m）、桁行5間（10.7m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN30°Eで、床面積は92.0㎡。柱間距離は、梁行2.1～2.28m、桁行2.0～2.3mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.27～0.78m、深さ0.18～0.65mを数える。柱穴内覆土は暗オリーブ褐色～黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP533で中世土師器、SP555で中世土師器（4137・4138）、SP548で珠洲（4155）、SP550で砥石（20）、SP551で青磁（4396）、SP554で白磁（5530）が出土している。

SB047－SP556～579（図面068）：SB046・048・049と配置が重複し、SP566とSP620で重複関係が成立する。柱穴の重複関係からSB049の方が新しい。建物の北東隅に2間×3間の範囲でSX037が構築される。建物の規模は、梁行4間（9.1m）、桁行5間（12.2～12.3m）の総柱建物で、平面プランは長方形である。これに1間×2間（2.4×4.2m）の張出部分が、梁行き西側柱列南部付近に付く。張出部分を含めた建物専有面積は122.0㎡である。建物の棟方向はN73°W。柱間距離は、梁行2.1m、桁行2.5～2.6m、柱穴形態は円～不整形で、径0.29～1.06m、深さ0.2～0.78mを数える。柱穴内覆土は黒褐色～灰黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP567・578で土師器、SP570で中世土師器、SP572で土師器・中世土師器・珠洲、SP577で土師器・中世土師器が出土している。

SB048－SP570～572・575～577・580～606（図面069）：SB047・049と配置が重複する。建物内の東側1間×4間の範囲にSX039・040が構築される。建物の規模は、梁行4間（9.6～9.65m）、桁行6間（15.65～15.8m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN11°Eで、床面積は152.5㎡。柱間距離は、梁行2.3～2.5m、桁行2.26～2.5mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.25～1.06m、深さ0.14～0.78mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP570・599で中世土師器、SP572で土師器・中世土師器・珠洲、SP577で土師器・中世土師器、SP578・583・591・602で土師器、SP586で中世土師器・青磁（4159）、SP589で中世土師器（4141）、SP594で中世土師器・珠洲、SP603で中世土師器・珠洲（4154）、SP598で黒色土器、SP606で須恵器が出土している。

SB049－SP565・607～634（図面070）：SB047・048と配置が重複する。SP566とSP620で重複関係が成立し、柱穴の重複関係からSB047の方が古い。また建物の南側中央部分にはSX050・051が構築される。建物の規模は、梁行4間（10.0～10.1m）、桁行5間（11.9m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN25°Eで、床面積は120.2㎡。柱間距離は、梁行2.3～2.76m、桁行2.25～

2.5mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.34～1.0m、深さ0.37～0.76mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP620で土師器・須恵器・中世土師器（4152）、SP626で白磁（4158）、SP630で須恵器・青磁が出土している。

SB050－SP635～645（図面071）：建物の規模は、梁行2間（5.1m）、桁行4間（9.7m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN19°Eで、床面積は49.5㎡。柱間距離は、梁行2.3～2.7m、桁行2.2～2.8mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.33～0.5m、深さ0.26～0.5mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP637で中世土師器が出土している。

SB051－SP646～657（図面071）：SB052と配置が重複する。建物南側には雨落ち溝SD075がある。建物の規模は、梁行2間（4.95m）、桁行4間（7.8m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN15°Eで、床面積は38.6㎡。柱間距離は、梁行2.4～2.5m、桁行2.5～2.65mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.3～0.46m、深さ0.32～0.55mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP653で土師器・須恵器、SP656で青磁（4156）が出土している。

SB052－SP658～667（図面072）：西側が調査区外となり、東側はSB051と建物配置が重複する。建物の規模は、梁行4間（11.3～11.5m）、桁行2間以上（4.8m～）の総柱建物で、建物の棟方向はN16°Eで、検出される床面積は55.2㎡。柱間距離は、梁行1.95～3.15m、桁行2.3mである。柱穴形態は円形で、径0.3～0.59m、深さ0.3～0.5mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP661で土師器、SP667で須恵器が出土している。

SB053－SP668～679（図面072）：東側の一部が調査区外となる。建物の規模は、梁行2間（5.3m）、桁行4間（10.9m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN40°Eで床面積は57.8㎡。柱間距離は、梁行2.6～2.7m、桁行2.5～3.0mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.33～0.68m、深さ0.32～0.7mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB054－SP680～691（図面073）：SB055と配置が重複し、建物の南西隅にSX057が構築される。建物の規模は、梁行2間（4.92m）、桁行3間（7.5m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN21°Eで、床面積は36.9㎡。柱間距離は、梁行2.45m、桁行2.45～2.55mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.3～0.54m、深さ0.29～0.62mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP683・686・689で中世土師器（4144・4142・4145）が出土している。

SB055－SP692～698（図面073）：建物の西側が調査区外となり、SB054と配置が重複する。建物の規模は、梁行3間（6.12m）、桁行2間以上（3.9m～）で、棟方向はN56°W、検出された床面積は23.9㎡となる。柱間距離は、梁行2.0～2.1m、桁行2.25mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.34～0.6m、深さ0.18～0.54mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP693・698で中世土師器、SP694で土師器・須恵器・中世土師器が出土している。

SB056－SP699～704（図面073）：西壁に切られ、調査区外に続く。建物の規模は、梁行3間（5.4m）、桁行2間以上（2.1m～）である。建物の棟方向はN19°Eで、検出された床面積は11.3㎡。柱間距離は、梁行1.4～2.1m、桁行1.4～1.6mである。柱穴形態は楕円～不整形で、径0.24～0.85m、深さ0.09～0.37mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB057－SP705～713（図面074）：SB058と同一の場所で重複する。建物の規模は、梁行2間（4.32～4.35m）、桁行3間（6.6m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN23°Eで、床面積は28.7㎡。柱間距離は、梁行2.0～2.25m、桁行2.15～2.3mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.25～0.38m、深さ0.1～0.4mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP713

で珠洲が出土している。

SB058－SP714～718（図面074）：SB057と配置が重複する。建物の規模は、梁行２間（3.5m）、桁行２間（4.0m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN23°Eで、床面積は14.0㎡。柱間距離は、梁行1.65～1.85m、桁行1.9～2.05mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.23～0.4m、深さ0.11～0.35mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB059－SP719～727（図面074）：SB060と配置が重複する。建物の東側にSX066が構築される。南側は調査区外となる。建物の規模は、梁行４間（7.6m）、桁行２間以上（3.3m～）の総柱建物である。建物の棟方向はN21°Eで床面積は25.1㎡。柱間距離は、梁行1.75～2.0m、桁行1.85mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.27～0.65m、深さ0.14～0.45mを数える。柱穴内覆土は黒褐色～暗灰黄色砂質シルトを基調とする。出土遺物はSP724で中世土師器（4146）が認められる。

SB060－SP728～746（図面075）：SB059と配置が重複する。建物の規模は、梁行２間（4.44m）、桁行４間（8.75m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。これに１間×４間（1.3×8.7m）の張出部分が、桁行き北側柱列に付く。建物の棟方向はN74°Wで、建物専有面積は49.8㎡。柱間距離は、梁行2.16～2.3m、桁行1.8～2.1mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.28～0.67m、深さ0.11～0.58mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP737で中世土師器（4147）、SP740・742で中世土師器、SP744で刀子（098）が出土している。

井戸

SE01（図面078）：東壁調査区外に続く井戸である。木枠組か石組かは不明で、掘り方のみ残存している。配置からSB039に付属する井戸と考えられる。掘り方の平面形態は円形で、長径3.15m、短径2.10m以上、深さ3.2mの規模を測る。横断面の形態は擂鉢型である。井戸内からは土師器・青磁（5503）が出土している。

SE02（図面078）：調査区のほぼ中央、SX037の南側に位置し、配置からSB048に付属する井戸と考えられる。掘り方の平面形態は不整形で、径3.6～4.4m、深さ3.2mの素掘りの井戸である。横断面の形態は漏斗型で、井筒内の覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。井戸内からは須恵器・中世土師器（4160～4166）・珠洲（4167）・八尾（4168・4169）・青磁・雁股鏃（097）が出土している。

土坑

SK292（図面079）：平面形態は円形で、規模は径0.97m、深さ0.47mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄褐色砂礫となる。遺物は土師器が出土している。

SK293（図面079）：平面形態は不整形で、規模は長径0.65m、短径0.52m、深さ0.35mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK294（図面079）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.76m、短径0.6m、深さ0.2mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は珠洲（4296）が出土している。

SK295（図面079）：平面形態は円形で、規模は径0.88m、深さ0.3mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物少量混、第２層：黒褐色砂質シルトに黄褐色シルト炭化物微量混となる。遺物は中世土師器・珠洲（4289）・砥石（18）が出土している。

SK296（図面079）：平面形態は不整形で、規模は長径1.05m、短径0.52m、深さ0.34mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK297（図面079）：平面形態は不整形で、規模は長径0.5m、短径0.4m、深さ0.4mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK298（図面079）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.95m、短径0.56m、深さ0.4mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：黒褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK299（図面079）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.83m、短径0.73m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK300（図面079）：平面形態は不整形で、規模は長径0.97m、短径0.66m、深さ0.31mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：暗褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK301（図面079）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.39m、短径0.3m、深さ0.27mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK302（図面079）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.61m、短径0.35m、深さ0.29mを測る。覆土は第１層：暗褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK303（図面079）：平面形態は円形で、規模は径0.2m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK304（図面079）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.26m、深さ0.16mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK305（図面080）：平面形態は円形で、規模は長径1.01m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物・焼土混、第２層：黒褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK306（図面080）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.39m、深さ0.5mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器・珠洲が出土している。

SK307（図面080）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.4m、短径0.32m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器・珠洲が出土している。

SK308（図面080）：平面形態は不整形でSK056を切る。規模は長径1.48m、短径0.94m、深さ0.23mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色シルト混となる。遺物は須恵器・中世土師器が出土している。

SK309（図面080）：平面形態は不整形で、規模は長径0.91m、短径0.87m、深さ0.28mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色シルト混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK310（図面080）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.84m、短径0.43m、深さ0.14mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK311（図面080）：平面形態は楕円形でSD059を切る。規模は長径0.32m、短径0.27m、深さ0.25mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK312（図面080）：平面形態は隅丸長方形でSP489を切る。規模は長辺1.58m、短辺0.83m、深さ0.21mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK313（図面080）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長径1.07m、短径0.53m、深さ0.26mを測る。覆土は褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK314（図面080）：平面形態は不整形で北側は調査区外となる。規模は長径1.33m、短径0.36m以上、深さ0.12mを測る。覆土は黒色砂質シルトを基調とする４層から構成される。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK315（図面080）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.44m、短径0.29m、深さ0.48mを測る。覆土は第

1層：黒色砂質シルト、第2層：にぶい黄橙色砂質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK316（図面080）：平面形態は円形で、規模は径0.45～0.53m、深さ0.32mを測る。覆土は第1層：黒色砂質シルト、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK317（図面080）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.32m、深さ0.24mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色砂質シルト、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK318（図面080）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.6m、短径0.53m、深さ0.14mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色砂質シルト、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK319（図面080）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.71m、短径0.46m、深さ0.25mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK320（図面080）：平面形態は長楕円形で、規模は長径1.07m、短径0.39m、深さ0.36mを測る。覆土は第1層：暗オリーブ褐色砂質シルト、第2層：黄褐色砂質シルト、第3層：暗オリーブ褐色砂質シルトににぶい黄色シルト混に分層される。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK321（図面080）：平面形態は楕円形でSD062を切り込む。規模は長径0.91m、短径0.82m、深さ0.25mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色砂質シルト炭化物微量混、第2層：暗灰黄色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器・青磁（4394・5496）が出土している。

SK322（図面080）：平面形態は楕円形で、SD062を切り込む。規模は長径0.6m、短径0.41m、深さ0.09mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色砂質シルト炭化物微量混、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は珠洲（4287）・青磁（4288）が出土している。

SK323（図面081）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.34m、短径0.82m、深さ0.26mを測る。覆土は褐灰色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は認められない。

SK324（図面081）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.68m、短径0.57m以上、深さ0.47mを測る。覆土は第1層：(2.5Y5/3) 黄褐色砂質シルト、第2層：(2.5Y5/3) 黄褐色砂質シルトに（2.5Y5/6）黄褐色シルト混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK325（図面081）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.54m、短径0.47m、深さ0.43mを測る。覆土は第1層：黄褐色シルト、第2層：黄褐色砂質シルト礫混となる。出土遺物は認められない。

SK326（図面081）：平面形態は楕円形でSD062を切り込む。規模は長径1.52m、短径1.27m、深さ1.02mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする5層から構成される。遺物は土師器・珠洲・瀬戸美濃（4291）・青白磁（4290）が出土している。

SK327（図面081）：平面形態は楕円形でSD046に切られる。規模は長径0.55m以上、短径0.48m、深さ0.3mを測る。覆土は第1層：暗オリーブ褐色砂質シルト炭化物微量混、第2層：暗オリーブ褐色砂質シルトとなる。遺物は青磁が出土している。

SK328（図面081）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.45m、深さ0.54mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色砂質シルト、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器・珠洲が出土している。

SK329（図面081）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.39m、深さ0.52mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色砂質シルト炭化物微量混、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・八尾が出土している。

SK330（図面081）：SX031の上面で検出された。平面形態は円形で、規模は径0.26m、深さ0.25mを測

る。覆土は黄灰色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器・中世土師器が出土している。

SK331（図面081）：SX031の上面で検出された。平面形態は楕円形で、規模は長径0.32m、短径0.28m、深さ0.25mを測る。覆土は黄灰色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK332（図面081）：平面形態は不整形でSX031を切り込む。土坑内は礫が充填される。規模は長径1.16m、短径1.05m、深さ0.38mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色砂質シルト炭化物微量混、第２層：暗灰黄色砂質シルトに黄褐色シルト混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK333（図面081）：平面形態は円形でSD062を切る。規模は径0.34m、深さ0.29mを測る。覆土は褐灰色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK334（図面081）：平面形態は楕円形でSD062を切る。規模は長径0.45m、短径0.41m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：褐灰色砂質シルト、第２層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK335（図面081）：平面形態は楕円形で、SD070を切る。規模は長径0.87m、短径0.65m、深さ0.33mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK336（図面081）：平面形態は円形でSD070を切る。規模は径0.47m、深さ0.4mを測る。覆土は灰褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK337（図面081）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.86m、短径0.69m、深さ0.29mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトを基調とする３層から構成される。遺物は土師器が出土している。

SK338（図面081）：平面形態は不整形で、規模は長径0.77m、短径0.55m、深さ0.66mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4294）が出土している。

SK339（図面081）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.4m、深さ0.33mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK340（図面081）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.75m、短径0.36m、深さ0.56mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK341（図面081）：平面形態は楕円形でSD062を切る。規模は長径0.64m、短径0.57m、深さ0.31mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK342（図面082）：平面形態は不整形で、規模は長径0.65m、短径0.63m、深さ0.5mを測る。覆土は第１層：暗オリーブ褐色砂質シルト、第２層：暗オリーブ褐色砂質シルトににぶい黄色砂質シルト混となる。遺物は土師器が出土している。

SK343（図面082）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.46m、短径0.34m、深さ0.35mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK344（図面082）：平面形態は不整形で、規模は長径1.45m、短径1.23m、深さ0.51mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・緑釉陶器・中世土師器・珠洲・青磁（5515）が出土している。

SK345（図面082）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.98m、短径0.75m、深さ0.4mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルト炭化物微量混を基調とする。遺物は須恵器が出土している。

SK346（図面082）：平面形態は円形で、規模は径0.85m、深さ0.54mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は緑釉陶器・中世土師器が出土している。

SK347（図面082）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.4m、深さ0.27mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：にぶい黄色砂質シルトに黒褐色シルト混、第３層：にぶい黄色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK348（図面082）：平面形態は円形で、規模は径0.4m、深さ0.33mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK349（図面082）：平面形態は楕円形でSK350を切る。規模は長径0.46m以上、短径0.44m、深さ0.43mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は珠洲（4295）が出土している。

SK350（図面082）：平面形態は楕円形でSK349に切られる。規模は長径0.48m以上、短径0.45m、深さ0.48mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト炭化物微量混、第２層：黄褐色シルト炭化物微量混となる。出土遺物は認められない。

SK351（図面082）：平面形態は円形で、規模は径0.7m、深さ0.19mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物多量混のみの単層となる。遺物は珠洲が出土している。

SK352（図面082）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.0m以上、短径0.97m、深さ0.47mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・青白磁（5540）が出土している。

SK353（図面082）：平面形態は円形で、規模は径1.74～1.81m、深さ0.55mを測る。覆土は黄褐色砂質シルト～黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器が出土している。

SK354（図面083）：平面形態は円形で、規模は径0.22m、深さ0.17mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK355（図面083）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.75m、短径0.5m、深さ0.17mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK356（図面083）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.62m、短径0.38m、深さ0.45mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK357（図面083）：平面形態は円形で、規模は径0.25～0.28m、深さ0.18mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK358（図面083）：平面形態は長楕円形で、規模は長径0.7m、短径0.37m、深さ0.13mを測る。覆土は黒色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK359（図面083）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.27m、短径0.87m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK360（図面083）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.8m、短径0.53m、深さ0.46mを測る。覆土は暗褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は珠洲が出土している。

SK361（図面083）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.95m、短径0.75m、深さ0.3mを測る。覆土は第１層：（10YR3/1）黒褐色砂質シルト、第２層：（10YR3/2）黒褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK362（図面083）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.37m、短径0.3m、深さ0.26mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK363（図面083）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.74m、短径0.6m、深さ0.31mを測る。覆土は第

1層：黒色砂質シルト、第2層：にぶい黄橙色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK364（図面083）：平面形態は円形でSX061の壁面で検出された。規模は径0.25m以上、深さ0.37mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK365（図面083）：平面形態は不整形で、規模は長径0.45m、短径0.39m、深さ0.43mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器（4293）・瀬戸美濃（5427）が出土している。

SK366（図面083）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.72m、短径0.54m、深さ0.17mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器・珠洲が出土している。

SK367（図面083）：平面形態は不整形で、規模は長径0.98m、短径0.77m、深さ0.24mを測る。覆土は第1層：暗オリーブ褐色砂質シルト炭化物微量混、第2層：暗オリーブ褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK368（図面083）：平面形態は不整形でSP740に切られる。規模は長径0.56m、短径0.42m以上、深さ0.35mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトのみの単層となる。遺物は八尾・瀬戸が出土している。

SK369（図面083）：平面形態は不整形で、規模は長径0.4m、短径0.38m、深さ0.59mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト、第2層：（2.5Y5/4）黄褐色砂質シルト、第3層：（2.5Y5/3）黄褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK370（図面084）：床面が平坦で壁が直立気味の円筒形の土坑で、SD083を切る。平面形態は円形で、規模は径1.65m、深さ0.44mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト、第2層：黒褐色砂質シルトに黄褐色砂質シルト混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK371（図面084）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺1.71m、短辺1.37m、深さ0.44mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト、第2層：オリーブ褐色砂質シルト、第3層：オリーブ褐色砂質シルトに黒褐色砂質シルト混となる。遺物は中世土師器（4292）が出土している。

SK372（図面084）：平面形態は不整形でSX063を切る。規模は長径1.7m、短径1.43m、深さ0.5mを測る。覆土は第1層：オリーブ褐色砂質シルトに黒褐色砂質シルト混、第2層：オリーブ褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器・珠洲・砥石（11）が出土している。

SK373（図面084）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.57m、短径0.7m、深さ0.56mを測る。覆土は第1層：黄褐色砂質シルトに黒褐色シルト混、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK374（図面084）：平面形態は不整形でSK375を切る。規模は長径0.8m、短径0.64m、深さ0.25mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト、第2層：黒褐色砂質シルトに黄褐色シルト混となる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK375（図面084）：平面形態は不整形でSK374に切られる。規模は長径0.66m、短径0.42m以上、深さ0.31mを測る。覆土は第1層：暗オリーブ褐色砂質シルト、第2層：黄褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK376（図面084）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.77m、短径0.51m、深さ0.4mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルトにオリーブ褐色シルト炭化物微量混、第2層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK377（図面084）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.87m、短径0.81m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK378（図面084）：平面形態は不整形で、規模は長径1.38m、短径0.74m、深さ0.34mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトを基調とする。遺物は中世土師器・青磁（4379）が出土している。

SK379（図面085）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.8m、短径0.6m、深さ0.31mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK380（図面085）：平面形態は不整形で、規模は長径0.44m、短径0.29m、深さ0.22mを測る。覆土は暗灰黄色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK381（図面085）：平面形態は不整形で、規模は長径0.79m、短径0.43m、深さ0.35mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SK382（図面085）：平面形態は不整形でSP720に切られる。規模は長径0.25m、短径0.2m以上、深さ0.22mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は珠洲が出土している。

SK383（図面085）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.35m、深さ0.35mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：黒褐色砂質シルトとなる。遺物は青磁（4387）が出土している。

SK384（図面085）：平面形態は不整形で、規模は長径0.34m、短径0.24m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：黒褐色シルト質砂炭化物微量混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK385（図面085）：SX065の床面で検出された。平面形態は楕円形で、規模は長径0.9m、短径0.79m以上、深さ0.47mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：にぶい黄色砂質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器・八尾・砥石（08）が出土している。

SK386（図面085）：遺構の南側が調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径0.6m以上、短径0.57m、深さ0.63mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は珠洲が出土している。

SK853（図面084）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.7m、短径0.56m、深さ0.2mを測る。覆土は第１層：暗オリーブ褐色シルト、第２層：黄褐色シルトとなる。遺物は金属製品の棒状鉄製品（096）が出土している。

大型土坑

SX027（図面088）：土坑内にSP410・417が位置する。平面形態は不整形でSP414に切られる。規模は長径3.05m、短径2.6m、深さ0.11mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SX028（図面088）：平面形態は不整形で、SD062を切る。規模は長径7.55m、短径2.14m、深さ0.16mを測る。覆土は黒褐色～黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX029（図面089）：平面形態は方形でSX030を切る。規模は一辺2.46～2.78m、深さ0.53mを測る。覆土は第１層：褐灰色砂質シルト、第２層：褐灰色シルトににぶい黄褐色シルト混となる。出土遺物は認められない。

SX030（図面089）：平面形態は長方形で、規模は長辺1.84m以上、短辺1.4m、深さ0.17mを測る。覆土は褐灰色砂質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SX031（図面089）：平面形態は隅丸長方形で、SD070を切り込みSK330・331に切られる。規模は長辺

4.8m、短辺1.78m、深さ0.39mを測る。覆土は黄灰色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4170）・珠洲が出土している。

SX032（図面090）：平面形態は不整形でSX033を切る。規模は長径2.0m、短径1.53m、深さ0.23mを測る。覆土は暗灰黄色シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は中世土師器（4171・4172）・青磁（5512）が出土している。

SX033（図面090）：東側の床面に拳大～人頭大の自然礫が充填する隅丸長方形の土坑で、SX032に切られる。規模は長辺6.57m、短辺5.54m、深さ0.29mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする4層に分層される。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4173～4177）・珠洲・青磁が出土している。

SX034（図面090）：平面形態は隅丸長方形で、SX033に切られSX035・SD062を切る。規模は長辺5.0m以上、短辺3.64m、深さ0.58mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルト～暗オリーブ褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲（4231）・八尾・青磁（5505・5509・5511）・白磁（5527）が出土している。

SX035（図面090）：平面形態は不整形でSX034に切られる。規模は長径3.22m、短径1.75m以上、深さ0.56mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルト～暗オリーブ褐色砂質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4178）・砥石（09）が出土している。

SX036（図面091）：北側は調査区外となる。平面形態は長方形で、規模は長辺7.92m以上、短辺2.48m、深さ0.09mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器・珠洲・青磁（4229）・白磁（5535）が出土している。

SX037（図面091）：SB047の北東隅に位置する長方形の土坑で、SD047を切りSD066に切られる。規模は長辺7.48m、短辺4.66m、深さ0.42mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4179～4186）・珠洲（4192・4193）・八尾（4190・4191）・白磁（4189・5531）・青磁（4187・4188）・土錘・砥石（14・15）が出土している。

SX038（図面091）：平面形態は楕円形でSX039・040を切る。規模は長径2.6m、短径2.48m、深さ0.32mを測る。覆土は第1層：褐灰色砂質シルトに黒褐色シルト炭化物微量混、第2層：灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混、第3層：褐灰色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器・中世土師器（4194・4195）・珠洲・青磁（5513）・砥石（10）が出土している。

SX039（図面091）：平面形態は不整形でSX038・SD066に切られる。規模は長径4.44m以上、短径2.1m、深さ0.27mを測る。覆土は褐灰色～黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲（4232）・青磁が出土している。

SX040（図面091）：平面形態は不整形で、SX038・039・SP576・SD066に切られる。規模は長径5.1m、短径1.82m、深さ0.44mを測る。覆土は第1層：暗オリーブ褐色砂質シルト炭化物微量混、第2層：黄褐色砂質シルト炭化物微量混、第3層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器・珠洲・青磁（5498）が出土している。

SX041（図面092）：北東側は調査区外となる。平面形態は不整形でSD049に切られる。規模は長径1.84m、短径1.53m、深さ0.26mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第2層：黒褐色砂質シルトににぶい黄橙色シルト混となる。遺物は土師器が出土している。

SX042（図面092）：平面形態は隅丸方形で、SD049を切り込みSP429に切られる。規模は長径2.06m、短径1.97m、深さ0.33mを測る。覆土は第1層：暗褐色砂質シルト炭化物微量混、第2層：暗褐色砂質シルトに黄褐色シルト混、第3層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器

が出土している。

SX043（図面092）：北東側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径4.55m、短径0.71m以上、深さ0.12mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器が出土している。

SX044（図面092）：北東側は調査区外となる。平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺2.0m、短辺1.85m以上、深さ1.0mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SX045（図面093）：北側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径2.65m以上、短径2.0m以上、深さ0.14mを測る。覆土は第１層：黒色砂質シルト炭化物微量混、第２層：暗灰黄色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX046（図面093）：西側は調査区外となる。平面形態は楕円形で、規模は長径3.11m、短径1.41m以上、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：(2.5Y4/1) 黄灰色砂質シルト炭化物微量混、第２層：灰黄色砂質シルト炭化物微量混、第３層：(2.5Y5/1) 黄灰色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX047（図面093）：平面形態は円形で、SD047を切り込みSP612・617に切られる。規模は径2.72m程度？、深さ0.6mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4196～4198）・珠洲・白磁（4230）・砥石（12）が出土している。

SX048（図面094）：平面形態は不整形で、SD050を切り込みSP460に切られる。規模は長径4.95m、短径2.07m、深さ0.27mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SX049（図面094）：平面形態は隅丸長方形で、SP508を切り込みSP507に切られる。規模は長辺4.23m、短辺3.15m、深さ0.54mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX050（図面095）：SB049に付属する不整形の土坑で、SX052を切り込みSP593・622に切られる。規模は長径4.03m、短径2.53m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物少量混、第２層：黒褐色粘質シルト炭化物少量混となる。遺物は土師器・中世土師器（4199・4200）・珠洲・青磁（4380）が出土している。

SX051（図面095）：SB049に付属する不整形の土坑でSX052を切る。規模は長径3.5m、短径2.41m、深さ0.28mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：黒褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器・中世土師器（4201）・珠洲・八尾（4202～4228）が出土している。

SX052（図面095）：SB049内に位置する。平面形態は長方形で、規模は長辺4.85m以上、短辺1.75m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX053（図面096）：平面形態は隅丸長方形でSD065を切る。規模は長辺1.95m、短辺1.71m、深さ0.09mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器・青磁（5497）が出土している。

SX054（図面096）：平面形態は不整形で自然礫が多量に混じる。規模は長径3.4m、短径2.92m、深さ0.62mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：にぶい黄褐色粗砂、第３層：褐灰色粘土炭化物微量混となる。遺物は土師器・中世土師器（4234～4236）が出土している。

SX055（図面097）：平面形態は不整形で、規模は長径2.28m、短径1.8m、深さ0.37mを測る。覆土は暗

褐色～黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4237～4240)が認められる。

SX056（図面097）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺2.24m、短辺1.71m、深さ0.13mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SX057（図面097）：SB054内に位置する。平面形態は隅丸方形でSP687・690に切られる。規模は一辺2.96～3.07m、深さ0.7mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は須恵器・中世土師器（4241～4248）・珠洲が出土している。

SX058（図面098）：平面形態は隅丸方形で、SX061・SD083を切る。下層に自然礫が投げ込まれている。規模は径3.05～3.3m、深さ0.73mを測る。覆土は黄褐色シルト質砂～黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4249～4281）・珠洲・青磁（5495）が出土している。

SX059（図面098）：平面形態は隅丸方形で、規模は一辺2.14～2.31m、深さ0.34mを測る。覆土は第１層：(2.5Y3/1）黒褐色砂質シルト、第２層：(2.5Y3/2）黒褐色砂質シルトににぶい黄色シルト混、第３層：(2.5Y3/2）黒褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器・中世土師器（4282・4283）・珠洲が出土している。

SX060（図面098）：不整形の落ち込み状土坑で、北西側は調査区外となる。規模は長径2.02m、短径1.24m以上、深さ0.28mを測る。覆土は第１層：にぶい黄色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルト、第３層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SX061（図面099）：平面形態は不整形でSX058に切られ、床面からSK364を検出する。規模は長径2.92m、短径1.65m、深さ0.19mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器・中世土師器（4284・4285）・珠洲（4233）・加賀・青磁（4371）が出土している。

SX062（図面099）：南西側は調査区外となる。平面形態は長方形で、規模は長辺1.68m以上、短辺0.77m以上、深さ0.31mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルト、第３層：暗灰黄色砂質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器・珠洲が出土している。

SX063（図面099）：平面形態は不整形で、規模は長径2.45m、短径2.04m以上、深さ0.47mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・珠洲・砥石（13）が出土している。

SX064（図面099）：不整形の細長い溝状土坑で、上層に人頭大の礫が投げ込まれている。南側は調査区外となる。規模は長径1.65m以上、短径0.89m、深さ0.45mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器・中世土師器・珠洲・八尾が出土している。

SX065（図面099）：床面でSK385が検出された。平面形態は不整形でSD085を切る。規模は長径2.79m、短径1.65m、深さ0.05mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第2層：オリーブ褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器・珠洲・青磁が出土している。

SX066（図面100）：南西側が調査区外となる楕円形の土坑で、西半分に人頭大の礫が投げ込まれている。規模は長径3.24m、短径2.48m以上、深さ0.48mを測る。覆土は黄褐色～黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲（4286）・八尾が出土している。

溝

SD043（図面101）：平面形態は円形であり、東壁調査区外に続く。確認できる長さは15.6m、最大幅1.2m、最大深0.21mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はaセクションで暗褐色砂質シルト、bセクションで灰黄褐色砂となる。出土遺物は認められない。

SD044（図面101）：平面形態はL字形で、南北に延びて南側で東方向に屈曲し、消失している。北端は北東方向が一部開放し、北側調査区外に続く。確認できる長さは33.7m、最大幅3.0m、最大深

0.32mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトに黄褐色シルト混となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD045（図面101）：平面形態は直線的で、南北に延び両端とも消失している。長さ6.4m、最大幅0.8m、最大深0.18mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は中世土師器が認められる。

SD046（図面101）：平面形態は西から南東方向に軽い円弧を描き、両端とも消失している。途中一部途切れる不連続な溝である。長さ12.7m、最大幅0.6m、最大深0.35mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：(2.5Y5/2) 暗灰黄色砂質シルト、第2層：暗灰黄色砂質シルト炭化物微量混、第３層：(2.5Y4/2) 暗灰黄色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器・中世土師器（4299・4300）・土錘が認められる。

SD047（図面101）：東西に延びる直線的な溝で、西端はSP504に切られ消失し、東端も消失している。途中SX037・039・047、SD066に切られる。確認できる長さは28.2m、最大幅1.5m、最大深0.12mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はaセクションで灰黄褐色砂質シルトの単層となり、bセクションで黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲（4297）・青磁（4298・5501）が認められる。

SD048（図面101）：平面形態は不整形な溝で北端は消失し南端は土坑に切られる。確認できる長さは2.95m、最大幅1.05m、最大深0.07mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は中世土師器が認められる。

SD049（図面101）：東西に延びる直線的な溝である。西端は消失し、東端はSX042に切られる。途中SX041を切り込む。確認できる長さは6.3m、最大幅0.5m、最大深0.12mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD050（図面101）：平面形態はL字形で、西端はSX048に切られ、南端は消失している。確認できる長さは4.17m、最大幅0.4m、最大深0.16mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルト炭化物少量混の単層となる。出土遺物は認められない。

SD051（図面101）：（調査区北西部の溝群、さく状遺構。東西方向より南北方向の遺構が新しい。）平面形態は直線的で、南北に延びるさく状遺構と考えられる。両端とも消失している。長さ2.65m、最大幅0.4m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD052（図面101）：平面形態は直線的で、南北に延びるさく状遺構と考えられる。両端とも消失し、途中SD056を切る。長さ5.5m、最大幅0.35m、最大深0.1mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD053（図面101）：平面形態は直線的で、南北に延びるさく状遺構と考えられる。両端とも消失し、途中SD060を切る。確認できる長さは4.7m、最大幅0.35m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD054（図面101）：平面形態は直線的で、東西に延びるさく状遺構と考えられる。両端とも消失している。長さ2.5m、最大幅0.5m、最大深0.19mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器が認められる。

SD055（図面101）：平面形態は直線的で、東西に延びるさく状遺構と考えられる。東端は消失し、西端は調査区外に続く。確認できる長さは6.5m、最大幅0.5m、最大深0.06mを測る。断面形態はU字形

を呈し、覆土は黒色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD056（図面101）：平面形態は直線的で、東西に延びるさく状遺構と考えられる。両端とも消失している。途中SD052に切られる。長さ9.1m、最大幅0.4m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰オリーブ色砂質シルト炭化物微量混の単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD057（図面101）：平面形態は直線的で、東西に延びるさく状遺構と考えられる。両端とも消失している。途中SD051に切られる。長さ7.7m、最大幅0.5m、最大深0.12mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混の単層となる。出土遺物は認められない。

SD058（図面101）：平面形態は直線的で、東西に延びるさく状遺構と考えられる。両端とも消失している。長さ11.8m、最大幅0.4m、最大深0.18mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混の単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD059（図面101）：平面形態は直線的で、東西に延びるさく状遺構と考えられる。両端とも開放している。途中SP488に切られる。確認できる長さは11.7m、最大幅0.55m、最大深0.07mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD060（図面101）：平面形態は直線的で、東西に延びるさく状遺構と考えられる。両端とも消失している。途中SD053に切られる。長さ11.3m、最大幅0.6m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混となる。出土遺物は認められない。

SD061（図面101）：平面形態は直線的で、両端とも消失している小溝である。SD062を切り込む。長さ1.1m、最大幅0.4m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD062（図面101・102）：平面形態は軽い円弧を描き東西に延びる。東端は消失し、南側調査区外に続く。SK321・322・326、SX028・031・032・034、SD071・073・074に切られる。確認できる長さは48.4m、最大幅4.3m、最大深0.3mを測る。断面形態は逆台形からU字形を呈し、覆土はaセクションで黄褐色砂質シルト、bセクションでは第1層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第2層：黄褐色砂となる。出土遺物は須恵器・瀬戸美濃（5425）が認められる。

SD063（図面102）：平面形態は直線的で南北に延びる小溝で、両端とも消失している。長さ2.7m、最大幅0.85m、最大深0.19mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第1層：暗オリーブ褐色砂質シルト、第2層：暗オリーブ褐色砂質シルト炭化物微量混、第3層：オリーブ褐色砂質シルトににぶい黄色砂質シルト混となる。出土遺物は中世土師器が認められる。

SD064（図面102）：平面形態は不整形の小溝である。長さ1.5m、最大幅0.8m、最大深0.52mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第2層：黄褐色砂質シルトからなる。出土遺物は中世土師器が認められる。

SD065（図面102）：平面形態は軽い円弧を描き、西端はSX053に切り込まれ消失し、南東端も消失している。長さ4.8m、最大幅1.3m、最大深0.53mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は第1層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第2層：黒褐色砂質シルトに黄褐色シルト炭化物微量混、第3層：黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器・中世土師器が認められる。

SD066（図面102）：平面形態は直線的で、北東端は消失し、南西端はSX038に切られる。南西側のSD062・067に続く可能性がある。確認できる長さは7.95m、最大幅0.45m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は褐灰色砂質シルト炭化物微量混となる。出土遺物は中世土師器が認めら

れる。

SD067（図面102）：北端をSX040に切られ軽い円弧を描いて西側に延び、消失している。SD068に合流し、SD066に続く可能性がある。確認できる長さは6.0m、最大幅0.65m、最大深0.12mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD068（図面102）：平面形態は直線的な溝である。北端はSD067と合流してSX040に切られ、南端はSX055に切られる。確認できる長さは4.45m、最大幅1.4m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第１層：黒褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD069（図面102）：平面形態は直線的な小溝である。両端とも消失している。長さ1.45m、最大幅0.35m、最大深0.17mを測る。断面形態はV字形を呈し、覆土はにぶい黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は須恵器・中世土師器が認められる。

SD070（図面102）：東西に延びる不整形な溝で、SD062に切り込まれる。東端はSX032・033・034に切られる。確認できる長さは11.4m、最大幅2.4m、最大深0.26mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD071（図面102）：南北に延びる直線的な溝で、北端は開放し、南端は南側調査区外に延びる。SD062を切る。確認できる長さは7.4m、最大幅1.7m、最大深0.13mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルトに黄褐色シルト炭化物微量混、第２層：褐灰色砂質シルト炭化物微量混、第３層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器が認められる。

SD072（図面102）：平面形態は直線的に延びる溝である。SD073を切り込んで合流する。確認できる長さは7.4m、最大幅1.4m、最大深0.37mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：黒褐色砂質シルト、第３層：黒褐色シルト礫多量混となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4301）・珠洲・八尾（4303）・青磁（4367）・土錘が認められる。

SD073（図面102）：南北に延びる不整形な溝で、北端は消失し、南側調査区外に延びる。途中SD072に切られ合流する。確認できる長さは16.2m、最大幅1.9m、最大深0.25mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：にぶい黄橙色砂質シルト炭化物微量混となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4302）・珠洲が認められる。

SD074（図面102）：南側調査区外に続く部分検出の小溝である。北端は消失する。確認できる長さは0.6m、最大幅0.2m、最大深0.06mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD075（図面102）：平面形態はL字形の不連続な溝である。SB051の雨落ち溝であろう。北端、東端とも消失している。長さ8.5m、最大幅0.35m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD076（図面102）：南北に途切れて延びる不連続な溝である。長さ5.3m、最大幅0.6m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：褐灰色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD077（図面102）：平面形態はT字形である。東西に延び東端は消失し、途中南側に分かれ、調査区外に続く。確認できる長さは17.8m、最大幅1.8m、最大深0.16mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色シルト混となる。出土

遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD078（図面102）：平面形態は直線的で、北端は消失し南端は開放している。確認できる長さは3.2m、最大幅0.6m、最大深0.09mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD079（図面102）：南北に途切れて延びる不連続な溝である。北端は消失し、南端は開放しているが、南側に延びるSD082の延長部分と考えられる。確認できる長さは7.4m、最大幅1.0m、最大深0.12mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は中世土師器が認められる。

SD080（図面102）：平面形態は不明瞭である。浅い落ち込みがあり流路と考えられる。確認できる長さは11.5m、最大幅3.55m、最大深0.06mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は中世土師器・土師器・須恵器・八尾が認められる。

SD081（図面102）：平面形態は直線的で東西に延び、東側調査区外に続く。南に併走するSD082から流路の変更で分岐したものと考えられる。確認できる長さは5.65m、最大幅0.35m、最大深0.07mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD082（図面102）：平面形態は不整形な溝である。東側でSD081が分岐して調査区外に続く。西側では北方向に二股に折れて延び、一部は消失し、もう一部は開放しているが、北側のSD079に続くと考えられる。確認できる長さは27.9m、最大幅1.5m、最大深0.08mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD083（図面102）：北西から南東方向に延びる。西端はSX058に切られ、南東端は消失する。途中SX059、SK370に切り込まれる。確認できる長さは6.7m、最大幅1.95m、最大深0.15mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD084（図面102）：南北に延びる不整形な溝で、北端は開放し、南端はSK370に切られる。確認できる長さは2.6m、最大幅1.1m、最大深0.12mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第１層：にぶい黄色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器が認められる。

SD085（図面102）：平面形態は直線的で、北端は消失し、南端はSX065に切られる。確認できる長さは3.7m、最大幅0.4m、最大深0.28mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。出土遺物は土師器が認められる。

Ｂ５地区

掘立柱建物

SB061－SP747～755（図面076）：SB062・063と配置が重複し、SB063とほぼ同方位を示す。SP755とSP762に重複関係が成立し、SB062の方が新しい。建物の規模は、梁行２間（2.75m）、桁行２間（5.4m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はＮ７°Ｗで、床面積は14.9㎡。柱間距離は、梁行2.15～2.6m、桁行2.5～2.9mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.25～0.61m、深さ0.15～0.49mを数える。柱穴内覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB062－SP756～763（図面076）：SB061と建物配置が重複し、SP755とSP762には重複関係が成立する。柱穴の重複関係からSB062の方が新しい。建物の規模は、梁行２間（3.25～3.3m）、桁行２間

(3.75～3.8m) の側柱建物で、平面プランは方形、棟方向はN69°Wで、床面積は12.5㎡。柱間距離は、梁行1.55～1.7m、桁行1.8～2.0mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.24～0.43m、深さ0.29～0.36mを数える。柱穴内覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB063－SP764～769（図面077）：SB061と配置が重複する。建物規模は、梁行１間（2.35～2.5m）、桁行２間（5.3～5.47m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN83°Eで、床面積は13.7㎡。柱間距離は桁行2.65～2.7mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.29～0.42m、深さ0.23～0.4mを数える。柱穴内覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB064－SP770～779（図面077）：建物の規模は、梁行２間（3.45m）、桁行３間（5.8m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN９°Eで床面積は20.0㎡。柱間距離は、梁行1.6～1.8m、桁行1.4～1.6mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.29～0.44m、深さ0.09～0.36mを数える。柱穴内覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP774で須恵器が出土している。

土坑

SK387（図面085）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.25m、深さ0.29mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK388（図面085）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.61m、短径0.36m、深さ0.61mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・青磁or白磁（5483）が出土している。

SK389（図面085）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.39m、短径0.89m、深さ0.38mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：黒褐色砂質シルトに褐色砂質シルト・炭化物少量・酸化鉄微量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK390（図面085）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.33m、短径0.82m、深さ0.46mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルト、第２層：暗オリーブ褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK391（図面085）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.59m、短径0.46m、深さ0.21mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK392（図面085）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.58m、短径0.34m、深さ0.27mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK393（図面085）：平面形態は楕円形でSD089を切る。規模は長径0.6m、短径0.41m、深さ0.26mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK394（図面085）：平面形態は長楕円形で、規模は長径1.17m、短径0.45m、深さ0.44mを測る。覆土は第１層：暗オリーブ褐色砂質シルト酸化鉄微量混、第２層：オリーブ褐色砂質シルト酸化鉄微量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK395（図面085）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.7m、短径0.61m、深さ0.16mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

大型土坑

SX067（図面100）：南側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径2.55m、短径1.14m以上、深さ0.24mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルト酸化鉄微量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

溝

SD086（図面102）：平面形態は直線的で、北東から南西方向に延びる。北東端は北側調査区外に続き、

南西端は消失している。確認できる長さは7.8m、最大幅1.4m、最大深0.17mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD087（図面102）：平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ5.6m、最大幅1.0m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は暗オリーブ褐色砂質シルト酸化鉄少量混の単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD088（図面102）：調査区を北東から南西方向に延びる溝が併走している。平面形態は直線的で北東端は調査区外に続き、南西端は消失している。確認できる長さは4.55m、最大幅0.45m、最大深0.04mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD089（図面102）：平面形態は直線的で、北東端は調査区外に続き、南西端は消失している。SK393に切り込まれる。確認できる長さは12.8m、最大幅0.6m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD090（図面102）：平面形態は直線的で、北東端は消失し、南西端は調査区外に続く。確認できる長さは13.5m、最大幅0.55m、最大深0.06mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD091（図面102）：平面形態は直線的で、調査区を縦断して延びている。確認できる長さは13.7m、最大幅0.6m、最大深0.1mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD092（図面102）：平面形態は直線的で、北側調査区外に続き、南西端は消失している。確認できる長さは3.85m、最大幅0.6m、最大深0.09mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD093（図面102）：平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ2.0m、最大幅0.35m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD094（図面102）：SD093の南側に延びる直線的な溝である。北東端は消失し、南西端はSD095に切られ消失している。長さ6.0m、最大幅0.4m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD095（図面102）：平面形態は直線的で、北東端は調査区外に続き、南西端は消失している。SD094を切る。確認できる長さは13.15m、最大幅0.5m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD096（図面102）：平面形態は直線的で両端とも消失している。長さ4.55m、最大幅0.3m、最大深0.02mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD097（図面102）：平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ12.0m、最大幅0.35m、最大深0.09mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD098（図面102）：平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ3.45m、最大幅0.45m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD099（図面102）：平面形態は直線的で、両端とも消失している。SD100を切る。長さ3.55m、最大幅0.35m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD100（図面102）：北端は消失し、南端はSD099に切られる小溝である。確認できる長さは1.1m、最大幅0.3m、最大深0.04mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD101（図面102）：平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ6.4m、最大幅0.6m、最大深0.02mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD102（図面102）：平面形態は直線的な小溝で、両端とも消失している。長さ1.5m、最大幅0.25m、最大深0.04mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD103（図面102）：西側調査区外に延びる為、形態は不明瞭である。確認できる長さは2.9m、最大幅0.4m、最大深0.09mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD104（図面102）：平面形態は直線的で、東西に延びる。両端とも消失している。長さ5.9m、最大幅0.6m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

B6地区

掘立柱建物

SB065－SP780～792（図面109）：建物の規模は、梁行2間（4.65m）、桁行2間（5.65～5.75m）の総柱建物で、平面プランは長方形である。これに1間×3間（1.1×6.2m）の張出部分が、桁行き東側柱列に付く。張出部分を含めた建物専有面積は33.6㎡である。建物の棟方向はN8°E。身舎の柱間距離は、梁行2.25～2.35m、桁行2.8～2.92m、柱穴形態は楕円～不整形で、径0.32～0.84m、深さ0.22～0.45mである。庇部分の柱間距離は1.4～2.1m、柱穴形態は円～楕円形で、径0.32～0.42m、深さ0.12～0.27mを数える。柱穴内覆土はオリーブ黒色粘質シルトを基調とする。遺物はSP781で土師器・刀子（128）、SP785で土師器、SP789で須恵器・鉄滓（131）、SP792で土師器・須恵器・黒色土器が出土している。

SB066－SP793～804（図面109）：建物の規模は、梁行2間（4.65～4.72m）、桁行3間（6.8m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN3°Wで、床面積は32.1㎡。柱間距離は、梁行2.3～2.4m、桁行2.25～2.3mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.32～0.38m、深さ0.1～0.45mを数える。柱穴内覆土はオリーブ黒色～灰色粘質シルトを基調とする。遺物はSP794・797で須恵器、SP795・801・804で土師器、SP799・803で土師器・須恵器が出土している。

SB067－SP805～823（図面110）：建物北東隅にSX068が1間×3間の範囲に構築される。建物の規模は、梁行3間（6.9m）、桁行4間（12.5～13.6m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN25°Eで、床面積は93.8㎡。柱間距離は、梁行2.2～2.4m、桁行2.15～2.85mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.2～0.7m、深さ0.2～0.58mを数える。柱穴内覆土は褐灰色シルト質粘土～灰黄褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB068－SP824～835（図面111）：建物の規模は、梁行2間（4.35～4.45m）、桁行3間（7.57m）の総

柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN24°Eで、床面積は33.7㎡。柱間距離は、梁行2.13～2.35m、桁行2.5～2.6mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.28～0.92m、深さ0.27～0.65mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP824・829・832・833で土師器、SP827・831で須恵器が出土している。

SB069－SP836～841（図面111）：建物の四隅と東側の柱列のみの確認である。建物の規模は、梁行1間（4.34～4.95m）、桁行3間（7.3～7.75m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN7°Eで、床面積は38.4㎡。柱間距離は、桁行2.2～2.8mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.28～0.62m、深さ0.07～0.23mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB070－SP842～847（図面112）：調査区東端に位置し、調査区外に続く。建物の規模は、梁行2間（5.2m）、桁行2間以上（4.3m～）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN62°Wで、検出された床面積は22.4㎡である。柱間距離は、梁行2.45～2.77m、桁行2.36～2.43mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.2～0.4m、深さ0.11～0.42mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB071－SP848～862（図面112）：遺構内1間×2間の範囲にSX069が構築されている。建物の規模は、梁行2間（4.13m）、桁行3間（6.02～6.14m）の総柱建物で、平面プランは長方形である。これに1間×2間（0.8×4.1m）の張出部分が、桁行き東側柱列に付く。張出部分を含めた建物専有面積は28.6㎡、建物の棟方向はN30°Eとなる。柱間距離は、梁行2.0～2.15m、桁行2.0～2.07m、柱穴形態は円～不整形で、径0.26～0.72m、深さ0.18～0.58mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP849・850・852・855・859・860で土師器、SP851でU字状鉄製品（140）が出土している。

SB072－SP863～868（図面113）：建物の規模は、梁行1間（2.42～2.46m）、桁行2間（4.73m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN56°Wで、床面積は11.6㎡。柱間距離は桁行2.2～2.53mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.26～1.98m、深さ0.19～0.86mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルト～にぶい黄褐色シルト質砂を基調とする。出土遺物は認められない。

SB073－SP869～878（図面113）：建物北東方向にL字型の柵列を伴う総柱建物で、規模は梁行2間（4.7～4.78m）、桁行3間（6.94～7.06m）となる。建物の棟方向はN53°Wで、床面積は33.8㎡。柱間距離は、梁行2.34～2.43m、桁行2.28～2.45mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.26～0.5m、深さ0.05～0.27mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルト～オリーブ褐色シルト質砂を基調とする。出土遺物は認められない。

柵列

SA02－SP879～883（図面113）：SB073の東側に構築された2.4×6.5mのL字型の柵列で、柱間は1.9～2.4mを測る。柱穴形態は円～楕円形で、径0.23～0.4m、深さ0.11～0.32mを数える。柱穴内覆土は灰黄褐色砂質シルト～黒褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

土坑

SK396（図面114）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.43m、短径0.35m、深さ0.42mを測る。覆土は第1層：灰色粘質シルト、第2層：灰色粘質シルトににぶい黄色粘質シルト混となる。遺物は土師器が出土している。

SK397（図面114）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.77m以上、短径0.54m、深さ0.12mを測る。覆

土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK398（図面114）：平面形態は円形で、規模は径0.28m、深さ0.28mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：にぶい黄褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK399（図面114）：平面形態は不整形で、規模は長径0.77m、短径0.45m、深さ0.12mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK400（図面114）：平面形態は円形で、規模は径0.35m、深さ0.27mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：にぶい黄褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK401（図面114）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.75m、短径0.56m、深さ0.35mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：にぶい黄褐色粘質シルト、第３層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK402（図面114）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.49m、短径0.41m、深さ0.2mを測る。覆土は第１層：褐灰色粘質シルト、第２層：にぶい黄褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK403（図面114）：平面形態は円形で、規模は径0.22m以上、深さ0.15mを測る。覆土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK404（図面114）：平面形態は不整形で、規模は長径1.36m以上、短径0.65m、深さ0.17mを測る。覆土は灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK405（図面114）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.36m、短径0.27m、深さ0.07mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK406（図面114）：平面形態は円形で、規模は径0.37m、深さ0.18mを測る。覆土は第１層：灰色粘質シルト、第２層：灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK407（図面114）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.37m、短径0.31m、深さ0.09mを測る。覆土はにぶい黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK408（図面114）：平面形態は不整形で、規模は長径1.55m、短径0.8m、深さ0.5mを測る。覆土は褐灰色シルト質粘土のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK409（図面114）：平面形態は不整形で、規模は長径1.13m以上、短径0.82m、深さ0.54mを測る。覆土は第１層：灰色シルト質粘土、第２層：黒褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK410（図面114）：平面形態は円形で、規模は径0.42～0.45m、深さ0.15mを測る。覆土は第１層：オリーブ黒色粘質シルトに焼土・炭化物混、第２層：灰色粘質シルトとなる。遺物は黒色土器が出土している。

SK411（図面114）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.87m、短径0.73m、深さ0.29mを測る。覆土は第１層：黄褐色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトに暗灰黄色砂質シルト混、第３層：黄褐色砂質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器が出土している。

SK412（図面114）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.29m、短径0.25m、深さ0.09mを測る。覆土はオリーブ黒色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK413（図面114）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.61m、短径0.36m、深さ0.43mを測る。覆土は黄褐色粘質シルト～灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK414（図面114）：平面形態は不整形で、規模は長径1.35m、短径1.12m、深さ0.06mを測る。覆土は黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK415（図面114）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.6m、短径0.54m、深さ0.14mを測る。覆土は第

1層：オリーブ黒色粘質シルト炭化物微量混、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK416（図面114）：平面形態は楕円形でSK417を切る。規模は長径0.46m、短径0.4m、深さ0.21mを測る。覆土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK417（図面114）：平面形態は円形でSK416に切られる。規模は径0.37m、深さ0.11mを測る。覆土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK418（図面114）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.24m、深さ0.03mを測る。覆土は灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK419（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.42m、深さ0.21mを測る。覆土は第1層：オリーブ黒色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色砂質シルト炭化物少量混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK420（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.44m、短径0.4m、深さ0.36mを測る。覆土は第1層：オリーブ黒色粘質シルト、第2層：灰黄褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK421（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.51m、短径0.41m、深さ0.16mを測る。覆土は第1層：灰色粘質シルト、第2層：オリーブ黒色粘質シルト炭化物混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK422（図面115）：平面形態は円形で、規模は径0.3m、深さ0.19mを測る。覆土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK423（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.65m、短径0.38m、深さ0.34mを測る。覆土は第1層：灰色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK424（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.78m、短径0.55m、深さ0.26mを測る。覆土は灰色粘質シルト炭化物多量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK425（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.86m、短径0.75m、深さ0.5mを測る。覆土は第1層：暗オリーブ褐色砂質シルト炭化物少量混、第2層：にぶい黄褐色砂質シルト、第3層：褐色シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK426（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.64m、短径0.43m、深さ0.28mを測る。覆土は第1層：灰色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK427（図面115）：平面形態は楕円形でSK428に切られる。規模は長径0.37m、短径0.28m、深さ0.3mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は棒状鉄製品（129）が認められる。

SK428（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.33m、短径0.28m、深さ0.11mを測る。覆土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK429（図面115）：平面形態は不整形で、規模は長径0.36m、短径0.26m、深さ0.21mを測る。覆土は第1層：オリーブ黒色粘質シルト、第2層：灰黄褐色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK430（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.67m、短径0.58m、深さ0.24mを測る。覆土は第1層：オリーブ黒色粘質シルト、第2層：オリーブ黒色粘質シルトに灰黄褐色粘質シルト混となる。遺物は土師器が出土している。

SK431（図面115）：平面形態は円形で、規模は径0.25m、深さ0.16mを測る。覆土は黄灰色粘質シルト

のみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK432（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.77m、短径0.57m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：灰色粘質シルト、第２層：オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK433（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.8m、短径0.68m、深さ0.22mを測る。覆土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK434（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.34m、短径0.22m、深さ0.13mを測る。覆土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK435（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.61m、短径0.53m、深さ0.4mを測る。覆土は第１層：オリーブ黒色粘質シルト、第２層：灰黄褐色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK436（図面115）：平面形態は楕円形で、SP785に切られる。規模は長径0.63m、短径0.32m、深さ0.15mを測る。覆土は第１層：オリーブ黒色粘質シルト、第２層：オリーブ黒色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器が出土している。

SK437（図面115）：平面形態は円形で、規模は径0.25m、深さ0.29mを測る。覆土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK438（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.37m、短径0.29m、深さ0.21mを測る。覆土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK439（図面115）：平面形態は円形で、規模は径0.2～0.23m、深さ0.1mを測る。覆土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK440（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.45m、深さ0.3mを測る。覆土は第１層：灰色粘質シルト、第２層：灰色粘質シルトににぶい黄褐色粘質シルト混となる。遺物は土師器が出土している。

SK441（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.07m、短径0.62m以上、深さ0.36mを測る。覆土は第１層：灰色粘質シルト炭化物混、第２層：にぶい黄褐色粘質シルト炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK442（図面115）：平面形態は不整形でSK441に切られる。規模は長径1.31m、短径1.02m、深さ0.26mを測る。覆土は灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK443（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.6m、短径0.53m、深さ0.22mを測る。覆土は灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK444（図面115）：平面形態は楕円形でSP808に切られる。規模は長径0.67m、短径0.5m、深さ0.29mを測る。覆土は第１層：黄褐色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトマンガン混となる。遺物は土師器が出土している。

SK445（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.42m、深さ0.38mを測る。覆土は第１層：灰色粘質シルトににぶい黄色砂混、第２層：灰色粘質シルト、第３層：オリーブ黒色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK446（図面115）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.54m、短径0.39m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：オリーブ黒色粘質シルトに褐色砂混、第２層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK447（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.28m、短径0.21m、深さ0.29mを測る。覆土は

灰白色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK448（図面116）：平面形態は楕円形でSK447に切られる。規模は長径0.34m以上、短径0.3m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：褐灰色粘質シルト、第２層：にぶい黄褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK449（図面116）：平面形態は円形で、規模は径0.35m、深さ0.14mを測る。覆土は灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK450（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.72m、短径0.56m、深さ0.1mを測る。覆土は第１層：灰色粘質シルト、第２層：灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK451（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.7m、短径0.54m、深さ0.25mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK452（図面116）：平面形態は楕円形でSD806に切られる。規模は長径0.91m、短径0.72m、深さ0.08mを測る。覆土は灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK453（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.06m、短径0.66m、深さ0.2mを測る。覆土は第１層：オリーブ黒色粘質シルト、第２層：にぶい黄褐色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK454（図面116）：平面形態は円形で、規模は径0.29～0.31m、深さ0.32mを測る。覆土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK455（図面116）：平面形態は不整形でSP810に切られる。規模は長径1.34m、短径0.59m以上、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：（５YR4/1）褐灰色粘質シルト、第２層：（10YR4/1）褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK456（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.41m、短径0.37m、深さ0.32mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK457（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.38m、短径0.27m、深さ0.35mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK458（図面116）：平面形態は不整形で、規模は長径1.01m、短径0.85m、深さ0.3mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混となる。出土遺物は認められない。

SK459（図面116）：平面形態は不整形で、規模は長径0.58m、短径0.42m、深さ0.4mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混、第３層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK460（図面116）：平面形態は不整形で、規模は長径0.88m、短径0.51m以上、深さ0.2mを測る。覆土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK461（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.4m、短径0.3m、深さ0.31mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK462（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.58m、短径0.34m、深さ0.27mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK463（図面116）：平面形態は不整形で、規模は長径0.35m、短径0.3m以上、深さ0.18mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK464（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.37m、短径0.31m、深さ0.49mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK465（図面116）：平面形態は不整形で、規模は長径0.46m、短径0.41m以上、深さ0.36mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK466（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.53m、短径0.33m、深さ0.44mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトに褐色砂質シルト混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK467（図面116）：平面形態は楕円形で、SK468を切る。規模は長径0.29m、短径0.26m、深さ0.17mを測る。覆土は第１層：灰色粘質シルトにオリーブ黒色粘質シルト混、第２層：灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK468（図面116）：平面形態は不整形でSK467に切られる。規模は長径0.38m、短径0.3m以上、深さ0.15mを測る。覆土は第１層：灰色粘質シルト、第２層：灰オリーブ色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK469（図面116）：平面形態は円形で、規模は径0.64m、深さ0.6mを測る。覆土は第１層：（５Y5/1）灰色粘質シルト、第２層：（５Y5/1）灰色粘質シルトに（５Y4/1）灰色粘質シルト混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK470（図面116）：平面形態は円形で、規模は径0.64m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：オリーブ黒色粘質シルト炭化物多量混、第２層：灰褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK471（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.44m、短径0.37m、深さ0.25mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK472（図面116）：平面形態は不整形で、規模は長径0.32m、短径0.27m以上、深さ0.31mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK473（図面117）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.44m、短径0.27m、深さ0.3mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK474（図面117）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.34m、深さ0.11mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK475（図面117）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.77m、短径0.55m、深さ0.34mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：にぶい黄褐色砂質シルト、第３層：黒褐色砂質シルトに褐色砂質シルト混となる。遺物は土師器・鉄滓（126）が出土している。

SK476（図面117）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.54m、短径0.4m、深さ0.18mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK477（図面117）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.94m、短径0.67m、深さ0.34mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK478（図面117）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.44m、短径0.35m、深さ0.23mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK479（図面117）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.28m、短径0.24m以上、深さ0.17mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK480（図面117）：平面形態は不整形でSD111に切られる。規模は長径0.46m、短径0.41m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK481（図面117）：平面形態は楕円形でSD111を切る。規模は長径0.72m、短径0.51m、深さ0.2mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK482（図面117）：平面形態は不整形でSK483を切る。規模は長径0.43m、短径0.4m、深さ0.36mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルトに褐色砂質シルト混、第３層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK483（図面117）：平面形態は不整形で、規模は長径0.42m、短径0.37m、深さ0.28mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK484（図面117）：平面形態は不整形で、規模は長径0.57m、短径0.36m、深さ0.15mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK485（図面117）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.34m、短径0.25m、深さ0.19mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK486（図面117）：平面形態は円形で、規模は径1.5m以上、深さ0.31mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混、第３層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK487（図面117）：平面形態は円形で、規模は径0.3m、深さ0.35mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK488（図面117）：平面形態は不整形で、規模は長径0.95m、短径0.6m、深さ0.11mを測る。覆土は褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は黒色土器が出土している。

SK489（図面117）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.33m、短径0.29m、深さ0.41mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK490（図面117）：平面形態は不整形でSD116に切られる。規模は長径0.32m以上、短径0.29m、深さ0.29mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK491（図面117）：平面形態は円形で、規模は径0.28m、深さ0.2mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK492（図面117）：平面形態は不整形で、規模は長径0.52m、短径0.5m以上、深さ0.26mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK493（図面117）：平面形態は楕円形でSD114に切られる。規模は長径0.47m以上、短径0.3m、深さ0.23mを測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK494（図面117）：平面形態は不整形でSD114を切る。規模は長径0.71m、短径0.59m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：オリーブ褐色シルト質砂、第２層：オリーブ褐色シルト質砂ににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器が出土している。

SK495（図面117）：平面形態は不整形で、規模は長径1.13m、短径1.04m、深さ0.04mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルト酸化鉄混のみの単層となる。遺物は土師器・珠洲が出土している。

SK847（図面117）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.43m、短径0.3m、深さ0.15mを測る。覆土は褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は中世土師器（4541）が出土している。

SK854（図面116）：平面形態は円形で、規模は径0.44～0.46m、深さ0.27mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。遺物は鉄滓（141）が出土している。

大型土坑

SX068（図面118）：SB067内部の北東隅に配置される隅丸長方形の土坑で、SK444を切る。規模は長辺6.1m、短辺2.02m、深さ0.69mを測る。覆土は褐色シルト質粘土を基調とする４層から構成される。遺物は須恵器が出土している。

SX069（図面118）：SB071内部の南側に位置する土坑である。平面形態は隅丸長方形で、SP858・861を切りSP857に切られる。規模は長辺3.41m、短辺2.67m、深さ0.5mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする４層から構成される。遺物は土師器・中世土師器（4540）が出土している。

SX070（図面118）：東側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径2.34m、短径0.83m以上、深さ0.31mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は認められない。

SX071（図面118）：南側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径4.5m以上、短径2.45m、深さ0.24mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト酸化鉄混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

溝

SD105（図面119）：平面形態は直線的で、南北に延びる。両端とも消失している。長さ5.1m、最大幅0.4m、最大深0.14mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD106（図面119）：平面形態は直線的で、南北に延びる。両端とも消失している。長さ2.8m、最大幅0.3m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はオリーブ黒色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD107（図面119）：平面形態は直線的で両端とも消失している小溝である。長さ1.25m、最大幅0.3m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD108（図面119）：平面形態は直線的で、南北に延びる。両端とも消失している。長さ3.0m、最大幅0.4m、最大深0.21mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はオリーブ黒色粘質シルトの単層となる。出土遺物は赤彩土師器・須恵器が認められる。

SD109（図面119）：平面形態は直線的で北東から南西方向に延び、両端とも消失している。SB069の区画溝の可能性が高く、最後出の溝である。長さ48.0m、最大幅0.6m、最大深0.54mを測る。断面形態はU字形～逆台形を呈し、覆土はaセクションでにぶい黄褐色砂酸化鉄形成、bセクションで黄褐色砂質シルト酸化鉄形成、cセクションで第１層：黄褐色砂質シルト酸化鉄形成、第２層：黄褐色シルト酸化鉄形成、dセクションで黄褐色シルト酸化鉄粒状に形成となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD110（図面119）：平面形態は直線的で、東西に延びる。両端とも消失している。長さ10.05m、最大幅1.01m、最大深0.09mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はaセクションで灰色粘質シルト、bセクションで灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD111（図面119）：平面形態はクランク状で区画溝と考えられる。調査区を南北に延び、時期により配置変化したと想定できる。変化点にあるSD112・116を切り、SD115と合流している。確認できる長さは63.3m、最大幅1.4m、最大深0.43mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションで灰黄褐色砂質シルト酸化鉄混、b，cセクションで黒褐色砂質シルトを基調とする３層から構成され、dセクションでは第１層：黒褐色砂質シルト炭化物混、第２層：黒褐色砂質シルトに褐灰色砂質シルト

炭化物混からなり、eセクションでは黒褐色砂質シルトを基調とする4層からなり、fセクションで黒褐色砂質シルトを基調とする3層から構成される。出土遺物は中世土師器（4552）・八尾（4558）・鉄滓（161・162）が認められる。

SD112（図面119）：平面形態は直線的で、北西端はSD111に切られ、南東端は消失している。確認できる長さは12.2m、最大幅0.7m、最大深0.37mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はaセクションで黒褐色砂質シルトの単層となり、bセクションで第1層：黒褐色砂質シルトに灰黄褐色砂質シルト、第2層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器が認められる。

SD113（図面119）：平面形態は直線的で、北東から南西方向に延び調査区外に続く。途中SD111を切る。確認できる長さは23.6m、最大幅0.72m、最大深0.16mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：浅黄色砂、第2層：にぶい黄褐色砂となる。出土遺物は認められない。

SD114（図面119）：自然流路と考えられる谷である。調査区南東部分を南西から北東方向に流れる。確認できる長さは19.6m、最大幅4.3m、最大深1.5mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は暗褐色砂質シルトを基調とする4層から構成される。出土遺物は土師器が認められる。

SD115（図面119）：平面形態はL字形で、北端はSD111を切り込み合流している。東端は消失している。長さ10.07m、最大幅0.17m、最大深0.12mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第1層：灰黄褐色砂質シルト酸化鉄形成、第2層：灰黄褐色砂質シルトに褐色砂質シルト混、第3層：にぶい黄褐色砂質シルトからなる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD116（図面119）：平面形態は直線的で、重複関係から一番古い溝と考えられる。北東端は消失し、南西端はSD111に切られる。確認できる長さは11.8m、最大幅1.6m、最大深0.25mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

B7地区

掘立柱建物

SB074－SP884～892（図面124）：調査区の北側に位置し、調査区外に続く。建物内の南部分にはSX074が構築される。建物の規模は、梁行2間（2.24～2.35m）、桁行3間以上（6.5m～）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN12°Eで、検出された床面積は15.3㎡。柱間距離は、梁行2.2m、桁行2.1～2.85mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.25～0.65m、深さ0.34～0.54mを数える。柱穴内覆土は黒褐色～灰黄褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB075－SP893～904（図面124）：遺構の東側にはSB075と同軸方向のSX075・076が隣接している。建物の規模は、梁行2間（4.4～4.5m）、桁行2間（5.5m）の総柱建物で、平面プランは長方形である。これに1間×2間（1.2×5.5m）の張出部分が、桁行き西側柱列に付く。張出部分をふくめた建物専有面積は31.1㎡である。建物の棟方向はN8°E。柱間距離は、梁行2.1～2.35m、桁行2.4～2.55m、柱穴形態は円～隅丸長方形で、径0.25～0.9m、深さ0.15～0.46mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB076－SP905～919（図面125）：SB078と配置が重複する。建物の規模は、梁行3間（6.22m）、桁行3間（6.25～6.3m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN9°Eで、床面積は39.2㎡。柱間距離は、梁行1.8～2.2m、桁行2.0～2.25mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.28～0.66m、深さ0.18～0.39mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB077－SP920～936（図面125）：調査区の南東隅に位置し、調査区外に続く。遺構内の東壁際には

SK513が構築される。建物の規模は、梁行４間以上（9.0m～）、桁行４間（7.4m～）の総柱建物で、棟方向はＮ５°Ｅである。これに１間×２間（2.0×5.2）の張出部分が、梁行北側柱列に付く。検出された建物専有面積は77.0㎡となる。柱間距離は、梁行2.0～2.95m、桁行2.05～2.3mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.28～0.85m、深さ0.13～0.4mを数える。柱穴内覆土は黒褐色～灰黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP927で珠洲、SP930で八尾が出土している。

SB078－SP937～957（図面126）：東壁際に位置し、その一部は調査区外となる。建物内の東壁際にSX083が構築される。建物の規模は、梁行４間（9.0～9.1m）、桁行４間（13.5m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はＮ３°Ｅで、床面積は122.9㎡。柱間距離は、梁行2.2～2.3m、桁行2.2～2.6mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.28～0.56m、深さ0.07～0.4mを数える。柱穴内覆土は黒褐色～灰黄褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

土坑

SK496（図面129）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.83m、短径0.91m、深さ0.32mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：褐灰色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK497（図面129）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.77m、短径1.46m、深さ0.18mを測る。覆土はにぶい黄色シルト質砂のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK498（図面129）：平面形態は不整形で、規模は長径1.41m、短径1.06m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄色シルト質砂となる。出土遺物は認められない。

SK499（図面129）：平面形態は円形で、規模は径1.28～1.32m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色砂質シルトに黒褐色シルト混、第２層：黒褐色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK500（図面129）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.01m、短径0.62m以上、深さ0.19mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は八尾が出土している。

SK501（図面129）：平面形態は楕円形で、規模は長径2.05m、短径1.82m、深さ0.33mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトとなる。遺物はない。

SK502（図面129）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.78m、短径1.05m以上、深さ0.42mを測る。覆土は灰黄褐色シルト礫混のみの単層となる。出土遺物は中世土師器・珠洲（4583）が認められる。

SK503（図面129）：平面形態は不整形で、規模は長径1.82m、短径0.78m、深さ0.27mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルト、第３層：灰黄褐色砂質シルトににぶい黄色シルト混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK504（図面129）：平面形態は円形で、規模は径0.38～0.45m、深さ0.14mを測る。覆土は褐灰色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK505（図面129）：平面形態は不整形で、規模は長径1.05m、短径0.83m以上、深さ0.16mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト酸化鉄混のみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK506（図面130）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.4m、短径1.08m、深さ0.75mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト礫混、第２層：黒褐色砂質シルト礫混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK507（図面130）：平面形態は不整形で、規模は長径1.95m、短径1.14m、深さ0.23mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器・銅銭（017）

が出土している。

SK508（図面130）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺1.56m、短辺0.95m、深さ0.21mを測る。覆土は褐灰色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK509（図面130）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.48m、短径0.88m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は八尾が出土している。

SK510（図面130）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.19m、短径1.05m、深さ0.38mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色砂質シルト、第2層：（10YR6/1）褐灰色砂質シルト、第3層：（10YR4/1）褐灰色砂質シルトとなる。遺物は珠洲が出土している。

SK511（図面130）：平面形態は不整形で、規模は長径1.3m、短径1.08m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は八尾（4577）が出土している。

SK512（図面130）：平面形態は不整形で、規模は長径1.52m、短径1.18m、深さ0.37mを測る。覆土は第1層：暗褐色砂質シルト、第2層：黒褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器（4575・4576）が出土している。

SK513（図面130）：平面形態は不整形で、規模は長径1.82m、短径1.15m以上、深さ0.39mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は中世土師器（4572）が出土している。

大型土坑

SX072（図面131）：北側・東側が調査区外となる。平面形態は方形で、規模は一辺2.8m以上、深さ0.68mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物少量混の単層となる。遺物は土師器が出土している。

SX073（図面131）：平面形態は長方形で、規模は長辺2.73m、短辺1.67m、深さ0.33mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色砂質シルト、第2層：にぶい黄色シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SX074（図面131）：SB074に伴う長方形の土坑で、床面は堅くしまっている。SD119を切り、規模は長辺4.0m程度、短辺1.52m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SX075（図面132）：平面形態は楕円形でSX076・SP900に切られる。規模は長径5.1m、短径2.42m、深さ1.4mを測る。覆土は褐灰色～黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は中世土師器・珠洲が出土している。

SX076（図面132）：平面形態は隅丸長方形で、SX075・SD123を切る。規模は長辺4.1m、短辺3.36m、深さ0.3mを測る。覆土は第1層：にぶい黄色砂質シルト、第2層：黒褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲が出土している。

SX077（図面133）：SB075内に位置する。平面形態は不整形で、規模は長径5.0m、短径1.1m、深さ0.18mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器（4573）が出土している。

SX078（図面133）：平面形態は楕円形で、規模は長径2.27m、短径1.5m、深さ0.27mを測る。覆土はにぶい黄色シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SX079（図面133）：西側は調査区外となる。平面形態は長方形で、規模は長辺2.32m、短辺0.48m以上、深さ0.17mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SX080（図面133）：東側は調査区外となる。平面形態は楕円形で、規模は長径2.35m以上、短径0.87m以上、深さ0.27mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SX081（図面133）：平面形態は不整形で、規模は長径2.78m、短径2.14m、深さ0.17mを測る。覆土は

灰黄褐色シルト質砂のみの単層となる。遺物は認められない。

SX082（図面134）：SB078内に位置する。平面形態は方形で、規模は長辺2.25m、短辺1.77m、深さ0.51mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物混、第２層：にぶい黄褐色シルト、第３層：黒褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SX083（図面134）：平面形態は隅丸長方形でSP957に切られる。規模は長辺2.82m、短辺1.25m、深さ0.82mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4574）が出土している。

SX084（図面134）：平面形態は楕円形でSX085を切る。規模は長径2.7m、短径2.0m、深さ0.33mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト、第２層：黒褐色シルトににぶい黄色シルト混、第３層：にぶい黄色シルトとなる。遺物は認められない。

SX085（図面134）：南側は調査区外となる。平面形態は隅丸長方形でSX084に切られる。規模は長辺3.16m以上、短辺2.7m、深さ0.43mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は中世土師器が出土している。

SX086（図面134）：南側は調査区外となる。平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺2.8m以上、短辺2.24m以上、深さ0.74mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・中世土師器（4579）・珠洲（4580～4582）・青磁（5616）・青白磁（5634）・八尾・小刀（229）・釘or鏃の茎部（230）が出土している。

溝

SD117（図面136）：平面形態は直線的で、南北に延びる。SD119を切り込んで北側調査区外に延びており、南端は開放している。確認できる長さは32.5m、最大幅0.78m、最大深0.14mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はaセクションで第１層：（10YR4/2）灰黄褐色砂質シルト、第2層：（10YR5/2）灰黄褐色砂質シルトとなり、bセクションで褐灰色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD118（図面136）：軽い円弧を描いて南北に延びる。北側でSD119を切り合流しており、南東端は東側調査区外に続く。確認できる長さは32.6m、最大幅0.65m、最大深0.24mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD119（図面136）：Ｂ８地区のSD130に続く同一遺構とみられる。平面形態は直線的で、南北に延び、両端とも調査区外に続く。途中SX074、SD118に切り込まれる。確認できる長さは17.4m、最大幅3.1m、最大深0.35mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄色砂質シルトからなる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD120（図面136）：南北に一部途切れて不連続に延びる。北端は試掘トレンチに切られ、南端は消失している。確認できる長さは6.5m、最大幅0.75m、最大深0.03mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD121（図面136）：平面形態は直線的で、東西に延びる。西端は消失し、東端は調査区外に続く。確認できる長さは6.5m、最大幅1.2m、最大深0.29mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄色シルト質砂となる。出土遺物は認められない。

SD122（図面136）：軽い円弧を描き東西に延びる。西側調査区外に続き、東端は試掘トレンチに切られる。確認できる長さは13.0m、最大幅2.3m、最大深0.09mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土

は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は中世土師器が認められる。

SD123（図面136）：調査区を東西に横断し調査区外に続く不整形な溝である。確認できる長さは24.5m、最大幅2.6m、最大深0.1mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂質シルト混、第３層：にぶい黄色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD124（図面136）：平面形態は直線的で、東西に延びる。両端とも消失している。長さ5.1m、最大幅0.5m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄色シルト質砂となる。出土遺物は認められない。

SD125（図面136）：平面形態はやや蛇行しながら東西に延び東側調査区外に続く。西端は消失している。確認できる長さは4.1m、最大幅0.91m、最大深0.18mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は八尾（4578）・土錘が認められる。

SD126（図面136）：平面形態は直線的で、東西に延びる小溝である。両端とも消失している。長さ3.6m、最大幅0.4m、最大深0.27mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD127（図面136）：平面形態は直線的で、東西に延びる小溝である。両端とも消失している。長さ1.09m、最大幅0.55m、最大深0.06mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD128（図面136）：平面形態は直線的で、東西に延びる小溝である。両端とも消失している。長さ1.44m、最大幅0.52m、最大深0.16mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混、第３層：暗褐色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

Ｂ８地区

掘立柱建物

SB079－SP958～978（図面127）：SB080と配置が重複する。建物内南側に１間×２間の範囲でSX087が構築される。建物の規模は、梁行４間（8.2～8.25m）、桁行４間（10.4m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はＮ３°Ｅで、床面積は85.8㎡。柱間距離は、梁行1.9～2.2m、桁行2.3～2.9mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.3～0.63m、深さ0.05～0.65mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB080－SP979～995（図面128）：調査区の南東隅に位置し、SB079と配置が重複する。建物内の南西隅にはSX088が構築される。建物の規模は、梁行３間（6.0～6.05m）、桁行４間（10.65～10.75m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はＮ９°Ｅで、床面積は65.0㎡。柱間距離は、梁行1.95～2.15m、桁行2.4m～3.0mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.25～0.73m、深さ0.13～0.57mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

土坑

SK514（図面130）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.87m、短径0.64m、深さ0.06mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト酸化鉄・マンガン混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK515（図面130）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺1.45m、短辺1.0m、深さ0.05mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

大型土坑

SX087（図面135）：SB079の南側に配置された隅丸長方形の土坑で、SD130・SP976を切りSP979に切られる。規模は長辺4.36m、短辺1.9m、深さ0.5mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黄褐色砂質シルト鉄分混、第３層：暗灰黄色粘質シルトとなる。遺物は珠洲が出土している。

SX088（図面135）：SB080内に位置する隅丸長方形の土坑で、規模は長辺3.1m、短径1.59m、深さ0.1mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物はない。

溝

SD129（図面136）：南北に不連続な途切れた小溝である。両端とも消失している。確認できる長さは4.9m、最大幅0.45m、最大深0.06mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は黄灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD130（図面136）：Ｂ７地区のSD119に続く溝である。平面形態はやや蛇行して南北に延び、調査区外に続く。SX087に切られる。確認できる長さは28.0m、、最大幅5.7m、最大深0.22mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はaセクションで第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：灰黄褐色粘質シルトとなり、bセクションで暗灰黄色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

Ｂ９地区

掘立柱建物

SB081－SP996～1005（図面142）：調査区の北西側に位置し、調査区外に続く。建物の規模は、梁行２間以上（6.5m）、桁行４間（10.4m～）の総柱建物で、棟方向はN20°Eを。検出された床面積は67.6㎡で、柱間距離は、梁行2.5～2.9m、桁行2.45m～である。柱穴形態は円～不整形で、径0.4～0.61m、深さ0.19～0.5mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

大型土坑

SX089（図面146）：調査区中央部で検出された水田と思われる遺構で、規模は東西幅20.5m、南北幅19.0m以上、深さ0.35mを測る。南側と西側には石列が、北側には崩落した石列がみられる。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4626・4630）・珠洲（4650）が出土している。

溝

SD131（図面147）：平面形態は直線的で、SX089から続き、調査区外に延びている。水田に取り付けられた排水を目的とした水路と考えられる。確認できる長さは16.0m、最大幅2.5m、最大深0.34mを測る。断面形態はU字形～不整形を呈し、覆土はaセクションで第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色シルト質砂、bセクションで第１層：黒褐色砂質シルト炭化物混、第２層：黒褐色シルト質砂となり、Cセクションで黒褐色砂質シルトを基調とする４層から構成され、dセクションでは黒褐色砂質シルトを基調とする５層から構成され、eセクションで第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトに暗灰黄色砂質シルト混となる。出土遺物は認められない。

B10地区

掘立柱建物

SB082－SP1006～1018（図面142）：調査区の北側に位置し、調査区外に続く。SB083とは配置が重複する。建物の規模は、梁行４間（9.75m）、桁行３間以上（5.4m～）の総柱建物である。建物の棟方向はN２°E、検出された床面積は52.7㎡となる。柱間距離は、梁行2.35～2.5m、桁行2.45～2.55mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.37～1.25m、深さ0.13～0.55mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB083－SP1019～1030（図面143）：SB082の南西側に位置し、建物配置が一部重なる。建物の規模は、梁行２間（4.55～4.6m）、桁行３間（7.45～7.5m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN３°Eで、床面積は34.5㎡。柱間距離は、梁行2.2～2.35m、桁行2.4～2.6mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.33～0.76m、深さ0.23～0.35mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

土坑

SK516（図面145）：平面形態は円形で、規模は径0.57～0.65m、深さ0.5mを測る。覆土は第１層：（10YR3/1）黒褐色砂質シルト、第２層：（10YR3/2）黒褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK517（図面145）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.24m、短径0.2m、深さ0.06mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物多量混、第２層：暗褐色砂質シルト炭化物混となる。出土遺物は認められない。

SK518（図面145）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.51m、短径0.35m、深さ0.07mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物多量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK519（図面145）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.1m、短径0.64m、深さ0.09mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：暗灰黄色砂質シルトとなる。遺物はない。

溝

SD132（図面147）：平面形態は直線的で南北に延びる。両端とも消失している。長さ5.10m、最大幅0.87m、最大深0.14mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：オリーブ褐色シルト質砂となる。出土遺物は認められない。

SD133（図面147）：調査区東南端に位置し、L字状に曲がりB12地区に続く。平面形態は方形の区画溝と考えられ、南辺がSD158と重複し、SD158に先行する。SD158の区画溝と同様に、区画内部には建物が認められず、土抗群が散在する。推定される長さは東辺24.0m、、西辺23.0m、北辺47.0m、最大幅4.2m、最大深1.18mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションで第１層：暗オリーブ褐色粘質シルト、第２層：オリーブ褐色粘質シルト、第３層：にぶい黄褐色砂質シルトとなり、bセクションではオリーブ褐色粘質シルトを基調とする４層から構成される。出土遺物は須恵器・中世土師器（4664・4665）・珠洲（4685・4690）が認められる。

B11地区

掘立柱建物

SB084－SP1031～1039（図面143）：建物の規模は、梁行２間（5.15～5.2m）、桁行２間（5.25～5.3m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN12°Wで、床面積は27.6㎡。柱間距離は、梁行2.55m、桁行2.6～2.65mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.35～1.09m、深さ0.18～0.46mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB085－SP1040～1054（図面144）：SB086と配置が重複する。建物の規模は、梁行３間（6.6m）、桁行３間（9.5～9.55m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN16°Wで床面積は63.0㎡。柱間距離は、梁行2.1～2.4m、桁行3.0～3.25mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.25～0.73m、深さ0.09～0.52mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物はSP1042で中世土師器が認められる。

SB086－SP1051・1054・1055～1064（図面144）：調査区の南側に位置し、調査区外に続く。建物の

規模は、梁行4間（9.25m）、桁行3間以上（6.0m～）の総柱建物である。建物の棟方向はN18°Wで、検出された床面積は55.5㎡となる。柱間距離は、梁行2.25～2.35m、桁行2.4～2.9mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.23～1.1m、深さ0.08～0.53mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP1057で中世土師器（4714）が出土している。

井戸

SE03（図面145）：木組か石組かは不明で、掘り方のみ残存している井戸である。掘り方の平面形態は円形で、径1.59～1.77m、深さ1.12mの規模を測る。横断面の形態は逆台形で、覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。井戸内からの出土遺物は認められない。

SE04（図面145）：木枠組か石組かは不明で、掘り方のみ残存している井戸である。掘り方の平面形態は円形で、径2.88～3.4m、深さ1.85mの規模を測る。横断面の形態は擂鉢型である。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。井戸内からは土師器・須恵器・中世土師器（4695）・珠洲が出土している。

土坑

SK520（図面145）：平面形態は円形で、規模は径0.66～0.7m、深さ0.16mを測る。覆土は第1層：(10YR3/1) 黒褐色砂質シルト、第2層：(10YR3/2) 黒褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK521（図面145）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.16m、短径0.58m、深さ0.54mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルトに黄褐色砂質シルト・炭化物少量混、第2層：黒褐色砂質シルトに黄褐色砂質シルト少量・炭化物微量混、第3層：黒褐色砂質シルトに黄褐色砂質シルト多量・炭化物微量混となる。遺物は中世土師器（4696）が出土している。

SK522（図面145）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.39m、短径0.27m、深さ0.36mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト炭化物少量混、第2層：オリーブ褐色シルト質砂となる。遺物は珠洲（4697）が出土している。

SK523（図面145）：平面形態は円形で、規模は径0.8～0.84m、深さ0.19mを測る。覆土は第1層：(10YR3/1) 黒褐色砂質シルト、第2層：(10YR3/2) 黒褐色砂質シルト炭化物少量混となる。遺物は青磁（5614）が出土している。

溝

SD134（図面147）：平面形態は直線的で、南北に延びる。南端は消失し、北端は北側調査区外に続く。確認できる長さは4.6m、最大幅0.45m、最大深0.04mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD135（図面147）：平面形態は直線的で、南北に延びる。南端は消失し、北端は北側調査区外に続く。確認できる長さは8.7m、最大幅0.65m、最大深0.06mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD136（図面147）：南北に延びる小溝で、両端とも消失している。長さ1.5m、最大幅0.15m、最大深0.02mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD137（図面147）：平面形態は直線的で、南北に延びる。両端とも消失している。長さ7.4m、最大幅0.55m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混の単層となる。出土遺物は認められない。

B12地区

掘立柱建物

SB087－SP1065～1073（図面155）：遺構の東側は調査区外となる。建物の規模は、梁行２間（4.36～4.57m）、桁行４間以上（6.9m～）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN15°Eで、検出された床面積は31.5㎡。柱間距離は、梁行2.2～2.4m、桁行1.9～1.95mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.2～0.57m、深さ0.08～0.5mを数える。柱穴内覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物はSP1068で中世土師器、SP1072で角釘（275）が出土している。

SB088－SP1074～1081（図面155）：建物の規模は、梁行２間（2.85m）、桁行２間（2.9～3.15m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN85°Wで、床面積は14.8㎡。柱間距離は、梁行1.2～1.75m、桁行1.5～1.7mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.24～0.74m、深さ0.06～0.47mを数える。柱穴内覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB089－SP1082～1088（図面156）：建物の規模は、梁行２間（3.5m）、桁行３間（4.0m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN70°W、床面積は14.0㎡。柱間距離は、梁行1.4～1.8m、桁行1.95～2.1mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.3～0.5m、深さ0.18～0.54mを数える。柱穴内覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物はSP1083で土師器、SP1087で珠洲が出土している。

SB090－SP1089～1100（図面156）：建物の規模は、梁行３間（4.85m）、桁行３間（5.0m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN５°Eで床面積は24.3㎡。柱間距離は、梁行1.6～2.1m、桁行1.6～1.68mである。柱穴形態は楕円～不整形で、径0.22～0.42m、深さ0.07～0.2mを数える。柱穴内覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物はSP1097で土師器が出土している。

SB091－SP1101～1130（図面157）：SB092と配置が重複する。建物の規模は、梁行４間（8.9m）、桁行６間（13.55m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN70°Wで、床面積は120.6㎡。柱間距離は、梁行2.1～2.15m、桁行2.05～2.25mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.2～0.72m、深さ0.14～0.45mを数える。柱穴内覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物はSP1107で土師器・中世土師器、SP1129で中世土師器が出土している。

SB092－SP1131～1137（図面158）：SB91と配置が重複する。建物規模は、梁行２間（4.05～4.15m）、桁行２間（4.62m）の側柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN87°W、床面積は19.2㎡。柱間距離は、梁行1.5～2.5m、桁行2.25～2.45mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.3～0.48m、深さ0.18～0.36mを数える。柱穴内覆土は黒褐色～黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物はSP1133・1137で土師器が出土している。

SB093－SP1138～1144（図面158）：SB094と配置が重複する。建物規模は、梁行２間（3.3m）、桁行２間（3.95m）の側柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN80°E、床面積は13.0㎡。柱間距離は、梁行1.5～1.8m、桁行1.6～2.4mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.26～0.46m、深さ0.15～0.37mを数える。柱穴内覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB094－SP1145～1152（図面158）：SB093と配置が重複する。建物規模は、梁行２間（3.32～3.51m）、桁行２間（3.65m）の側柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN86°E、床面積は12.8㎡。柱間距離は、梁行1.65～1.8m、桁行1.5～2.1mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.22～0.68m、深さ0.07～0.5mを数える。柱穴内覆土は暗オリーブ褐色～黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物はSP1148で環状鉄製品（245）、SP1150で中世土師器・瀬戸美濃（5437）が出土している。

SB095－SP1153～1157（図面158）：東側は調査区外に続く。建物規模は、梁行２間（5.1m）、桁行２

間以上（4.15m～）の総柱建物である。建物の棟方向はN80°Wで、検出された床面積は21.1㎡。柱間距離は、梁行2.3～2.8m、桁行2.6mである。柱穴形態は楕円形で、径0.4～0.66m、深さ0.21～0.29mを数える。柱穴内覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB096－SP1158～1166（図面159）：SB097・098と配置が重複する。建物規模は、梁行２間（4.05m）、桁行３間（5.8m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はＮ８°Eで、床面積は23.5㎡。柱間距離は、梁行1.9～2.2m、桁行1.8～2.1mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.18～0.5m、深さ0.09～0.33mを数える。柱穴内覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物はSP1160で中世土師器（4996）・SP1163で中世土師器、SP1165で中世土師器（5003・5004）・白磁（5606）が出土している。

SB097－SP1167～1172（図面159）：SB096・097と配置が重複し、建物規模は、梁行１間（3.65m）、桁行２間（3.7～4.0m）の側柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はＮ８°Eで、床面積は14.6㎡、柱間距離は桁行1.6～2.1mである。柱穴形態は楕円～不整形で、径0.2～0.52m、深さ0.14～0.42mを数える。柱穴内覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB098－SP1160・1173～1184（図面159）：SB096・097と配置が重複する建物で、建物規模は、梁行３間（4.8～4.85m）、桁行３間（5.05m）の総柱建物、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN83°W、床面積は24.5㎡。柱間距離は、梁行1.5～1.6m、桁行1.6～1.95mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.2～0.58m、深さ0.07～0.44mを数える。柱穴内覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物はSP1173・1178・1183で中世土師器（4997・5008・5013・5014）、SP1177・1181で中世土師器、SP1179で土師器、SP1184で珠洲が出土している。

井戸

SE05（図面160）：木枠組か石組かは不明で、掘り方のみ残存している井戸である。掘り方の平面形態は楕円形でSD150に切られる。長径3.6m、短径3.08m、深さ1.12mの規模を測る。横断面の形態は擂鉢型である。井戸内からの出土遺物は中世土師器（4744・4745）・白磁（4746）・珠洲（4743）・棒状鉄製品（243）が認めらる。

SE06（図面160）：石組井戸である。井筒部は掘方の中心に設置される。石組の内径は0.7mで、ほぼ垂直に石組される。掘り方の平面形態は楕円形で規模は長径2.24m、短径1.83m、深さ0.82mの規模を測る。横断面の形態は逆台形である。井筒内の覆土はにぶい黄色砂に灰色粘質シルト・酸化鉄混、掘方の覆土はオリーブ褐色砂質シルト礫多量混となる。出土遺物は認められない。

土坑

SK524（図面161）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.72m、短径0.52m、深さ0.19mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK525（図面161）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺1.66m、短辺1.11m、深さ0.6mを測る。覆土は第１層：暗オリーブ褐色シルト、第２層：黄褐色砂質シルト、第３層：黒褐色シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK526（図面161）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.1m、短径0.71m、深さ0.2mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色砂質シルト、第２層：黄褐色砂となる。遺物は土師器が出土している。

SK527（図面161）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.53m、短径0.36m、深さ0.23mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色砂質シルト、第２層：にぶい黄色砂に暗灰黄色砂質シルトブロック混となる。遺物は土師器が出土している。

SK528（図面161）：平面形態は楕円形でSK529を切る。規模は長径0.6m、短径0.42m、深さ0.12mを測る。覆土は暗灰黄色シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK529（図面161）：平面形態は隅丸長方形でSK528に切られる。規模は長辺1.88m、短辺0.92m、深さ0.15mを測る。覆土は暗灰黄色シルトのみの単層となる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK530（図面161）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.49m、短径0.39m、深さ0.16mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK531（図面161）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.12m、短径0.87m、深さ0.33mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色砂質シルト炭化物少量混、第２層：にぶい黄褐色砂炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK532（図面161）：平面形態は不整形で、SK534・SX092を切る。規模は長径1.43m、短径0.81m、深さ0.44mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器が出土している。

SK533（図面161）：平面形態は不整形で、SK534を切り込みSP1068に切られる。規模は長径1.28m、短径1.14m、深さ0.72mを測る。覆土は黄灰色砂質シルトを基調とする４層から構成される。遺物は土師器が出土している。

SK534（図面161）：平面形態は楕円形で、SK532・533に切られる。規模は長径1.71m以上、短径0.99m、深さ0.16mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト炭化物少量混、第２層：暗灰黄色粘質シルト炭化物少量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK535（図面161）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.82m、短径0.68m、深さ0.23mを測る。覆土は第１層：（2.5Y5/1）黄灰色粘質シルト、第２層：（2.5Y4/1）黄灰色粘質シルト炭化物少量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK536（図面161）：平面形態は不整形で、規模は長径1.21m、短径0.64m、深さ0.34mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルト炭化物混となる。遺物は土師器・中世土師器（4821）が出土している。

SK537（図面161）：平面形態は隅丸方形でSK538を切る。規模は一辺1.28～1.41m、深さ0.41mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：暗灰黄色粘質シルトとなる。遺物は珠洲が出土している。

SK538（図面161）：平面形態は不整形でSK537に切られる。規模は長径1.14m、短径0.65m以上、深さ0.35mを測る。覆土は第１層：暗オリーブ褐色シルト、第２層：にぶい黄色砂に黒褐色粘質シルト、第３層：黒褐色粘質シルトに分層される。遺物は珠洲・青磁（4787）が出土している。

SK539（図面161）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.97m、短径0.81m、深さ0.28mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK540（図面161）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺1.37m、短辺1.32m以上、深さ0.36mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・中世土師器・青磁（5597）・珠洲が出土している。

SK541（図面162）：平面形態は隅丸方形でSX100を切る。規模は一辺1.26m程度、深さ0.37mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色粘質シルト炭化物少量混、第２層：オリーブ褐色砂質シルト炭化物少量混となる。遺物は土師器・中世土師器（4794）・珠洲が出土している。

SK542（図面162）：平面形態は円形で、規模は径1.1m、深さ0.43mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色粘質シルトににぶい黄色砂炭化物少量混、第２層：暗灰黄色粘質シルト、第３層：オリーブ褐色砂質

シルトとなる。遺物は須恵器・珠洲が出土している。

SK543（図面162）：平面形態は不整形で、規模は長径1.35m、短径1.34m、深さ0.34mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/2) 暗灰黄色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/2) 暗灰黄色粘質シルト、第３層：黄灰色粘質シルト炭化物少量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK544（図面162）：平面形態は不整形でSX109を切る。規模は長径1.0m、短径0.88m、深さ0.12mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK545（図面162）：平面形態は不整形で、規模は長径1.63m、短径1.24m、深さ0.14mを測る。覆土は褐色砂に黄褐色砂混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK546（図面162）：平面形態は不整形で、規模は長径0.75m、短径0.34m、深さ0.17mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK547（図面162）：平面形態は不整形で、規模は長径1.04m、短径0.89m、深さ0.16mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器・中世土師器（4815）が出土している。

SK548（図面162）：平面形態は不整形で、規模は長径1.35m、短径1.33m、深さ0.27mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK549（図面162）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.9m、短径0.63m、深さ0.47mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：暗灰黄色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK550（図面162）：平面形態は円形で、規模は径0.41m、深さ0.41mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：にぶい黄色砂に暗灰黄色粘質シルト混となる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK551（図面162）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.42m、深さ0.06mを測る。覆土は褐色砂のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK552（図面162）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.6m、短径0.92m、深さ0.15mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK553（図面162）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.89m、短径0.66m、深さ0.19mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器（4824）が出土している。

SK554（図面162）：平面形態は楕円形でSX108を切る。規模は長径1.02m、短径0.86m、深さ0.2mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・中世土師器（4813）が出土している。

SK555（図面162）：平面形態は円形で、規模は径0.22～0.24m、深さ0.22mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。遺物は珠洲が出土している。

SK556（図面162）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.67m、短径0.58m、深さ0.18mを測る。覆土は第１層：褐色砂、第２層：暗灰黄色粘質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器（4795・4805）が出土している。

SK557（図面162）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.96m、短径0.57m、深さ0.24mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK558（図面163）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.6m、短径0.41m、深さ0.19mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器・珠洲が出土している。

SK559（図面163）：平面形態は不整形で、規模は長径0.95m、短径0.53m、深さ0.17mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK560（図面163）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.51m、短径0.45m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト炭化物混、第２層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK561（図面163）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.71m、短径0.5m、深さ0.05mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK562（図面163）：平面形態は円形で、規模は径0.25～0.27m、深さ0.17mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は中世土師器・珠洲・角釘（273）が出土している。

SK563（図面163）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.06m、短径0.54m、深さ0.25mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK564（図面163）：平面形態は円形で、規模は径1.15～1.23m、深さ0.32mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK565（図面163）：平面形態は不整形で、規模は長径1.24m、短径0.93m以上、深さ0.36mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK566（図面163）：平面形態は不整形で、規模は長径1.66m、短径0.63m、深さ0.1mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：褐色砂となる。遺物は須恵器・土製品が出土している。

SK567（図面163）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.82m、短径0.57m、深さ0.35mを測る。覆土は第１層：（2.5Y5/1）黄灰色粘質シルト、第２層：（2.5Y4/1）黄灰色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK568（図面163）：平面形態は楕円形でSX125を切る。規模は長径1.23m、短径1.1m、深さ0.27mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする５層から構成される。遺物は須恵器が出土している。

SK569（図面163）：平面形態は不整形でSX125を切る。規模は長径1.57m、短径1.11m、深さ0.51mを測る。覆土は暗灰黄色～黄灰色粘質シルトを基調とする５層から構成される。遺物は須恵器・中世土師器・瀬戸美濃（4788）が出土している。

SK570（図面163）：平面形態は楕円形でSX125を切る。規模は長径1.43m、短径0.94m、深さ0.35mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする５層から構成される。遺物は珠洲が出土している。

SK571（図面163）：平面形態は楕円形でSX125を切る。規模は長径1.28m、短径1.05m、深さ0.36mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトを基調とする４層から構成される。遺物は土師器・須恵器・中世土師器が出土している。

SK572（図面163）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.11m、短径0.8m、深さ0.3mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・瀬戸美濃（4789）が出土している。

SK573（図面163）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.3m以上、深さ0.26mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK574（図面163）：平面形態は楕円形でSD145に切られる。規模は長径0.47m、短径0.37m以上、深さ0.11mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK575（図面163）：平面形態は不整形で、規模は長径0.4m以上、短径0.28m、深さ0.1mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK576（図面164）：東側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径1.33m、短径0.47m、深さ0.34mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混、第３層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトとなる。遺物は須恵器・中世土師器が出土している。

SK577（図面164）：平面形態は不整形で、規模は長径1.27m、短径1.18m、深さ0.33mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする４層から構成される。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4812）・珠洲が出土している。

SK578（図面164）：平面形態は不整形で、規模は長径1.68m、短径1.02m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器が出土している。

SK579（図面164）：平面形態は楕円形でSK580を切る。規模は長径1.0m、短径0.89m、深さ0.41mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・中世土師器（4822）が出土している。

SK580（図面164）：平面形態は不整形でSK579に切られる。規模は長径0.59m、短径0.53m、深さ0.5mを測る。覆土は第１層：黄褐色砂質シルト炭化物混、第２層：暗灰黄色粘質シルト炭化物混となる。遺物は青磁（4790）が出土している。

SK581（図面164）：平面形態は不整形で、規模は長径0.6m、短径0.5m、深さ0.41mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器（4806）が出土している。

SK582（図面164）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.39m、短径0.3m、深さ0.16mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルト炭化物混となる。遺物は珠洲が出土している。

SK583（図面164）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.57m、短径0.39m、深さ0.05mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK584（図面164）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.24m、深さ0.12mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK585（図面164）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.88m、短径0.62m、深さ0.15mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：暗灰黄色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK586（図面164）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.59m、短径0.3m、深さ0.3mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK587（図面164）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.65m、短径0.9m、深さ0.36mを測る。覆土は黄灰色粘質シルト～黒褐色シルトを基調とする。遺物は土師器が出土している。

SK588（図面164）：平面形態は楕円形で、SK589・590を切る。規模は長径0.43m、短径0.4m、深さ0.61mを測る。覆土は黄灰色～黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器が出土している。

SK589（図面164）：平面形態は隅丸長方形で、SK590・591を切り込みSK588に切られる。規模は長辺1.27m、短辺0.92m、深さ0.13mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・中世土師器（4796）が出土している。

SK590（図面164）：平面形態は不整形でSK589に切られる。規模は長径0.8m、短径0.59m、深さ0.12mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK591（図面164）：平面形態は不整形でSK589に切られる。規模は長径0.89m以上、短径0.51m、深さ0.12mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が

出土している。

SK592（図面164）：遺構の東側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径1.63m、短径0.77m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルトに黄褐色砂質シルト混、第３層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK593（図面164）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.49m、短径0.35m、深さ0.12mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：にぶい黄色砂に暗オリーブ褐色粘質シルト混となる。遺物は土師器・中世土師器（4823）が出土している。

SK594（図面164）：平面形態は不整形で、規模は長径1.26m、短径0.92m以上、深さ0.18mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器（4811）が出土している。

SK595（図面165）：遺構の東側は調査区外となる。平面形態は不整形でSP1087を切る。規模は長径1.73m以上、短径1.07m、深さ0.28mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルトに褐色砂質シルト混、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK596（図面165）：平面形態は不整形で、規模は長径0.87m、短径0.59m、深さ0.16mを測る。覆土は黄灰色シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器（4802）が出土している。

SK597（図面165）：平面形態は楕円形でSX173を切る。規模は長径1.07m、短径0.89m、深さ0.35mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルト礫多量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK598（図面165）：平面形態は長楕円形で、規模は長径1.82m、短径0.64m、深さ0.2mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK599（図面165）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.54m、短径0.44m、深さ0.07mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK600（図面165）：平面形態は不整形で、規模は長径1.23m、短径1.22m、深さ0.14mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK601（図面165）：平面形態は不整形で、規模は長径0.62m、短径0.27m、深さ0.12mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK602（図面165）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.43m、短径0.32m、深さ0.19mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK603（図面165）：平面形態は長楕円形でSK604に切られる。規模は長径0.7m以上、短径0.41m、深さ0.13mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトに黄褐色砂混となる。遺物は土師器が出土している。

SK604（図面165）：平面形態は楕円形でSK603を切る。規模は長径0.32m、短径0.29m、深さ0.25mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・珠洲が出土している。

SK605（図面165）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.45m、短径0.26m、深さ0.28mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK606（図面165）：平面形態は不整形で、規模は長径0.25m、短径0.24m、深さ0.1mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は確認されない。

SK607（図面165）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.09m、短径0.58m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器が出土している。

SK608（図面165）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.6m、短径0.34m、深さ0.1mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK609（図面165）：平面形態は長楕円形で、規模は長径1.48m、短径0.63m、深さ0.08mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器・珠洲（4831）が出土している。

SK610（図面165）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.61m、短径0.4m、深さ0.07mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK611（図面165）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.39m、短径0.35m、深さ0.15mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK612（図面165）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.4m、短径0.34m、深さ0.23mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK613（図面165）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.7m、短径0.46m、深さ0.15mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK614（図面165）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.32m、短径0.29m、深さ0.33mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK615（図面165）：平面形態は不整形で、規模は長径0.52m、短径0.32m、深さ0.23mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK616（図面165）：平面形態は不整形で、規模は長径0.45m、短径0.31m、深さ0.17mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK617（図面166）：平面形態は円形で、規模は径0.63～0.65m、深さ0.38mを測る。覆土は第１層：黄灰色シルト、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK618（図面166）：平面形態は不整形でSD149に切られる。規模は長径0.77m以上、短径0.74m、深さ0.16mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK619（図面166）：平面形態は不整形で、規模は長径0.79m、短径0.42m以上、深さ0.12mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトに暗オリーブ褐色粘質シルト混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK620（図面166）：平面形態は楕円形でSD149を切る。規模は長径0.83m、短径0.48m、深さ0.18mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・中世土師器・珠洲（4826）・八尾が出土している。

SK621（図面166）：平面形態は不整形で、規模は長径1.33m、短径1.17m、深さ0.22mを測る。覆土は黄灰色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK622（図面166）：平面形態は隅丸長方形でSD160に切られる。規模は長辺1.52m、短辺1.1m以上、深さ0.38mを測る。覆土は黄灰色粘質シルト大礫多量混のみの単層となる。遺物は須恵器・中世土師器（4741・4742）・珠洲（4743）・八尾が出土している。

SK623（図面166）：平面形態は楕円形でSK624を切る。規模は長径1.65m、短径1.42m、深さ0.3mを測

る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は珠洲が出土している。

SK624（図面166）：平面形態は不整形でSK623に切られる。規模は長径0.85m、短径0.53m以上、深さ0.23mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトとなる。遺物は珠洲が出土している。

SK625（図面166）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.36m、深さ0.07mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK626（図面166）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.3m、深さ0.18mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK627（図面166）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.31m、短径0.24m、深さ0.07mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK628（図面166）：平面形態は不整形で、規模は長径1.21m、短径1.07m、深さ0.32mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルト、第３層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は中世土師器・珠洲が出土している。

SK629（図面166）：平面形態は不整形で、規模は長径1.16m、短径0.7m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK630（図面166）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.02m、短径0.78m、深さ0.44mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SK631（図面166）：平面形態は不整形で、SX145・SD154を切る。規模は長径1.25m以上、短径0.75m、深さ0.09mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトに暗オリーブ褐色粘質シルト混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK632（図面166）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.21m、深さ0.32mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂多量混、第２層：黄灰色粘質シルトに黒褐色粘質シルト混、第３層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は不明土製品が出土している。

SK633（図面166）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.31m、短径0.28m、深さ0.14mを測る。覆土はにぶい黄色砂質シルトのみの単層となる。遺物は珠洲が出土している。

SK634（図面166）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.57m、短径0.34m、深さ0.15mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器が出土している。

SK635（図面167）：平面形態は長楕円形でSK636を切る。規模は長径1.8m、短径0.84m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：暗オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK636（図面167）：平面形態は楕円形でSK635に切られる。規模は長径0.86m、短径0.57m、深さ0.12mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK637（図面167）：平面形態は不整形で、規模は長径1.4m、短径0.92m、深さ0.16mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトに暗赤褐色粘質シルト混、第３層：黄灰色粘質シルトに暗褐色粘質シルト混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK638（図面167）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.85m、短径0.73m、深さ0.3mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルトに褐色砂質シルト混、第２層：暗灰黄色粘質シルト炭化物少量混、第３層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器（4797）・珠洲が出土して

いる。

SK639（図面167）：平面形態は隅丸方形で、規模は一辺0.88～0.95m、深さ0.24mを測る。覆土は第1層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルトに褐色砂質シルト混、第2層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混、第3層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトとなる。遺物は珠洲が出土している。

SK640（図面167）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺1.02m、短辺0.52m、深さ0.13mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルト、第2層：黄灰色粘質シルトに黒褐色粘質シルト混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK641（図面167）：平面形態は不整形で、規模は長径1.39m、短径0.85m、深さ0.3mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルトに暗赤褐色粘質シルト混、第2層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂質シルト混、第3層：黄灰色粘質シルトにオリーブ黄色砂質シルトブロック・炭化物混となる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK642（図面167）：平面形態は楕円形でSD154を切る。規模は長径0.56m、短径0.55m、深さ0.38mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色粘質シルト、第2層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK643（図面167）：平面形態は不整形で、規模は長径1.2m以上、短径0.66m、深さ0.35mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルトに褐色砂質シルト混、第2層：黄灰色粘質シルト、第3層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂ブロック混となる。遺物は中世土師器（4748・4808）が出土している。

SK644（図面167）：平面形態は不整形で、規模は長径0.79m、短径0.6m以上、深さ0.08mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色粘質シルト、第2層：暗灰黄色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は中世土師器・瀬戸美濃（4791）が出土している。

SK645（図面167）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.47m、短径0.93m、深さ0.2mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4749～4753）・珠洲（4754）・棒状鉄製品（244）が出土している。

SK646（図面167）：平面形態は楕円形でSX146を切る。規模は長径0.72m、短径0.6m、深さ0.31mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルト、第2・3層：黄灰色粘質シルトと暗赤褐色粘質シルトを基調とし、第2層には炭化物が混じり、柱根の可能性がある。第4層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂質シルト混となる。遺物は須恵器・中世土師器が出土している。

SK647（図面167）：平面形態は楕円形でSK648を切る。規模は長径0.9m、短径0.76m、深さ0.18mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混、第2層：黄灰色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK648（図面167）：平面形態は不整形でSK647に切られる。規模は長径0.95m、短径0.58m以上、深さ0.43mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4800）が出土している。

SK649（図面167）：平面形態は不整形で、規模は長径0.56m、短径0.19m以上、深さ0.42mを測る。覆土は第1層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト炭化物混、第2層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルト炭化物混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK650（図面167）：平面形態は不整形で、規模は長径0.59m、短径0.19m、深さ0.3mを測る。覆土は第1層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト炭化物混、第2層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトに (2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト酸化鉄混となる。遺物は中世土師器・珠洲・瀬戸美濃（4792）が出土している。

SK651（図面167）：平面形態は円形で、規模は径0.35m、深さ0.14mを測る。覆土は黄灰色粘質シルト

のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK652（図面167）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.3m、深さ0.3mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルト、第2層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は中世土師器（4817）が出土している。

SK653（図面168）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.39m、短径0.3m、深さ0.2mを測る。覆土は第1層：（10YR3/2）黒褐色粘質シルト、第2層：（2.5Y3/2）黒褐色粘質シルト、第3層：（2.5Y3/2）黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK654（図面168）：平面形態は不整形で、規模は長径0.63m以上、短径0.5m、深さ0.12mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルトに褐色砂質シルト混、第2層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK655（図面168）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.42m、短径0.36m、深さ0.44mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルト、第2層：黒褐色粘質シルト、第3層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は青磁が出土している。

SK656（図面168）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.24m、短径0.2m、深さ0.12mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK657（図面168）：平面形態は不整形でSX147に切られる。規模は長径1.41m、短径1.02m、深さ0.47mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4755・4756）・八尾（4757）が出土している。

SK658（図面168）：平面形態は不整形で、規模は長径0.84m以上、短径0.71m、深さ0.2mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器・小札（268・269）が出土している。

SK659（図面168）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.31m、短径0.26m、深さ0.19mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混、第2層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は珠洲が出土している。

SK660（図面168）：平面形態は不整形で、規模は長径0.66m以上、短径0.56m、深さ0.09mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色粘質シルト炭化物混、第2層：暗灰黄色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は中世土師器・珠洲が出土している。

SK661（図面168）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.48m、短径1.01m、深さ0.14mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルト、第2層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は珠洲（4828）・越前が出土している。

SK662（図面168）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.54m、短径0.94m、深さ0.08mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は珠洲（4829）が出土している。

SK663（図面168）：平面形態は不整形で、規模は長径1.6m、短径1.06m、深さ0.12mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は珠洲が出土している。

SK664（図面168）：平面形態は不整形でSD152に切られる。規模は長径0.4m、短径0.2m以上、深さ0.05mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混となる。遺物は珠洲・八尾が出土している。

SK665（図面168）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.0m、短径0.68m、深さ0.16mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルト、第2層：黄灰色粘質シルトに暗赤褐色粘質シルト混となる。遺物は珠洲・瀬戸美濃（5450）が出土している。

SK666（図面168）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.71m、短径0.54m、深さ0.22mを測る。覆土は

第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：オリーブ褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器・珠洲が出土している。

SK667（図面168）：平面形態は不整形で、規模は長径1.35m、短径1.1m以上、深さ0.59mを測る。覆土は黄灰色～暗灰黄色粘質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4810）が出土している。

SK668（図面169）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.35m、短径0.69m、深さ0.45mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は珠洲が出土している。

SK669（図面169）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.08m、短径0.91m、深さ0.1mを測る。覆土は黄灰色シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器（4814）・珠洲・近世陶磁器・棒状鉄製品（247・252・254）、釘（248～251・253）が出土している。

SK670（図面169）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.38m、短径0.67m、深さ0.13mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルト、第３層：暗灰黄色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器・珠洲が出土している。

SK671（図面169）：平面形態は不整形でSX168に切られる。規模は長径1.39m、短径0.94m、深さ0.32mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルト、第３層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は珠洲が出土している。

SK672（図面169）：平面形態は円形でSK673を切る。規模は径0.31～0.32m、深さ0.28mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲が出土している。

SK673（図面169）：平面形態は不整形でSK672に切られる。規模は長径0.7m、短径0.32m、深さ0.28mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SK674（図面169）：平面形態は円形で、規模は径0.43～0.47m、深さ0.12mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK675（図面169）：平面形態は円形で、規模は径0.4m、深さ0.18mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は中世土師器（4758・4759）・珠洲（4761）・青磁（4760）・釘（242）が出土している。

SK676（図面169）：遺構の東側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径0.57m、短径0.36m以上、深さ0.1mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK677（図面169）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.33m、短径0.3m、深さ0.1mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器・珠洲が出土している。

SK678（図面169）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.32m、短径0.25m、深さ0.17mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器（4830）が出土している。

SK679（図面169）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.35m、深さ0.2mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器（4820）が出土している。

SK680（図面169）：平面形態は円形で、規模は径0.35～0.37m、深さ0.2mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK681（図面169）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.65m、短径0.49m、深さ0.21mを測る。覆土は

第１層：黄灰色粘質シルトに褐色砂質シルトブロック混、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器（4818）が出土している。

SK682（図面169）：平面形態は不整形でSX164を切る。規模は長径1.7m、短径0.83m、深さ0.45mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルトに黒褐色粘質シルト混、第２層：灰黄色砂、第３層：黄灰色粘質シルト礫多量混となる。遺物は珠洲が出土している。

SK683（図面169）：平面形態は不整形で、規模は長径0.98m、短径0.85m、深さ0.42mを測る。覆土は第１層：（2.5Y5/1）黄灰色粘質シルト、第２層：（2.5Y4/1）黄灰色粘質シルト、第３層：（2.5Y4/1）黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は珠洲が出土している。

SK684（図面169）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.44m、短径0.4m、深さ0.35mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器（4816）が出土している。

SK685（図面169）：平面形態は不整形でSX164を切る 。規模は長径2.5m以上、短径2.07m、深さ0.55mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4803）が出土している。

SK686（図面169）：平面形態は不整形で、規模は長径0.55m以上、短径0.5m、深さ0.11mを測る。覆土は暗褐色粘質シルト礫混のみの単層となる。遺物は土師器・中世土師器（4798）・珠洲が出土している。

SK687（図面170）：平面形態は不整形で、規模は長径0.87m、短径0.69m、深さ0.47mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK688（図面170）：平面形態は隅丸長方形でSX152に切られる。規模は長径1.1m、短径0.65m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：（2.5Y5/1）黄灰色粘質シルトに褐色砂質シルト混、第２層：（2.5Y4/1）黄灰色粘質シルトに褐色砂質シルト混、第３層：（2.5Y4/1）黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK689（図面170）：平面形態は円形で、規模は径0.73～0.76m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルトに褐色砂質シルト、第２層：黄灰色粘質シルト、第３層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は中世土師器（4762・4825）・白磁or青磁（5611）が出土している。

SK690（図面170）：平面形態は楕円形でSX152を切る。規模は長径0.46m、短径0.38m、深さ0.16mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は珠洲が出土している。

SK691（図面170）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.88m、短径0.84m、深さ0.32mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトに黄灰色粘質シルト混、第３層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK692（図面170）：平面形態は楕円形で、SK693を切り込みSP1160に切られる。規模は長径0.97m、短径0.83m、深さ0.28mを測る。覆土は第１層：暗赤褐色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混、第３層：黄灰色粘質シルト炭化物少量混となる。遺物は中世土師器（4763～4766）・珠洲が出土している。

SK693（図面170）：平面形態は隅丸長方形でSP1160に切られる。規模は長径1.53m、短径0.66m、深さ0.17mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルト、第２層：黄灰色粘質シルト炭化物混、第３層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器（4799）・瀬戸美濃（5438）が出土している。

SK694（図面170）：平面形態は不整形で、規模は長径0.66m、短径0.6m、深さ0.11mを測る。覆土は第

1層：黄灰色粘質シルト、第2層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK695（図面170）：平面形態は不整形でSP1181に切られる。規模は長径0.82m以上、短径0.8m、深さ0.18mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色粘質シルト、第2層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器・珠洲が出土している。

SK696（図面170）：平面形態は隅丸長方形で、SK697を切る。規模は長辺1.61m、短辺0.85m、深さ0.32mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルト、第2層：にぶい黄色砂質シルトに黄灰色粘質シルトブロック混、第3層：暗オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器（4767）・珠洲・白磁（4768）・八尾（4832）が出土している。

SK697（図面170）：平面形態は不整形で、SK696・SP1184に切られる。規模は長径1.31m、短径0.64m以上、深さ0.43mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は珠洲・白磁が出土している。

SK698（図面170）：平面形態は不整形で、SK699・700に切られる。規模は長径1.04m、短径0.87m以上、深さ0.25mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は中世土師器が出土している。

SK699（図面170）：平面形態は円形でSK698を切る。規模は径0.41～0.42m、深さ0.4mを測る。覆土は黄灰色粘質～砂質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4809）・砥石（40）が出土している。

SK700（図面170）：平面形態は隅丸長方形でSK699を切る。規模は長辺1.15m、短辺0.71m、深さ0.4mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルト、第2層：黒褐色粘質シルト、第3層：褐灰色粘質シルト礫混となる。遺物は中世土師器（4769～4772）・釘先（241）・砥石（48）が出土している。

SK701（図面170）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.27m、短径0.22m、深さ0.14mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は八尾が出土している。

SK702（図面170）：平面形態は不整形で、規模は長径0.35m、短径0.27m、深さ0.09mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK703（図面170）：平面形態は不整形で、規模は長径0.25m以上、短径0.21m、深さ0.25mを測る。覆土は第1層：（2.5Y5/1）黄灰色粘質シルト、第2層：（2.5Y6/1）黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK704（図面170）：平面形態は楕円形でSK705を切る。規模は長径0.73m、短径0.67m、深さ0.58mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトを基調とする。遺物は須恵器・中世土師器（4774・4775）・珠洲（4773）が出土している。

SK705（図面171）：平面形態は隅丸長方形で、SK706を切り込みSK704に切られる。規模は長辺1.4m、短辺0.89m、深さ0.4mを測る。覆土は黄灰色～黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4776～4780）が出土している。

SK706（図面171）：平面形態は不整形で、SK705・SX155に切られる。規模は長径1.31m、短径0.93m以上、深さ0.31mを測る。覆土は第1層：褐色砂質シルト、第2層：黄灰色粘質シルト礫混となる。遺物は珠洲が出土している。

SK707（図面171）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.77m、短径0.5m以上、深さ0.25mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色粘質シルト、第2層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器（4807）が出土している。

SK708（図面171）：平面形態は不整形で、規模は長径0.53m、短径0.41m、深さ0.19mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルトに褐色砂質シルト混、第2層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は中世土師

器・珠洲（4827）が出土している。

SK709（図面171）：平面形態は不整形で、規模は長径0.73m、短径0.68m、深さ0.18mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルト、第２層：黒褐色粘質シルト、第３層：暗灰黄色砂となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK710（図面171）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.05m、短径0.8m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルトに黒褐色粘質シルト混、第２層：褐色砂質シルト、第３層：にぶい黄色砂となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK711（図面171）：平面形態は不整形で、規模は長径1.26m、短径0.92m、深さ0.45mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4781・4782）が出土している。

SK712（図面171）：平面形態は不整形でSD154を切る。規模は長径0.72m、短径0.36m、深さ0.41mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルトに暗赤褐色砂質シルト混、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK713（図面171）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.28m、深さ0.33mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK714（図面171）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.29m、短径0.25m、深さ0.27mを測る。覆土は黄灰色粘質シルト炭化物少量混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK715（図面171）：平面形態は不整形でSK716を切る。規模は長径0.38m以上、短径0.34m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルトに褐色砂質シルト混、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は珠洲が出土している。

SK716（図面171）：平面形態は不整形でSK715に切られる。規模は長径1.04m以上、短径1.0m、深さ0.35mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルト、第２層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第３層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルト炭化物多量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK717（図面171）：平面形態は不整形でSD154を切る。規模は長径1.5m、短径1.35m、深さ0.51mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物は中世土師器・珠洲が出土している。

SK718（図面171）：平面形態は不整形で、規模は長径1.24m、短径0.84m、深さ0.16mを測る。覆土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトとなる。遺物は八尾が出土している。

SK719（図面171）：平面形態は円形で、規模は径1.0～1.07m、深さ0.31mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルト、第２層：黄灰色粘質シルト、第３層：黒褐色粘質シルト炭化物混となる。遺物は須恵器・珠洲が出土している。

SK720（図面171）：平面形態は不整形で、規模は長径1.42m、短径1.38m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：にぶい黄色砂に（2.5Y5/1）黄灰色粘質シルト混、第２層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混、第３層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルトに（2.5Y4/1）黄灰色粘質シルト混となる。遺物は珠洲が出土している。

SK721（図面172）：平面形態は楕円形で、SK722を切る。規模は長径0.78m、短径0.65m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：黄灰色砂質シルトに褐色砂質シルト混、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器・八尾（4833）が出土している。

SK722（図面172）：平面形態は不整形で、SK723を切り込みSK721に切られる。規模は長径1.06m以上、短径0.8m、深さ0.31mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルト、第２層：黄灰色粘質シルト、第３

層：暗褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK723（図面172）：平面形態は不整形でSK722に切られる。規模は長径1.05m以上、短径0.47m、深さ0.12mを測る。覆土は黄灰色粘質シルト炭化物少量混となる。遺物は珠洲が出土している。

SK724（図面172）：平面形態は不整形でSX162に切られる。規模は長径1.19m、短径0.69m、深さ0.44mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトに黄灰色粘質シルト混、第３層：黒褐色粘質シルト礫混となる。遺物は中世土師器・珠洲が出土している。

SK725（図面172）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.0m、短径0.85m、深さ0.24mを測る。覆土は黄灰色～黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK726（図面172）：平面形態は不整形で、規模は長径1.71m、短径0.89m、深さ0.51mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルト、第２層：黄灰色粘質シルト、第３層：黒褐色砂質シルト炭化物多量混となる。遺物は中世土師器・珠洲・不明土製品が出土している。

SK727（図面172）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.39m、短径0.3m、深さ0.19mを測る。覆土は黄灰色粘質シルト炭化物混となる。遺物は中世土師器（4804）が出土している。

SK728（図面172）：平面形態は不整形で、規模は長径0.56m、短径0.55m、深さ0.18mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルト、第２層：黄灰色粘質シルト、第３層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は認められない。

SK729（図面172）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.32m、短径0.28m以上、深さ0.2mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器（4801）・珠洲が出土している。

SK730（図面172）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.59m、短径0.45m、深さ0.19mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器・伊万里・棒状鉄製品（240）が出土している。

SK731（図面172）：平面形態は円形でSK736に切られる。規模は径0.39m程度、深さ0.37mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：にぶい黄色砂質シルトに暗褐色砂質シルトブロック混となる。遺物は瓦質土器（4793）が出土している。

SK732（図面172）：平面形態は楕円形で、SK733を切る。規模は長径0.74m、短径0.72m、深さ0.31mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルト、第２層：黒褐色粘質シルト、第３層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器・珠洲が出土している。

SK733（図面172）：平面形態は不整形でSK732に切られる。規模は長径0.95m、短径0.62m、深さ0.41mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4783）・珠洲（4784）が出土している。

SK734（図面172）：平面形態は不整形で、規模は長径0.98m、短径0.55m以上、深さ0.26mを測る。覆土は黄灰色～黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物は中世土師器が出土している。

SK735（図面172）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺1.5m、短辺0.85m、深さ0.68mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトに黒褐色粘質シルト多量混、第３層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は八尾が出土している。

SK736（図面173）：平面形態は不整形でSK731を切る。規模は長径1.53m、短径1.05m、深さ0.52mを測る。覆土は黄灰色～黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物は珠洲が出土している。

SK737（図面173）：平面形態は不整形で、規模は長径1.76m、短径1.61m、深さ0.26mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK738（図面173）：遺構の西側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径1.84m、短径1.32m

以上、深さ0.4mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は中世土師器・珠洲が出土している。

SK739（図面173）：平面形態は不整形で、規模は長径1.83m、短径1.4m、深さ0.38mを測る。覆土は第1層：褐色砂質シルト、第2層：黄灰色粘質シルト、第3層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器（4786）・八尾（4785）が出土している。

SK740（図面173）：平面形態は不整形で、規模は長径1.54m、短径1.12m、深さ0.51mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・中世土師器（4819）が出土している。

SK741（図面173）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.49m、短径0.44m、深さ0.18mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK742（図面173）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.66m、短径0.5m、深さ0.19mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルトに黒褐色粘質シルト混、第2層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂質シルトブロック混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK743（図面173）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.49m、短径0.33m、深さ0.29mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルト、第2層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂質シルト混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK744（図面173）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.64m、短径0.55m、深さ0.25mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルト、第2層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は炭化米塊が出土している。

SK745（図面173）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.59m、短径0.43m、深さ0.17mを測る。覆土は第1層：褐灰色粘質シルト炭化物混、第2層：にぶい黄褐色砂炭化物少量混となる。遺物は炭化米塊が出土している。

SK848（図面173）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.6m、短径0.3m、深さ0.35mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK849（図面173）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.08m、短径0.88m、深さ0.32mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK850（図面163）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.79m、短径0.66m、深さ0.16mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルト、第2層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は珠洲が出土している。

SK851（図面172）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.43m、短径0.3m、深さ0.23mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK855（図面161）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.45m、短径0.33m、深さ0.41mを測る。覆土は第1層：黄褐色粘質シルトににぶい黄色砂混、第2層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は鑿（239）・棒状鉄製品が出土している。

SK856（図面166）：平面形態は不整形で、規模は長径1.65m、短径0.74m、深さ0.22mを測る。覆土は第1層：にぶい黄色砂に褐色砂混、第2層：黄灰色粘質シルト礫混、第3層：黄灰色粘質シルトに黒褐色粘質シルト混となる。遺物は砥石（41）が出土している。

SK857（図面164）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.88m、短径0.67m、深さ0.08mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトの単層となる。遺物は菱形金具（266）・環状鉄製品（278）が出土している。

SK858（図面173）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長径2.18m、短径1.22m、深さ0.34mを測る。覆

土は第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルトに (2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルト酸化鉄、炭化物混、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルト、第３層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂炭化物混となる。遺物は曲物底板 (02) が出土している。

SK860 (図面173)：平面形態は円形で、規模は径0.4m、深さ0.12mを測る。覆土は第１層：灰色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は炭化材が出土している。

大型土坑

SX090 (図面174)：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺3.68m、短辺2.22m、深さ0.3mを測る。覆土は暗灰黄色シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器 (4834・4835)・珠洲が出土している。

SX091 (図面174)：平面形態は不整形でSD141に切られる。規模は長径2.64m、短径1.7m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：暗オリーブ褐色シルト炭化物混、第２層：黄褐色砂となる。遺物は土師器・中世土師器・砥石 (44) が出土している。

SX092 (図面174)：平面形態は不整形でSK532に切られ、東側は調査区外となる。規模は長径2.23m以上、短径1.92m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：褐色砂、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルト、第３層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX093 (図面174)：平面形態は不整形でSX094に切られる。規模は長径2.7m、短径1.22m以上、深さ0.42mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・中世土師器・珠洲が出土している。

SX094 (図面174)：平面形態は不整形でSX093を切る。規模は長径2.52m、短径2.01m、深さ0.47mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトを基調とする。遺物は須恵器・中世土師器・珠洲が出土している。

SX095 (図面174)：平面形態は不整形で、規模は長径2.55m、短径1.54m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色粘質シルト、第２層：暗灰黄色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器 (4839)・珠洲・銅銭 (003・018)・が出土している。

SX096 (図面174)：平面形態は隅丸長方形でSX097を切る。規模は長辺3.04m、短辺2.12m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：暗灰黄色粘質シルトとなる。遺物は土師器・中世土師器・珠洲が出土している。

SX097 (図面174)：平面形態は不整形でSX096に切られる。規模は長径2.78m以上、短径2.59m、深さ0.42mを測る。覆土は第１層：(2.5Y4/2) 暗灰黄色粘質シルト炭化物少量混、第２層：(2.5Y4/2) 暗灰黄色粘質シルトににぶい黄色砂・炭化物少量混となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲 (4840)・小皿状鉄製品 (271) が出土している。

SX098 (図面175)：東側は調査区外となる。平面形態は不整形でSD141に切られる。規模は長径6.81m、短径3.41m以上、深さ0.52mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器 (4836)・珠洲 (4837・4838) が出土している。

SX099 (図面175)：東側が調査区外となる不整形の土坑で、SX100に切られる。規模は長径2.94m以上、短径2.1m以上、深さ0.54mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色粘質シルト炭化物混、第２層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器 (5002) が出土している。

SX100 (図面175)：平面形態は不整形で、SX099を切り込みSK541に切られる。規模は長径5.14m以上、短径2.18m以上、深さ0.7mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器 (4842・4843)・珠洲が出土している。

SX101（図面175）：東側が調査区外となる不整形の土坑で、SX100を切りSD155に切られる。規模は長径12.2m、短径5.28m、深さ0.6mを測る。覆土は黄灰色粘質シルト礫多量に混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4859～4861）・珠洲（4862～4875）・八尾（4876）・青磁（5622）・瀬戸美濃（5444）・伊万里・刀子（267）・地輪（76）・空風輪（78）・火輪（79）・石臼（81）が出土している。

SX102（図面176）：平面形態は不整形で、規模は長径2.21m、短径1.51m、深さ0.21mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は中世土師器・銅銭（013）が出土している。

SX103（図面176）：平面形態は長楕円形で、規模は長径3.24m、短径1.3m、深さ0.11mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲が出土している。

SX104（図面176）：平面形態は不整形で、規模は長径4.15m、短径3.73m、深さ0.47mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする５層から構成される。遺物は土師器・須恵器・珠洲が出土している。

SX105（図面176）：平面形態は不整形で、規模は長径6.4m、短径2.34m、深さ0.1mを測る。覆土は褐色砂のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲がある。

SX106（図面176）：平面形態は不整形で、規模は長径4.13m、短径1.78m、深さ0.24mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器・中世土師器（5001）・珠洲（4841）が出土している。

SX107（図面176）：平面形態は不整形で、SX108を切り込みSX106に切られる。規模は長径2.52m、短径2.29m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：暗オリーブ褐色シルト、第２層：黄褐色砂質シルト、第３層：暗灰黄色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器が出土している。

SX108（図面176）：平面形態は不整形で、SK555・SX106・107に切られる。規模は長径3.33m、短径2.77m、深さ0.65mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・八尾が出土している。

SX109（図面177）：平面形態は不整形でSK544に切られる。規模は長径10.3m、短径1.9m、深さ0.1mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SX110（図面177）：平面形態は不整形で、規模は長径6.28m、短径2.2m、深さ0.1mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SX111（図面177）：平面形態は不整形でSD156を切る。規模は長径9.2m、短径5.14m、深さ0.96mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4992）・珠洲・八尾が出土している。

SX112（図面178）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺3.1m程度、短辺2.8m、深さ0.44mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色砂質シルト、第２層：暗灰黄色砂質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器・中世土師器（4998）が出土している。

SX113（図面178）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺3.2m、短辺2.7m、深さ0.15mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色砂質シルト、第２層：黄灰色シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4844・4845）が出土している。

SX114（図面178）：平面形態は隅丸長方形でSD156と切り合う。規模は長辺4.12m、短辺3.4m、深さ0.5mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は棒状鉄製品（234～236）・刀子（237）・半楕円状鉄製品（238）・柱根（03）・板材（04・05）・近世戸車が出土している。

SX115（図面178）：平面形態は不整形で、SX116・173を切る。規模は長径6.13m、短径2.1m、深さ

0.63mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト礫混、第２層：黒褐色粘質シルト礫多量混となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4877～4879）・珠洲（4883～4886）・八尾（4880～4882）・青磁（5594）が出土している。

SX116（図面178）：平面形態は不整形でSX115に切られる。規模は長径2.11m、短径1.53m以上、深さ0.21mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。遺物は珠洲が出土している。

SX117（図面179）：平面形態は不整形で、規模は長径3.32m、短径1.04m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：暗灰黄色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SX118（図面179）：平面形態は不整形でSX173を切る。規模は長径2.95m、短径2.36m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器が出土している。

SX119（図面179）：平面形態は隅丸長方形でSD158を切る。規模は長辺3.17m、短辺1.66m、深さ0.24mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX120（図面179）：平面形態は不整形で、規模は長径1.81m、短径1.78m、深さ0.11mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：褐色砂となる。遺物は土師器が出土している。

SX121（図面179）：平面形態は不整形でSD145に切られる。規模は長径4.12m以上、短径1.17m、深さ0.11mを測る。覆土は第１層：褐色砂、第２層：褐色砂に暗灰黄色粘質シルト混、第３層：暗灰黄色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SX122（図面179）：土坑内には石列が見られる。平面形態は不整形で、規模は長径2.31m、短径2.3m、深さ0.25mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4846）・珠洲・八尾・瀬戸美濃（4847）・瓦質土器・角釘（276）・鉄滓（277）・石臼（80）が出土している。

SX123（図面180）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺4.3m、短辺2.9m、深さ0.3mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・鉄滓（270）が出土している。

SX124（図面180）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺3.09m、短辺1.12m、深さ0.57mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：暗灰黄色粘質シルト、第３層：黄褐色砂となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・陶磁器・青磁（5005）が出土している。

SX125（図面180）：平面形態は長楕円形で、SK572・SD145を切り込みSK568～571に切られる。規模は長径5.16m、短径1.56m、深さ0.4mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4848）・中国陶磁（4849）が出土している。

SX126（図面180）：平面形態は長楕円形で、規模は長径2.54m、短径1.06m、深さ0.73mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4991）が出土している。

SX127（図面180）：平面形態は長楕円形で、規模は長径3.0m、短径1.2m、深さ0.41mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（5000）・珠洲・「し」字状細板鉄製品（274）が出土している。

SX128（図面180）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長径2.31m、短径1.22m、深さ0.47mを測る。覆土は黄褐色～暗灰黄色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4850～4853）・八尾（4854）・珠洲が出土している。

SX129（図面181）：平面形態は不整形で、土坑内には石列が見られる。SX130・SD158に切られ、規

模は長径7.88m以上、短径4.08m、深さ0.64mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4855）・八尾・瓦質土器（4856）が出土している。

SX130（図面181）：平面形態は隅丸長方形でSX129を切る。規模は長辺3.9m、短辺3.0m、深さ0.56mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト酸化鉄混、第２層：黄灰色粘質シルト、第３層：暗オリーブ褐色シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4857・4858）・珠洲・棒状鉄製品（265）が出土している。

SX131（図面181）：平面形態は不整形でSD158に切られる。規模は長径7.5m、短径1.9m以上、深さ0.58mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲（5007）・越前が出土している。

SX132（図面182）：平面形態は不整形でSD158を切る。規模は長径4.24m、短径3.03m以上、深さ0.73mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・珠洲が出土している。

SX133（図面182）：平面形態は長楕円形で、規模は長径2.07m、短径0.54m、深さ0.15mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器・珠洲が出土している。

SX134（図面182）：平面形態は長楕円形で、規模は長径2.22m、短径0.73m、深さ0.07mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：灰黄色粗砂酸化鉄混、第３層：黒褐色粘質シルト酸化鉄混となる。遺物は土師器・須恵器・唐津が出土している。

SX135（図面182）：平面形態は長楕円形でSX136を切る。規模は長径2.22m、短径1.07m、深さ0.15mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器がある。

SX136（図面182）：平面形態は不整形でSX135に切られる。規模は長径2.24m、短径1.69m、深さ0.28mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX137（図面182）：平面形態は隅丸長方形で、SX175・SD160を切る。規模は長辺5.74m、短辺4.54m、深さ0.86mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト礫混の単層となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4887）・青磁（4888・4889・5602）・伊万里（4890～4893）・越中瀬戸（4894・4896・4897）・越中丸山（4895）・珠洲（4899～4901）・土製品（4898）・又鍬状鉄製品（261）・包丁（262）・棒状鉄製品（263）・バックル状銅製品（264）が出土している。

SX138（図面182）：平面形態は長楕円形でSD147をる。規模は長径4.03m、短径1.82m、深さ0.44mを測る。覆土は第１層：（2.5Y5/1）黄灰色粘質シルト礫混、第２層：（2.5Y4/1）黄灰色粘質シルト、第３層：暗灰黄色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲（4904・4905）・青磁（4902・4903）が出土している。

SX139（図面183）：平面形態は楕円形で、規模は長径2.78m、短径1.38m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：黄灰色シルト、第２層：暗灰黄色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・珠洲が出土している。

SX140（図面183）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺4.2m、短辺3.5m、深さ0.42mを測る。覆土は暗灰黄色～黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・八尾（4906・4907）が出土している。

SX141（図面183）：平面形態は隅丸方形で、SX140・SD150に切られる。規模は一辺3.5～3.9m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：暗オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器が出土している。

SX142（図面183）：平面形態は円形で、規模は径1.83m、深さ0.24mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は珠洲が出土している。

SX143（図面183）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺2.63m、短辺1.1m、深さ0.36mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトを基調とする。遺物は須恵器・珠洲が出土している。

SX144（図面184）：平面形態は不整形で、規模は長径2.37m、短径2.24m、深さ0.9mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルト、第2層：灰色粘質シルト礫多量混となる。遺物は土師器・珠洲・八尾・瀬戸美濃（5010）が出土している。

SX145（図面184）：平面形態は不整形で、SD154を切り込みSK631に切られる。規模は長径2.65m、短径2.59m、深さ0.75mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4993）・珠洲が出土している。

SX146（図面184）：東側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径5.52m、短径4.3m以上、深さ0.58mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4999）・珠洲・瀬戸美濃（5454）・青磁（5598）が出土している。

SX147（図面185）：平面形態は不整形でSK657を切る。規模は長径4.99m、短径4.09m、深さ0.14mを測る。覆土は灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・珠洲・八尾・瀬戸美濃（5006）が出土している。

SX148（図面185）：平面形態は不整形でSP1120に切られる。規模は長径6.14m、短径5.56m、深さ0.62mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・中世土師器（4908～4910）・珠洲（4911～4916）・八尾・瀬戸美濃が出土している。

SX149（図面185）：平面形態は隅丸長方形で、SK669・SX163に切られる。規模は長辺5.24m、短辺3.44m、深さ0.32mを測る。覆土は第1層：（2.5Y5/1）黄灰色シルト、第2層：（2.5Y4/1）黄灰色シルト、第3層：暗灰黄色シルトに分層される。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4933・4934）・珠洲（4936）が出土している。

SX150（図面186）：内部に石列が見られる隅丸長方形の土坑で、SX151・152を切る。規模は長辺4.3m、短辺2.64m、深さ0.62mを測る。覆土は第1層：（2.5Y5/1）黄灰色粘質シルトに炭化物混、第2層：（2.5Y4/1）黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂・炭化物・酸化鉄混、第3層：（2.5Y4/1）黄灰色粘質シルトに黒褐色砂・酸化鉄混となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（4937～4941・4943～4945））・珠洲（4848・4849）・八尾（4946・4947）・瀬戸美濃（4942・5443）・青磁（5603）・白磁（5607）が出土している。

SX151（図面186）：平面形態は不整形で、土坑内には石列が見られる。SD154を切り込み、SX150に切られる。規模は長径4.88m、短径0.35m、深さ0.68mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は須恵器・中世土師器（4917～4928）・珠洲（4930～4932）・八尾・瀬戸美濃（4929・5439）・鉄製品（255～260）・砥石（49）が出土している。

SX152（図面186）：石列が見られる不整形の土坑でSX150に切られる。規模は長径5.68m、短径5.5m、深さ0.54mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は須恵器・中世土師器（4950～4953）・珠洲（4955～4958）・八尾・瀬戸美濃（4954）・瓦質土器・砥石（46）が出土している。

SX153（図面187）：平面形態は隅丸長方形で、SD154を切り込みSX154に切られる。規模は長辺2.86m、短辺1.81m、深さ0.36mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物は須恵器・中世土師器（4959～4961）・珠洲（4962）・八尾・瓦質土器が出土している。

SX154（図面187）：平面形態は不整形でSX153を切る。規模は長径2.74m、短径2.08m、深さ0.36mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器・中世土師器（4963～4966）・珠洲（4967）・釘（246）が出土している。

SX155（図面187）：平面形態は長楕円形で、規模は長径2.31m、短径0.87m、深さ0.28mを測る。覆土は黄灰色～暗赤灰色粘質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4995）が出土している。

SX156（図面187）：平面形態は長楕円形で、規模は長径1.93m、短径0.77m、深さ0.4mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色砂質シルトとなる。遺物は珠洲（5012）が出土している。

SX157（図面187）：平面形態は不整形でSD152と切りあう。規模は長径2.4m以上、短径2.14m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：（2.5Y5/1）黄灰色粘質シルト、第２層：（2.5Y5/1）黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混、第３層：（2.5Y4/1）黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・珠洲（5009）が出土している。

SX158（図面187）：南側は調査区外となりSD154を切り込む。平面形態は不整形で、規模は長径4.8m、短径1.64m以上、深さ0.38mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：暗灰黄色粘質シルト礫多量混となる。遺物は中世土師器・珠洲・八尾・瀬戸美濃（4972）が出土している。

SX159（図面188）：平面形態は不整形で、規模は長径2.38m、短径1.68m、深さ0.4mを測る。覆土は第１層：（2.5Y5/1）黄灰色粘質シルト、第２層：暗灰黄色粘質シルト、第３層：（2.5Y4/1）黄灰色粘質シルト炭化物・酸化鉄混となる。遺物は須恵器・珠洲（4968）が出土している。

SX160（図面188）：平面形態は不整形で、規模は長径3.62m、短径2.05m、深さ0.43mを測る。覆土は灰色粘質シルト礫多量混のみの単層となる。遺物は中世土師器・珠洲・唐津が出土している。

SX161（図面188）：平面形態は不整形で、規模は長径5.88m、短径1.78m、深さ0.42mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・珠洲・八尾が出土している。

SX162（図面188）：平面形態は不整形でSK724を切る。規模は長径4.76m、短径1.56m、深さ0.34mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器・珠洲（4969・4971）・唐津（4970）が出土している。

SX163（図面189）：平面形態は不整形でSX149を切る。規模は長径3.65m、短径3.42m、深さ0.46mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・中世土師器（4973～4975）・珠洲が出土している。

SX164（図面189）：東側は調査区外となる。平面形態は不整形で、SK681・682・684に切られる。規模は長径4.33m、短径2.5m以上、深さ0.55mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする。遺物は中世土師器が出土している。

SX165（図面189）：土坑内に２列の石列を検出した。平面形態は不整形で、SK715・716に切られる。規模は長径5.53m、短径5.16m、深さ0.56mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は中世土師器（4994）・珠洲が出土している。

SX166（図面190）：西側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径9.92m、短径1.78m以上、深さ0.66mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルト礫混となる。遺物は須恵器・中世土師器（4976・4977）・珠洲（4981～4990）・八尾・瀬戸美濃（4978・5449）・唐津・瓦質土器（4980）・土製品（4979）・水輪（75）・空風輪（77）が出土している。

SX167（図面190）：平面形態は不整形でSK661を切る。規模は長径9.4m、短径3.28m、深さ0.7mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（5015）・珠洲

(5016)・近世陶磁器が出土している。

SX168（図面190）：平面形態はL字形でSK671を切る。規模は長径9.7m、短径2.38m、深さ0.5mを測る。覆土は灰色粘質シルト礫多量混のみの単層となる。遺物は須恵器・珠洲（5011）・八尾・石臼（82）が出土している。

SX169（図面191）：南側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径7.9m以上、短径1.6m以上、深さ0.34mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする6層からなる。遺物は中世土師器が出土している。

SX170（図面191）：南側は調査区外となる。平面形態は不整形でSX171を切る。規模は長径5.01m以上、短径1.84m以上、深さ0.5mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト礫多量混、第3層：暗灰黄色砂質シルト礫多量混、第4層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂、礫混となる。遺物は中世土師器（5017・5018）・珠洲・砥石（43）が出土している。

SX171（図面191）：平面形態は不整形でSX170に切られる。規模は長径5.39m以上、短径2.56m以上、深さ0.64mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は珠洲が出土している。

SX172（図面191）：平面形態は隅丸方形で、人頭大の石列が1.5m×1.2mの方状に3段積まれている。規模は一辺1.16～1.2m、深さ0.52mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルト酸化鉄・礫混、第2層：暗灰黄色粘質シルトとなる。出土遺物は土製品（5035）が認められる。

SX173（図面192）：不整形な落ちくぼみ状の遺構で、SK597・SX115・118に切られる。規模は長径13.65m、短径11.8m、深さ0.56mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（5019～5028）・珠洲・瀬戸美濃・砥石（42）が出土している。

SX174（図面192）：平面形態は不整形で、SD160を切り込みSD149に切られる。規模は長径16.75m、短径7.16m以上、深さ0.88mを測る。覆土は黄灰色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（5029～5033）・珠洲（5034）・青磁（5599）・八尾・瀬戸美濃が出土している。

SX175（図面192）：平面形態は不整形で、SX137・SD152に切られる。規模は長径11.24m以上、短径6.74m、深さ0.5mを測る。覆土は黄灰色粘質シルト～にぶい黄色砂を基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（5036～5038）・珠洲（5040～5044）・瀬戸美濃（5039）が出土している。

溝

SD133（図面194）：B10地区から続くコの字形の区画溝と考えられる。東西に延び、南方向に折れるL字形をしている。南端はSD144に切られ、SD155と合流して消失している。推定される長さは東辺24.0m、西辺23.0m、北辺47.0m（B10地区含む）、最大幅4.2m、最大深1.18mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションで黄灰色粘質シルトを基調とする6層から構成され、bセクションで黒褐色粘質シルトを基調とする5層から構成され、cセクションでは暗灰黄色粘質シルトを基調とする6層から構成される。dセクションで第1層：黄灰色粘質シルト炭化物少量混、第2層：暗灰黄色粘質シルト炭化物少量混、第3層：暗灰黄色粘質シルトににぶい黄色砂礫多量混となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器（5045～5053）・珠洲（5054～5058）・八尾・瓦質土器（5059）が認められる。

SD138（図面193）：調査区北側を東西に途切れて延びる不連続な溝で、調査区外に続く。確認できる長さは11.3m、最大幅0.75m、最大深0.37mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：暗灰黄色シルト、第2層：暗オリーブ褐色シルトとなる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲

(5062) が認められる。

SD139（図面193）：SD138の南側に併走する。東西方向に途切れて延びる不連続な溝であり、調査区外に続く。確認できる長さは13.3m、最大幅0.75m、最大深0.37mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションで第１層：黄褐色砂質シルト、第２層：黒色シルト、第３層：暗灰黄色シルトとなり、bセクションで暗灰黄色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD140（図面193）：調査区北東端付近で東西に延びる小溝である。西端は消失し、東端は調査区外に続く。確認できる長さは2.3m、最大幅0.9m、最大深0.24mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器・越中瀬戸が認められる。

SD141（図面193）：平面形態は直線的で、東西に延びる。西端は消失し、東端は調査区外に続く。確認できる長さは9.25m、最大幅0.90m、最大深0.39mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：暗灰黄色シルト、第２層：にぶい黄色粗砂となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器・青磁（5601）が認められる。

SD142（図面193）：平面形態は直線的で、南北に延びる。両端とも消失している。長さ4.8m、最大幅0.9m、最大深0.14mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は中世土師器・珠洲が認められる。

SD143（図面193）：平面形態は直線的で、南北に延びる。両端とも消失している。長さ6.4m、最大幅1.4m、最大深0.14mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄灰色砂質シルト大礫多量混の単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲（5060・5061）が認められる。

SD144（図面193）：軽い円弧を描いて東西に延び、両端とも消失している。SD133・158を切り込む。長さ7.1m、最大幅0.8m、最大深0.49mを測る。断面形態はU字形～不整形を呈し、覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD145（図面193）：平面形態は直線的で、東西に延びる。西端はSD158に切られ、東端は消失している。途中SD146・161を切り込み、SX125に切られる。確認できる長さは30.0m、最大幅0.95m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa、bセクションとも第１層：黄灰色粘質シルトに褐色砂がマダラに混、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。出土遺物は中世土師器・白磁（5610）・珠洲が認められる。

SD146（図面193）：平面形態は直線的で、南北に延びる。両端とも消失している。SD145に切り込まれる。長さ6.3m、最大幅0.8m、最大深0.06mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD147（図面193）：平面形態は直線的で、東西に延びる。東端は消失し、西端はSX138に切られる。SD159を切り込む。確認できる長さは3.9m、最大幅0.4m、最大深0.19mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD148（図面193）：平面形態は直線的で、北端はSD158に切られ、南端はSX174に切られる。確認できる長さは4.0m、最大幅0.95m、最大深0.14mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：暗灰黄色粘質シルト、第２層：にぶい黄色砂に暗灰黄色粘質シルト混となる。出土遺物は環状鉄製品（279）が認められる。

SD149（図面193）：平面形態は不整形な溝で、SX174を切り込み、西端は消失している。南端はSD160に切られる。確認できる長さは19.7m、最大幅5.1m、最大深0.44mを測る。断面形態はU字形を呈し、

覆土は第１層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルト炭化物少量混、第２層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト炭化物少量混となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器・珠洲（4935）・八尾（5110）・瀬戸美濃・砥石（45）が認められる。

SD150（図面193）：平面形態は直線的で東西に延びる。西端はSX141を切り込み消失し、東端はSE05を切り込み消失している。長さ9.7m、最大幅0.6m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションで灰色粘質シルトの単層となり、bセクションで第１層：(５Y5/1) 灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y6/1) 灰色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器が認められる。

SD151（図面193）：平面形態は直線的で、東西に延びる。両端とも消失している。確認できる長さは6.0m、最大幅0.9m、最大深0.22mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションで第１層：黄灰色粘質シルトに暗赤褐色粘質シルト混、第２層：黄灰色粘質シルト、bセクションでは黄灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器・青磁（5595）・白磁が認められる。

SD152（図面193）：平面形態は直線的で、東西に延びる。西端はSX157と切り合い合流し、東端は消失している。確認できる長さは7.45m、最大幅0.8m、最大深0.21mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は第１層：灰色粘質シルト、第２層：褐色砂に黄灰色粘質シルト混となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器・八尾が認められる。

SD153（図面193）：調査区の南西端に南北に延びる直線的な溝である。北端は消失し、南側調査区外に続く。確認できる長さは3.6m、最大幅0.7m、最大深0.2mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。出土遺物は中世土師器・唐津が認められる。

SD154（図面193）：調査区南東側を北東から南西方向に途切れながら不連続に延びる。北東端は消失し、南西端はSX158に切られる。途中SX151・153・154に切られる。確認できる長さは23.6m、最大幅0.6m、最大深0.48mを測る。断面形態はU字形～不整形を呈し、覆土はa，bセクションで第１層：黒褐色粘質シルトに黄灰色粘質シルト混、第２層：黄灰色粘質シルト、第３層：黒褐色粘質シルトとなり、c，dセクションでは第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂ブロック混、第３層：暗オリーブ褐色粘質シルト、eセクションでは第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：暗オリーブ褐色粘質シルトとなる。出土遺物は中世土師器・珠洲（5112）・瀬戸美濃（5111）・瓦質土器が認められる。

SD155（図面194）：平面形態は直線的で、東西に延びる。東端は消失し、西端はSD133と切り合い合流している。確認できる長さは8.6m、最大幅1.2m、最大深0.62mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：褐色砂に黄灰色粘質シルト混、第２層：黄灰色粘質シルト、第３層：黄灰色粘質シルトに黄灰色砂混となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器（5104）・珠洲が認められる。

SD156（図面194・195）：平面形態は不整形な溝で、東西に延びる。西端はSX114に合流しており、東端は消失している。途中SX111に切られる。確認できる長さは24.1m、最大幅3.7m、最大深0.56mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はaセクションではオリーブ褐色砂質シルトを基調とする４層から構成され、bセクションでは黄灰色粘質シルトを基調とする５層から構成され、cセクションでは第１層：黄灰色粘質シルトに褐色砂混、第２層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器（5099～5101）・珠洲（5103）・青磁（5102）が認められる。

SD157（図面194・195）：平面形態は直線的でSD156の南側を東西に延びる。東端は消失し、西端はSD158に切られる。確認できる長さは10.8m、最大幅0.5m、最大深0.35mを測る。断面形態はU字形を

呈し、覆土はbセクションで第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト混、第２層：灰黄褐色粘質シルト炭化物少量混、cセクションで第１層：黄灰色粘質シルト、第２層：灰黄褐色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器・須恵器・珠洲（5113・5114）・八尾が認められる。

SD158（図面194～196）：平面形態は方形の区画溝である。区画内部は、遺構が希薄で、建物も認められず、僅かに土抗が認められるだけである。SD133、SD145、SD148、を切り、南東隅ではSD159と合流している。南西端ではSX132に切り込まれる。長さは東辺25.0m、西辺28.0m、南辺25.0m、北辺32.0mの規模で、最大幅3.9m、最大深0.9mを測る。断面形態はU字形を呈す。また、SD158の囲いの東側の溝からは囲いの出入口と考えられる、土橋状の石列が２列検出されている。底から0.7mほど上方に位置し40㎝大の大型の礫を配する。下方には土が充填されている。覆土はbセクション第１層：黄灰色粘質シルト炭化物混、第２層：暗灰黄色粘質シルトとなり、cセクションでは第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y6/1) 黄灰色粘質シルト、第３層：暗灰黄色粘質シルトとなり、dセクションでは第１層：黄灰色粘質シルトに褐色砂混、第２層：黄灰色粘質シルト炭化物礫混、第３層：暗灰黄色シルト質粘土となる。eセクションでは暗灰黄色粘質シルトを基調とする４層から構成され、fセクションでは暗灰黄色粘質シルトを基調とする７層から構成される。gセクションで第１層：暗灰黄色シルト、第２層：黄灰色粘質シルト鉄分混、hセクションでは黒褐色粘質シルト礫混を基調とする４層から構成され、iセクションでは黄灰色粘質シルトを基調とする４層から構成され、jセクションでは黄灰色粘質シルトを基調とする４層から構成される。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器（5063～5083）・珠洲（5091～5098）・八尾（5084）・瀬戸美濃（5086・5087）・青磁（5085）・白磁・瓦質土器（5088～5090）・環状鉄製品（280）・砥石（47）が認められる。

SD159（図面196）：区画溝のSD158に伴う溝と考えられ、平面形態は直線的で東西に延びる。西端はSD158と切り合い合流しており、東端は調査区外に続く。SD147に切り込まれる。確認できる長さは21.0m、最大幅2.35m、最大深0.41mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションで黄灰色粘質シルトの単層となり、bセクションで第１層：黄灰色粘質シルトに褐色砂混、第２層：黄灰色粘質シルトににぶい黄色砂混、第３層：黄灰色粘質シルト、cセクションでは第１層：灰黄褐色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器・中世土師器・瓦質土器（5115）が認められる。

SD160（図面196）：東西にゆるく蛇行しながら延び、東側調査区外に続く。東端はSX174に切られる。途中SD149を切り、SK622に切られる。確認できる長さは34.5m、最大幅1.5m、最大深0.33mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションで第１層：(2.5Y5/1) 黄灰色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/1) 黄灰色粘質シルト、bセクションで第1層：黒褐色粘質シルト炭化物少量混、第２層：黄灰色粘質シルト炭化物少量混となり、cセクションで黄灰色粘質シルトを基調とす４層から構成される。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器（5105～5108）・珠洲・八尾・瀬戸美濃（5109）が認められる。

SD161（図面196）：平面形態は軽い円弧を描き、南北に延びる。両端とも消失している。長さ6.4m、最大幅0.37m、最大深0.13mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：暗灰黄色粘質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD162（図面196）：平面形態は不整形な東西に延びる小溝である。両端とも消失している。長さ4.3m、最大幅0.73m、最大深0.19mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

B13地区

掘立柱建物

SB099－SP1185～1194（図面208）：建物の東側は調査区外に続く。建物の規模は、梁行３間（9.5m）、桁行３間以上（8.0m～）の総柱建物である。棟方向はN18°Eで、検出された床面積は82.7㎡。柱間距離は、梁行3.0～3.2m、桁行2.8mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.36～0.85m、深さ0.2～0.42mを数える。柱穴内覆土は黒色粘質シルトを基調とする。遺物はSP1193で土師器が出土している。

SB100－SP1195～1205（図面209）：調査区北端に位置し、調査区外に続き、SB101と配置が重複する。建物の規模は、梁行３間（7.6m）、桁行３間以上（8.2m～）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN24°Eで、検出された床面積は62.3㎡。柱間距離は、梁行2.48～2.55m、桁行3.1～3.4mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.25～0.72m、深さ0.12～0.36mを数える。柱穴内覆土は黒色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB101－SP1206～1219（図面209）：SB100と配置が重複する。建物の規模は、梁行２間（5.7m）、桁行４間（6.3～6.32m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN71°Wで、床面積は36.0㎡。柱間距離は、梁行2.8m、桁行2.3～2.35mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.28～0.6m、深さ0.07～0.29mを数える。柱穴内覆土は黒色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB102－SP1220～1237（図面210）：SB103と建物配置が一部重複する。建物の規模は、梁行３間（8.2～8.5m）、桁行４間（10.2～10.3m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN83°Wで床面積は87.6㎡。柱間距離は、梁行2.8～3.0m、桁行2.6mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.32～0.94m、深さ0.18～0.38mを数える。柱穴内覆土は黒色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB103－SP1238～1272（図面211）：SB102・104・105と建物配置が重複する。SP1270とSP1288の重複関係から、SB104の方が新しい。SB103の東側にSX183が位置するが、SX183は建物よりも更に東側へと延びる。建物の規模は、梁行５間（11.4～11.5m）、桁行５間（12.1m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN16°Eで、床面積は139.2㎡。柱間距離は、梁行2.1～2.5m、桁行2.1～2.8mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.3～1.15m、深さ0.12～0.55mを数える。柱穴内覆土は黒色粘質シルトを基調とする。遺物はSP1238で土師器・須恵器、SP1239・1247・1251で土師器、SP1252で珠洲（5234）が出土している。

SB104－SP1271～1303（図面212）：SB103・105・106・109と配置が重複する。柱穴の重複関係からSB103に先行し、SB106に後続する建物である。建物規模は、梁行５間（12.1～12.2m）、桁行５間（12.8m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN24°Eで、床面積は156.2㎡。柱間距離は、梁行2.4～2.5m、桁行2.4～2.65mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.25～1.12m、深さ0.13～0.55mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP1285で珠洲（5231）、SP1286で中世土師器（5236）、SP1298で珠洲（5232）が出土している。

SB105－SP1278～1280・1304～1312（図面213）：SB103・104と配置が重複する。建物規模は、梁行桁行ともに３間（7.52m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN24°Eで床面積は56.6㎡。柱間距離は、梁行2.5m、桁行2.4～2.6mである。柱穴形態は楕円～不整形で、径0.28～0.94m、深さ0.26～0.52mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB106－SP1313～1321（図面213）：SB104と配置が重複する。建物の規模は、梁行２間（4.8m）、桁

行2間（5.2m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN27°Eで床面積は25.0㎡。柱間距離は、梁行2.4m、桁行2.55～2.6mである。柱穴形態は楕円～隅丸方形で、径0.35～0.79m、深さ0.23～0.35mを数える。柱穴内覆土は黒色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB107－SP1322～1331（図面214）：調査区の西壁際に位置し、調査区外に続く。SB108と配置が重複する。建物の規模は、梁行3間（8.05m）、桁行3間以上（6.3m～）の総柱建物で、棟方向はN75°W、検出された床面積は50.7㎡となる。柱間距離は、梁行2.6～2.7m、桁行2.45～2.5mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.36～1.06m、深さ0.25～0.45mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルト～黒色粘質シルトを基調とする。遺物はSP1326で土師器が出土している。

SB108－SP1332～1343（図面214）：SB107と配置が重複する。建物の規模は、梁行2間（5.9～5.95m）、桁行3間（7.8～7.9m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN80°W、床面積は47.0㎡。柱間距離は、梁行2.9～3.0m、桁行2.51～2.7mである。柱穴形態は楕円～不整形で、径0.32～0.9m、深さ0.16～0.4mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルト～黒色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB109－SP1272・1293・1344～1356（図面215）：SB104と配置が重複する。建物の規模は、梁行2間（5.3m）、桁行4間（9.7～9.75m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN13°E、床面積は51.7㎡。柱間距離は、梁行2.6～2.65m、桁行2.3～2.5mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.28～0.95m、深さ0.16～0.5mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルト～黒色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB110－SP1357～1365（図面215）：建物の規模は、梁行2間（4.8～4.9m）、桁行2間（5.15～5.2m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN63°Wで、床面積は25.5㎡。柱間距離は、梁行2.4～2.45m、桁行2.55～2.65mである。柱穴形態は楕円～不整形で、径0.35～0.78m、深さ0.14～0.43mを数える。柱穴内覆土は黒色粘質シルトを基調とする。遺物はSP1358で中世土師器が出土している。

SB111－SP1366～1379（図面216）：調査区北東部に位置し、東壁調査区外に続く。SB112・114と配置が重複する。建物の規模は、梁行4間（10.3m）、桁行3間以上（7.05m～）の総柱建物で、棟方向はN11°E、検出された床面積は72.6㎡である。柱間距離は、梁行2.5～2.6m、桁行2.4mである。柱穴形態は円～隅丸長方形で、径0.26～1.14m、深さ0.13～0.55mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルト～黒色粘質シルトを基調とする。遺物はSP1368で土師器・須恵器が出土している。

SB112－SP1380～1386（図面216）：SB111と配置が重複する。建物の規模は、梁行桁行ともに2間（5.05m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN10°E、床面積は25.5㎡となる。柱間距離は、梁行桁行ともに2.5mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.34～0.82m、深さ0.2～0.36mを数える。柱穴内覆土は黒色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB113－SP1387～1393（図面217）：建物の規模は、梁行2間（4.5m）、桁行2間（4.6～4.64m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN73°Wで、床面積は20.9㎡。柱間距離は、梁行2.25～2.35m、桁行2.25～2.38mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.46～0.67m、深さ0.13～0.43mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP1390で土師器・瀬戸美濃、SP1391で土師器・中世土師器（5235）が出土している。

SB114－SP1394～1403（図面217）：SB111・115と配置が重複する。建物の規模は、梁行2間（6.05m）、桁行3間（6.95m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN75° W、床面積は42.0

㎡。柱間距離は、梁行3.05m、桁行2.3mである。柱穴形態は楕円形で、径0.42～0.91m、深さ0.16～0.44mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルト～黒色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB115－SP1397～1399・1401・1402・1404～1406（図面218）：SB114と配置が重複する。建物の規模は、梁行２間（4.8m）、桁行２間（5.42m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN11°E、床面積は26.0㎡。柱間距離は、梁行2.4m、桁行2.7～2.75mである。柱穴形態は楕円形で、径0.31～0.91m、深さ0.24～0.45mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB116－SP1407～1412（図面218）：建物の規模は、梁行１間（1.8m）、桁行２間（3.05m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN87°Wで、床面積は5.5㎡。柱間距離は桁行1.5mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.27～0.87m、深さ0.1～0.21mを数える。柱穴内覆土は黒褐色～オリーブ褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB117－SP1413～1424（図面218）：建物の規模は、梁行２間（5.0m）、桁行３間（6.8m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN82°Wで、床面積は34.0㎡。柱間距離は、梁行2.4～2.55m、桁行2.2～2.3mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.36～0.86m、深さ0.2～0.47mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP1415で土師器が出土している。

SB118－SP1425～1432（図面219）：建物の規模は、梁行１間（2.1m）、桁行３間（4.9m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN86°Eで床面積は10.3㎡。柱間距離は桁行1.25～2.1mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.24～0.65m、深さ0.06～0.35mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB119－SP1433～1437（図面219）：建物の規模は、梁行１間（2.3～2.34m）、桁行２間（4.3m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN84°E、床面積は10.1㎡。柱間距離は桁行2.1～2.2mである。柱穴形態は楕円形で、径0.42～0.7m、深さ0.14～0.24mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB120－SP1438～1445（図面219）：建物の規模は、梁行２間（2.75m）、桁行２間（3.55～3.6m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN３°E、床面積は9.9㎡。柱間距離は、梁行1.3～1.5m、桁行1.7～1.8mである。柱穴形態は楕円～不整形で、径0.18～0.6m、深さ0.08～0.3mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP1439で土師器が出土している。

SB121－SP1446～1474（図面220）：SB122と配置が重複する。建物内の南東部隅１間×２間の範囲にSX181が構築される。SD179よりも新しく、建物の規模は、梁行４間（8.0～9.1m）、桁行５間（12.0～12.2m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN９°Eで床面積は111.0㎡。柱間距離は、梁行2.2～2.4m、桁行1.95～2.7mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.32～0.77m、深さ0.09～0.68mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP1449で土師器・須恵器、SP1450で土師器が出土している。

SB122－SP1464・1475～1482（図面221）：SB121と配置が重複する。建物の規模は、梁行２間（2.9m）、桁行２間（4.3m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN18°E、床面積は12.5㎡。柱間距離は、梁行1.4～1.5m、桁行2.1～2.2mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.22～0.47m、深さ0.14～0.28mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB123－SP1483～1489（図面221）：調査区南東隅に位置し、その大半は調査区外となる。確認された

建物の規模は、梁行２間（3.84m）、桁行４間（10.95m）、床面積は42.0㎡で、棟方向はN69°Wとなる総柱建物である。柱間距離は、梁行2.7m、桁行2.4mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.28～0.6m、深さ0.17～0.48mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

井戸

SE07（図面222）：木枠組か石組かは不明で、掘り方のみ残存している井戸である。掘り方の平面形態は円形で、径3.9～4.23m、深さ1.4mの規模を測る。横断面の形態は擂鉢型で、覆土は暗灰黄色～オリーブ褐色粘質シルトを基調とする。井戸内からは土師器・中世土師器（5220・5221）が出土している。

SE08（図面222）：木枠組井戸で、底に井戸枠と底板の一部が確認された。掘り方の平面形態は円形で、径2.8～3.15m、深さ1.95mの規模を測る。横断面の形態は逆台形である。井筒本体の平面形態は方形で、一辺0.9m、底面からの残存高は0.3mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（5217）・珠洲（5218・5219）・井戸枠（06～12）が出土している。

土坑

SK746（図面223）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.65m、短径1.43m、深さ0.92mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色砂質シルト酸化鉄・炭化物微量混、第２層：暗灰黄色砂質シルトににぶい黄色砂ブロック混、第３層：暗灰黄色粗砂礫多量混となる。遺物は土師器・砥石（52）が出土している。

SK747（図面223）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.58m、短径0.46m、深さ0.23mを測る。覆土は黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK748（図面223）：平面形態は円形で、規模は径0.9～0.95m、深さ0.13mを測る。覆土はオリーブ黒色シルト質砂となる。遺物は珠洲（5225）が出土している。

SK749（図面223）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.48m、短径0.96m、深さ0.06mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK750（図面223）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.63m、短径0.55m、深さ0.29mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト礫混、第２層：黒色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK751（図面223）：平面形態は隅丸方形で、規模は長辺1.75m、短辺1.73m、深さ0.38mを測る。覆土は黒色粘質シルトの単層となる。遺物は土師器・砥石（50）・釘（301）が出土している。

SK752（図面223）：平面形態は不整形で、規模は長径1.32m、短径1.25m、深さ0.05mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は土師器・白磁（5224）・土錘が出土している。

SK753（図面223）：平面形態は円形で、規模は径0.32～0.35m、深さ0.34mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK754（図面223）：平面形態は隅丸方形で、規模は一辺0.42m、深さ0.24mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK755（図面223）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.56m、短径0.45m、深さ0.12mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルトとなる。遺物は火打石（72）が出土している。

SK756（図面223）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.7m、短径1.05m、深さ0.14mを測る。覆土は黒色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK757（図面224）：平面形態は円形で、規模は径0.35～0.41m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：オリーブ褐色シルト質細砂となる。遺物は土師器が出土している。

SK758（図面224）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.67m、短径0.64m、深さ0.35mを測る。覆土は

第１層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂・炭化物混、第２層：黒褐色砂質シルト炭化物混となる。出土遺物は認められない。

SK759（図面224）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.4m、短径0.38m、深さ0.19mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は土師器・中世土師器が出土している。

SK760（図面224）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.28m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量・酸化鉄混、第２層：黒褐色砂質シルト、第３層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂ブロック・炭化物微量混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK761（図面224）：平面形態は円形で、規模は径0.32～0.37m、深さ0.28mを測る。黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器・青磁（5223）が出土している。

SK762（図面224）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.45m、短径0.45m、深さ0.22mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK763（図面224）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.44m、短径0.32m、深さ0.25mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK764（図面224）：平面形態は円形で、規模は径0.58～0.68m、深さ0.22mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK765（図面224）：平面形態は円形で、規模は径0.45～0.47m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物混、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂ブロック・炭化物混となる。遺物は中世土師器・刀子（298）が出土している。

SK766（図面224）：平面形態は円形で、規模は径0.38m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂ブロック・炭化物混、第２層：黒褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK767（図面224）：平面形態は円形で、規模は径0.87～1.0m、深さ0.07mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルト礫混となる。遺物は土師器が出土している。

SK768（図面224）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.85m、短径0.65m、深さ0.23mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：オリーブ褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK769（図面224）：平面形態は円形で、規模は径0.35～0.39m、深さ0.23mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK770（図面224）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.42m、短径0.25m、深さ0.14mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK771（図面224）：平面形態は楕円形でSK772を切る。規模は長径0.7m、短径0.45m、深さ0.23mを測る。覆土は黒褐色シルト質粘土となる。遺物は土師器が出土している。

SK772（図面224）：平面形態は楕円形でSK771に切られる。規模は長径0.42m以上、短径0.35m、深さ0.43mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK773（図面224）：平面形態は円形で、規模は径0.2～0.24m、深さ0.18mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK774（図面224）：平面形態は円形で、規模は径0.3m程度、深さ0.09mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK775（図面224）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.35m、深さ0.12mを測る。覆土は黒

褐色シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK776（図面224）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺1.15m、短辺0.78m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土、第２層：黒褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK777（図面225）：平面形態は不整形で、規模は長径1.82m、短径0.72m、深さ0.07mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK778（図面225）：平面形態は円形で、規模は径0.23～0.26m、深さ0.32mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトとなる。遺物は中世土師器（5222）が出土している。

SK779（図面225）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.59m、短径0.48m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：黄褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK780（図面225）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.32m、短径0.27m、深さ0.1mを測る。覆土はオリーブ黒色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK781（図面225）：平面形態は円形で、規模は径0.3m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：オリーブ褐色砂質シルト、第２層：黄褐色細砂となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK782（図面225）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.38m、短径0.3m、深さ0.14mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂少量・炭化物微量混、第２層：黒褐色砂質シルト炭化物混、第３層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂ブロック多量・炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK783（図面225）：平面形態は円形で、規模は長径0.3m、短径0.26m、深さ0.05mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK784（図面225）：平面形態は楕円形でSX180に切られる。規模は長径0.85m以上、短径0.7m、深さ0.14mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：にぶい黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK785（図面225）：平面形態は円形で、規模は長径0.26m、短径0.23m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物混、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂少量・炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK786（図面225）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.14m、短径0.66m、深さ0.13mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK787（図面225）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.42m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物混、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂ブロック多量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK788（図面225）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.75m、短径0.5m、深さ0.31mを測る。覆土は暗褐色砂質シルト礫混となる。遺物は土師器が出土している。

SK789（図面225）：平面形態は楕円形でSK790を切る。規模は長径0.64m、短径0.42m、深さ0.32mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：褐灰色粘質シルト、第３層：にぶい黄色砂に灰褐色粘質シルト混となる。遺物は認められない。

SK790（図面225）：平面形態は円形でSK789に切られる。規模は径0.4m程度、深さ0.14mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物混、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂ブロック多量・炭化物微量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK791（図面225）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.34m、短径0.26m、深さ0.17mを測る。覆土は

黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK792（図面225）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.26m、深さ0.14mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK793（図面225）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.61m、短径0.4m、深さ0.13mを測る。覆土は第1層：暗褐色砂質シルト炭化物微量混、第2層：にぶい黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK794（図面225）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.66m、短径0.56m、深さ0.35mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト、第2層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK795（図面225）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.48m、短径0.35m以上、深さ0.2mを測る。覆土は第1層：にぶい黄褐色シルト、第2層：褐色シルト。第3層：にぶい黄褐色シルトとなる。遺物は須恵器・石製品が出土している。

SK796（図面225）：平面形態は円形で、規模は長径0.48m、短径0.45m、深さ0.25mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト炭化物・酸化鉄混、第2層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂・炭化物混、第3層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂ブロック多量・炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK797（図面226）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.6m、短径0.25m、深さ0.18mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト炭化物混、第2層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂多量・炭化物微量混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK798（図面226）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.54m、短径0.45m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK799（図面226）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.3m、深さ0.18mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK800（図面226）：平面形態は不整形で、規模は長径1.32m、短径0.65m、深さ0.25mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト酸化鉄少量混、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK801（図面226）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.6m、短径0.44m、深さ0.16mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK802（図面226）：平面形態は円形で、規模は長径0.4m、短径0.18m以上、深さ0.28mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK803（図面226）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.65m、短径0.45m、深さ0.24mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト炭化物混、第2層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂・炭化物微量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK804（図面226）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.71m、短径0.54m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト酸化鉄少量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK805（図面226）：平面形態は不整形でSX181に切られる。規模は長径0.7m、短径0.35m以上、深さ0.08mを測る。覆土は暗褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK806（図面226）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.58m、短径0.48m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物少量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK807（図面226）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.88m、短径0.62m、深さ0.12mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK808（図面226）：平面形態は不整形で、規模は長径1.5m、短径0.87m、深さ0.27mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物混、第２層：黒褐色砂質シルト、第３層：暗褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK809（図面226）：平面形態は円形で、規模は径0.31～0.32m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK810（図面226）：平面形態は楕円形でSD185に切られる。規模は長径0.38m、短径0.25m、深さ0.2mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物混、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂ブロック多量混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK811（図面226）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.48m、短径0.38m、深さ0.04mを測る。覆土は暗褐色細砂マンガン微量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK812（図面226）：平面形態は円形で、規模は径0.59～0.6m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色シルト質砂炭化物微量混となる。遺物は認められない。

SK813（図面226）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.27m、短径0.22m、深さ0.19mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK814（図面226）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.68m、短径0.38m、深さ0.09mを測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物少量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK815（図面226）：平面形態は円形で、規模は径0.38m、深さ0.14mを測る。覆土は第１層：褐色砂ににぶい黄色砂ブロック混、第２層：褐色砂にマンガン多量混となる。遺物は土師器が出土している。

大型土坑

SX176（図面229）：平面形態は不整形でSD166に切られる。規模は長径2.22m、短径1.73m、深さ0.16mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：灰黄褐色砂質シルトににぶい黄色砂ブロック・炭化物微量混となる。遺物は土師器・中世土師器（5227）・珠洲（5230）・刀子（300）・砥石（51）が出土している。

SX177（図面229）：平面形態は不整形でSD170を切る。規模は長径3.3m、短径2.94m、深さ0.57mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする４層からなる。遺物は土師器・白磁（5229）・瀬戸美濃が出土している。

SX178（図面229）：平面形態は不整形でSD178に切られる。規模は長径2.2m以上、短径1.15m、深さ0.27mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：暗褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SX179（図面229）：平面形態は不整形でSK783に切られる。規模は長径2.35m、短径0.95m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト酸化鉄混、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は須恵器が出土している。

SX180（図面229）：平面形態は長楕円形でSK784を切り込む。規模は長径4.6m、短径1.25m以上、深さ0.58mを測る。覆土は黒褐色～褐灰色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（5228）・土錘が出土している。

SX181（図面229）：平面形態は隅丸長方形でSK805を切る。規模は長辺3.18m、短辺1.81m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：暗褐色砂質シルト酸化鉄・炭化物少量混、第２層：暗褐色砂質シルト

ににぶい黄色砂炭化物・酸化鉄少量混となる。遺物は土師器が出土している。

SX182（図面229）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.98m、短径1.1m、深さ0.39mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX183（図面230）：平面形態は不整形で、規模は長径9.62m、短径6.02m、深さ0.48mを測る。覆土は黒褐色～黄灰色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・中世土師器（5226）・陶錘・土錘が出土している。

SX184（図面230）：平面形態は不整形で、規模は長径6.05m、短径4.99m、深さ0.32mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混、第2層：オリーブ褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・棒状鉄製品（299）が出土している。

溝

SD163（図面234）：区画溝と考えられる。ゆるく蛇行しながら東西に延び、東壁付近で南北に広がり、SD164を切り込んで調査区外に続く。西側はSD166と直交し合流している。途中SD165を切り込む。確認できる長さは22.0m、最大幅6.0m、最大深0.1mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はaセクションで黒褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD164（図面234）：SD163の北側をゆるく蛇行しながら調査区外に続く。東壁付近でSD163に切られる。確認できる長さは22.4m、最大幅2.5m、最大深0.38mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：暗灰黄色砂質シルト酸化鉄混、第2層：黄褐色砂質シルト酸化鉄微量混、第3層：暗灰黄色シルトとなる。出土遺物は土師器・中世土師器が認められる。

SD165（図面234）：SD163・164の南側を東西に延びる。西端は消失し、東端はSD163に切られる。確認できる長さは13.1m、最大幅0.9m、最大深0.13mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：暗灰黄色砂質シルト酸化鉄混、第2層：黄褐色砂質シルト酸化鉄微量混となる。出土遺物は認められない。

SD166（図面234）：区画溝と考えられる。平面形態は直線的で南北に延びる。北端はSD164に切られ、東側でSD163と合流する。南端はSP1279に切られる。確認できる長さは20.7m、最大幅1.0m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は暗褐色シルト質砂酸化鉄混の単層となる。出土遺物は認められない。

SD167（図面234）：東西にのびる直線的な溝で、西端はSX176を切り合流し、東端はSX177に切られ、SD168を切り込む。確認できる長さは11.8m、最大幅1.1m、最大深0.1mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルト炭化物混の単層となる。出土遺物は認められない。

SD168（図面234）：区画溝であると考えられる。平面形態は直線的で東西に延びる。東端は調査区外に続き、西端はSD169を切り込み合流して、SD166に切られる。途中SD170を切る。確認できる長さは23.0m、最大幅1.8m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・中世土師器（5233）が認められる。

SD169（図面234）：平面形態は軽い円弧を描き東西に延びる。SD168に切り込まれて西側で合流し、SD166に切られる。東端は消失している。確認できる長さは8.4m、最大幅1.8m、最大深1.02mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD170（図面234）：調査区を北東から南西方向に蛇行しながら延びる溝で、B12地区のSD154に続くと考えられる。北東端はSD163に切られ開放し、南西側は調査区外に続く。途中SD168、SE08に切られ

る。確認できる長さは57.0m、最大幅1.1m、最大深0.37mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa、bセクションとも第1層：黒褐色シルト質砂、第2層：暗オリーブ褐色シルト質砂となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD171（図面234）：軽い円弧を描いて北東から南西方向に延びる。両端とも消失している。途中SD172を切り込む。長さ45.0m、最大幅3.6m、最大深0.2mを測る。断面形態はをU字形を呈し、覆土はaセクションで第1層：（10YR3/2）黒褐色シルト質砂炭化物混、第2層：（10YR2/2）黒褐色シルト質砂炭化物混となり、bセクションでは灰黄褐色シルト質砂灰化物混の単層となる。出土遺物は認められない。

SD172（図面234）：北東から南西方向に延びる直線的な溝で、北端は消失し、南端は幅広に延びて消失している。SD171に切り込まれる。長さ26.4m、最大幅2.5m、最大深0.2mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色シルト質砂となる。出土遺物は認められない。

SD173（図面234）：平面形態は直線的で、東西に延びる。東端は消失し、西端は調査区外に続く。SD170を切る。確認できる長さは8.7m、最大幅0.8m、最大深0.2mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルト質砂の単層となる。出土遺物は認められない。

SD174（図面234）：SD173の東側に東西に延びる直線的な溝で、両端とも消失している。長さ5.0m、最大幅0.9m、最大深0.16mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は暗褐色砂礫の単層となる。出土遺物は認められない。

SD175（図面234）：平面形態は直線的な小溝で、西端はSP1422に切られ、東端はSP1428に切られる。確認できる長さは3.0m、最大幅0.4m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：黒褐色シルト質砂炭化物微量混、第2層：黒褐色シルト質砂ににぶい黄色砂混となる。出土遺物は認められない。

SD176（図面234）：平面形態は直線的で、SD175の南側に併走する。両端とも消失している。SK767を切っている。長さ6.8m、最大幅0.6m、最大深0.24mを測る。断面形態はU字形呈し、覆土は第1層：黒褐色シルト質砂炭化物微量混、第2層：黒褐色シルト質砂ににぶい黄色砂混となる。出土遺物は認められない。

SD177（図面234）：南東方向に蛇行しながら延びる。北端は消失し、東端は調査区外に続く。途中SD178を切る。確認できる長さは27.5m、最大幅0.6m、最大深0.18mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第1層：黒褐色砂質シルト、第2層：黄褐色砂質シルト、第3層：灰黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器・中世土師器が認められる。

SD178（図面234）：北東から南西方向に途切れて延びる不連続な溝である。北東端は調査区外に続き、南西端は消失している。SD177に切られる。確認できる長さは18.0m、最大幅0.95m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD179（図面234）：平面形態は直線的で、南東方向に延び消失している。北西端は調査区外に続く。SP1450に切られ、SD182を切り込む。確認できる長さは21.5m、最大幅1.1m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は褐灰色シルト質砂酸化鉄混となる。出土遺物は認められない。

SD180（図面234）：調査区の南東側で調査区外に続く不整形な溝である。確認できる長さは5.45m、最大幅1.5m、最大深0.42mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする4層から構成される。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD181（図面234）：SD180の南側を東西に併走する。両端とも消失している。長さ6.3m、最大幅

0.75m、最大深0.95mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：黒褐色シルト、第２層：灰黄褐色シルトとなる。出物遺物は認められない。

SD182（図面234）：平面形態はL字形の小溝で西端はSD179に切られる。確認できる長さは3.20m、最大幅0.45m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：暗褐色砂質シルト、第２層：暗褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂混となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD183（図面234）：平面形態は直線的で北西端は消失し、南東端は調査区外に続く。確認できる長さは6.30m、最大幅1.10m、最大深0.14mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は第１層：（2.5Y3/2）黒褐色シルト質砂、第２層：（10YR3/2）黒褐色シルト質砂となる。出土遺物は土師器・須恵器・釘（302）が認められる。

SD184（図面234）：平面形態は直線的で両端とも消失している。SD185に切られる。長さ1.60m、最大幅0.32m、最大深0.52mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD185（図面234）：平面形態は直線的で北西端は消失し、南東端は調査区外に続く。SD184を切る。確認できる長さは4.95m、最大幅1.2m、最大深0.25mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルト炭化物・焼土微量混、第３層：黒褐色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器が認められる。

B14地区

掘立柱建物

SB124－SP1490～1496（図面221）：調査区の南壁際に位置し、調査区外に続く。確認された建物の規模は、梁行２間（2.23m）、桁行５間（12.35m）、床面積は27.5㎡の側柱建物で、棟方向はN69°Wとなる。柱間距離は、梁行1.4m、桁行2.0～2.85mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.43～0.6m、深さ0.24～0.57mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP1494から土師器が出土している

土坑

SK816（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.86m、短径0.6m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：黒褐色シルト質粘土ににぶい黄色砂多量混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK817（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.94m、短径0.52m、深さ0.17mを測る。覆土は黒褐色シルト質粘土となる。遺物は須恵器が出土している。

SK818（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.57m、短径0.38m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂・炭化物混、第２層：黒褐色粘質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK819（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.75m、短径0.45m、深さ0.13mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：黒褐色シルト質粘土ににぶい黄色砂混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK820（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.61m、短径1.54m、深さ0.79mを測る。覆土はオリーブ黒色シルト質粘土礫混となる。遺物は土師器・珠洲が出土している。

SK821（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.45m、短径0.64m、深さ0.44mを測る。覆土はオリーブ黒色シルト質粘土となる。遺物は須恵器・中世土師器・珠洲が出土している。

SK822（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.79m、短径0.66m以上、深さ0.25mを測る。覆土は黄灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK823（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.61m、短径0.32m、深さ0.15mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト礫混、第２層：黒褐色砂となる。遺物は須恵器が出土している。

SK824（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.2m、短径0.51m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：黒褐色シルト質粘土ににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK825（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.68m、短径0.57m、深さ0.19mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物・酸化鉄微量混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK826（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.89m、短径0.87m、深さ0.38mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK827（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.07m、短径0.82m、深さ0.35mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK828（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.93m、短径0.71m、深さ0.41mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：黒褐色シルト質粘土ににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK829（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.15m、短径0.51m、深さ0.38mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：黒褐色シルト質粘土ににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK830（図面228）：平面形態は円形で、規模は径0.78～0.8m、深さ0.23mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：黒褐色シルト質粘土ににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK831（図面228）：平面形態は円形で、規模は径0.67～0.75m、深さ0.41mを測る。覆土は第１層：黒褐色細砂、第２層：黒褐色細砂ににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK832（図面228）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.21m、短径0.65m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：黒褐色シルト質粘土ににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK833（図面228）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.76m、短径0.66m、深さ0.33mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：黒褐色シルト質粘土ににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK834（図面228）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.72m、短径0.56m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色シルト質粘土酸化鉄混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK835（図面228）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.33m、短径0.53m、深さ0.12mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色砂質シルト、第２層：暗灰黄色砂質シルトににぶい黄色砂ブロック混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK836（図面228）：平面形態は不整形で、規模は長径0.95m、短径0.49m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：暗灰黄色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土し

ている。

SK837（図面228）：平面形態は楕円形でSX190を切り込む。規模は長径1.28m、短径0.75m、深さ0.3mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：黒褐色シルト質粘土ににぶい黄色砂・酸化鉄混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK838（図面228）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.8m、短径0.47m、深さ0.28mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：暗灰黄色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK839（図面228）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.32m、短径0.77m、深さ0.45mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：黒褐色シルト質粘土ににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK840（図面228）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.35m、短径0.83m、深さ0.2mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：暗灰黄色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK841（図面228）：平面形態は円形で、規模は径1.02～1.07m、深さ0.32mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK842（図面228）：平面形態は円形で、規模は径1.0～1.06m、深さ0.42mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂多量混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK843（図面228）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.55m、短径0.44m、深さ0.07mを測る。覆土は黒褐色シルト質粘土酸化鉄混となる。遺物は土師器が出土している。

SK844（図面228）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.2m、短径0.37m、深さ0.07mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：暗灰黄色砂質シルトとなる。遺物は珠洲が出土している。

SK845（図面228）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.88m、短径0.61m、深さ0.15mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：黒褐色シルト質粘土に褐色砂多量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK846（図面228）：平面形態は不整形で、規模は長径1.78m、短径1.45m、深さ0.12mを測る。覆土は黒褐色シルト質粘土となる。遺物は土師器・須恵器が出土している

SK852（図面227）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.55m、短径0.4m、深さ0.15mを測る。覆土は黄灰色シルト質砂となる。遺物は土師器が出土している

大型土坑

SX185（図面231）：平面形態は隅丸長方形でSK822を切る。規模は長辺3.35m、短辺2.45m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：黄灰色砂質シルト酸化鉄混、第２層：黄灰色シルト質砂、第３層：黒褐色砂質シルト礫混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX186（図面231）：平面形態は不整形で、規模は長径2.68m、短径1.49m以上、深さ0.34mを測る。覆土はオリーブ黒色シルト質粘土礫混となる。遺物は土師器・須恵器・中世土師器（5319）・珠洲（5320）が出土している。

SX187（図面231）：平面形態は楕円形で、規模は長径2.49m、短径0.73m、深さ0.17mを測る。覆土は

第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：黒褐色シルト質粘土ににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX188（図面231）：平面形態は楕円形で、規模は長径2.98m、短径0.83m、深さ0.12mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX189（図面232）：平面形態は不整形で、規模は長径2.05m、短径1.63m、深さ0.11mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土ににぶい黄色砂多量混、第２層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX190（図面232）：平面形態は不整形で、SK837・SX193に切られる。規模は長径3.15m以上、短径3.0m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：黒褐色シルト質粘土ににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX191（図面232）：平面形態は不整形でSK827に切られる。規模は長径6.44m、短径1.66m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX192（図面232）：平面形態は不整形でSX194に切られる。規模は長径4.2m以上、短径3.0m、深さ0.13mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：暗灰黄色砂となる。遺物は須恵器・八尾が出土している。

SX193（図面233）：平面形態は不整形で、SX190を切り込み、SK828～830・833に切られる。規模は長径11.15m、短径4.55m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色シルト質粘土を基調とする。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX194（図面233）：平面形態は不整形でSX192を切る。規模は長径11.0m以上、短径4.5m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：黒褐色シルト質粘土酸化鉄混、第２層：暗灰黄色砂質シルト、第３層：暗灰黄色砂質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器・須恵器・青磁（5620）が出土している。

溝

SD186（図面234）：平面形態は直線的で、東西に延びる。東端は消失し、西端は土坑に切られる。長さ4.3m、最大幅0.35m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：褐色砂に黒褐色シルト質粘土混、第２層：黒褐色シルト質粘土に褐色砂・酸化鉄混となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD187（図面234）：平面形態は直線的で、東西に延びる。西端は調査区外に続き、東端は消失している。確認できる長さは19.2m、最大幅1.15m、最大深0.19mを測る。断面形態は逆台形・不整形を呈し、覆土はaセクションで第１層：黄灰色砂質シルト、第２層：暗灰黄色砂質シルトとなり、bセクションでは暗灰黄色粘質シルト酸化鉄混となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

3　古代の遺構

古代の遺構では、集落に関連する遺構を検出した。主要な遺構では竪穴住居の他、掘立柱建物、礎石建物、土師器焼成遺構、大型土抗、溝等が確認されている。遺構は、Ｂ１・Ｂ２・Ｂ６・B12・B13地区で確認され部分的に集中して配置されていたようである。出土遺物から集落の主体は９世紀代と考えられる。また竪穴住居の出土遺物については、床面直上0.1m以内のものについて第三分冊の遺構平面図で図示し、実測したものは遺物番号で示した。

Ｂ１地区

竪穴住居

SI01（図面239）：平面形態は方形を呈し、SI02と重複し、SI02の方が新しい。SD202・218を切る。一辺2.7～2.9m、深さ0.14mを測る。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は第１層：オリーブ褐色砂質シルト、第２層：灰オリーブ褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器（006～010）・須恵器（001～005）・墨書土器（011）・灰釉陶器（5359）が出土している。

SI02（図面239）：平面形態は長方形を呈し、長辺3.71m、短辺2.22m、掘方までの深さ0.3mを測る。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は黄灰色粘質シルトを基調とする。遺構の西側には幅0.23m、長さ0.9mのカマドの煙道が延びる。遺物は土師器（017～042）・須恵器（012～016）・黒色土器（043・044）・墨書土器（045～048）・灰釉陶器（049）・土錘（050）・釘（051）・刀子（052）が出土している。

SI03（図面240）：SI04と重複しこれより新しい。平面形態は方形を呈し、一辺3.2～3.6m、深さ0.27mを測る。遺構の北東隅に焼土が広がり、径30㎝程度のカマドの袖石と思われる石が検出された。竪穴の覆土はオリーブ褐色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器（098～101）・須恵器（097）・墨書土器（102・103）・灰釉陶器（104）・黒色土器が出土している。

SI04（図面240）：SI03と重複しこれより古い。平面形態は方形を呈し、一辺3.3m程度、掘方までの深さ0.4mを測る。竪穴の覆土は黄褐色砂質シルトを基調とする。遺構の南東隅に焼土があり、カマドと考えられる。遺物は土師器（064～090）・須恵器（060～063）・黒色土器（091～093）・墨書土器（094）・土錘（095・096）・灰釉陶器・鉄釘（019）が出土している。

SI05（図面241）：平面形態は方形を呈したものと考えられ、SX001の下方で確認された。一辺3.2～3.4m、掘方までの深さ0.29mを測る。竪穴の覆土は第１層：(2.5Y4/3) オリーブ褐色粘質シルト、第２層：黒褐色粘質シルト、第３層：(2.5Y4/4) オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺構の西壁部分でカマドが検出された。カマドの規模は幅約0.8mで、主軸長は1.05mとなる。燃焼部では左右に袖石が配石され、袖間の幅は0.43mで、カマド中央には支脚として利用された焼け石が据えられていた。遺物は土師器（055～059）・須恵器（051～054）・黒色土器が出土している。

SI06（図面241）：平面形態は方形を呈し、一辺2.75～3.15m、深さ0.23mを測る。竪穴の覆土は第１層：黒褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルトににぶい黄色砂混、第３層：黒褐色砂質シルトに灰黄褐色砂質シルト混となる。袖石などの構築部材は残存していないが、遺構の北西隅に焼土が確認された。遺物は土師器（118～120）・須恵器（115～117）・黒色土器・灰釉陶器（121）が出土している。

SI07（図面242）：平面形態は長方形を呈し、長辺4.4m、短辺3.3m、掘方までの深さ0.17mを測る。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土はオリーブ褐色粘質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（105～110）・土錘（112～114）・灰釉陶器（111）、釘（022・023）が出土している。

掘立柱建物

SB201－SP2001～2035（図面243・244）：SB202・203と建物配置が重複し、SI01～SI05とも重複する。重複関係から竪穴住居群よりも先行する。SB201は南側と北側に張出を持つ二面廂の側柱建物である。身舎の規模は、梁行２間（5.5m）、桁行８間（17.5m）、張出部分は１間×７間（2.6～2.7×17.5）で、張出部分をふくめた建物専有面積は189.0㎡である。建物の棟方向はN81°Wとなる。身舎の柱間距離は、梁行2.6～2.8m、桁行1.8～2.4m、廂部分の柱間距離は、梁行2.6～2.72m、桁行2.0～4.0mとなる。柱穴形態は円～不整形で、径0.37～1.82m、深さ0.08～1.08mを数える。柱穴内覆土はオリーブ褐色粘

質シルトを基調とする。遺物はSP2001・2002で土師器・須恵器、SP2003で土師器（123）・須恵器・土錘（124）、SP2004で土師器（125）・須恵器・土錘（126）、SP2005で須恵器（127・128）、SP2006で土師器・須恵器（129）・黒色土器・釘（050）、SP2009で土師器・須恵器、SP2010で土師器（130・131）・須恵器、SP2011で土師器、SP2012で土師器（132）・須恵器・黒色土器・墨書土器（133）・土錘（135）・フイゴの羽口（134）、SP2013で土師器・須恵器（136）・墨書土器（137）、SP2014で土師器、SP2015で須恵器、SP2016で土師器・須恵器、SP2017で土師器、SP2018で土師器（138）・須恵器、SP2019で土師器・須恵器（139）・土錘（141・142）・フイゴの羽口（140）、SP2020で土師器・須恵器、SP2021で須恵器（143・144）・土師器（145）、SP2022で土師器（146～152）・須恵器・黒色土器（153・154）・墨書土器（155～157）、SP2023で土師器・須恵器（158）・黒色土器、SP2024で土師器・須恵器・土錘（159）、SP2025で土師器（160）・須恵器・灰釉陶器、SP2026で土師器（161）・須恵器・黒色土器、SP2027で土師器（163）・須恵器（162）・黒色土器、SP2028で土師器（164）、SP2029・2031で土師器、SP2033で土師器（165）、SP2034で土師器・須恵器、SP2035で土師器（166～168）・須恵器が出土している。

SB202－SP2014・2036～2052（図面245）：SB201・203と建物配置が重複し、SI03～05とも重複する。重複関係から竪穴住居群よりも先行する掘立柱建物である。建物規模は、梁行2間（5.4m）、桁行5間（14.1m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の北側には一面の張出（2.45×14.1）を伴う。棟方向はN85°Wで、張出部分を含めた建物専有面積は110.6㎡となる。柱間距離は、梁行1.45～3.55m、桁行2.3～3.67mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.37～1.35m、深さ0.16～0.64mを数える。柱穴内覆土は黒褐色～オリーブ褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP2036で土師器、SP2041で土師器・中世土師器、SP2037・2039・2040・2042・2045・2050で土師器・須恵器、SP2038で土師器・須恵器（169）・墨書土器（170）、SP2043で土師器（180～185）・須恵器（171～179）・黒色土器（186）・灰釉陶器（187・233）・製塩土器（188）・フイゴの羽口・留金（042）、SP2044で須恵器（189・190）、SP2046で土師器（191・192）・須恵器・フイゴの羽口、SP2047で土師器・須恵器（193）・黒色土器、SP2048で土師器・須恵器・灰釉陶器（194）、SP2049で土師器（195）・須恵器・土錘（196・197）、SP2051で土師器（198）が出土している。

SB203－SP2053～2062（図面246）：SB201・202・SI04・05と配置が重複する。建物規模は、梁行1間（4.93m）、桁行4間（8.71m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN86°Wで、床面積は42.9㎡。柱間距離は桁行1.95～2.4mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.48～1.8m、深さ0.15～0.71mを数える。柱穴内覆土はオリーブ褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP2053で土師器・須恵器・黒色土器、SP2054で土師器（199～201）・須恵器、SP2055で土師器・墨書土器（202）・土錘（203・204）、SP2056で土師器・墨書土器（205）、SP2057・2061で土師器・須恵器、SP2058で土師器・須恵器・墨書土器（206）、SP2059・2060で土師器が出土している。

SB204－SP2063～2071（図面246）：SB205の東側に隣接し、SI06と重複する。重複関係からSI06の方が新しい。梁行2間（5.07m）、桁行2間（5.6～5.67m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN78°Wで、床面積は28.8㎡。柱間距離は、梁行2.5～2.57m、桁行2.8～2.87mである。柱穴形態は方～不整形で、径0.6～1.14m、深さ0.13～0.7mを数える。柱穴内覆土はオリーブ褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP2064で土師器・須恵器・黒色土器、SP2066で土師器（207）・須恵器・墨書土器（208）・製塩土器（209）・フイゴの羽口、SP2068で須恵器（210）、SP2069で土師器・須恵器、SP2071で土師器・製塩土器（211）・フイゴの羽口・棒状鉄製品（047）・釘（064）が出土してい

る。

SB205－SP2072～2077（図面247）：SB206と配置が重複し、SP2073とSP2079の重複関係から、SB206の方が新しい。建物の規模は、梁行１間（5.0m）、桁行２間（6.33m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN79°Wで、床面積は31.7㎡。柱間距離は桁行2.83～3.53mである。柱穴形態は方～不整形で、径0.49～1.33m、深さ0.11～0.35mを数える。柱穴内覆土は黄褐色砂質シルト～黒褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP2073で土師器・須恵器、SP2075で土師器（212）・黒色土器、SP2076で土師器・須恵器・黒色土器、SP2077で土師器・須恵器（213）が出土している。

SB206－SP2078～2080（図面247）：調査区北端に位置し、調査区外に延びる。SB205と重複し、SB205の方が先行する。確認される建物の規模は、梁行２間（4.04m）、桁行１間（1.23m）、床面積は5.0㎡の側柱建物である。棟方向はN７°Eで、柱間距離は梁行1.95～2.1mとなる。柱穴形態は楕円形で、径0.57～0.85m、深さ0.1～0.42mを数える。柱穴内覆土は黄褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

土坑

SK1001（図面251）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.73m、短径0.58m、深さ0.1mを測る。覆土は黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1002（図面251）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.4m、短径0.35m、深さ0.12mを測る。覆土は第１層：黄褐色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器が出土している。

SK1003（図面251）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.28m、短径1.06m、深さ0.56mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は土師器（214）・須恵器が出土している。

SK1004（図面251）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.64m、短径0.52m、深さ0.16mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1005（図面251）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.85m、短径0.51m、深さ0.16mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1006（図面251）：平面形態は円形で、規模は径0.37～0.4m、深さ0.11mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1007（図面251）：平面形態は円形で、規模は径0.32～0.35m、深さ0.11mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1008（図面251）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.68m、短径0.49m、深さ0.35mを測る。覆土は黄褐色砂質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1009（図面251）：平面形態は円形で、規模は径0.7～0.73m、深さ0.07mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は灰釉陶器が出土している。

SK1010（図面251）：平面形態は円形で、規模は径0.61～0.63m、深さ0.09mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1011（図面251）：平面形態は円形で、規模は径0.62～0.64m、深さ0.1mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1012（図面251）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.34m、深さ0.08mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1013（図面251）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.84m、短径0.72m、深さ0.1mを測る。覆土は黄褐色砂質シルト礫混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1014（図面251）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.68m、短径0.58m、深さ0.11mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1015（図面251）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.02m、短径0.73m、深さ0.28mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルト礫少量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1016（図面251）：平面形態は円形で、規模は径0.27m、深さ0.06mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1017（図面251）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.1m、短径1.01m、深さ0.17mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1018（図面251）：平面形態は隅丸方形で、規模は一辺1.34～1.66m、深さ0.45mを測る。覆土は第１層：黄灰色粘質シルト炭化物混、第２層：黄褐色砂質シルト、第３層：黄褐色砂質シルト炭化物多量混となる。遺物は土師器（216・217）・須恵器（215）・黒色土器が出土している。

SK1019（図面251）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.28m、短径0.89m、深さ0.17mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルト炭化物多量混のみの単層となる。遺物は土師器（218）・須恵器・黒色土器（219・220）・墨書土器（221）が出土している。

SK1020（図面252）：平面形態は円形で、規模は径0.55～0.58、深さ0.04mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1021（図面252）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.76m、短径0.52m、深さ0.17mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトマンガン多量混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（222）が出土している。

SK1022（図面252）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.96m、短径0.59m、深さ0.11mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（223）・墨書土器（224）が出土している。

SK1023（図面252）：平面形態は不整形で、規模は長径1.09m、短径0.42m、深さ0.36mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（225）が出土している。

SK1024（図面252）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.1m、短径0.75m、深さ0.09mを測る。覆土は黄褐色砂質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（226）が出土している。

SK1025（図面252）：平面形態は円形で、規模は径0.8～0.82m、深さ0.38mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（227）・須恵器が出土している。

SK1026（図面252）：平面形態は楕円形でSK1027を切る。規模は長径0.58m、短径0.43m、深さ0.12mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1027（図面252）：平面形態は楕円形でSK1026に切られSD201を切る。規模は長径1.31m、短径1.02m、深さ0.06mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・黒色土器が出土している。

SK1028（図面252）：平面形態は円形でSK1029に切られる。規模は径0.9～0.92m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：オリーブ褐色粘質シルト、第２層：暗灰黄色砂質シルトとなる。遺物は土師器（228）・須恵器が出土している。

SK1029（図面252）：平面形態は楕円形でSK1028を切る。規模は長径0.43m、短径0.4m、深さ0.15m

を測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1030（図面252）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.43m、短径0.37m、深さ0.18mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1031（図面252）：平面形態は円形で、規模は径0.41m、深さ0.04mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1032（図面252）：平面形態は円形でSX001を切る。規模は径0.48～0.49m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：オリーブ褐色粘質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK1033（図面252）：平面形態は円形でSX001を切る。規模は径0.41～0.44m、深さ0.57mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1034（図面252）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.04m、短径0.74m、深さ0.13mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルト炭化物・焼土多量混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1035（図面252）：平面形態は円形で、規模は径0.52～0.53m、深さ0.21mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1036（図面252）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.36m、短径0.31m、深さ0.34mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・黒色土器（229）が出土している。

SK1037（図面252）：平面形態は円形で、規模は径0.91～0.99m、深さ0.18mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（230）・黒色土器が出土している。

SK1038（図面252）：平面形態は不整形で、規模は長径1.1m、短径0.52m、深さ0.19mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（231）・須恵器が出土している。

SK1039（図面252）：平面形態は円形で、規模は径0.31～0.32m、深さ0.14mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1040（図面253）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.15m、短径0.96m、深さ0.15mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器（232）が出土している。

SK1041（図面253）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.86m、短径0.63m、深さ0.11mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1042（図面253）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.81m、短径0.5m、深さ0.12mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色砂質シルト、第２層：オリーブ褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器・黒色土器が出土している。

SK1043（図面253）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.83m、短径0.62m、深さ0.1mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1044（図面253）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.75m、短径0.55m、深さ0.08mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・土錘（234）が出土している。

SK1045（図面253）：平面形態は円形で、規模は径0.32～0.35m、深さ0.28mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・黒色土器（235）が出土している。

SK1046（図面253）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.55m、短径0.4m、深さ0.1mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1047（図面253）：平面形態は円形で、規模は径0.32～0.34m、深さ0.04mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・土製品が出土している。

SK1048（図面253）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.3m、深さ0.32mを測る。覆土は第１層：暗灰黄色砂質シルト、第２層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器（236）・黒色土器が出土している。

SK1049（図面253）：平面形態は不整形でSP2045に切られる。規模は長径0.57m、短径0.43m、深さ0.24mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・土錘（237）・土製品が出土している。

SK1050（図面253）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.43m、短径0.38m、深さ0.15mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1051（図面253）：平面形態は不整形で、規模は長径1.07m、短径0.7m、深さ0.07mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・黒色土器が出土している。

SK1052（図面253）：平面形態は不整形で、規模は長径0.81m、短径0.27m、深さ0.15mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・黒色土器・土錘（238）が出土している。

SK1053（図面253）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.4m、深さ0.05mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1054（図面253）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.32m、短径0.29m、深さ0.15mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1055（図面253）：平面形態は円形でSK1056を切る。規模は径0.33～0.35m、深さ0.11mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1056（図面253）：平面形態は楕円形で、SK1055・SP2002に切られる。規模は長径1.6m、短径1.34m、深さ0.13mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂混、第２層：オリーブ褐色粘質シルト、第３層：黒褐色粘質シルト、第４層：黒褐色粘質シルトににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器（242）・須恵器（239～241）・墨書土器（243）・黒色土器・土錘（244）・板状鉄製品（037）が出土している。

SK1057（図面253）：平面形態は楕円形でSK1058を切る。規模は長径0.84m、短径0.78m、深さ0.11mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（245・247）・須恵器（246）・土錘（248・249）が出土している。

SK1058（図面253）：平面形態は楕円形でSK1057に切られる。規模は長径1.09m、短径0.26m以上、深さ0.14mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1059（図面253）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.46m、短径0.39m、深さ0.14mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1060（図面254）：平面形態は楕円形でSP2013を切る。規模は長径0.44m、短径0.32m、深さ0.32mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器（250）が出土している。

SK1061（図面254）：平面形態は楕円形でSI05を切る。規模は長径0.74m、短径0.62m、深さ0.55mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（251）・灰釉陶器（252）・黒色土器・土錘（253）・羽口が出土している。

SK1062（図面254）：平面形態は円形で、SK1064を切り込む。規模は径0.3～0.31m、深さ0.24mを測

る。覆土は第１層：(2.5Y4/4) オリーブ褐色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/3) オリーブ褐色粘質シルト炭化物混となる。遺物は土師器・灰釉陶器（254）が出土している。

SK1063（図面254）：平面形態は円形でSK1066に切られる。規模は径0.28～0.34m、深さ0.43mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1064（図面254）：平面形態は不整形でSK1062・1063に切られる。規模は長径1.6m、短径0.85m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：オリーブ褐色粘質シルト焼土多量混、第２層：オリーブ褐色粘質シルト、第３層：黄褐色砂質シルト、第４層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器（257～260）・須恵器（255・256）・黒色土器・羽口が出土している。

SK1065（図面254）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.62m、短径0.33m、深さ0.12mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト、第２層：オリーブ褐色粘質シルト、第３層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1066（図面254）：平面形態は不整形で、規模は長径0.43m、短径0.38m以上、深さ0.17mを測る。覆土は第１層：オリーブ褐色粘質シルト炭化物多量混、第２層：オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK1067（図面254）：平面形態は楕円形でSP2012を切る。規模は長径0.47m、短径0.36m、深さ0.3mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1068（図面254）：平面形態は楕円形でSX204を切る。規模は長径0.83m、短径0.44m、深さ0.26mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器（261）が出土している。

SK1069（図面254）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.58m、短径0.45m、深さ0.3mを測る。覆土は第１層：オリーブ褐色粘質シルト、第２層：オリーブ褐色粘質シルトに黄褐色砂質シルト混となる。遺物は土師器（262）・須恵器が出土している。

SK1070（図面254）：平面形態は不整形でSP2011・2051に切られる。規模は長径0.7m、短径0.36m以上、深さ0.11mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（263）が出土している。

SK1071（図面254）：平面形態は不整形でSP2051を切る。規模は長径1.06m、短径0.4m以上、深さ0.13mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1072（図面254）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.9m、短径0.79m、深さ0.08mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1073（図面254）：平面形態は楕円形でSK1074・1075を切る。規模は長径1.13m、短径0.92m、深さ0.08mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1074（図面254）：平面形態は不整形でSK1075を切り込み、SK1073に切られる。規模は長径0.87m、短径0.5m、深さ0.28mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（265・266）・須恵器（264）・土製品が出土している。

SK1075（図面254）：平面形態は不整形で、規模は長径0.93m、短径0.87m、深さ0.06mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は金属製品の鉄滓（046）が認められる。

SK1076（図面254）：平面形態は不整形でSP2011に切られる。規模は長径0.64m以上、短径0.61m、深さ0.21mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1077（図面255）：平面形態は楕円形でSI04・SK1078を切る。規模は長径0.32m、短径0.21m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・黒色土器が出土している。

SK1078（図面255）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.42m、短径0.32m、深さ0.21mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は土師器（267）が出土している。

SK1079（図面255）：平面形態は円形でSI04を切る。規模は径0.52～0.54m、深さ0.12mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色粘質シルト、第2層：オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器（268）が出土している。

SK1080（図面255）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.4m、短径0.36m、深さ0.11mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・羽口が出土している。

SK1081（図面255）：平面形態は不整形で、規模は長径0.9m、短径0.74m以上、深さ0.48mを測る。覆土は第1層：黄灰色粘質シルト炭化物混、第2層：オリーブ褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1082（図面255）：平面形態は不整形でSK1081に切られる。規模は長径0.32m、短径0.14m以上、深さ0.28mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1083（図面255）：平面形態は楕円形でSI04を切る。規模は長径0.5m、短径0.37m、深さ0.39mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルト炭化物多量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1084（図面255）：平面形態は楕円形でSP2009を切る。規模は長径0.62m、短径0.41m、深さ0.29mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1085（図面255）：平面形態は楕円形でSI03・04を切る。規模は長径0.44m、短径0.37m、深さ0.16mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土錘（269）が出土している。

SK1086（図面255）：平面形態は楕円形でSI03を切る。規模は長径0.7m、短径0.62m、深さ0.22mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（270～272）が出土している。

SK1087（図面255）：平面形態は円形で、規模は径0.34m、深さ0.55mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・黒色土器が出土している。

SK1088（図面255）：平面形態は円形で、規模は径0.3～0.33m、深さ0.51mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1089（図面255）：平面形態は円形で、規模は径0.37～0.38m、深さ0.18mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（273）が出土している。

SK1090（図面255）：平面形態は円形で、規模は径0.26～0.28m、深さ0.23mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・墨書土器（274）が出土している。

SK1091（図面255）：平面形態は円形でSK1092を切る。規模は径0.85～0.87m、深さ0.11mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・黒色土器が出土している。

SK1092（図面255）：平面形態は不整形でSK1091に切られる。規模は長径0.94m、短径0.47m以上、深さ0.22mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1093（図面255）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.41m、短径0.35m、深さ0.22mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1094（図面255）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.38m、短径0.35m、深さ0.12mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1095（図面255）：平面形態は楕円形でSD214を切る。規模は長径1.29m、短径0.77m、深さ0.23mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（275）が出土している。

SK1096（図面255）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.25m、短径0.63m、深さ0.15mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルト礫混のみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1097（図面256）：平面形態は楕円形で、SD214を切り込む。規模は長径0.67m、短径0.45m、深さ0.17mを測る。覆土は第１層：オリーブ褐色粘質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1098（図面256）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.01m、短径0.68m、深さ0.19mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器（276）が出土している。

SK1099（図面256）：平面形態は円形でSD216を切る。規模は径0.4m、深さ0.32mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1100（図面256）：平面形態は不整形でSD216を切る。規模は長径1.17m、短径0.38m、深さ0.09mを測る。覆土は黄褐色砂質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は土師器（277）・須恵器が出土している。

SK1101（図面256）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.55m、短径0.33m、深さ0.16mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1102（図面256）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.72m、短径1.1m、深さ0.37mを測る。覆土は第１層：暗オリーブ褐色粘質シルト炭化物混、第２層：(2.5Y3/1) 黒褐色粘質シルト炭化物混、第３層：(2.5Y3/2) 黒褐色粘質シルト炭化物混、第４層：黒色粘質シルトに分層される。遺物は認められない。

SK1103（図面256）：平面形態は不整形で、規模は長径0.45m、短径0.3m以上、深さ0.1mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1104（図面256）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.3m、短径1.05m、深さ0.43mを測る。覆土はにぶい黄褐色粘質シルト礫混のみの単層となる。遺物は認められない。

SK1105（図面256）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.87m、短径0.61m、深さ0.13mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は黒色土器が出土している。

SK1106（図面256）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.74m、短径0.68m、深さ0.18mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1107（図面256）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.06m、短径0.79m、深さ0.44mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1108（図面256）：平面形態は楕円形でSP2026に切られる。規模は長径1.07m、短径0.64m、深さ0.18mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1109（図面256）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.83m、短径0.63m、深さ0.16mを測る。覆土は第１層：オリーブ褐色粘質シルト、第２層：暗灰黄色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1110（図面256）：平面形態は隅丸方形で、規模は長径0.89m、短径0.67m以上、深さ0.38mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルト礫混のみの単層となる。遺物は土師器（278）・須恵器が出土している。

SK1111（図面256）：平面形態は不整形で、SP2021を切り込む。規模は長径1.51m、短径0.86m以上、深さ0.32mを測る。覆土は第１層：暗オリーブ褐色粘質シルトに黒褐色粘質シルト混、第２層：暗オ

リーブ褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器（280～282）・須恵器（279）が出土している。

大型土坑

SX201（図面257）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺2.83m、短辺2.03m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：黄褐色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は土師器（295～367・405・406）・須恵器（283～294）・黒色土器（368～370）・墨書土器（371～385）・灰釉陶器（386～394）・土錘（395～404）が出土している。

SX202（図面257）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺3.13m、短辺2.6m、深さ0.12mを測る。覆土は第１層：黄褐色砂質シルト炭化物混、第２層：黄褐色砂質シルト炭化物多量混となる。遺物は土師器・須恵器（407）が出土している。

SX203（図面257）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺3.9m、短辺3.2m、深さ0.11mを測る。覆土はオリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器・土錘（408）が出土している。

SX204（図面258）：平面形態は隅丸方形でSD208を切り、SK1073～1075に切られる。規模は一辺2.71～2.81m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：オリーブ褐色粘質シルト、第２層：暗灰黄色砂質シルトとなる。遺物は土師器（411～425）・須恵器（409・410）・黒色土器（426～428）・灰釉陶器（429）・土錘（430）・砥石？（05）が出土している。

SX205（図面258）：平面形態は長楕円形で、規模は長径3.04m、短径1.17m、深さ0.1mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトマンガン混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX206（図面258）：平面形態は隅丸方形でSP2023に切られる。規模は一辺2.24～2.39m、深さ0.1mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX207（図面259）：平面形態は不整形で、規模は長径3.1m、短径2.82m、深さ0.34mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は刀子（053）が出土している。

SX208（図面259）：平面形態は不整形で、規模は長径2.37m、短径1.33m、深さ0.73mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器（432・433）・須恵器（431）・金属製品が出土している。

溝

SD201（図面260）：平面形態は直線的で、南北に延びる。北端は消失し、南端はSD202を切り込んで消失している。長さ14.5m、最大幅1.0m、最大深0.23mを測る。断面形態はU字状を呈し、覆土はa，bセクションともオリーブ褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器（437～447）・須恵器（434～436）・黒色土器（448・449）・墨書土器（450～454）・土錘・羽口（455）が認められる。

SD202（図面260）：SD201からSD218に流れる溝だが、自然流路と考えられる。確認できる長さは3.50m、最大幅0.80m、最大深0.07mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土はオリーブ褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD203（図面260）：古代の畑。SD203～SD206の４条の溝が併走している。平面形態は直線的で、東西に延びる。両端とも消失している。長さ8.5m、最大幅0.5m、最大深0.07mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となり、出土遺物は認められない。

SD204（図面260）：畑。SD203の南側を併走する直線的な溝で、両端とも消失している。長さ6.45m、最大幅0.7m、最大深0.07mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・黒色土器が認められる。

SD205（図面260）：畑。SD204の南側を併走する直線的な溝で、両端とも消失している。長さ7.2m、

最大幅0.6m、最大深0.09mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器、土製品では土錘（456）・鉄滓（055～058）が認められる。

SD206（図面260）：畑。SD205の南側を併走する直線的な溝で、両端とも消失している。長さ7.3m、最大幅0.7m、最大深0.10mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD207（図面260）：蛇行しながら南北に延びる。北端は消失し、南端はSX204と合流している。確認できる長さは7.4m、最大幅0.5m、最大深0.13mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器（457）・須恵器が認められる。

SD208（図面260）：平面形態は不明瞭で、SX208と重複している。確認できる長さは2.0m、最大幅0.5m、最大深0.27mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器（458）・灰釉陶器・鉄滓（085）が認められる。

SD209（図面260）：直線的な小溝で北端はSK2059に切られ、南端は消失している。確認できる長さは1.0m、最大幅0.4m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD210（図面260）：古代の畑。SD210～215の6条の溝が北西から南東方向に延びて併走している。平面形態は直線的で、西端は開放している。確認できる長さは6.2m、最大幅0.7m、最大深0.13mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD211（図面260）：畑。SD210の南側を併走しており、両端とも消失している。長さ6.3m、最大幅0.6m、最大深0.07mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD212（図面260）：畑。SD211の南側を併走しており、両端とも消失している。長さ6.4m、最大幅0.5m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD213（図面260）：畑。SD212の南側を併走しており、両端とも消失している。途中SK1094に切られる。長さ7.8m、最大幅0.5m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD214（図面260）：畑。SD213の南側を併走しており、両端とも消失している。途中SK1095に切られる。長さ8.5m、最大幅0.5m、最大深0.13mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD215（図面260）：畑。SD214の南側を併走し、両端とも消失している。長さ8.0m、最大幅0.5m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD216（図面260）：平面形態は直線的で、北西から南東方向に延びる。西端は消失し、東端はSK1100に切られる。途中SK1099に切られる。確認できる長さは2.9m、最大幅0.4m、最大深0.2mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD217（図面260）：調査区南東隅に広がる大型の溝で、南側へ傾斜しており谷の存在がうかがえる。平面形態は不明瞭である。北側でSD218に合流している。確認できる長さは18.2m、最大幅11.8m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄灰色砂質シルト炭化物混の単層となる。出土遺物は土師器（467～470）・須恵器（459～466）・黒色土器（471・472）・墨書土器（473～479）・灰

釉陶器（5373）・土錘（480）・釘（054）が認められる。

SD218（図面260）：SD201から続きSD217に合流する直線的な溝である。確認できる長さは4.70m、最大幅3.80m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：(2.5Y4/4）オリーブ褐色粘質シルト、第２層：(2.5Y4/3）オリーブ褐色粘質シルトとなる。

出土遺物は土師器（487～493）・須恵器（481～486）・黒色土器（494～499）・墨書土器（500～505）・灰釉陶器（506）が認められる。

Ｂ２地区

竪穴住居

SI08（図面265）：南側は調査区外に続く。平面形態は方形を呈し、一辺3.7m程度、深さ0.14mを測る。竪穴の覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマドは東壁に構築されており、左袖に３個の自然礫を袖補強材としている。遺物はカマド周辺から多く出土しており、土師器（1268～1278）・須恵器・土錘（1279)が認められる。

SI09（図面265）：調査区の南端に位置する。SI10と重複し、SI10より古い。平面形態は長方形を呈し、長辺3.05m、短辺2.14m、深さ0.14mを測る。竪穴の覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。カマドは確認されない。遺物は土師器が出土している。

SI10（図面266）：調査区南端に位置する。SI11より新しく、SI09より古い。平面形態は隅丸長方形を呈し、長辺3.15m、短辺2.37m、深さ0.09mを測る。部分的に床面の硬化が認められる。竪穴の覆土は灰黄褐色砂質シルト炭化物混のみの単層となる。カマドは南西壁の北西よりに構築される。カマドの規模は幅0.55m、長さ1.1mで、左右に１個づつ袖石が残存する。遺物は土師器・須恵器（1280～1285）・刀子（090）が出土している。

SI11（図面266）：南側は調査区外となる。SI10より古い。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は一辺3.4m程度、深さ0.31mを測る。竪穴の覆土は第１層：にぶい黄褐色砂質シルトに褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混となる。カマドは認められない。遺物は土師器（1291～1293）・須恵器（1286～1290）が出土している。

掘立柱建物

SB207－SP2081～2085（図面247）：調査区の東壁際に位置し、調査区外に延びる。確認される建物の規模は、梁行２間（4.1m)、桁行１間（1.65m)、床面積は6.8㎡の側柱建物で、棟方向はN24°Eとなる。柱間距離は、梁行1.9～2.2m、桁行1.5mである。柱穴形態は円～隅丸方形で、径0.66～1.06m、深さ0.36～0.65mを数える。柱穴内覆土はにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

土坑

SK1112（図面256）：平面形態は不整形で、規模は長径1.64m、短径0.88m、深さ0.2mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1113（図面256）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.73m、短径0.54m、深さ0.16mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

溝

SD219（図面260）：平面形態は直線的で、北西から南東方向に延びる。両端とも消失している。長さ5.0m、最大幅0.7m、最大深0.18mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混の単層となる。出土遺物は土師器・須恵器（1297～1302）・黒色土器（1303）・墨書土器

(1304) が認められる。

B4地区

土坑

SK1114（図面267）：平面形態は円形で、規模は径0.28m、深さ0.05mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1115（図面267）：平面形態は円形で、規模は径0.29～0.3m、深さ0.15mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1116（図面267）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.36m、短径0.32m、深さ0.11mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1117（図面267）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.3m、深さ0.06mを測る。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1118（図面267）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.33m、短径0.27m、深さ0.17mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1119（図面267）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.27m、深さ0.15mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1120（図面267）：平面形態は円形で、規模は径0.23m、深さ0.12mを測る。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1121（図面267）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.38m、短径0.35m、深さ0.1mを測る。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1122（図面267）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.27m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1123（図面267）：平面形態は円形で、規模は径0.31m、深さ0.16mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1124（図面267）：平面形態は円形で、規模は径0.35～0.36m、深さ0.15mを測る。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK1125（図面267）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.37m、短径0.23m、深さ0.12mを測る。覆土は褐灰色シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1126（図面267）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.32m、短径0.26m、深さ0.16mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1127（図面267）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.24m、深さ0.13mを測る。覆土は黄灰色シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1128（図面267）：平面形態は不整形で、規模は長径0.66m、短径0.62m以上、深さ0.08mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1129（図面267）：平面形態は不整形で、規模は長径0.3m、短径0.23m以上、深さ0.27mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1130（図面267）：平面形態は不整形で、規模は長径0.31m、短径0.15m以上、深さ0.2mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1131（図面267）：平面形態は円形で、規模は径0.23～0.24m、深さ0.08mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

溝

SD220（図面267）：北西から南東方向に延びるさく状遺構。平面形態は直線的で北西端は消失し、南東端は調査区外に続く。確認できる長さは12.9m、最大幅1.1m、最大深0.07mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD221（図面267）：北西から南東方向に延びるさく状遺構。平面形態は直線的で両端とも消失している。長さ4.0m、最大幅0.35m、最大深0.06mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂の単層となる。出土遺物は認められない。

SD222（図面267）：北西から南東方向に延びるさく状遺構。平面形態は直線的な小溝で両端とも消失している。長さ1.2m、最大幅0.3m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂の単層となる。出土遺物は認められない。

SD223（図面267）：北西から南東方向に延びるさく状遺構。平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ2.5m、最大幅0.35m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂の単層となる。出土遺物は認められない。

SD224（図面267）：北西から南東方向に延びるさく状遺構。平面形態は直線的で、北西端は消失し南東端は試掘トレンチに切られる。確認できる長さは3.4m、最大幅0.3m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD225（図面267）：北西から南東方向に延びるさく状遺構。平面形態は直線的で、北西端は開放し南東端は消失している。確認できる長さは1.1m、最大幅0.25m、最大深0.05mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD226（図面267）：北西から南東方向に延びるさく状遺構。平面形態は直線的で、北西端は消失し、南東端は試掘トレンチに切られる。確認できる長さは4.2m、最大幅0.4m、最大深0.07mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂の単層となる。出土遺物は認められない。

SD227（図面267）：北西から南東方向に延びるさく状遺構。平面形態は直線的で両端とも消失している。長さ5.3m、最大幅0.4m、最大深0.09mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂の単層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD228（図面267）：北西から南東方向に延びるさく状遺構。平面形態は直線的で、北西端は試掘トレンチに切られ、南東端は消失している。確認できる長さは7.5m、最大幅0.5m、最大深0.11mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂の単層となる。出土遺物は認められない。

SD229（図面267）：北西から南東方向に延びるさく状遺構。平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ2.0m、最大幅0.3m、最大深0.03mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂の単層となる。出土遺物は認められない。

SD230（図面267）：北西から南東方向に延びるさく状遺構。平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ9.5m、最大幅0.3m、最大深0.13mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂の単層となる。出土遺物は認められない。

SD231（図面267）：北西から南東方向に延びるさく状遺構。平面形態は直線的な小溝で両端とも消失している。長さ1.0m、最大幅0.35m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂の単層となる。出土遺物は認められない。

SD232（図面267）：北西から南東方向に延びるさく状遺構。平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ2.05m、最大幅0.4m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂の単

層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

B6地区

竪穴住居

SI12（図面280）：竪穴住居群のもっとも北側に位置する。SK1161を切りSP2126に切られる。平面形態は長方形を呈し、長辺3.25m、短辺2.7m、竪穴掘方までの深さ0.47mを測る。竪穴の覆土は褐灰色粘質シルトを基調とする。床面は貼床・床硬化で、厚さ0.1mを測る。床の覆土は黄褐色砂質シルトである。カマドは東壁に構築されている。カマドの規模は幅0.6mで、主軸長は3.25m、竪穴外へ伸びる煙道は0.6m突出している。燃焼部での袖間の幅は0.36mで、左袖に2個、右袖に2個の長径20㎝大の袖石が立てた状態で確認された。またカマドの天井部の石が崩落したと思われる細長く平たい石が出土している。カマドの覆土は褐灰色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器（1483～1503）・須恵器（1481・1482）・黒色土器（1504）・緑釉陶器・鉄滓（111）・留金（113）が出土している。

SI13（図面280）：平面形態は方形を呈し、一辺3.0～3.15m、深さは0.29mを測る。竪穴の覆土はにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。カマドは北壁の西側の位置に構築されている。カマド付近は貼床が敷設されている。カマドの規模は幅0.68mで、主軸長は1.2m、竪穴外へ伸びる煙道は0.55m突出する。燃焼部での袖間の幅は0.3mで、左袖に1個、右袖に2個の長径20㎝大の袖石が立てた状態で、またその周辺でカマドの構築部材と思われる2～30㎝大の石が数個確認された。カマドの覆土は第1層：褐灰色粘質シルトに灰黄褐色砂質シルト混、第2層：褐灰色砂質シルトににぶい赤褐色砂質シルト混、第3層：灰黄褐色砂質シルトに分層される。カマド前には炭化物層が広がり、遺物は土師器（1507～1521）・須恵器（1505・1506）・黒色土器（1522・1523）・釘（114～116）・鉄滓（117）が出土している。

SI14（図面281）：SD312・313・317・318と重複しこれらより古い。平面形態は隅丸長方形を呈し、長辺5.14m、短辺4.4m、深さ0.43mを測る。竪穴の覆土はオリーブ褐色砂質シルトを基調とする。カマドは東壁の南側の位置に構築されている。カマドの規模は幅0.85mで、主軸長は1.1m、竪穴外へ伸びる煙道は0.6m突出する。袖材などは確認されない。カマドの覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする。カマド前には炭化物層が広がり、遺物は土師器（1530～1543）・須恵器（1524～1529）・黒色土器（1544・1545）・墨書土器（1546・1547）が出土している。

SI15（図面282）：SK1264より新しく、SK1262・1263・1269・1270・SD325より古い。平面形態は長方形を呈し、長辺3.61m、短辺2.5m、深さは0.59mを測る。竪穴の覆土はにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。遺構中央部分の床面には貼床が確認される。カマドは東壁の南側に構築されている。カマドの規模は幅0.7mで、主軸長は1.7m程度である。燃焼部での袖間の幅は0.52mで、左袖に2個、右袖に1個の20㎝大の袖石が残存する。またカマド内部には支脚として使用されたと考えられる拳大の石が据えられている。カマドの覆土は主に褐色砂質シルトを用いている。カマド前には炭化物層が広がり、遺物は土師器（1556～1572）・須恵器（1548～1555）・黒色土器（1573～1578）・墨書土器（1579～1586）・緑釉陶器（1587）・棒状鉄製品（153）が出土している。

SI16（図面282）：調査区中央付近に位置しSI18を切る。平面形態は長方形を呈し、長辺4.05m、短辺2.75m、深さ0.38mを測る。竪穴の覆土はにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。カマドは東壁の南側に構築されている。カマド付近の床面は硬化した貼床を持つ。カマドの規模は幅0.85mで、主軸長は1.5m程度、竪穴外へ伸びる煙道は0.45m突出している。カマドの覆土は褐色砂質シルトを基調とする。袖材などは確認されない。カマド前には炭化物層が広がり、遺物は土師器（1594～1613）・須恵

器（1588～1593）・黒色土器（1614～1616）・墨書土器（1617～1621）が出土している。

SI17（図面283）：SI18を切る。平面形態は長方形を呈し、長辺3.25m、短辺2.9m、深さ0.4mを測る。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルトににぶい黄褐色砂質シルト混、第２層：にぶい黄褐色砂質シルト、第３層：オリーブ褐色砂質シルトとなる。竪穴の北東部分の床面は硬化した貼床が確認され、厚さは0.15m、床の覆土はオリーブ褐色砂質シルトとなる。カマドは東壁の南側に構築され、煙道は東に延びる。カマドの規模は幅0.75mで、主軸長は1.17mとなる。カマドの覆土は第１層：にぶい黄褐色砂質シルト炭化物少量混、第２層：黒褐色砂炭化物焼土混、第３層：褐色砂焼土混となる。カマド前には炭化物層が広がり、遺物は土師器（1628～1638）・須恵器（1622～1627）・黒色土器（1639）・墨書土器（1640～1646）・フイゴの羽口が出土している。

SI18（図面283）：SI16・17に切られる。平面形態は長方形を呈し、長辺3.06m以上、短辺2.65m、深さ0.33mを測る。竪穴の覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルトに褐色砂質シルト混、第３層：オリーブ褐色砂質シルトとなる。床面には貼床・床硬化がみられ、厚さ0.16mを測る。床の覆土はオリーブ褐色砂質シルトである。カマドは東壁の南側に構築されている。カマドの規模は幅0.5m、長さ1.05m程度、覆土は第１層：褐色シルト質砂、第２層：暗褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器（1649～1656）・須恵器（1647・1648）・黒色土器（1657）・墨書土器（1658～1660）・棒状鉄製品（121）・鉄滓（122）が出土している。

SI19（図面284）：平面形態は長方形を呈し、長辺4.55m、短辺3.3m、深さ0.3mを測る。竪穴の覆土は第１層：にぶい黄褐色砂質シルト炭化物少量混、第２層：褐灰色砂質シルト、第３層：にぶい黄褐色砂質シルトに灰黄色粗砂混に分層される。カマドは北壁のやや東寄りに構築されている。カマドの規模は幅0.65m、長さ0.76mを測る。カマド中央には、支脚と考えられる立石があり、左袖に１個、長径20㎝大の袖石が確認される。カマドの覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト炭化物微量混、第２層：黒褐色シルト、第３層：黒褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は土師器（1670～1681）・須恵器（1661～1669）・墨書土器（1682～1687）・釘（123）・鉄滓（124・125）が出土している。

SI20（図面284）：調査区東壁で一部が検出された。平面形態は不明で、長辺1.45m以上、短辺0.38m以上、深さ0.48mを測る。竪穴の覆土はオリーブ褐色砂質シルトににぶい黄色砂質シルト混となる。出土遺物は土師器（1688）が認められる。

SI21（図面285）：平面形態は方形を呈し、一辺3.8～3.82m、深さ0.26mを測る。竪穴の覆土は灰黄褐色砂質シルトを基調とする。カマドは東南隅に構築されている。カマドの規模は幅1.0m、主軸長は1.1mを測る。燃焼部の左袖に長径20㎝大の袖石１個が確認される。カマドの構築には主にオリーブ褐色砂質シルトを用いている。カマド前には炭化物層が広がり、遺物は土師器（1691～1697）・須恵器（1689・1690）・鉄製金具（119）・棒状鉄製品（120）が出土している。

SI22（図面285）：竪穴住居群のうち、もっとも南側に位置する。平面形態は長方形を呈し、長辺3.6m、短辺2.8m、深さ0.1mを測る。竪穴の覆土はにぶい黄褐色砂質シルトとなる。竪穴中央部とカマド付近の床面には硬化がみられ、酸化鉄の沈着が激しい。カマドは東南隅に構築され、煙道は0.3mほど東へ延びる。カマドの規模は幅0.7mで、主軸長は1.1m、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器（1698～1703）・須恵器・鉄滓（112）・石製品が出土している。

掘立柱建物

SB208－SP2086～2095（図面286）：調査区の北側西壁際に位置する。建物の規模は、梁行２間（4.94m）、桁行３間（5.05m）の側柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN87°Wで、

床面積は25.0㎡。柱間距離は、梁行2.5m、桁行1.6～1.7mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.34～0.84m、深さ0.18～0.58mを数える。柱穴内覆土は黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP2090・2092で土師器が出土している。

SB209－SP2096～2102（図面286）：調査区北側の東壁際に位置し、調査区外に続く。建物の規模は、梁行２間（5.2m）、桁行２間以上（4.28m～）の側柱建物である。建物の棟方向はN82°Wで、検出された床面積は22.3㎡となる。柱間距離は、梁行2.5～2.7m、桁行2.0～2.3mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.54～0.82m、深さ0.23～0.44mを数える。柱穴内覆土は灰黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP2096で黒色土器（1704）、SP2097で須恵器、SP2099で土師器・須恵器、SP2100で黒色土器（1705・1706）・緑釉陶器（1707）、SP2102で土師器が出土している。

SB210－SP2103～2111（図面287）：建物の規模は、梁行２間（4.32～4.45m）、桁行２間（5.0～5.14m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN74°Wで、床面積は22.9㎡。柱間距離は、梁行2.05～2.28m、桁行2.45～2.58mである。柱穴形態は楕円～不整形で、径0.38～0.82m、深さ0.12～0.67mを数える。柱穴内覆土は灰黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP2109・2111で土師器・須恵器（1708）、SP2110で土師器、SP2111で土師器・須恵器・U字状鉄製品（151）が出土している。

SB211－SP2112～2122（図面287）：建物の規模は、梁行２間（4.0～4.1m）、桁行３間（8.03～8.06m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN10°Eで、床面積は33.1㎡。柱間距離は、梁行2.0～2.05m、桁行2.6～3.0mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.36～1.4m、深さ0.17～0.88mを数える。柱穴内覆土は黄灰色砂質シルト～灰黄褐色粘質シルトを基調とする。遺物はSP2112で土師器（1709・1710）、SP2113で須恵器（1711）・墨書土器（1712～1714）、SP2114で墨書土器（1715）、SP2118で須恵器、SP2119で土師器（1716）、SP2120～2122で土師器・須恵器（1717・1718）・SP2124で菱形金具付釘（148）・釘（149）が出土している。

SB212－SP2123～2131（図面288）：建物の規模は、梁行２間（5.1～5.2m）、桁行３間（6.25m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物南側柱列と北東隅の柱穴には、礎石と考えられる直径0.5㎝程の円盤状の礫が水平に置かれており、礎石の一部と考えられる。建物の棟方向はN82°Wで、床面積は32.5㎡。柱間距離は、梁行1.35～3.82m、桁行1.9～2.3mである。柱穴形態は円～楕円形で、径0.34～0.84m、深さ0.12～0.53mを数える。柱穴内覆土は黄褐色～暗灰黄色砂質シルトを基調とする。出土遺物はSP2123で須恵器（1719）、SP2124で菱形金具付き釘（148）・釘（149）、SP2126で須恵器（1720）、SP2127で土師器（1721）、SP2128で土師器（1722～1724）、SP2129で須恵器（1725）・土師器（1726）、SP2131で須恵器（1727～1729）が認められる。

SB213－SP2132～2140（図面288）：調査区の東壁際に位置し、調査区外に続く。建物の規模は、梁行２間（5.85m）、桁行４間以上（9.26m～）の側柱建物で、建物の棟方向はN75°W、検出された床面積は54.2㎡となる。柱間距離は、梁行2.86～3.0m、桁行2.0～3.4mである。柱穴形態は円～不整形で、径0.37～1.46m、深さ0.1～0.72mを数える。柱穴内覆土は灰黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物はSP2132で須恵器・墨書土器（1730）、SP2134で土師器（1738）・須恵器（1731～1737）・墨書土器（1739）、SP2135で須恵器（1740）、SP2136で土師器（1741）・黒色土器（1742）・墨書土器（1743）・須恵器、SP2137・2139で土師器（1744・1745）・須恵器、SP2140で土師器が出土している。

土師器焼成遺構

調査区北半の西壁際からL字状に広がる赤色硬化した焼土面を検出した。焼土面は硬化の激しい部分と緩い部分が確認でき、焼土の硬化状況から、東西方向に広がる焼土面（土師器焼成遺構１）と、

南北方向に広がる焼土面（土師器焼成遺構２）に分離することが可能であった。両者は重複関係から、後者が古く、前者が新しい。土師器焼成遺構からは遺物が殆ど出土しなかったが、焼土面の直上包含層からは、土師器（1760～1831）・須恵器（1746～1759）・黒色土器（1832～1839）・灰釉陶器（1840）・墨書土器（1841～1843・1845～1856）・鉄滓（127・150）・砥石などが出土している。また、土師器焼成遺構の周囲の遺構及び包含層からは写真251－1に掲載したような土器の表面が薄皮を剥いだように円形に剥脱した土師器や、底部と体部の継ぎ目から剥脱した土師器が出土し、黒班のある土師器や須恵器の焼台も出土している。

土師器焼成遺構１（図面290）：東西方向に焼土面が広がるもので、東西3.48m、南北1.8mの規模である。焼土面までの掘り込みは確認できず、焼土面から地山までは深さ0.12m、硬化面の厚さは0.1mを測る。平面形態はやや不整形な長方形で、北側部分を削平された可能性がある。また硬化面の周囲は殆ど硬化せず、ややくすんだ赤色を呈する部分が幅10～20㎝の範囲に帯状に巡っている。

土師器焼成遺構２（図面290）：南北方向に広がるもので、南北2.78m、東西2.6mの規模である。焼土面までの掘り込みは確認できず、焼土面から地山までは深さ0.16mを測る。東西南の三方に硬化の緩い焼土層が帯状に巡り、北側についてはあまり火を受けず硬化していない面が全体の1/3の範囲に広がる。

土坑

SK1132（図面271）：平面形態は不整形で、規模は長径0.6m、短径0.18m以上、深さ0.1mを測る。覆土はにぶい黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1133（図面271）：平面形態は不整形でSD238を切る。規模は長径0.68m、短径0.48m、深さ0.16mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1134（図面271）：東側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径1.08m、短径0.83m以上、深さ0.26mを測る。覆土は褐灰色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1135（図面271）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.42m、短径0.33m、深さ0.18mを測る。覆土は第１層：（５Y5/1）灰色粘質シルト、第２層：（５Y4/1）灰色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK1136（図面271）：平面形態は円形で、規模は径0.71～0.77m、深さ0.29mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルト炭化物少量混、第２層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器（1858・1859）・須恵器・鉄鏃（130）が出土している。

SK1137（図面271）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.56m、短径0.52m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：（５Y4/1）灰色粘質シルト、第２層：（５Y5/1）灰色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK1138（図面271）：平面形態は不整形で、規模は長径0.87m、短径0.71m、深さ0.07mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器・製塩土器（2956）が出土している。

SK1139（図面271）：平面形態は楕円形でSD273を切る。規模は長径0.63m、短径0.57m、深さ0.13mを測る。覆土は褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1140（図面271）：平面形態は楕円形でSD278を切る。規模は長径0.9m、短径0.81m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルトに黒褐色砂質シルト混、第２層：褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1141（図面271）：平面形態は楕円形でSD278を切る。規模は長径0.7m、短径0.56m、深さ0.17mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1142（図面271）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.67m、短径0.48m、深さ0.28mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1143（図面271）：平面形態は楕円形でSD279を切る。規模は長径1.01m、短径0.77m以上、深さ0.19mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1144（図面271）：平面形態は円形でSD276を切る。規模は径0.46m、深さ0.1mを測る。覆土は褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1145（図面271）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.02m、短径0.67m、深さ0.22mを測る。覆土は第1層：にぶい黄褐色砂質シルトに黒褐色砂質シルト混、第2層：にぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は認められない。

SK1146（図面271）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.69m、短径0.65m、深さ0.15mを測る。覆土は褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1147（図面271）：平面形態は長方形でSD2086を切る。規模は長辺0.85m、短辺0.59m、深さ0.2mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1148（図面271）：平面形態は不整形で、規模は長径0.97m、短径0.55m、深さ0.38mを測る。覆土は第1層：にぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混、第2層：にぶい黄褐色砂質シルトに黒褐色砂質シルト混、第3層：褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK1149（図面292）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.43m、短径0.31m、深さ0.14mを測る。覆土は第1層：黄褐色粘質シルト、第2層：褐灰色シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK1150（図面292）：平面形態は不整形で、規模は長径0.64m、短径0.34m、深さ0.31mを測る。覆土は第1層：にぶい黄褐色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器が出土している。

SK1151（図面292）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.38m、短径0.31m、深さ0.2mを測る。覆土はにぶい黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は黒色土器が出土している。

SK1152（図面292）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.25m、短径0.2m、深さ0.17mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1153（図面292）：平面形態は円形で、規模は径0.37～0.4m、深さ0.29mを測る。覆土は灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1154（図面292）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.64m、短径0.42m、深さ0.32mを測る。覆土は第1層：にぶい黄色粘質シルト、第2層：灰黄褐色粘質シルト、第3層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK1155（図面292）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.54m、短径0.41m、深さ0.37mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色粘質シルトに黄褐色砂質シルト炭化物少量混、第2層：灰黄褐色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1156（図面292）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.77m、短径0.56m、深さ0.42mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色砂質シルト、第2層：褐灰色砂質シルト、第3層：灰色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1157（図面292）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.55m、短径0.43m、深さ0.3mを測る。覆土は

灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（1860）が出土している。

SK1158（図面292）：平面形態は不整形で、規模は長径0.75m、短径0.59m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルト、第２層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器（1861・1862）が出土している。

SK1159（図面292）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.6m、短径0.51m以上、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：褐灰色粘質シルト、第２層：褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK1160（図面292）：平面形態は円形で、規模は径0.45m以上、深さ0.04mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1161（図面292）：平面形態は不整形でSI12に切られる。規模は長径0.84m、短径0.44m以上、深さ0.16mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルト、第２層：褐灰色粘質シルトなる。遺物は須恵器（1863～1868）・墨書土器（1869）が出土している。

SK1162（図面292）：平面形態は円形で、規模は径0.43～0.44m、深さ0.17mを測る。覆土は褐灰色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK1163（図面292）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺0.67m以上、短辺0.6m、深さ0.11mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1164（図面292）：平面形態は不整形で、規模は長径0.61m、短径0.36m以上、深さ0.1mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1165（図面292）：平面形態は円形で、規模は径0.5m、深さ0.1mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（1870）が出土している。

SK1166（図面292）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.45m、短径0.41m、深さ0.07mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1167（図面292）：平面形態は円形でSD317を切る。規模は径0.4～0.42m、深さ0.12mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器（1871）が出土している。

SK1168（図面292）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.32m、深さ0.13mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルト焼土・炭化物混のみの単層となる。遺物は土師器（1872）・墨書土器（1857）が出土している。

SK1169（図面292）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.38m、深さ0.3mを測る。覆土は褐灰色粘質シルト炭化物・礫混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（1873）が出土している。

SK1170（図面292）：平面形態は円形で、規模は径0.55m、深さ0.1mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1171（図面292）：平面形態は円形で、規模は径0.42m程度、深さ0.1mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトマンガン混のみの単層となる。遺物は認められない。

SK1172（図面292）：平面形態は長楕円形でSD318を切る。規模は長径1.84m、短径0.47m、深さ0.08mを測る。覆土はにぶい黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器（1874）が出土している。

SK1173（図面293）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.61m、短径0.52m、深さ0.14mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1174（図面293）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.79m、短径0.71m、深さ0.15mを測る。覆土は第１層：灰黄色粗砂、第２層：褐色粘質シルトとなる。遺物は須恵器（1875）が出土している。

SK1175（図面293）：平面形態は隅丸方形で、規模は一辺0.61m以上、深さ0.45mを測る。覆土は第１

層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器・墨書土器（1876）が出土している。

SK1176（図面293）：平面形態は不整形でSK1177を切る。規模は長径0.48m、短径0.41m、深さ0.13mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルトににぶい黄色砂混、第２層：灰黄褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK1177（図面293）：平面形態は楕円形でSK1176に切られる。規模は長径0.6m、短径0.58m、深さ0.17mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルトに褐色粘質シルト焼土・炭化物混、第２層：灰黄褐色粘質シルト炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK1178（図面293）：平面形態は楕円形でSP2103を切る。規模は長径0.62m以上、短径0.54m以上、深さ0.14mを測る。覆土は第１層：黄褐色粘質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルト、第３層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK1179（図面293）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺0.8m以上、短辺0.5m以上、深さ0.15mを測る。覆土は黄褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK1180（図面293）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.46m、短径0.38m、深さ0.3mを測る。覆土は第１層：黄褐色砂質シルトに灰黄褐色粘質シルト混、第２層：灰黄褐色粘質シルトに黄褐色砂質シルト混、第３層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1181（図面293）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.65m、短径0.52m、深さ0.47mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1182（図面293）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.43m、短径0.34m、深さ0.14mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1183（図面293）：平面形態は円形で、規模は径0.43m程度、深さ0.21mを測る。覆土は黄褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK1184（図面293）：平面形態は不整形で、規模は長径0.9m、短径0.67m、深さ0.2mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（1877）・羽口（1878）が出土している。

SK1185（図面293）：平面形態は楕円形でSK1186を切る。規模は長径0.84m、短径0.5m、深さ0.2mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1186（図面293）：平面形態は楕円形でSK1185に切られる。規模は長径0.65m、短径0.57m、深さ0.19mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1187（図面293）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.26m、深さ0.15mを測る。覆土は黄灰色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1188（図面293）：平面形態は長楕円形で、規模は長径0.85m以上、短径0.43m、深さ0.22mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1189（図面293）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.9m以上、短径0.59m以上、深さ0.27mを測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色粘質シルト、第２層：褐灰色砂質シルト炭化物少量混となる。出土遺物は認められない。

SK1190（図面293）：平面形態は不整形で、規模は長径0.79m、短径0.67m、深さ0.38mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルトに黄褐色砂質シルト炭化物少量混、第２層：灰黄褐色粘質シルト炭化物

少量混、第３層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1191（図面293）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.37m、短径0.32m、深さ0.23mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルトに黄褐色砂質シルト混、第２層：灰黄褐色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1192（図面293）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.77m以上、短径0.57m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルトににぶい黄色粘質シルト混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1193（図面293）：平面形態は円形で、規模は径0.45m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルトに褐色粘質シルト混、第２層：灰黄褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器（1879）・須恵器が出土している。

SK1194（図面293）：平面形態は不整形で、規模は長径0.72m、短径0.66m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色砂質シルト、第２層：黄褐色砂質シルト、第３層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器（1880）・須恵器が出土している。

SK1195（図面294）：平面形態は楕円形でSK1196に切られる。規模は長径0.49m、短径0.47m以上、深さ0.35mを測る。覆土は第１層：黄褐色粘質シルトに灰黄褐色粘質シルト混、第２層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK1196（図面294）：平面形態は楕円形でSK1195を切る。規模は長径0.58m、短径0.4m、深さ0.15mを測る。覆土は第１層：黄褐色砂質シルト、第２層：オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・羽口（1881）が出土している。

SK1197（図面294）：平面形態は楕円形でSK1198を切る。規模は長径0.61m、短径0.48m、深さ0.16mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1198（図面294）：平面形態は円形でSK1197に切られる。規模は径0.56～0.59m、深さ0.46mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK1199（図面294）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.51m、短径0.4m、深さ0.19mを測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色焼土炭化物混、第２層：灰黄褐色砂質シルト焼土混となる。遺物は土師器が出土している。

SK1200（図面294）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.45m、短径0.34m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK1201（図面294）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.42m、短径0.3m、深さ0.18mを測る。覆土は第１層：褐灰色粘質シルト、第２層：灰黄褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器（1882）が出土している。

SK1202（図面294）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.63m、短径0.45m、深さ0.21mを測る。覆土は褐灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（1883）が出土している。

SK1203（図面294）：平面形態は円形で、規模は径0.3m、深さ0.12mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1204（図面294）：平面形態は円形で、規模は径0.75m程度、深さ0.36mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト炭化物少量混、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物はない。

SK1205（図面294）：平面形態は不整形でSD323を切る。規模は長径0.55m、短径0.5m、深さ0.17mを

測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1206（図面294）：平面形態は円形で、規模は径0.4m程度、深さ0.09mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1207（図面294）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.72m、短径0.58m、深さ0.59mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトを基調とする4層に分層される。遺物は須恵器が出土している。

SK1208（図面294）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.38m、深さ0.12mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルト焼土炭化物多量混のみの単層となる。遺物は土師器（1884）が出土している。

SK1209（図面294）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.66m以上、短径0.65m、深さ0.08mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1210（図面294）：平面形態は楕円形でSK1211を切る。規模は長径0.84m、短径0.6m、深さ0.25mを測る。覆土は第1層：にぶい黄褐色粘質シルトに黄褐色砂質シルト混、第2層：にぶい黄褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器（1885）が出土している。

SK1211（図面294）：平面形態は不整形でSK1210に切られる。規模は長径0.94m、短径0.49m以上、深さ0.51mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色粘質シルト、第2層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は須恵器（1886）が出土している。

SK1212（図面294）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.21m、深さ0.23mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色粘質シルト、第2層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・墨書土器（1887）が出土している。

SK1213（図面294）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.98m、短径0.78m、深さ0.1mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色粘質シルト焼土・炭化物多量混、第2層：灰黄褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器（1888）・須恵器が出土している。

SK1214（図面294）：平面形態は不整形でSX215に切られる。規模は長径0.36m、短径0.3m以上、深さ0.06mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルト焼土混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1215（図面294）：平面形態は不整形で、規模は長径0.62m、短径0.52m以上、深さ0.39mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色砂質シルト炭化物少量混、第2層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1216（図面294）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.7m、短径0.46m、深さ0.17mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色粘質シルトににぶい黄色粘質シルト、第2層：灰黄褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1217（図面294）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.45m、短径0.32m以上、深さ0.35mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1218（図面295）：平面形態は不整形で東側は調査区外となる。規模は長径1.39m以上、短径0.57m、深さ0.32mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色砂質シルト、第2層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器（1891～1893）・須恵器（1889・1890）が出土している。

SK1219（図面295）：平面形態は楕円形でSP2134を切る。規模は長径0.39m、短径0.34m、深さ0.17mを測る。覆土は黄褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1220（図面295）：平面形態は不整形で、規模は長径0.68m、短径0.65m、深さ0.34mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1221（図面295）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.7m、短径0.65m、深さ0.33mを測る。覆土は

第１層：にぶい黄褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色粘質シルト、第３層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK1222（図面295）：平面形態は楕円形でSK1223を切る。規模は長径0.68m、短径0.57m、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1223（図面295）：平面形態は楕円形でSK1222に切られる。規模は長径1.02m以上、短径0.82m、深さ0.41mを測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色砂質シルト、第２層：黒褐色砂質シルト、第３層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器（1895）・須恵器（1894）が出土している。

SK1224（図面295）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.64m、短径0.5m、深さ0.16mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1225（図面295）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.78m、短径0.68m、深さ0.07mを測る。覆土はにぶい黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1226（図面295）：平面形態は不整形で、規模は長径0.88m、短径0.7m、深さ0.18mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（1896）が出土している。

SK1227（図面295）：平面形態は不整形で、規模は長径1.36m、短径0.8m、深さ0.42mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトを基調とする４層に分層される。遺物は土師器（1897）・須恵器が出土している。

SK1228（図面295）：平面形態は楕円形でSK1229を切る。規模は長径0.87m以上、短径0.7m以上、深さ0.7mを測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色砂に焼土・炭化物微量混、第２層：にぶい黄褐色砂にオリーブ褐色細砂混、第３層：にぶい黄褐色砂炭化物微量混となる。遺物は認められない。

SK1229（図面295）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.51m以上、短径0.28m以上、深さ0.49mを測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色砂焼土少量・炭化物微量混、第２層：にぶい黄褐色砂にオリーブ褐色砂ブロック混となる。遺物は石帯・丸鞆（38）が出土している。

SK1230（図面295）：平面形態は楕円形でSI13に切られる。規模は長径0.85m、短径0.62m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1231（図面295）：平面形態は不整形でSI13・SD326に切られる。規模は長径0.84m、短径0.64m、深さ0.55mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器（1898・1899）が出土している。

SK1232（図面295）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長径辺1.34m、短辺0.65m、深さ0.35mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルト、第２層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器・鎌（142）・椀形滓（143）が出土している。

SK1233（図面295）：平面形態は不整形でSD329を切る。規模は長径1.02m、短径0.56m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色粘質シルト炭化物多量混、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器（1900）が出土している。

SK1234（図面295）：平面形態は不整形で、規模は長径0.66m、短径0.5m、深さ0.47mを測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK1235（図面295）：平面形態は不整形で、規模は長径0.56m、短径0.42m以上、深さ0.15mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器・墨書土器（1901）が出土している。

SK1236（図面295）：平面形態は不整形でSI13を切る。規模は長径1.08m、短径0.91m、深さ0.08mを測

る。覆土は褐灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1237（図面296）：平面形態は不整形でSP2132を切る。規模は長径0.56m、短径0.51m、深さ0.17mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルト、第２層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1238（図面296）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長径0.52m、短径0.35m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルト炭化物多量混、第２層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器（1903）・須恵器（1902）が出土している。

SK1239（図面296）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.61m、短径0.52m、深さ0.21mを測る。覆土はにぶい黄色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1240（図面296）：平面形態は不整形で、規模は長径1.03m、短径0.88m、深さ0.55mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト炭化物多量混、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器（1904）が認められる。

SK1241（図面296）：平面形態は不整形で、規模は長径1.16m、短径0.71m以上、深さ0.65mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト炭化物多量混、第２層：灰黄褐色砂質シルト、第３層褐灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1242（図面296）：平面形態は不整形でSD326を切る。規模は長径0.39m以上、短径0.36m以上、深さ0.24mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルトに褐色焼土混、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1243（図面296）：平面形態は不整形で、規模は長径0.63m、短径0.34、深さ0.18mを測る。覆土は第１層：褐色焼土、第２層：灰黄褐色砂質シルト焼土混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1244（図面296）：平面形態は不整形でSP2137を切る。規模は長径0.96m、短径0.6m以上、深さ0.18mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1245（図面296）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.57m、短径0.45m、深さ0.2mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1246（図面296）：平面形態は隅丸方形でSD325を切る。規模は一辺0.55～0.6m、深さ0.1mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1247（図面296）：平面形態は楕円形でSK1246に切られる。規模は長径0.76m、短径0.37m以上、深さ0.21mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1248（図面296）：平面形態は不整形で、規模は長径0.62m以上、短径0.15m以上、深さ0.54mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は認められない。

SK1249（図面296）：平面形態は不整形で、規模は長径0.6m、短径0.34m、深さ0.4mを測る。覆土は第１層：褐灰色砂質シルトに焼土・炭化物混、第２層：にぶい黄褐色砂質シルトとなる。遺物は墨書土器（1905）・須恵器が出土している。

SK1250（図面296）：平面形態は楕円形でSK1251を切る。規模は長径0.78m以上、短径0.59m以上、深さ0.65mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK1251（図面296）：平面形態は長楕円形でSK1250に切られる。規模は長径1.07m、短径0.43m、深さ

0.19mを測る。覆土は灰黄褐色～褐灰色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・製塩土器が出土している。

SK1252（図面296）：平面形態は楕円形でSK1253を切る。規模は長径0.36m、短径0.34m、深さ0.15mを測る。覆土は第1層：褐灰色粘質シルトににぶい黄色粘質シルト混、第2層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1253（図面296）：平面形態は楕円形でSK1252に切られる。規模は長径0.97m、短径0.54m以上、深さ0.67mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色粘質シルトに黄褐色砂質シルト混、第2層：灰黄褐色粘質シルト、第3層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器（1906）・黒色土器（1907）・墨書土器（1908）が出土している。

SK1254（図面296）：平面形態は円形で、規模は径0.32～0.35m、深さ0.14mを測る。覆土はにぶい黄色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1255（図面296）：平面形態は不整形でSD326に切られる。規模は長径0.49m以上、短径0.48m、深さ0.2mを測る。覆土は褐灰色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1256（図面296）：平面形態は不整形で、規模は長径0.62m以上、短径0.49m、深さ0.45mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1257（図面296）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.56m、短径0.45m、深さ0.1mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（1910）・須恵器（1909）・墨書土器（1911）が出土している。

SK1258（図面296）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.28m、短径0.25m、深さ0.11mを測る。覆土は褐灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1259（図面296）：平面形態は不整形で、規模は長径1.37m、短径1.06m以上、深さ0.17mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（1912）・墨書土器（1844）が認められる。

SK1260（図面297）：平面形態は円形でSK1261を切る。規模は径0.3m、深さ0.1mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器・墨書土器（1913）が出土している。

SK1261（図面297）：平面形態は隅丸長方形で、SK1259を切り込みSK1260に切られる。規模は長辺1.75m、短辺0.93m、深さ0.12mを測る。覆土は第1層：にぶい赤褐色焼土、第2層：灰黄褐色砂質シルト、第3層：灰黄褐色砂質シルト炭化物多量混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1262（図面297）：平面形態は楕円形でSI15・SD325を切る。規模は長径0.76m、短径0.53m、深さ0.13mを測る。覆土は褐灰色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は土師器（1914）・須恵器が出土している。

SK1263（図面297）：平面形態は楕円形でSI15を切る。規模は長径1.32m、短径0.71m、深さ0.31mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色砂質シルト、第2層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器（1915～1918）・須恵器・黒色土器（1919）・墨書土器（1920～1923）・板状鉄製品（152）が出土している。

SK1264（図面297）：平面形態は不整形でSI15・SK1263に切られる。規模は長径0.83m、短径0.47m以上、深さ0.16mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色砂質シルト炭化物少量混、第2層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器（1924）・須恵器が出土している。

SK1265（図面297）：平面形態は不整形で、規模は長径0.5m、短径0.29m以上、深さ0.11mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器（1925）が出土している。

SK1266（図面297）：平面形態は円形で、規模は径0.52m、深さ0.23mを測る。覆土は第1層：灰黄褐

色粘質シルトににぶい黄色砂混、第２層：灰黄褐色粘質シルト焼土ブロック混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1267（図面297）：平面形態は隅丸方形で、規模は一辺0.7～0.78m、深さ0.56mを測る。覆土は第１層：赤褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルト、第３層：褐灰色シルトとなる。遺物は土師器（1926）が出土している。

SK1268（図面297）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.82m、短径0.7m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルトににぶい黄色砂質シルト混、第２層：灰黄褐色粘質シルトとなる。遺物は墨書土器（1927）・須恵器が出土している。

SK1269（図面297）：平面形態は不整形でSI15に切られる。規模は長径0.7m、短径0.53m以上、深さ0.11mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（1928）が出土している。

SK1270（図面297）：平面形態は楕円形でSI15を切る。規模は長径1.15m、短径0.8m、深さ0.13mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（1929）・墨書土器（1930～1935）が出土している。

SK1271（図面297）：平面形態は不整形でSD325に切られる。規模は長径0.9m以上、短径0.56m、深さ0.05mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1272（図面297）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.75m、短径0.55m、深さ0.25mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（1936）・須恵器が出土している。

SK1273（図面297）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.65m、短径0.64m、深さ0.45mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルトににぶい黄色砂質シルト混、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1274（図面297）：平面形態は円形で、規模は径0.42m、深さ0.4mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1275（図面297）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.4m、短径0.26m、深さ0.36mを測る。覆土は褐灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1276（図面297）：平面形態は不整形でSK1278・SX216を切る。規模は長径0.52m、短径0.49m、深さ0.2mを測る。覆土は第１層：褐灰色粘質シルト、第２層：褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器・墨書土器（1937）・鉄滓（146）が出土している。

SK1277（図面298）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.92m、短径0.85m、深さ0.37mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1278（図面298）：平面形態は不整形でSK1276・SX216に切られる。規模は長径1.07m、短径0.82m以上、深さ0.65mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は土師器（1938）・須恵器が出土している。

SK1279（図面298）：平面形態は不整形で、規模は長径1.41m、短径0.72m、深さ0.71mを測る。覆土は第１層：褐灰色砂質シルトににぶい黄色砂質シルト混、第２層：灰黄褐色砂質シルト、第３層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は須恵器・土錘（1939）が出土している。

SK1280（図面298）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.67m、短径0.58m、深さ0.3mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルトににぶい黄色砂質シルト混、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器（1940）が出土している。

SK1281（図面298）：平面形態は楕円形でSK1282を切る。規模は長径0.77m、短径0.6m、深さ0.47mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルトににぶい黄色砂質シルトブロック混、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK1282（図面298）：平面形態は不整形で、規模は長径0.76m以上、短径0.6m、深さ0.51mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルトマンガン混、第２層：灰黄褐色砂質シルトににぶい黄色粘質シルト混、第３層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1283（図面298）：平面形態は円形でSK1284を切る。規模は長径0.46m、短径0.42m、深さ0.15mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（1941・1942）・須恵器が出土している。

SK1284（図面298）：平面形態は楕円形でSK1283に切られる。規模は長径1.07m、短径0.74m、深さ0.64mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1285（図面298）：平面形態は不整形でSI17に切られる。規模は長径0.24m、短径0.15m以上、深さ0.08mを測る。覆土はにぶい黄色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1286（図面298）：平面形態は楕円形でSK1287を切る。規模は長径0.39m、短径0.33m、深さ0.14mを測る。覆土は黄灰色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1287（図面298）：平面形態は楕円形で、SI17を切り込みSK1286に切られる。規模は長径1.07m、短径0.57m、深さ0.18mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト炭化物少量混、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1288（図面298）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.33m、短径0.93m、深さ0.27mを測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色砂質シルト炭化物少量混となる。遺物は土師器（1943）・須恵器が出土している。

SK1289（図面298）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.56m、短径0.47m、深さ0.25mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1290（図面298）：平面形態は不整形でSK1289に切られる。規模は長径0.72m以上、短径0.55m、深さ0.4mを測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄褐色砂質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物はない。

SK1291（図面298）：東側が調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径0.68m、短径0.49m以上、深さ0.38mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK1292（図面298）：平面形態は不整形で、規模は長径0.74m、短径0.69m、深さ0.29mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルトににぶい黄色砂質シルト混、第２層：灰黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK1293（図面299）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.57m以上、短径0.3m、深さ0.15mを測る。覆土は第１層：褐色粘質シルト、第２層：褐色粘質シルトににぶい黄色砂混となる。遺物は土師器が出土している。

SK1294（図面299）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.41m、深さ0.29mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1295（図面299）：平面形態は楕円形でSI19を切る。規模は長径0.53m、短径0.46m、深さ0.2mを測

る。覆土は黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SK1296（図面299）：平面形態は円形で、規模は径0.58m、深さ0.07mを測る。覆土は灰黄褐色砂のみの単層となる。遺物は土師器・須恵器（1944）が出土している。

SK1297（図面299）：平面形態は円形で、規模は径0.3m、深さ0.07mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（1946～1948）・須恵器（1945）が出土している。

SK1298（図面299）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.44m、短径0.34m、深さ0.15mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（1949・1950）が出土している。

SK1299（図面299）：平面形態は円形で、規模は径0.26m、深さ0.12mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1300（図面299）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.46m、短径0.4m、深さ0.22mを測る。覆土はにぶい黄色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1301（図面299）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.62m、短径0.48m以上、深さ0.38mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1302（図面299）：平面形態は不整形でSK1301を切る。規模は長径0.75m、短径0.57m、深さ0.21mを測る。覆土は第１層：（10YR5/3）にぶい黄褐色粘質シルト、第２層：（10YR4/3）にぶい黄褐色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK1303（図面299）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.14m、短径0.54m、深さ0.34mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1304（図面299）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.71m、短径0.61m、深さ0.61mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器がある。

SK1305（図面299）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.46m、短径0.34m、深さ0.27mを測る。覆土は褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1306（図面299）：平面形態は不整形で、規模は長径0.5m、短径0.47m、深さ0.2mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1307（図面299）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.94m、短径0.8m、深さ0.27mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄褐色砂となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1308（図面299）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.05m、短径0.61m、深さ0.15mを測る。覆土は褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は須恵器・黒色土器（1951）が出土している。

SK1309（図面299）：平面形態は不整形で、規模は長径0.9m以上、短径0.53m、深さ0.3mを測る。覆土は褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1310（図面299）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.32m、短径0.27m、深さ0.05mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1311（図面299）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺0.6m、短辺0.42m、深さ0.1mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1312（図面299）：平面形態は円形で、規模は径0.3～0.34m、深さ0.17mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1313（図面300）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.64m、短径0.56m、深さ0.22mを測る。覆土は第１層：褐色砂質シルトに黒褐色砂質シルト混、第２層：褐色砂質シルト炭化物微量混となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1314（図面300）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.72m、短径0.49m、深さ0.18mを測る。覆土は褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器・土師器（1952）が出土している。

SK1315（図面300）：平面形態は不整形で、規模は長径0.29m、短径0.15m以上、深さ0.12mを測る。覆土は褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（1953～1956）・須恵器が出土している。

SK1316（図面300）：平面形態は不整形で、規模は長径0.69m、短径0.5m、深さ0.12mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1317（図面300）：平面形態は不整形で、規模は長径0.84m、短径0.67m、深さ0.25mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1318（図面300）：平面形態は不整形で、規模は長径0.74m以上、短径0.48m、深さ0.19mを測る。覆土は褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1319（図面300）：平面形態は円形で、規模は径0.3m、深さ0.29mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1320（図面300）：平面形態は円形で、規模は径0.35m、深さ0.17mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1321（図面300）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.34m、短径0.25m、深さ0.19mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器・墨書土器（1957）が出土している。

SK1322（図面300）：平面形態は不整形で、規模は長径0.39m、短径0.35m、深さ0.25mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1323（図面300）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.64m、短径0.54m、深さ0.27mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1324（図面300）：平面形態は不整形で、規模は長径0.57m、短径0.21m、深さ0.17mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1325（図面300）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.43m、短径0.34m、深さ0.06mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1326（図面300）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.34m、短径0.26m、深さ0.15mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1327（図面300）：平面形態は円形で、規模は径0.24m、深さ0.12mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1328（図面300）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.38m、短径0.25m、深さ0.07mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1329（図面300）：平面形態は不整形で、規模は長径0.7m、短径0.62m、深さ0.1mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1330（図面301）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.38m、短径0.28m、深さ0.11mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1331（図面301）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.08m、短径0.85m、深さ0.15mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器（1958）が出土している。

SK1332（図面301）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.64m以上、短径0.61m、深さ0.17mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器（1959）が出土している。

SK1333（図面301）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.48m、短径0.36m、深さ0.23mを測る。覆土は

灰色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1334（図面301）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.6m、短径0.5m、深さ0.07mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（1960）・墨書土器（1961）が出土している。

SK1335（図面301）：東側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径0.65m、短径0.63m以上、深さ0.29mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルト焼土少量混のみの単層となる。遺物は土師器（1962）が出土している。

SK1336（図面301）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.83m、短径0.45m、深さ0.4mを測る。覆土は褐色砂質シルト炭化物微量混のみの単層となる。遺物は土師器（1963）が出土している。

SK1337（図面301）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.08m、短径0.6m、深さ0.17mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は土師器（1964）が出土している。

SK1338（図面301）：平面形態は不整形で、規模は長径1.5m、短径1.0m以上、深さ0.3mを測る。覆土は第１層：黄灰色砂質シルト、第２層：黄灰色砂質シルトににぶい黄色砂質シルト混となる。遺物は土師器（1965～1968）・墨書土器（1969）が出土している。

SK1339（図面301）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.68m、短径0.57m、深さ0.19mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK1340（図面301）：平面形態は不整形で、規模は長径0.18m以上、短径0.15m、深さ0.11mを測る。覆土は褐灰色砂質シルトのみの単層となる。遺物は黒色土器が出土している。

SK1341（図面296）：平面形態は楕円形でSK1238に切られる。規模は長径0.57m、短径0.41m、深さ0.09mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK1342（図面301）：平面形態は円形で、規模は径1.05～1.1m、深さ0.36mを測る。覆土は黄褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は須恵器がある。

SK1343（図面301）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.57m、短径0.36m、深さ0.05mを測る。覆土は褐灰色砂質シルトマンガン混のみの単層となる。遺物は金属製品が出土している。

SK1344（図面301）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.25m、深さ0.15mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトの単層となる。遺物は釘（147）が出土している。

SK1345（図面301）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.68m、短径0.58m、深さ0.38mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は炭化材が出土している。

SK1346（図面301）：平面形態は円形で、規模は径0.58m、深さ0.25mを測る。覆土は第１層：黄褐色砂質シルトに焼ブロック混、第２層：にぶい黄褐色砂質シルトとなる。遺物は炭化材が出土している。

SK1353（図面301）：平面形態は長楕円形で、規模は長径0.93m、短径0.3m、深さ0.07mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は稲・炭化種実が出土している。

大型土坑

SX209（図面290・291）：焼成遺構２に切られる隅丸長方形の土坑で、規模は長辺3.14m、短辺2.54m、深さ0.36mを測る。覆土は灰黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器（1973～1978）・須恵器（1970～1972）・黒色土器（1979・1980）・板状鉄製品（154・155）・鉄滓（156）が出土している。

SX210（図面291）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺3.5m以上、短辺1.18m、深さ0.41mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器（1986～1998）・須恵器（1981～1985）・黒色土器（1999～2001）・墨書土器（2002・2003）・緑釉陶器（2004）が出土している。

SX211（図面291）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺2.68m、短辺2.02m、深さ0.63mを測る。覆

土は灰黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器（2012～2025・2027・2029～2057）・須恵器（2005～2011・2026・2028）・黒色土器（2058～2060）・墨書土器（2061～2082）・製塩土器が出土している。

SX212（図面291）：平面形態は方形で、規模は一辺1.45～1.5m、深さ0.08mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX213（図面302）：平面形態は隅丸長方形でSD269を切る。規模は長辺3.67m、短辺1.62m、深さ0.07mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器（2083）・黒色土器が出土している。

SX214（図面302）：平面形態は不整形でSD277に切られる。規模は長径1.98m以上、短径0.44m以上、深さ0.1mを測る。覆土はにぶい黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SX215（図面302）：平面形態は長楕円形で、規模は長径2.63m、短径0.88m、深さ0.52mを測る。覆土は第１層：オリーブ黒色粘質シルト、第２層：にぶい黄褐色粘質シルト、第３層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器（2084）・須恵器が出土している。

SX216（図面302）：平面形態は長楕円形でSD328に切られる。規模は長径2.54m以上、短径0.67m、深さ0.23mを測る。覆土は褐灰色砂質シルト炭化物少量混となる。遺物は土師器・須恵器が出土している。

SX217（図面303）：東側は調査区外となる。平面形態は不整形で、規模は長径2.04m、短径1.22m以上、深さ0.23mを測る。覆土はにぶい黄褐色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器（2085）が出土している。

SX218（図面303）：長さ1.85m、幅0.9mのL字形の石列である。

SX219（図面303）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺2.5m、短径1.96m、深さ0.23mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトを基調とする。遺物は土師器（2086）・フイゴの羽口（2087・2088）・鋸（118）・釘（132・133）・棒状鉄製品（134・135・136）・鉄滓（137～139・144）・錐（145）が出土している。

SX220（図面303）：平面形態は不整形で、SK1334・1337に切られる。規模は長径2.52m、短径1.08m、深さ0.65mを測る。覆土はにぶい黄色粘質シルトマンガン混のみの単層となる。遺物はフイゴの羽口（2089）が出土している。

溝

SD233（図面272）：平面形態は直線的で、南北に延びる。北端はSD246と合流し南端は消失している。確認できる長さは7.6m、最大幅0.5m、最大深0.16mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はa，bセクションで灰褐色粘質シルトの単層となり、cセクションでは褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD234（図面272）：平面形態は直線的で、南北に延びる。北端は消失し、南端は試掘トレンチに切られる。確認できる長さは9.15m、最大幅0.6m、最大深0.1mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第１層：にぶい黄褐色粘質シルト、第２層：灰褐色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD235（図面272）：北端は消失し、南北に延びて南端はSD236と合流し、二股状になる。確認できる長さは7.65m、最大幅0.7m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形～逆台形を呈し、覆土はaセクションでは褐色粘質シルトに褐色砂混、bセクションでは褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土

師器が認められる。

SD236（図面272）：平面形態は直線的で、北端でSD235と合流し、南端は消失している。確認できる長さは3.3m、最大幅0.5m、最大深0.12mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD237（図面272）：平面形態は直線的で、南北に延び、両端とも消失している。長さ6.7m、最大幅0.4m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD238（図面272）：平面形態は直線的で、南北に延びる。北端は消失し、南端はSK1133に切られる。途中SD239・249と合流している。SD250を切る。確認できる長さは12.6m、最大幅0.4m、最大深0.17mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa、b、cセクションとも褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD239（図面272）：平面形態は直線的で、南北に延びる。北端はSD238に合流し、南端は消失している。確認できる長さは3.6m、最大幅0.4m、最大深0.13mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD240（図面272）：平面形態は南北に延びる小溝で、両端とも消失している。長さ1.9m、最大幅0.4m、最大深0.24mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD241（図面272）：平面形態は直線的で、南北に延びる。北端は消失し、南端は試掘トレンチに切られる。確認できる長さは8.7m、最大幅0.6m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa,bセクションで褐色粘質シルトの単層となり、cセクションでは第1層：褐色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器が認められる。

SD242（図面272）：平面形態は直線的で、南北に延びて両端とも消失している。長さ4.35m、最大幅0.3m、最大深0.09mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はにぶい黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD243（図面272）：平面形態は直線的で、南北に延びて両端とも消失している。長さ9.0m、最大幅0.45m、最大深0.18mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD244（図面272）：平面形態は直線的で、南北に延びて両端とも消失している。併走するSD245を切り込む。長さ8.8m、最大幅0.4m、最大深0.24mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器（2090～2092）・墨書土器（2093・2094）灰釉陶器・釘（158）が認められる。

SD245（図面272）：平面形態は直線的で、南北に延びる。両端とも消失し、途中SD244に切り込まれる。長さ5.0m、最大幅0.6m、最大深0.14mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD246（図面272）：平面形態は直線的な小溝で、SD234に垂直に切られる。東端はSD233と合流している。確認できる長さは1.25m、最大幅0.35m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は褐灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD247（図面272）：平面形態は直線的で東西に延びる。西端は消失し、東端は東側調査区外に続く。確認できる長さは3.6m、最大幅0.2m、最大深0.19mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa、bセ

クションで褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD248（図面272）：平面形態は直線的で、南北に延びる。北端は溝に切られ、南端は開放し途切れるがSD252と合流している。途中SD250を切る。確認できる長さ7.0m、最大幅0.4m、最大深0.3mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD249（図面272）：平面形態は直線的で、南北に延び、両端とも消失している。北側でSD238と合流し東西に延びる。途中SD250に切られる。長さ10.5m、最大幅0.5m、最大深0.05mを測る。断面形態はをU字形呈し、覆土は褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD250（図面272）：平面形態は直線的で東西に延びる。東端は消失し、西端は開放している。SD238・248に切られ、SD249を切る。確認できる長さは6.4m、最大幅0.3m、最大深0.2mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルト、第２層：褐灰色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器・釘（164）が認められる。

SD251（図面272）：平面形態は直線的で、東西に延び両端とも消失している。SD249に切られる。長さ3.15m、最大幅0.3m、最大深0.06mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD252（図面272）：東西に不連続に延びる溝である。東端、西端とも消失している。途中途切れて、SD248と合流している。確認できる長さは9.9m、最大幅0.4m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形～V字形を呈し、覆土はaセクションで灰黄褐色粘質シルト、bセクションではにぶい黄色砂質シルト、cセクションでは第１層：暗灰黄色粘質シルト炭化物多量混、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器・須恵器（2095・2096）・刀子（159）が認められる。

SD253（図面272）：平面形態は直線的で、東西に延びる溝に合流している。西端は消失し東端は溝に合流している。確認できる長さは1.9m、最大幅0.45m、最大深0.35mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルト、第２層：オリーブ黒色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器（2097・2098）・黒色土器（2099）が認められる。

SD254（図面272）：平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ1.7m、最大幅0.3m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD255（図面272）：平面形態は直線的で、東西に延びる。西端は消失し、東端は調査区外に続く。確認できる長さは5.0m、最大幅0.4m、最大深0.16mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD256（図面272）：平面形態は直線的で併走するSD257と切り合いながら東西に延びる。両端とも消失している。確認できる長さは8.1m、最大幅0.6m、最大深0.22mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルト炭化物少量混、第２層：灰黄褐色粘質シルトに黄褐色砂質シルト混・炭化物少量混。出土遺物は土師器・須恵器・墨書土器（2100）が認められる。

SD257（図面272）：平面形態は直線的で、併走するSD256と切り合いながら東西に延びる。両端とも消失している。長さ9.0m、最大幅0.4m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルト、第２層：褐灰色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器が認められる。

SD258（図面272）：平面形態は直線的で、西端は消失し、東端はSD260に切られる。途中SD259に切られる。確認できる長さは3.3m、最大幅0.3m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・墨書土器（2101）が認められる。

SD259（図面272）：平面形態は直線的で、南北に延びる。北端はSD257に切られ、南端は消失している。途中SD258を切り、SD260に切られる。確認できる長さは2.3m、最大幅0.35m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD260（図面272）：平面形態は直線的で、東西に延びる。西端は消失し、途中SD258・259・264を切り込み東調査区外に続く。確認できる長さは13.4m、最大幅0.6m、最大深0.23mを測る。断面形態はU字形～逆台形を呈し、覆土はaセクションで第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：褐灰色粘質シルトとなり、bセクションでは灰黄褐色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器が認められる。

SD261（図面272）：平面形態は直線的で東端は消失し、西端は溝に合流している。確認できる長さは2.3m、最大幅0.25m、最大深0.05mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD262（図面272）：平面形態は直線的で東西に延び、両端とも消失している。途中SD264と垂直に交じり合い合流している。長さ8.0m、最大幅0.3m、最大深0.13mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はaセクションで黄褐色砂質シルトの単層となり、bセクションではにぶい黄褐色粘質シルト炭化物少量混となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD263（図面272）：平面形態は直線的な小溝で、両端とも消失している。長さ2.2m、最大幅0.3m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器（2102）が認められる。

SD264（図面272）：平面形態は直線的で、南北に延び、両端とも消失している。途中SD260と切り合い、SD262と合流している。SK1135に切り込まれる。長さ5.9m、最大幅0.4m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルト炭化物微量混となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD265（図面272）：平面形態は直線的で南北に延び両端とも消失している。長さ3.4m、最大幅0.5m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルト炭化物少量混となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD266（図面273）：平面形態は直線的で北東から南西方向に延び、両端とも消失している。長さ4.8m、最大幅0.55m、最大深0.32mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルト、第２層：灰黄褐色粘質シルトに黄灰色粘質シルト混となる。出土遺物は土師器・須恵器（2103～2106）・羽口（2107）が認められる。

SD267（図面273）：平面形態は直線的で、北東から南西方向に延びる。北端は消失し、南端は開放している。確認できる長さは1.7m、最大幅0.3m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD268（図面273）：平面形態は直線的で、北東から南西方向に延び、両端とも消失している。長さ3.2m、最大幅0.35m、最大深0.14mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD269（図面273）：平面形態は直線的で、北東から南西方向に延びる。北端は消失し、南端はSX213に切られる。確認できる長さは1.9m、最大幅0.5m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD270（図面273）：平面形態は直線的で、北東から南西方向に延びる。北端は開放しており、南端は

消失している。確認できる長さは4.0m、最大幅0.5m、最大深0.04mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は須恵器（2108）・灰釉陶器が認められる。

SD271（図面273）：平面形態は直線的で、北西から南東方向に延び、両端とも消失している。長さ2.5m、最大幅0.5m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器（2109）が認められる。

SD272（図面273）：形態は不明瞭であるが重複するSD273を切り込む。確認できる長さは3.4m、最大幅0.6m、最大深0.16mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器（2110）が認められる。

SD273（図面273）：同一方向に並ぶ溝群。平面形態は直線的で、北東から南西方向に延び、両端とも消失している。北側でSD272と重複し切り込まれる。途中SD283を切る。長さ18.6m、最大幅0.9m、最大深0.22mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa、cセクションでにぶい黄褐色粘質シルト酸化鉄混、dセクションで灰黄褐色砂質シルト、bセクションでは褐色砂質シルトに黒褐色砂質シルト混となる。出土遺物は土師器・須恵器（2111・2112）・黒色土器が認めらる。

SD274（図面273）：畑のさく状遺構。平面形態は直線的で北東から南西方向に延び、両端とも消失している。長さ2.3m、最大幅0.45m、最大深0.14mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD275（図面273）：畑のさく状遺構。平面形態は直線的で、北端は開放しており、南端は消失している。確認できる長さは5.3m、最大幅0.5m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器（2113）が認められる。

SD276（図面273）：畑のさく状遺構。平面形態は直線的で北東から南西方向に延び、両端とも消失している。SD341に切り込まれる。長さ19.0m、最大幅0.8m、最大深0.18mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションで第１層：にぶい黄褐色粘質シルトに褐色砂混、第２層：にぶい黄褐色粘質シルトとなり、bセクションで第１層：にぶい黄褐色粘質シルト炭化物混、第２層：にぶい黄褐色粘質シルトにオリーブ褐色粘質シルト混となる。出土遺物は土師器（2114）・釘（163）が認められる。

SD277（図面273）：平面形態は不整形で、北東から南西方向に延びる。途中二股に分かれ、SD276と合流している。両端とも消失している。長さ6.2m、最大幅0.7m、最大深0.17mを測る。断面形態はU字形～逆台形を呈し、覆土はaセクションで灰色粘質シルト、bセクションで第１層：（10YR5/3）にぶい黄褐色粘質シルト、第２層：（10YR4/3）にぶい黄褐色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器（2115）・黒色土器・須恵器が認められる。

SD278（図面273）：畑のさく状遺構。平面形態は直線的で、北東から南西方向に延び両端とも消失している。長さ9.9m、最大幅0.35m、最大深0.16mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：にぶい黄褐色粘質シルトにオリーブ黒色粘質シルト混、第２層：にぶい黄褐色粘質シルト。出土遺物は土師器（2116）が認められる。

SD279（図面273）：畑のさく状遺構。平面形態は直線的で、北東から南西方向に延びる。北端はSK1143に切られ、南端は消失している。確認できる長さは5.6m、最大幅0.4m、最大深0.24mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は褐色砂質シルト炭化物微量混の単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD280（図面273）：畑のさく状遺構。平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ2.9m、最大幅0.6m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は褐色砂質シルト炭化物微量混の単層

となる。出土遺物は土師器・鉄滓＋炉壁（165）が認められる。

SD281（図面273）：平面形態は直線的で、北東から南西方向に延びる。北端は消失し、南端は開放している。SD288を切る。確認できる長さは7.4m、最大幅0.4m、最大深0.18mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa，bセクションとも褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器（2117）が認められる。

SD282（図面273）：平面形態は直線的で東西に延びる小溝である。西端は消失し、東端はSD277に切られる。確認できる長さは1.2m、最大幅0.3m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は須恵器（2118）が認められる。

SD283（図面273）：平面形態は直線的で、東西に延びる。東端は消失し、西端はSD278に切られる。SD273に切り込まれる。確認できる長さは4.2m、最大幅0.13m、最大深0.21mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD284（図面273）：平面形態は直線的で、北東から南西方向に延びる。両端とも消失している。長さ6.2m、最大幅0.55m、最大深0.14mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・墨書土器（2119）が認められる。

SD285（図面273）：平面形態は直線的で、北東から南西方向に延び、両端とも消失している。SD287・288、SK1145に切られる。長さ4.2m、最大幅0.4m、最大深0.22mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混の単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD286（図面273）：平面形態は直線的で、北東から南西方向に延びる。北端はSK1147に切られ、南端は消失している。確認できる長さは4.8m、、最大幅0.35m、最大深0.2mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混の単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD287（図面273）：平面形態は直線的で、東西に延び、両端とも消失している。SD285・286を切る。長さ3.7m、最大幅0.5m、最大深0.1mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD288（図面273）：平面形態は直線的で、東西に延びる。西端は消失し、東端はSD281に切られる。SD285・286に切られる。確認できる長さは6.7m、最大幅0.4m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は褐色砂質シルト炭化物混の単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD289（図面273）：平面形態は直線的で、南北に延び、両端とも消失している。長さ2.55m、最大幅0.4m、最大深0.13mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD290（図面273）：平面形態は直線的で、南北に延びる。北端は開放し、南端は消失している。SD293を切る。確認できる長さは7.65m、最大幅0.6m、最大深0.19mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混の単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD291（図面273）：平面形態は直線的な小溝で、両端とも消失している。長さ1.4m、最大幅0.35m、最大深0.06mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物混の単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD292（図面273）：平面形態は直線的で、北東から南西方向に延びる。南端は消失し、北端は土坑に切られる。確認できる長さは1.35m、最大幅0.3m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD293（図面273）：平面形態は軽い円弧を描いて北西から南東方向に延びる。北西端は消失し、南東

端はSD290に切られる。確認できる長さは3.95m、最大幅0.5m、最大深0.11mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混の単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・墨書土器（2120）が認められる。

SD294（図面273）：畑のさく状遺構。平面形態は直線的で、北東から南西方向に延び、両端とも消失している。長さ8.95m、最大幅0.45m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は黒色土器が認められる。

SD295（図面273）：北端は開放し、南端は消失している小溝である。確認できる長さは1.0m、最大幅0.35m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD296（図面273）：畑のさく状遺構。平面形態は直線的で、北東から南西方向に延び、両端とも消失している。長さ7.6m、最大幅0.6m、最大深0.06mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD297（図面273）：平面形態は直線的で、北東から南西方向に延び、両端とも消失している。長さ10.85m、最大幅0.45m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD298（図面273）：平面形態は直線的で南北に延び、両端とも消失している。長さ5.7m、最大幅0.55m、最大深0.24mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD299（図面273）：畑のさく状遺構。平面形態は直線的で、南北に延び、両端とも消失している。長さ5.4m、最大幅0.4m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD300（図面273）：平面形態は直線的で、南北に延びる。北端は開放し、南端は消失している。確認できる長さは8.1m、最大幅0.5m、最大深0.16mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物混となる。出土遺物は土師器・羽口（2121）・鉄滓（160）が認められる。

SD301（図面273）：平面形態は直線的で、南北に延び、北端は開放し、南端は消失している。SD104を切る。確認できる長さは12.4m、最大幅0.4m、最大深0.06mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混となる。出土遺物は黒色土器・土錘（2122）が認められる。

SD302（図面273）：畑のさく状遺構。平面形態は直線的で、南北に延びる。北端は開放し、南端は消失している。確認できる長さは5.7m、最大幅0.45m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混の単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD303（図面273）：畑のさく状遺構。平面形態は直線的で、南北に延びる。北端はSK2148に切られ、南端は消失している。確認できる長さは17.3m、最大幅0.5m、最大深0.18mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションでにぶい黄褐色砂質シルト、bセクションで褐色砂質シルト炭化物微量混となる。出土遺物は土師器（2123）・黒色土器が認められる。

SD304（図面273）：平面形態は直線的で、東西に延び、両端とも消失している。SD101に切られる。長さ4.0m、最大幅0.4m、最大深0.12mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルト炭化物微量混となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD305（図面304）：平面形態は直線的で、東西に延びる。西端はSD319に切りこまれ消失し、東端はSK1156に切られる。確認できる長さは2.1m、最大幅0.3m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を

呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD306（図面304）：南北に延びる小溝で北端は消失し、南端は溝に切られる。確認できる長さは0.9m、最大幅0.3m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD307（図面304）：平面形態は直線的で、南北に延び、両端とも消失している。長さ1.4m、最大幅0.3m、最大深0.22mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は暗灰黄色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器（2124・2125）・須恵器が認められる。

SD308（図面304）：平面形態は直線的で、東西に延び、両端とも消失している。長さ1.5m、最大幅0.3m、最大深0.04mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD309（図面304）：平面形態は直線的で、東西に延びる。西端は消失し、東端はSD319に切られる。確認できる長さは2.2m、最大幅0.3m、最大深0.04mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD310（図面289・304）：平面形態は不整形で、東西に延びる。東端はSD316を切りこんで消失し、西端はSX209に切られる。確認できる長さは3.3m、最大幅0.3m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は褐灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器（2128～2130）・須恵器（2126・2127・2134・2136）・黒色土器（2131）・墨書土器（2132・2133・2135）が認められる。

SD311（図面304）：平面形態は直線的で、両端とも土坑に切られる。確認できる長さは2.9m、最大幅0.3m、最大深0.12mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD312（図面304）：平面形態は直線的で、東西に延びる小溝である。両端とも消失している。長さ1.9m、最大幅0.3m、最大深0.16mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はにぶい黄色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD313（図面304）：平面形態は直線的で、南北に延びる。北端はSD317を切り込んで消失し、南端も消失している。長さ2.4m、最大幅0.6m、最大深0.13mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は褐灰色粘質シルト炭化物少量混の単層となる。出土遺物は土師器・須恵器（2137）・黒色土器（2138）が認められる。

SD314（図面304）：平面形態は直線的で東西に延び、西端は消失し、東端は開放している。確認できる長さは2.8m、最大幅0.3m、最大深0.05mを測る。断面形態はレンズ状を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD315（図面304）：平面形態は直線的で、東西に延び、両端とも消失している。長さ1.9m、最大幅0.4m、最大深0.13mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD316（図面289）：平面形態は不整形であり、東西に延びる。両端とも消失している。SD310・319に切られる。長さ6.65m、最大幅1.0m、最大深0.4mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はa、bセクションとも第1層：にぶい黄色砂質シルト、第2層：にぶい黄色砂質シルトに灰黄褐色砂質シルト混となる。出土遺物は土師器（2139～2146）・須恵器が認められる。

SD317（図面289）：焼成遺構の区画溝と考えられ、SD318・319より古い。平面形態は不整形であり、東西に延びる。両端とも消失し、SX212、SD319に切られる。長さ14.8m、最大幅1.65m、最大深

0.27mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はaセクションで第１層：灰黄褐色粘質シルト炭化物混、第２層：灰黄褐色粘質シルトとなり、bセクションで灰黄褐色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器（2155～2165）・須恵器（2147～2154）・黒色土器（2166）・墨書土器（2167・2168）・刀子（167）が認められる。

SD318（図面289）：焼成遺構の区画溝と考えられ、調査区を東西に横断している。SI14、SD322を切り、SK1172に切られる。確認できる長さは22.7m、最大幅1.0m、最大深0.28mを測る。断面形態はU字形～不整形を呈し、覆土はaセクションで第１層：灰黄褐色粘質シルトに褐色砂質シルト炭化物少量混、第２層：灰黄褐色粘質シルト、b、c、dセクションでは灰黄褐色粘質シルト炭化物少量混となる。出土遺物は土師器（2171～2187）・須恵器（2169・2170）・黒色土器（2188）・墨書土器（2189～2192）が認められる。

SD319（図面289）：焼成遺構の区画溝と考えられる。平面形態は蛇行しており、北西端はSK1158に切られ、南端は消失している。途中SK1165に切られ、SD316・317を切る。確認できる長さは13.0m、最大幅0.45m、最大深0.27mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションで灰黄褐色粘質シルトの単層となり、bセクションでは第１層：灰黄褐色粘質シルト、第２層：褐色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器（2193・2194）が認められる。

SD320（図面289）：平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ1.5m、最大幅0.35m、最大深0.16mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD321（図面289）：平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ2.2m、最大幅0.3m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は褐灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器・黒色土器（2195）が認められる。

SD322（図面289）：焼成遺構の区画溝と考えられる。南北に延びる直線的な溝で南端は消失し、北端はSK1338を切り込みSX211に切られる。SD318に切られSK1215を切る。長さ20.0m、最大幅1.1m、最大深0.22mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa，bセクションでにぶい黄褐色粘質シルト、cセクションではにぶい黄褐色粘質シルトににぶい黄色砂混となり、dセクションでは灰黄褐色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器（2201～2222・3077）・須恵器（2196～2200）・黒色土器（2223～2227）・墨書土器（2228～2230）・椀形滓（166）が認められる。

SD323（図面304）：平面形態は東西に蛇行しており、西端は消失し、東端は土坑に切られる。途中SK1205・1206に切られる。確認できる長さは4.8m、最大幅0.55m、最大深0.13mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD324（図面304）：平面形態は直線的で、東西に延びる小溝である。両端とも消失している。長さ1.5m、最大幅0.3m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD325（図面304）：平面形態は直線的で、東西に延びる。西端は消失し、東端はSK1246に切られる。途中SI15、SK1259・1271を切り、SK1245・1246・1262に切られる。確認できる長さは8.1m、最大幅0.8m、最大深0.29mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第１層：褐灰色粘質シルトににぶい黄色砂質シルト混、第２層：褐灰色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器（2235～2243）・須恵器（2231～2234）・墨書土器（2244～2250）・土錘（2251）が認められる。

SD326（図面304）：平面形態は直線的で東西に延び、両端とも土坑に切られる。SK1231を切り込む。

中央でSD327と合流する。確認できる長さは7.2m、最大幅0.65m、最大深1.0mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa，bセクションとも灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD327（図面304）：平面形態は直線的で、東西に延びる。西端はSD326に合流し、東端は消失している。SP2137に切られ、SK1255・1256を切る。確認できる長さは4.1m、最大幅0.3m、最大深0.8mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa，bセクションとも黄灰色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器（2252）が認められる。

SD328（図面304）：平面形態は不整形で、東西に延び、両端とも消失している。SX216、SK1273・1277・1278を切り込み、SK1272・1274・1276・1279に切られる。長さ8.9m、最大幅1.1m、最大深0.39mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションでにぶい黄色粘質シルト、bセクションで第1層：黄褐色砂質シルト、第2層：にぶい黄色砂質シルト、cセクションでは第1層：褐灰色砂質シルト、第2層：にぶい黄色粘質シルトとなる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD329（図面304）：平面形態は軽い円弧を描き、東西に延び両端とも消失している。長さ6.75m、最大幅0.7m、最大深0.05mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD330（図面304）：平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ2.4m、最大幅0.4m、最大深0.05mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD331（図面304）：平面形態は直線的で、南北に延び、両端とも消失している。長さ2.9m、最大幅0.5m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD332（図面304）：平面形態は直線的で、南北に延び、両端とも消失している。長さ3.9m、最大幅0.4m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD333（図面304）：平面形態は不整形な溝で、SD332の西側を併走する。両端とも消失し、途中西側に広がる。長さ4.0m、最大幅0.85m、最大深0.1mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD334（図面304）：平面形態は直線的な溝で、SD333の西側を併走する。両端とも消失している。長さ3.95m、最大幅0.4m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD335（図面304）：平面形態は直線的で、SD334の西側を併走する。北端は土坑に切られ、南端は消失している。途中SK1293・1294に切られる。長さ2.7m、最大幅0.5m、最大深0.14mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器（2253）が認められる。

SD336（図面304）：平面形態は直線的で、SD335の西側を併走する。両端とも消失している。長さ3.2m、最大幅0.5m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD337（図面304）：平面形態は直線的で、南北に延びる小溝である。両端とも消失している。長さ2.1m、最大幅0.6m、最大深0.16mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色砂質シルト炭化物混の単層となる。出土遺物は認められない。

SD338（図面304）：平面形態はSD335の南側を南北に延び、北端は消失し、南端は開放している。確認できる長さは3.2m、最大幅0.5m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD339（図面304）：調査区の南西端でL字形に途切れて延びる。南端は消失し、西端は調査区外に続く。確認できる長さは29.2m、最大幅1.15m、最大深0.4mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土aセクションで第1層：(10YR5/4) にぶい黄褐色砂質シルト、第2層：(10YR5/3) にぶい黄褐色砂質シルト、bセクションではにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする6層から構成され、cセクションでは第1層：(10YR4/3) にぶい黄褐色砂質シルト、第2層：(10YR5/3) にぶい黄褐色砂質シルトとなり、dセクションで第1層：(10YR5/4) にぶい黄褐色砂質シルト、第2層：(10YR4/3) にぶい黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器（2255）・須恵器（2254）が認められる。

SD340（図面273）：平面形態は直線的で、南北に延び、両端とも消失している。長さ6.8m、最大幅0.5m、最大深0.27mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は須恵器（2256）が認められる。

SD341（図面273）：畑のさく状遺構。平面形態は直線的で南北に延び、両端とも消失している。北端はSD276を切る。長さ3.8m、最大幅0.5m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションで第1層：にぶい黄褐色粘質シルト、第2層：褐色粘質シルト、bセクションではにぶい黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器（2257）が認められる。

SD342（図面304）：畑のさく状遺構。平面形態は直線的で東西に延びる。西端は土坑に切られ、東端は調査区外に延びる。確認できる長さは5.3m、最大幅0.5m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は土師器（2258）が認められる。

SD343（図面304）：平面形態は直線的で東西に延びる。西端は消失し、東端は調査区外に延びる。確認できる長さは12.8m、最大幅0.62m、最大深0.13mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は鉄製品（157）が認められる。

B12地区

竪穴住居

SI23（図面311）：調査区北端に位置し遺構の北半分は調査区外となる。平面形態は長方形を呈し、長辺3.86m、短辺1.95m以上、深さ0.28mを測る。竪穴の覆土は黄褐色砂質シルトを基調とする。カマドは西壁の南側に構築されている。カマドの規模は幅0.86mで、主軸長は1.4m、竪穴外へ伸びる煙道は0.4m突出し西へ延びる。燃焼部では長径20㎝大の扁平な自然礫が左袖に2個立った状態で出土した。カマドの覆土はにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。カマド前には焼土・炭化物層が広がり、遺物は土師器（2689～2697）・須恵器（2685～2688）が出土している。

SI24（図面311）：調査区東端に位置し調査区外に続く。平面形態は方形を呈し、一辺3.0m程度、深さ0.19mを測る。竪穴の覆土は暗灰黄色シルトを基調とする。カマドは　西壁の北側隅に構築されている。袖材などは確認されない。カマドの規模は幅0.8m、主軸長は1.4m程度となる。カマドの覆土は褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器が出土している。

SI25（図面312）：平面形態は長方形を呈しSK1347に切られる。規模は長辺3.4m、短辺2.78m、深さ0.22mを測る。竪穴の覆土は黄褐色砂質シルトを基調とする。カマドは西壁の北側隅に構築されるが袖材は残存しない。カマドの規模は幅0.6m、長さ0.95m程度、竪穴外へ伸びる煙道は0.45m突出する。覆土は黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器（2700～2704）・須恵器（2698・2699）が出土

している。

土坑

SK1347（図面312）：平面形態は楕円形で、SI25を切る。規模は長径1.92m、短径1.77m、深さ0.07mを測る。覆土は第１層：黄褐色砂質シルト、第２層：黄灰色粘質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

自然流路

SR01（図面313）：自然流路で、調査区の北西を流れる。平面形態は不明瞭で、確認できる長さは44.8m、最大幅25.2m、最大深0.9mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はaセクションはオリーブ褐色シルトを基調とする10層から構成され、bセクションでは黒褐色砂質シルトを基調とする５層から構成される。出土遺物は土師器（2705・2706）・須恵器が認められる。

B13地区

竪穴住居

SI26（図面314）：SI27と重複しこれより新しい。平面形態は方形を呈し、一辺3.6～3.9m、深さ0.38mを測る。壁面の立ち上がりは傾斜を持つ。竪穴の覆土は褐色～黄褐色シルト質砂を基調とする。カマドは西壁の中央に構築されている。カマドの規模は幅0.9m程度、主軸長は1.4m程度で、竪穴外へ伸びる煙道は0.45m突出する。袖石などは残存しないがカマド前には炭化物層が確認される。カマドの覆土はにぶい黄褐色シルト質砂を基調とする。遺物は土師器（2767）・須恵器（2765・2766）・墨書土器（2768）・フイゴの羽口が出土している。

SI27（図面314）：SI26・28に切られる。平面形態は方形を呈し、一辺4.3～4.75m、深さ0.33mを測る。竪穴の覆土はにぶい黄褐色砂を基調とする。カマドは確認されない。遺物は土師器（2773～2775）・須恵器（2769～2772）・鉄滓（297）が出土している。

SI28（図面315）：SI27を切る。平面形態は方形を呈し、一辺3.98～4.1m、深さ0.36mを測る。竪穴の覆土はにぶい黄褐色シルト質砂を基調とする。カマドは確認されない。遺物は土師器（2776）・須恵器が出土している。

SI29（図面315）：平面形態は方形を呈し、一辺3.16～3.6m、深さ0.23mを測る。竪穴の覆土はにぶい黄褐色シルト質砂となる。カマドは確認されない。遺物は土師器（2778・2779）・須恵器（2777）が出土している。

SI30（図面316）：SI31より新しく、東側は調査区外に続く。平面形態は方形を呈し、一辺3.25m程度、深さ0.43mを測る。竪穴の覆土は暗褐色シルト質砂を基調とする。カマドは南壁に構築されている。カマドの規模は幅1.1mで、主軸長は1.6m、竪穴外へ伸びる煙道は0.7m突出する。燃焼部での袖間の幅は0.3mで、左袖に２個、右袖に１個の長径20㎝大の袖石が残存する。カマドの覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする。カマド前には炭化物層が広がり、遺物は土師器（2792・2794～2798・2800・2801）・須恵器（2780～2791）・黒色土器（2802）・墨書土器（2803・2804）・焼石が出土している。

SI31（図面316）：SI32を切りSI30に切られる。平面形態は方形を呈し、一辺3.6～4.1m、深さ0.39mを測る。竪穴の覆土はにぶい黄褐色シルト質砂を基調とする。カマドは西壁の北側に構築されている。カマドの規模は幅0.45mで、主軸長は0.6m、竪穴外へ伸びる煙道は0.25m突出する。袖材などは確認されない。カマドの覆土はにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。カマド前には炭化物層が広がり、遺物は土師器（2793・2799・2821・2823～2832）・須恵器（2805～2820）・黒色土器（2822）・墨書土器（2833～2842）・焼石・陶器が出土している。

SI32（図面316）：重複関係にあるSI30～SI32のなかでもっとも古い。平面形態は方形を呈し、一辺4.62m、深さ0.38mを測る。竪穴の覆土はにぶい黄褐色砂を基調とする。カマドは確認されない。遺物は土師器（2859～2864）・須恵器（2843～2858）・墨書土器（2865～2868）・土錘（2869・2870）・釘（296）・石帯（74）が出土している。

SI33（図面317）：SI34より新しい。平面形態は方形を呈し、一辺4.05～4.65m、深さ0.24mを測る。竪穴の覆土はにぶい赤褐色～暗褐色細砂を基調とする。カマドは東壁のやや南寄りに構築されている。カマドの規模は幅0.58mで、主軸長は0.86m、竪穴外へ伸びる煙道は0.7m突出する。燃焼部での袖間の幅は0.3～0.7mで、左袖に３個、右袖に3個の長径20㎝大の自然礫を袖補強材としている。袖の構築には主ににぶい黄褐色砂質シルトを用いている。カマド前には炭化物層が広がり、遺物は土師器（2875～2877）・須恵器（2871～2874）・板状鉄製品（294）・刀子（295）が出土している。

SI34（図面317）：SI33と同規模、同軸の竪穴住居で、平面形態は方形を呈し、一辺3.88～4.3m、深さ0.14mを測る。竪穴の覆土は褐色シルト質砂を基調とする。北西隅の床面には貼床がみられる。カマドは東壁の南寄りに構築されている。カマドの規模は幅0.75mで、主軸長は0.8m、竪穴外へ伸びる煙道は0.5m突出する。燃焼部での袖間の幅は0.25mで、左袖に２個、右袖に2個の長径20㎝ほどの自然礫を袖補強材としている。袖の構築には主に暗褐色シルト質砂を用いている。カマド前には炭化物層が広がり、遺物は土師器（2878～2880）・須恵器が出土している。

SI35（図面318）：平面形態は方形を呈し、一辺3.25～3.3m、深さ0.35mを測る。竪穴の覆土は暗オリーブ褐色シルト質砂を基調とする。カマドは西壁の中央位置に構築されている。カマドの規模は幅0.9mで、主軸長は0.9m、竪穴外へ伸びる煙道は0.75m突出する。袖石などは確認されない。カマドの覆土は黒褐色シルト質砂を基調とする。カマド前には炭化物層が広がり、遺物は土師器・須恵器が出土している。

SI36（図面318）：南壁調査区外に続く。平面形態は方形を呈し、一辺2.9m程度、掘方までの深さ0.18mを測る。竪穴の覆土はにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・土錘（2881）が出土している。

土坑

SK1348（図面319）：平面形態は楕円形でSI27を切る。規模は長径1.04m、短径0.64m、深さ0.21mを測る。覆土は灰褐色～にぶい黄褐色砂質シルトを基調とする。遺物は土師器・須恵器（2882・2883）が出土している。

SK1349（図面319）：平面形態は楕円形でSI26を切る。規模は長径0.82m、短径0.64m、深さ0.26mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト炭化物混、第２層：にぶい黄褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は土師器が出土している。

SK1350（図面319）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.06m、短径0.75m、深さ0.23mを測る。覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物混、第２層：（10YR5/3）にぶい黄褐色砂質シルト、第３層：（10YR4/3）にぶい黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器・須恵器（2884）が出土している。

SK1351（図面319）：平面形態は楕円形でSI26を切る。規模は長径0.75m、短径0.65m、深さ0.44mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト炭化物混、第２層：灰黄褐色砂質シルト、第３層：にぶい黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器（2889）・須恵器（2885～2888）が出土している。

SK1352（図面319）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.56m、短径0.85m、深さ0.28mを測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂礫、第２層：にぶい黄褐色粗砂礫混となる。遺物は土師器・須恵器が出土してい

る。

大型土坑

SX221（図面319）：平面形態は不整形で、規模は長径5.12m、短径4.08m、深さ0.12mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色細砂炭化物微量混、第2層：灰黄褐色細砂ににぶい黄色砂多量混となる。遺物は土師器が出土している。

溝

SD344（図面319）：畑に伴う溝群が北東から南西方向に併走する。竪穴住居群より後出する。平面形態は直線的で北端は消失し、南端は調査区外に続く。確認できる長さは7.0m、最大幅1.14m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂炭化物微量混の単層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD345（図面319）：平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ3.8m、最大幅0.35m、最大深0.06mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂炭化物微量混の単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD346（図面319）：平面形態は直線的で、北端は消失し、南端は調査区外に続く。確認できる長さは6.0m、最大幅0.6m、最大深0.13mを測る。断面形態はV字形を呈し、覆土は黄褐色砂炭化物・マンガン微量混の単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD347（図面319）：平面形態は直線的で、北端は消失し、南端は調査区外に延びる。確認できる長さは2.4m、最大幅0.3m、最大深0.19mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂炭化物微量混の単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD348（図面319）：平面形態は直線的で、北端は消失し、南端は調査区外に延びる。確認できる長さは1.55m、最大幅0.34m、最大深0.07mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は黄褐色砂炭化物微量混の単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD349（図面319）：平面形態は直線的で、両端とも消失している。長さ2.18m、最大幅0.3m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂炭化物微量混の単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD350（図面319）：平面形態は直線的で、北端は消失し、南端は調査区外に延びる。確認できる長さは1.56m、最大幅0.36m、最大深0.2mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂マンガン混の単層となる。出土遺物は須恵器（2890）が認められる。

SD351（図面319）：平面形態は直線的で、北端は消失し、南端は調査区外に延びる。確認できる長さは3.34m、最大幅0.24m、最大深0.2mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂マンガン混の単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD352（図面319）：平面形態は直線的で両端とも消失している。長さ1.55m、最大幅0.41m、最大深0.08mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂質シルトマンガン混の単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD353（図面319）：平面形態は不整形で、東西に延び両端とも消失している。長さ4.0m、最大幅0.56m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はにぶい黄褐色シルト質砂の単層となる。出土遺物は土師器・須恵器が認められる。

SD354（図面319）：平面形態は直線的で、南北に延びる。北端は消失し、南端はSI36に切られる。確認できる長さは17.8m、最大幅1.2m、最大深0.13mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色砂

炭化物・マンガン微量混の単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD355（図面319）：平面形態は直線的で、北端は開放し南端は消失している。確認できる長さは1.4m、最大幅0.24m、最大深0.06mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は暗褐色砂質シルト炭化物微量混の単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

4　遺物

任海宮田遺跡B地区は合計14地区もの調査区に分かれている。記述の順序は、まず土器・陶磁器類をB１地区からB14地区まで各地区ごとで行う。次に、木製品、金属製品、石製品の順に各地区ごとに記述していく。個々の遺物の記述は、各地区毎で遺構出土と包含層出土に分けて行う。

出土遺物の種類別で見ると土器・陶磁器類が最も多く、次いで金属製品、石製品がつづく。木製品の出土は任海宮田遺跡の全地区をとおして希少で、遺存しにくい土壌条件であったためと考えられる。今回の調査では古代・中世の土器・陶磁器類が多く出土している。とりわけB１・B６・B13地区から古代の須恵器・土師器が多量に出土している。概ね９世紀から10世紀代の遺物が主体で、竪穴住居など遺構内ないしは、遺構周辺の包含層から出土している。中世の土器・陶磁器類は古代に比べて少ない。中世土師器・珠洲・八尾・中国陶磁器・瀬戸美濃施釉陶器等が出土している。

A　土器・陶磁器（図面320～419）

出土遺物は遺跡の各地区で検出された遺構の時期にもよるが、遺跡全体でとらえた場合に須恵器・土師器などの古代の遺物で多く占められている。とりわけ任海宮田遺跡B１・B６・B13地区では古代の掘立柱建物や竪穴住居が多数検出され、必然的に古代の遺物も多く出土している。器種としては須恵器よりも土師器が多い傾向にあり、杯や煮炊用の甕・堝類などの日常雑器が多く出土している。中世の土器・陶磁器類は古代に比べて少ない。中世土師器・珠洲・八尾・中国陶磁器・瀬戸美濃施釉陶器などが出土し、13世紀以降中世を通じて遺物が出土する。

古代の遺物については、後述するまとめの分類基準の大分類に準拠した。須恵器の杯については、無高台のものを杯A、有高台のものを杯Bとする。土師器については、供膳形態のものが主体で、椀・皿とした。分類名称は須恵器杯・皿に準拠する。赤彩土師器や黒色土器は記述のなかで言及し、実測図ではスクリーン・トーンなどで特に表示していない。

中世の出土遺物については、土師器皿・瀬戸美濃施釉陶器・中国陶磁・珠洲・八尾などの土器・陶磁器類がある。これら中世の土器・陶磁器類はこれまでにも精力的に研究が進められてきており、各々の型式分類と編年が明らかにされているものも多い。本書でもこれらの研究成果を準用しながら記述していく。記述に際して用いた分類・編年研究としては、まず土師器皿では、森分類・編年案を準用した。瀬戸美濃施釉陶器については藤澤分類・編年案に基づいた。中国陶磁全般については主に山本による大宰府分類・編年案を、さらに中世後期の中国青磁については上田分類・編年案を、白磁については森田分類・編年案をそれぞれ用いた。珠洲については吉岡分類・編年案を基準とした。八尾については「道場Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告」で示した森の分類案を用いた。墨書土器の分類は「富山考古学研究－紀要第８号－」で示した武田の分類案を用いた。土錘の分類は「富山考古学研究－紀要第４号－」で示した細辻の分類案を用いた。

古代

B１地区（図面320～351）

竪穴住居

SI01（図面320－001～011）：001～005は須恵器で、001・002は蓋である。つまみの有無は不明で、001は口縁端部を折り曲げず、やや丸く肥厚させる。002は口縁端部を丸く肥厚させている。復元口径は001で約14.7cm、002で12.4cm。003～005は杯で、003は体部が浅く開く形態で復元口径は約11.0cmである。004・005は杯Aである。平坦ないしは平坦気味の底部から、稜をもって屈曲し、体部が外方に

浅く開く形態を有する。法量は口径11.9cm、器高は2.8～3.6cmである。006～010は土師器で、006～008は椀Aである。概ね回転糸切りによる切り離しされた平坦な底部にわずかに内湾気味に開く体部を有する。法量は口径12.6～12.8cmである。009は皿で、体部は浅い角度で大きく開く。口径は約13.0cmである。010は甕の口縁部で、肥厚した端部が丸みを持って内湾している。復元口径は35.0cmである。011は墨書土器で、土師器の椀Aの底部である。回転糸切りによる切り離しされた平坦な底部外面に「成」と書かれている。

SI02（図面320－012～050）：012～016は須恵器である。012・013は杯蓋で、つまみの有無は不明、天井部は笠型で器高のあるタイプである。天井部外面には1/2程度回転ヘラケズリが施され、口縁部は折り返して丸くおさめている。法量は口径11.0cm程度である。014は杯Aである。平坦気味の底部に、外方に浅く開く体部を有する。015・016は須恵器の杯Bである。高台は貼り付けのもので、015は水平接地された角高台、016は角高台気味で内端接地している。体部は外傾しながら直線的に開いている。法量は概ね口径12.8～12.9cm、器高6.1～6.6cmである。017～040は土師器で、017～024が椀Aである。回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。017・018は底径が比較的小さく、018～024の口縁端部は短く外反している。法量は017のみ大型で口径16.3cm、器高6.1cm、その他は口径12.1～13.2cm、器高4.0～4.2cmである。025～038は椀で、やや内湾気味に立ち上がる体部をもつ。口縁端部は033～035・038は外反し、036・037は丸くおさめている。法量は口径11.8～15.5cmである。039は皿Aで、体部は浅い角度で大きく開き、口縁部はさらに側方へ突出するように開いておさめる。法量は口径13.0cm、器高2.4cmである。040は口径18.0cmの中型の甕である。口縁部は、上端部が屈曲し、端部が直立する。口縁部内面に油煙が付着している。041・042は赤彩土師器で、内湾気味に開く体部を有している。法量は口径11.9～12.0cmである。043・044は黒色土器椀で、043は口縁部破片で内面は粗いヘラ磨き調整である。法量は口径14.0cm。044は椀Aの底部破片で、回転糸切り痕の残る平坦な底部から体部はやや内湾気味に開く。045～048は土師器の椀Aで、墨書土器である。045・046・048は底部に「平」と墨書が書かれている。回転糸切りの底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は045が短く外反、046は口縁端部を丸くおさめている。047の墨書は判読不明である。法量は口径12.3～12.8cm、器高は4.6cm前後である。049は灰釉陶器の広口壺である。部分的な残存であるが、肩部の下半分1/4程度に回転ヘラ削り調整がみられる。外面は灰釉をハケ塗りしている。050は土錘である。寸胴型c類で幅3.6cm、長さ7.0cm、孔径1.5cmとなる。

SI03（図面322－097～104）：097は須恵器の杯蓋で、天井部は笠型で器高のあるタイプである。口縁部の形態は下方に折り曲げやや方頭になり、つまみは無い。天井部外面には回転ヘラ切り、その後中央から1/2程度回転ヘラケズリされ、次に回転ナデが施される。法量は口径13.2cm、器高は2.7cmである。098～101は土師器で098～100が椀Aである。回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反している。法量は口径12.3～15.1cm、器高4.4～4.7cmである。101は耳皿である。底部を回転糸切り成形した後、口縁の相対する二方を内側へ折り曲げる。折曲部外面には指頭圧痕が残る。102・103は土師器椀Aの墨書土器である。102は体部外面に正立で「田」と墨書され、回転糸切りの平坦な底部から屈曲して斜め方向へ直線的に開く体部を有する。103は回転糸切り痕の残る底部に「平」と墨書されている。104は灰釉陶器の皿Bで、丸みのある低い高台をもつ。見込み部分が摩耗しており非常に滑らかである。釉は淡緑灰色を基調とし、体部内外面にハケ塗りされる。

SI04（図面321・322－060～096）：060～063は須恵器である。060～062は杯蓋で、天井部は笠型で器

高のあるタイプである。ほとんどの天井部外面には1/2程度回転ヘラケズリが施されている。060・061の口縁部は下方に短く折り曲げるもので、062は折り返して丸くおさめている。法量は060・061が大型で口径19.1～19.6cm、062が12.0cmである。063は杯Bである。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。角状を呈する高台が底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径11.9cm、器高5.1cmである。064～089は土師器で、064～072が椀Aである。回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。064・067は底径が比較的小さい。070～072の口縁端部は短く外反している。法量は064～066が大型で口径14.8～16.9cm、器高5.4～6.5cm、067～072は口径12.1～13.6cm、器高3.6～5.0cmである。073～082は椀で、やや内湾気味に立ち上がる体部をもつ。073～079は口縁端部は丸くおさめており、080～082は外反している。法量は口径が5.9～15.4cmである。083～086は皿で、体部は浅い角度で大きく開く。口縁部は083～085は短く外反し、皿Aの086はさらに側方へ突出するように開いておさめる。内外面に二次被熱痕がみられ、外面は剥離が目立つ。087・088は甕で087は小型甕である。口縁の上端部が屈曲し、端部が直立、さらに内傾する。底部は回転糸切り後ヘラ削りされており、法量は口径12.3cm、底径7.4cm、器高11.9cmである。088の口縁部は「く」字状に屈曲し、肥厚した口縁端部が内側に折り返され、丸く成形される。法量は口径20.0cmである。089は堝の小破片で、口縁端部が破損している。090は赤彩土師器の椀Aで、回転糸切り痕の残る平坦な底部から体部はやや内湾気味に開く。法量は口径12.9cm、器高3.8cmである。091～093は黒色土器椀である。091・092は口縁部破片で内面は粗いヘラ磨き調整である。法量は口径13.4cmと17.8cmである。093は椀Aの底部破片で、回転糸切り痕の残る平坦な底部から体部はやや内湾気味に開く。094は土師器の椀Bで、墨書土器である。「ハ」字状に踏ん張る高台が底部のやや内側にに貼り付けられている。底部の墨書は判読不明である。095・096は土錘で、095は寸胴型c類、096は寸胴型d類、法量は概ね幅3.7cm、孔径1.4cmを測る。

SI05（図面321－051～059）：051～054は須恵器である。051は杯Bで、高台は貼り付けのものである。体部は外傾しながら直線的に開いている。法量は口径11.0cm、器高4.9cmである。052は壷、053・054は甕の口縁部で052は口縁端部が上方に屈曲し、内面が肥厚する。053は口縁端部が水平の面をなしており、調整は外面が平行タタキ、内面は同心円状の当具痕がみられる。054は口縁端部を上方に引き出している。また、内面全体に自然釉が施されている。法量は口径が21.1～23.0cmを測る。055～059は土師器である。055は椀Aで、回転糸切りの底部のみの残存となる。法量は底径が5.6cmである。056・057は皿Aで、体部は浅い角度で大きく開き、口縁部はさらに側方へ突出するように開いておさめる。法量は口径12.4～14.1cm、器高2.3～2.6cmである。058・059は小型甕である。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は丸くおさめる。059の底部は平底で、回転糸切りが施される。外面にヘラケズリ調整が見られる。法量は口径12.3～12.4cm、器高は9.2～14.1cmである。

SI06（図面322－115～121）：115～117は須恵器である。115は杯Aで平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径14.0cm、器高3.2cmである。116は杯Bで角状を呈する高台が底部のやや内側に貼り付けられている。法量は底径8.6cmである。117は壺で、口縁端部を下方に引き出している。また、内面全体に自然釉が施されている。法量は口径18.1cmである。118～120は土師器椀で、118・120が椀Aである。回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径12.4～13.9cm、器高は4.2～4.4cmである。121は灰釉陶器の皿で、口縁部が緩やかに外反しており、やや器壁が厚いつくりのものである。法量は口径14.7cmを測る

SI07（図面322－105～114）：105～110は須恵器で105～107は杯蓋である。口縁部の形態は下方に折り曲げやや方頭になる。法量は口径12.1～15.8cmである。108は杯の口縁部で斜方向へ直線的に開く体部を有する。法量は口径13.0cmである。109・110は杯Bで角状を呈する高台が底部のやや内側に貼り付けられている。法量は底径7.0～7.8cmである。111は灰釉陶器の壺で、体部の破片である。釉は体部外面に薄い灰釉が施され、光沢がみられる。112～114は土錘で112は樽型c類、その他は小破片である為不明である。112の法量は幅4.2cm、長さ7.3cm、孔径1.2cmを測る。

柱穴

SP2003（図面323－123・124）：123は土師器の椀Aで、回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反している。法量は口径8.4cm、器高2.9cmと小型である。124は樽型c類の土錘で、法量は概ね幅4.0cm、長さ6.6cm、孔径1.4cmを測る。

SP2004（図面323－125・126）：125は土師器の椀Aで、回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反している。法量は口径12.0cm、器高4.2cmである。126は寸胴型c類の土錘で、法量は概ね幅3.0cm、長さ4.8cm、孔径1.4cmを測る。

SP2005（図面323－127・128）：127・128は須恵器で、127は杯である。斜方向へ直線的に開く体部を有する。法量は口径17.9cmを測る。128は広口又は双耳壺の口縁部で、口縁端部を上方に引き出している。法量は口径24.2cmである。

SP2006（図面323－129）：須恵器の杯蓋でつまみの有無は不明、天井部は笠型で器高のあるタイプである。口縁部は折り返して丸くおさめている。法量は口径11.3cm程度である。

SP2010（図面323－130・131）：130・131は土師器で130は椀である。やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反している。法量は口径12.5cmである。131は皿で、体部は浅い角度で大きく開く。肥厚した口縁端部は丸くおさめる。法量は口径13.5cmである。

SP2012（図面323－132～135）：132は土師器の小型甕で、口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は丸くおさめる。体部外面にヘラケズリ調整が見られる。法量は口径16.7cmである。133は須恵器の墨書土器で杯Bの底部である。角状を呈する高台が底部のやや内側に貼り付けられている。底部の墨書は判読不明である。法量は底径6.5cmである。135は土錘で樽型c類である。135の法量は概ね幅3.5cm、長さ7.0cm、孔径1.2cmを測る。

SP2013（図面323－136・137）：136は須恵器杯蓋である。口縁部は下方に短く折り曲げるもので、つまみの有無は不明である。天井部外面には1/2程度回転ヘラケズリが施されている。法量は口径13.0cm程度である。137は須恵器の墨書土器で杯Aの底部である。回転ヘラ切りによる切り離しされた平坦な底部外面下方に「廣」と墨書されている。

SP2018（図面323－138）：土師器の小型甕で、口縁の上端部が屈曲し、端部が直立する。復元口径は13.0cmである。

SP2019（図面323－139～142）：139は須恵器の皿Bである。体部は浅い角度で大きく開き、口縁部はさらに側方へ突出するように開いておさめる。高台が足高で底部は回転ヘラ切り後ナデている。法量は口径15.2cm、器高3.3cmである。141・142は土錘でずん胴型c類である。法量は概ね幅3.2～4.2cm、長さ5.8～6.0cm、孔径1.2～1.4cmを測る。

SP2021（図面323－143～145）：143・144は須恵器で143は杯蓋である。口縁部の形態は下方に折り返して丸くおさめている。つまみは無く、天井部外面には回転ヘラ切りが施される。法量は口径12.9cm、器高は2.4cmを測る。144は杯Aである。回転ヘラ切り後ナデを施す平坦な底部から屈曲して、斜方向

へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径11.5cm、器高3.6cmである。145は土師器椀で、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反している。法量は口径11.0cmである。

SP2022（図面323－146～157）：146～151は土師器である。146～150が椀で147・148は椀Aである。回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。149・150は口縁端部を丸くおさめている。法量は口径12.1～13.5cm、器高4.2～4.3cmを測る。151は皿で、体部は浅い角度で大きく開く。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径13.8cmである。152は赤彩土師器で、全面に赤彩が施される。回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径15.4cm、器高5.3cmである。153・154は黒色土器で153は椀である。口縁端部は丸くおさめる。復元口径は15.7cmである。154は椀Bで、外傾する丸い高台が体部下端に貼り付けられる底部片である。法量は底径が7.7cmを測る。155～157は墨書土器で155は赤彩土師器の椀である。内外面に赤彩が施され、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。体部外面に書かれている墨書は判読不明である。復元口径は13.2cmを測る。156は土師器の椀Aである。回転ヘラ切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。底部外面に書かれている墨書は判読不明である。法量は底径5.0cmを測る。157は黒色土器の皿Bで、体部は浅い角度で大きく開く。口縁端部は丸くおさめる。底部は外傾する丸い高台が体部下端に貼り付けられる。底部外面に書かれた墨書は一部のみ残存で「平」の可能性が高い。法量は口径11.6cm、器高2.7cmである。

SP2023（図面323－158）：須恵器の杯でやや内湾気味に立ち上がる体部をもつ。口縁端部は外反している。復元口径は12.6cmである。

SP2024（図面323－159）：樽型c類の土錘で、法量は概ね幅4.0cm、長さ7.5cm、孔径1.4cmを測る。

SP2025（図面323－160）：赤彩土師器の椀Aで、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反している。法量は口径13.3cm、器高4.2cmである。

SP2026（図面323－161）：土師器の堝で、口縁上端部が屈曲し、端部が内傾する。法量は概ね口径37.0cmである。

SP2027（図面323－162・163）：162は須恵器の杯Bである。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。角状を呈する高台が底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径11.0cm、器高4.4cmである。163は土師器の椀Aで、回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反している。法量は口径11.8cm、器高4.6cmである。

SP2028（図面323－164）：土師器の椀Aで、回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。法量は口径12.2cm、器高3.8cmである。

SP2033（図面324－165）：赤彩土師器の皿Bで、体部は浅い角度で大きく開く。口縁端部は丸くおさめる。底部は外傾する丸い高台が体部下端に貼り付けられる。体部内外面に赤彩が施される。法量は口径13.7cm、器高2.8cmである。

SP2035（図面324－166～168）：166～168は土師器で166・167は椀Aである。回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。166の口縁端部は短く外反している。法量は口径12.3cm、器高は3.5cmである。168は皿Bの底部で、外傾する丸い高台が体部下端に貼り付けられる。

SP2038（図面324－169・170）：169は須恵器の壺で、体部から口縁部にかけて「く」字状に屈曲する。口縁部端面は、水平で側方に拡張している。調整は外面が平行タタキ、内面は同心円状の当具痕がみ

られる。170は土師器の椀Aの墨書土器である。底部外面に墨書がみられるが、判読不明。

SP2043（図面324・325－171～188・233）：171～179は須恵器で、171～175が双耳壺である。口縁形態は171は上下に拡張するもの、172・173は端部の下方が丸みをもって上方に屈曲外反している。173は肩部に二条の突帯を巡らしている。法量は口径16.7cm～25.4cmである。174は胴部、175は底部で法量は底径14.7cmを測る。176は壺で体部外面下部に上方から下方に向けてケズリを施す。法量は底径11.4cmである。177～179は甕で、口縁端部が曲面をなすとともに内側に肥厚している。179は口縁部外面に波状文を施し、外面はタタキ調整で内面には同心円状の当具痕が残る。復元口径は48.0～57.2cmを測る。180～185は土師器の椀で、180は椀Aである。回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径12.7cm、器高は4.2cmである。180～185はやや内湾気味に立ち上がる体部を有し、口縁端部は丸くおさめる。法量は口径12.5～15.0cmである。186は黒色土器の椀で、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径14.1cmである。187は灰釉陶器の椀で、底部外面に回転糸切り痕が薄く残る。内面にはコテ当て調整に伴う圏状の沈線がみられ、見込みは摩耗し非常に滑らかである。高台は外面に明瞭な稜を持つ三日月高台で、平面形は正円ではなくやや歪む。法量は口径13.8cm、器高4.2cmである。188は土師器焼成の製塩土器の体部破片である。体部内面には粗いハケ調整の跡がみられる。233は灰釉陶器の短頸壺である。肩が張る器形で、器壁全体に厚みがある。外面は灰釉を厚くハケ塗りし、肩部は暗茶色や濃緑色、胴下半は淡緑灰色に発色する。底部内面には暗緑色の釉が斑点状に降りかかる。胴部外下半を斜め方向にヘラ削りし、底部外面は高台貼り付け時に強く輪状にナデ調整する。底部外面の高台内側に粘土塊が数個付着する。二次被熱を受けている破片が多く、器表面に小さな丸い割れが目立つ。法量は口径11.6cm、器高22.8cmである。

SP2044（図面325－189・190）：189・190は須恵器で、189は短頸壺である。体部から口縁部にかけて「く」字状に屈曲する口縁端部は、水平で側方に拡張している。法量は口径13.1cmを測る。190は甕で、口縁端部が肥厚し上下方向に拡張している。法量は口径は24.7cmである。

SP2046（図面325－191・192）：191・192は土師器の椀Aで、回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反している。法量は口径12.3～13.3cm、器高4.2～4.3cmである。

SP2047（図面325－193）：須恵器の杯蓋の破片で、天井部外面には回転ヘラ切りが施される。

SP2048（図面325－194）：灰釉陶器の椀か皿の高台付底部である。底部外面に回転糸切り痕を残し幅広の三日月高台を持つものである。法量は底径6.5cmである。

SP2049（図面325－195～197）：195は土師器の椀Aで、底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。法量は口径12.7cmである。196・197は土錘で、196はずん胴型c類、197は樽型c類である。法量は概ね幅3.8～4.0cm、長さ6.7～7.4cm、孔径1.4～1.6cmを測る。

SP2051（図面325－198）：土師器椀の破片で、口縁端部が短く外反している。復元口径は13.0cmである。

SP2054（図面325－199～201）：199・200は土師器椀で、回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめており、200は短く外反している。法量は口径12.1～16.5cm、器高3.7～4.3cmである。201は土師器小型甕で、底部は平底で回転糸切りによる切り離し、ヘラケズリが施される。底径は6.2cmである。

SP2055（図面325－202～204）：202は土師器の椀で墨書土器である。やや内湾気味に立ち上がる体部

を有する。口縁端部は丸くおさめる。体部外面に書かれている墨書は「工」に似た記号が書かれている。復元口径は12.1cmを測る。203・204は土錘で203は樽型c類、204は樽型b類である。法量は概ね幅3.6cm、長さ6.5～7.5cm、孔径1.0～1.2cmを測る。

SP2056（図面325－205）：土師器椀Aの墨書土器で、底部内面に文字が書かれているが、判読不明である。復元底径は6.0cmを測る。

SP2058（図面325－206）：土師器椀の墨書土器である。内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部はやや外反している。体部外面に正方向で「上」と書かれている。復元口径は12.4cmである。

SP2066（図面325－207～209）：207は土師器の椀Aで、赤彩土師器である。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。復元口径は12.6cm、器高4.0cmである。208は土師器の皿Aで、墨書土器である。体部は浅い角度で大きく開き、口縁部はさらに側方へ突出するように開いておさめる。底部外面に「平」の墨書がみられる。法量は口径14.9cm、器高2.0cmである。209は土師器焼成の製塩土器の体部破片である。体部内面には粗いハケ調整の跡がみられる。

SP2068（図面325－210）：須恵器の杯蓋である。口縁部の形態は下方に折り返して丸くおさめている。つまみは無く、天井部外面には回転糸切りした後ナデを施している。法量は口径12.9cm、器高は2.1cmを測る。

SP2071（図面325－211）：土師器焼成の製塩土器の体部破片である。体部内面には粗いハケ調整の跡がみられる。

SP2075（図面325－212）：土師器の小型甕である。口縁の上端部が屈曲し、端部が直立する。復元口径は14.7cmを測る。

SP2077（図面325－213）：須恵器の壺蓋である。天井部は扁平で、擬宝珠状のつまみが付く。天井部外面には1/2程度回転ヘラケズリが施される。

土坑

SK1003（図面326－214）：土師器の椀Aで、回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反している。法量は口径12.2cm、器高4.5cmである。

SK1018（図面326－215～217）：215は須恵器の壺で、頸部は外反しながら立ち上がり、口縁端部は側方に拡張している。法量は口径7.4cmである。216・217は土師器の椀Aで、回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反している。法量は口径12.0～13.7cm、器高3.8～4.9cmである。

SK1019（図面326－218～221）：218は土師器の甕で、口縁端部が直立する。復元口径は15.8cmである。219・220は黒色土器の椀で、219はやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反している。法量は口径16.0cmである。220は椀Aの底部で静止糸切り痕がみられる。法量は底径6.1cmを測る。221は土師器椀Aの墨書土器で、底部外面に文字が書かれているが、「平」の一部分かと思われる。

SK1021（図面326－222）：須恵器の杯Bである。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。角状を呈する高台が底部のやや内側に貼り付けられており、口縁端部はやや外反している。法量は口径10.9cm、器高4.0cmである。

SK1022（図面326－223・224）：223は須恵器の杯Aで、回転ヘラ切り後ナデを施す平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径11.7cm、器高3.8cmである。224は土師器皿Bの墨書土器で、底部外面に文字が書かれているが、判読不明である。内

外面に赤彩が施されている。

SK1023（図面326－225）：須恵器の杯蓋で、口縁部の形態は下方に折り返して丸くおさめている。つまみは無く、天井部外面には1/2程度回転ヘラケズリが施されている。法量は口径13.4cmである。

SK1024（図面326－226）：須恵器の壺の底部である。有高台の底部から体部は直線的に立ち上がる。

SK1025（図面326－227）：土師器の甕で、口縁端部は丸くおさめる。復元口径は33.4cmである。

SK1028（図面326－228）：土師器の椀で、体部は斜方向へ直線的に開く。復元口径は14.0cmである。

SK1036（図面326－229）：黒色土器の椀で、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反している。法量は口径13.8cmである。

SK1037（図面326－230）：須恵器の壺の底部で、「ハ」字状の角状高台を有する。法量は底径8.8cmを測る。

SK1038（図面326－231）：土師器の椀で、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。法量は口径14.0cmである。

SK1040（図面326－232）：灰釉陶器の椀の口縁部片である。器壁はやや厚いつくりで、口縁部を丸くおさめる。内外面施釉される。法量は口径14.0cmである。

SK1044（図面326－234）：土錘で、樽型c類である。法量は概ね幅3.8cm、長さ6.0cm、孔径1.2cmを測る。

SK1045（図面326－235）：黒色土器の椀Aで、ヘラ削りの平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。法量は口径14.2cm、器高5.2cmである。

SK1048（図面326－236）：須恵器の杯蓋で、つまみは無く、天井部外面には回転ヘラ切りが施される。

SK1049（図面326－237）：土錘で、樽型c類である。法量は概ね幅3.8cm、長さ5.6cm、孔径1.2cmを測る。

SK1052（図面326－238）：土錘で、樽型b類である。法量は概ね幅3.0cm、長さ7.2cm、孔径1.1cmを測る。

SK1056（図面326－239～244）：239～241は須恵器で239・240は杯Bである。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。角状を呈する高台が底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部はやや外反している。法量は口径15.1～16.1cm、器高6.8～7.2cmである。241は壺で、口縁端部を下方に引き出している。法量は口径15.7cmである。242は土師器椀Aで、平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径12.5cm、器高3.6cmである。243は土師器の椀Aの墨書土器である。底部外面に文字が書かれているが、判読不明である。復元底径は5.5cmを測る。244は土錘で、寸胴型c類である。法量は概ね幅3.6cm、長さ5.8cm、孔径1.4cmを測る。

SK1057（図面326－245～249）：245・246は土師器椀Aである。回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部はやや外反している。法量は口径12.0～12.8cm、器高4.0～5.2cmである。247は赤彩土師器の皿Bである。体部は浅い角度で大きく開く。口縁端部は丸くおさめる。底部は外傾する丸い高台が体部下端に貼り付けられる。体部内外面に赤彩が施される。法量は口径12.9cm、器高3.4cmである。248・249は土錘で、樽型c類である。法量は概ね幅3.5～4.0cm、長さ6.2～6.8cm、孔径1.3cmを測る。

SK1060（図面326－250）：須恵器の杯蓋で、口縁部の形態は下方に折り曲げやや方頭になる。法量は口径14.2cmである。

SK1061（図面326－251～253）：251は須恵器の壺で、口縁端部を上方に引き出している。法量は口径

11.0cmを測る。252は灰釉陶器の椀である。やや開き気味の体部が緩く内湾しながら立ち上がり、口縁部の下方に屈曲を持たせ、端部を丸く仕上げる。内外面とも回転ナデ調整で、胎土は硬質で灰色の釉が薄く施されるが、いずれも内面の釉は斑点状にはじかれる。口縁部外面に釉が厚くたまり、濃緑色に発色する。法量は口径15.1cmである。253は土錘の破片で、分類は不明である。法量は概ね幅3.6cm、孔径1.3cmを測る。

SK1062（図面326－254）：灰釉陶器の椀か皿の底部である。底部外面に回転糸切り痕を残し幅広の三日月高台を持つ。法量は底径6.8cmである。

SK1064（図面326－255～260）：255・256は須恵器杯Aである。255は回転ヘラ切り後ナデを施す平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径13.1cm、器高3.5cmを測る。256は底部の小破片である。257は土師器椀Aで、回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめている。法量は口径12.1cm、器高3.8cmである。258・259は土師器で258は小型甕である。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は丸くおさめる。法量は口径15.5cmである。259は堝で、肥厚した口縁端部が内側に折り返され、丸く成形される。法量は口径40.4cmである。260は赤彩土師器の椀Aで、回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部はやや外反している。内外面に赤彩が施される。法量は口径12.8cm、器高3.6cmである。

SK1068（図面326－261）：灰釉陶器の長頸壺である。内面にロクロ目が残り、肩部の器壁は薄くつくられる。釉調は厚くかかる肩部を中心に濃緑色を呈し、他は暗茶褐色である。肩部の釉は一部剥落する。

SK1069（図面326－262）：土師器椀Aである。回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部はやや外反している。法量は口径12.1cm、器高4.5cmである。

SK1070（図面326－263）：須恵器の杯蓋である。口縁部の形態は下方に折り返して丸くおさめている。法量は口径16.1cmを測る。

SK1074（図面326－264～266）：264は須恵器の杯蓋である。口縁部の形態は折り返して丸くおさめている。法量は口径13.1cmを測る。265は赤彩土師器の椀Aで、回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部はやや外反している。内外面に赤彩が施される。法量は口径13.3cm、器高3.8cmである。266は土師器小型甕である。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は丸くおさめる。法量は口径11.9cmである。

SK1078（図面327－267）：土師器椀Aである。回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部はやや外反している。法量は口径12.1cm、器高4.6cmである。

SK1079（図面327－268）：土師器椀Aである。回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部はやや外反している。法量は口径11.7cm、器高4.6cmである。

SK1085（図面326－269）：土錘で、寸胴型c類である。法量は概ね幅2.5cm、長さ4.0cm、孔径0.5cmを測る。

SK1086（図面327－270～272）：270～272は土師器で、270・271は椀Aである。回転糸切りの平坦な底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部はやや外反している。法量は口径12.8～13.2cm、器高4.2～4.5cmである。272は小型甕で、底部は回転糸切りによる切り離しで平坦に成形される。法量は底径7.8cmである。

SK1089（図面327－273）：須恵器の杯蓋で、口縁部の形態は下方に折り曲げやや方頭になる。法量は